

蘇北	蘇中	蘇南	蘇東	蘇西	蘇南
南北間	南北間	南北間	南北間	南北間	南北間
四三二七	四三二七	四三二七	四三二七	四三二七	四三二七
六四〇九	四七三三	三三三三	四二二七	二九〇〇	一一一三
浦北間	彭湖北間	中南北間	恆春北間	瓜山北間	
	一〇				
四三二七	四三二七	四三二七	四三二七	四三二七	四三二七
四八二七	一九二六	三三三三	一〇七〇九	七九〇九	

河運

河流ニシテ舟楫ヲ通スルモノハ唯淡水ノ一河ノミ河口ヨリ上流五里許ノ間ハ小蒸氣船ヲ通シ大稻埕ニ至リ其支流基隆、大嵙崁及新店ノ川流ハ是ヨリ上流數里ノ間支那形短艇ヲ通スヘシ

沿岸交通

沿海地方ノ貨物運搬ハ自然ニ船舶ヲ用ルモ漁船ノ碇泊ニ堪ユル港ノ少キヲ以テ大抵支那船ニ依ルノ外ナシ然レトモ此ノ如キ船ニ依リテ暴風ノ多キ海上ヲ往來スルハ危険多キヲ以テ年ノ一部ハ全ク航海ヲ休ミ且暴風ノ襲來ニ會ヘハ久シク淹留スルコトアリ故ニ貨物運輸ノ時機ヲ失ヒ之カ爲メ本島ノ經濟上ニ莫大ノ損害ヲ來スコト往々之アリ

島外交通

島外トノ交通モ亦不便ヲ究メ漁船帆船ノ出入スル港灣ハ基隆、淡水、安平、打狗ノ四港ニ過キス此他

蘇澳ハ東岸ニ於テ唯一ノ港ナルモ地位偏僻ナルヲ以テ未タ航海頻繁ニ至ラス而シテ前四港ノ内安平打狗ノ二港ハ夏期西南風多キ間ハ船舶ノ碇泊スヘキ良港ニアラス基隆淡水ノ二港亦冬期東北風ノ暴威ヲ奮フ頃ハ頗ル危険ナレハ何レモ半年間ハ貨物ノ上下非常ナル不便ヲ感セリ

各	本島諸港	基隆	淡水	安平	打狗
橫須賀	九三〇	一一五〇	九五〇	一三〇〇	一三四八
神戶	八六五	八九五	一〇八三	一一四八	一〇八三
門司	七五二	七六九	九五九	九五九	九五九
佐保	六四七	六六四	八五四	八五四	八五四
長崎	六二八	六四四	八三五	八三五	八三五
鹿島	六二四	六四五	八三四	八三四	八三四
上海	三七六	六四四	六五四	六五四	六五四
福州	一五〇	三三七	一八〇	一八〇	一八〇
厦門	二三五	二〇三	三〇〇	三〇〇	三〇〇
香港	一一三〇	一一五〇	九五〇	一三〇〇	一三四八

鐵道

清朝政府統治ノトキ劉銘傳ノ巡撫タルニ及明治二十年(光緒十三年)支那政府ニ建議シテ鐵道事業ニ着

手シ獨逸ノ一商社其敷設工事ヲ受負ヒ二十一年工ヲ臺北ヨリ起シ東ハ基隆ニ及ヒ西南ハ新竹ニ至リ其
延長六十二哩五十一鎖ニシテ二十四年一月ヨリ運轉ヲ爲セリ割讓ノ後一時軍隊ノ所轄ニ屬シ之ヲ軍用
ニ供シ旁ヲ官吏ノ便乘ヲ許シ二十九年六月ニ至リ鐵道其モノハ民政局ノ管理ニ移シ臨時鐵道隊之ヲ運
轉シ軍事輸送其他官廳ノ妨クナキ限リ一般人民ノ請求ニ應シ乘車若ハ貨物輸送ヲ許可セリ鐵道ハ軍隊
ノ所屬ニ歸セシ以來之ヲ改良工事ヲ施シ明治二十九年度ニ至リテモ尙之ヲ繼續シテ若々其歩ヲ進メツ
、アリシカ政府ノ議又一變シ之ヲ民業ニ移シ臺灣鐵道會社ニ於テ引受ル事ト爲レリ

郵便電信

清朝政府ノ統治タリシトキニテハ郵便ノ制度ナク單ニ樞要ナル街市ニ信局ナルモノヲ置キ本島内及支
那大陸間ノ信書ヲ取扱ヒタルモ其組織不完全ニシテ通信ノ不便ヲ極メタリ帝國ノ版圖ニ屬スルヤ當初
ハ野戰郵便ノ制ヲ設ク漸ク茲ニ交通ノ端緒ヲ啓キタリ是ヨリ先キ清國政府ニ於テ千八百八十七年淡水
福州間ニ海底電信ヲ布設シ既ニ島内ニ六箇所ノ電信局ヲ開キタリシガ總督ハ此電信局ヲ利用シテ通信
所トナシ且必要ノ場所ニ通信所ヲ増設シ野戰電信ノ制ヲ施行シ平定ノ後各機關ノ完整スルヲ俟テ創メ
テ普通郵便電信ノ制度ヲ施キ交通機關ノ運行ヲ爲スニ至レリ今其郵便電信局所數ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一等郵便電信局 五ヶ所
- 二等郵便電信局 四十二ヶ所
- 郵便支局 一ヶ所
- 郵便繼替所 不詳
- 郵便切手類賣下所 不詳

開港場

臺灣島開港ノ始テ歐洲諸國ニ紹介セラレシハ今ヨリ四十一年前ニテ我安政五年ニ在リ而シテ最モ先ニ
開カレシハ安平、淡水兩港ニシテ打狗、基隆ハ其後五年ヲ經テ開カレタリ其沿革ノ一斑左ノ如シ
一 安平港千八百五十八年清英天津條約第十一條及同年清佛條約第十六條ニ依リテ開カレタリ
二 打狗港安平ノ附屬港ニシテ千八百六十三年三月地方稅關規則ニ依リテ開カレタリ
三 淡水港ハ千八百五十八年清佛條約第十六條ニ依リテ開カレタリ
四 基隆港ハ淡水港ノ附屬ニシテ千八百六十三年地方稅關規則ニ依リテ開カレタリ
支那政府統治ノトキ已ニ其締盟ヲ爲セル各國ニ對シテハ本土ト同シク通商ヲ許可シ帝國ノ版圖ニ屬ス
ルモ其通商ハ之ヲ繼續セシカ其平定ノ後即チ二十九年二月ヲ以テ左ノ宣言ヲ發シテ以テ帝國ト諸外國
トノ間ニ締結セル條約ニ依リ特典ノ便益ヲ許與スルコトヲ明ラカニシタリ

宣言書

臺灣地方既ニ平定ニ歸シタルヲ以テ日本帝國政府ハ同地ニ居住シ又ハ同地ニ往來スル各締盟國ノ臣
民及船舶ニ向テ左記ノ特典便益ヲ許與ス
第一日本帝國ト通商及ヒ航海ノ條約ヲ締有スル各國ノ臣民及人民ハ淡水、基隆、安平、臺南府及打
狗ニ於テ居住シ且商業ヲ營ムコトヲ得又右等ノ諸國ノ船舶ハ淡水基隆安平及打狗ノ諸港ヘ寄港シ
且積荷ヲ輸出入スルコトヲ得
第二臺灣ハ其情形上特殊ナル處アリト雖モ日本帝國ト各締盟國トノ間ニ現存スル通商及航海條約稅
則及其他ノ諸取極ハ出來得ヘキ限臺灣ニ居住シ又ハ同地ニ往來スル各締盟國ノ臣民人民及船舶ニ
モ之ヲ適用スヘシ但シ前記ノ特典便益ヲ享受スル者ニ於テハ常ニ臺灣ニテ施行セラル、所ノ諸
令ヲ遵守スヘキモノトス

特別輸出入港 (明治三十年一月二十日指定)

蘇澳
舊港
後隴
梧棲
鹿港
東石港
東港
媽宮

重要物産

本島物産中其重要ナルモノヲ擧ケレハ左ノ如シ而シテ其物産中地方ニヨリ大ニ其産出ヲ異ニス或ハ北部ニ産シテ南部ニ産セス南部ニ出シテ北部ニ無キモノアリ未タ悉ク精駁ノ調査ヲ得ス姑ク其知り得タルモノノミニ就テ記載ス

茶

栽製ノ始源ハ明カナラサルモ古ク栽培ヲ試ミタルモノ、如シ然レモ本島ノ製茶カ貿易品トシテ曠目セラル、ニ至リタルハ全ク近年ノ事ニ係リ而シテ其産地ハ南彰化ヨリ北石門ニ至ル丘陵高原及平地(主トシテ傾斜地)ナリトス明治廿七年總輸出額ヲ擧ケンハ十五万五千〇七担余價格四百〇八万六千三百兩余但一担ハ百斤ニシテ一斤ハ百六十目海關兩ハ一圓五十四錢ナリ

米

未タ全島ノ調査シタルモノヲ得サルヲ以テ産額ノ如キハ不明ナルモ今北部臺北附近ニ就テ調査セシ所ニ依レハ此地方ニ於ケル米ノ收穫ハ一年二回第一作ハ陰曆五月第二作ハ九月ニ收納シ一甲ニ於ケル兩度ノ玄米收穫ハ概キ上田四十石中田三十石下田二十二石乃至二十四石ナリ臺灣一石ハ内地ノ五斗七升ニ相當シ反歩一甲ハ内地ノ八反六畝廿六步弱ニ當ルヲ以テ更ニ之ヲ内地ノ石數及一反歩ニ改算スレハ上田二石六斗余中田一石九斗余下田一石四斗余乃至一石五斗余ナリ而シテ収獲ハ第一作ニ多シ第二作ニ少ナク其割合ハ六ト四ノ如シ
抑々北部地方ハ産米供給ニ足ラサルカ如シト雖モ南部地方即臺中臺南地方ハ本島中屈指ノ産米地ニシテ鹿港ノ如キハ米ノ輸出ヲ以テ名アリ未タ産出額ノ調査ヲ得サレハ掲グル能ハス

木藍

木藍モ亦北部地方ニノミ就キ調査セシモノニ係リ主要ナル産地ハ淡水河沿岸ニシテ其産出ハ島内ノ需用ニ充スニ過キサルモノ、如シ價格ハ每百斤上等七圓中等六圓下等五圓ナリ

苧麻

臺北縣下ニ於ケル著名ノ産地(臺中臺南ハ未調査)ハ宜蘭地方ニシテ其纖維ハ織物即白上布ノ原料トシテ支那ノ泉州、福州、頭北、興化、下較等ニ輸出スルコト頗ル多ク島内ニ於テ消費スルモノハ極メテ少量ナリト云フ價格ハ每百斤拾二圓乃至拾六圓ナリ

黃麻

臺北縣下ニ於ケル著名ノ產地ハ山重埔、和尙州、加納仔、竹園仔、港仔口等ニシテ其莖ヨリ纖維ヲ取
リ織物ノ原料ニ供スルモノニシテ荒苧、白苧ノ二種アリ白苧ハ普通織物ノ原料ニ供シ荒苧ハ米穀等ヲ
容ル、袋又ハ船綱ニ製スルモノニシテ價格每百斤荒苧ハ二圓乃至二圓半白苧ハ三圓乃至三圓半ナリ而
シテ其產出額ノ如キ未タ調査ヲ得サレハ不明ナレモ大抵島内ニ於テ費消セラレ支那内地ニ輸出スルモ
ノハ極メテ僅少ナルカ如シ

砂糖

砂糖ハ本島ノ特有物産ニシテ產地ハ南方鳳山地方ヨリ北ノ方嘉義ニ至ル一帯ノ地ニシテ臺南全管内
ヲ舉クテ其產地ト云フモ敢テ不可ナキカ如シ而シテ甘蔗ニ三種アリ曰ク竹蔗曰ク紅蔗曰ク蚶蔗是ナ
リ蚶蔗ハ最多量ニ甘汁ヲ包有スルモノニシテ莖ノ儘食用ニ供シ砂糖ニ製スルモノハ竹蔗及紅蔗ノ
二種トス其輸出先ハ香港本邦内地及清國沿海ノ諸港ニシテ就中上海芝罘天津ヲ最多シトス其產出額ハ
確實ナラサルモ凡ソ白糖五百四拾六万五千五百斤褐色糖八千五百拾六万八千二百斤ナルヘシ又其賣買相場ハ
明治二十九年一月ノ頃產地ニ於ケル一俵正味百斤ニ對スルモノ左ノ如シ

產地相場		賣買相場	
菜糖中	上 五圓貳拾錢	白糖中	上 八圓
	下 四圓八拾錢		中 六圓八拾錢
青糖中	上 參圓		下 五圓六拾錢
	下 貳圓七拾錢	赤糖中	上 三圓六拾錢
			下 參圓貳拾五錢

下 貳圓四拾錢

下 貳圓八拾錢

樟腦

樟腦ハ本島東半部即蕃地ノ森林ニ産スルモノニシテ其製產地ノ重ナルモノニ就キ其數量ヲ舉クレハ凡
ソ左ノ如シ

新竹管内ニ於ケル生産高ハ毎年概テ十五六萬斤ニシテ廿八年末ノ價格ハ百斤五拾圓内外ナリト云フ
苗栗管内ニ於ケル生産高ハ毎年概テ百三十萬斤ニシテ廿八年末ノ價格ハ百斤五拾圓乃至六拾圓位ナリ
ト云フ

雲林管内ニ於ケル生産高ハ毎年概テ四十八萬斤ト云フ
又其輸出額二十七年年度ニ於テハ三萬九千五百四十七担十二斤ニシテ價格海關兩八十三萬三千二百四十
三兩ナリ

鑛業

本島ノ鑛業ハ發達ノ度極メテ低ク殊ニ本島東半部ハ生蕃地ニシテ未タ探檢ヲ遂ケタル者ナキヲ以テ全
ク暗黒界ニ屬シ其實際ヲ知ルニ由ナシ而シテ本島ノ鑛物中世上ニ紹介セラレタルモノハ硫黃、石炭、砂
金及鑛ノ四種ニシテ其產地ハ臺北縣ノ北部ニ屬シ硫黃ハ臺北ノ西郊北投及其隆支廳管下ノ金包里ニ
アリ石炭ハ主トシテ基隆港附近ノ丘陵ヲ構成スル地盤中ニ隱胎シ又水邊脚臺北間ノ山中其他大崙嶽等
ニ存在シ砂金ハ基隆川ニ鑛ハ其上流三貂嶺近傍ニ産セリ今前記四種ノ鑛物ニ就キ調査セシモノヲ舉
クレハ左ノ如シ

一 硫黃

硫黃ノ産出地及其最左ノ如シ

- 北投硫黃山 六千担(二千四百石)
- 大礦嘴硫黃山 二千四百担(九百六十石)
- 油鑛坑硫黃山 千八百担(七百二十石)
- 竹仔胡硫黃山 六十担(二十石)

二 石炭

石炭ハ瑞芳、大燦、四脚亭、大水窟等北部ニ數十ヶ所アリ就中出雲港ノ如キハ十三坑ノ多キアリ而シテ是等各所ノ採掘高ハ概テ一ヶ月百五十万斤以上ニシテ毎担ノ價格ハ左ノ如シ

種別	戰前			戰中			戰後		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下
大炭	三十一圓	二十八圓	二十五圓	四十五圓	四十圓	三十五圓			
官炭	二十五圓	二十三圓	二十二圓	三十六圓	三十四圓	三十二圓			
總炭	十五圓	十四圓	十三圓	二十六圓	二十四圓	二十二圓			
粉炭	七八圓	六七圓	五六圓	十四圓	十四圓	十三圓			

三 砂金及金鐵

砂金ハ多ク瑞芳地方ニ産出セシモ今其産額ヲ詳ニセス然レモ基隆市街ニ在テ賣買ヲナス量ハ毎年凡ソ八百兩位ナリシト云フ而シテ金塊一兩ノ價格ハ明治二十九年一月頃ハ左ノ如シ

- 品質 產地 價格
- 上等 金瓜石山 四十五圓

- 中等 八堵暖々街 三十八圓
- 下等 九份山、大租坑、小租坑 三十五圓

物價

凡ソ日常物品ノ相場ハ各地方大ニ異動アルベシト雖モ今茲ニ臺北市街ニ於ケル相場ヲ掲ケ以テ本島物價ノ一斑ヲ示ス

本島産重要品相場 (臺北廿九年十一月分)

品名	目	單數	最	最	平	均	備	考
支米	上中下	百石	五〇〇〇	四〇〇〇	四四〇〇	四四〇〇		
精米	上中下	百石	五五〇〇	四四〇〇	四四〇〇	四四〇〇		
小麥	上中下	百石	五五〇〇	四四〇〇	四四〇〇	四四〇〇		
黑豆	上中下	百石	五五〇〇	四四〇〇	四四〇〇	四四〇〇		
綠豆	上中下	百石	五五〇〇	四四〇〇	四四〇〇	四四〇〇		
花生	上中下	百石	五五〇〇	四四〇〇	四四〇〇	四四〇〇		
落豆	上中下	百石	五五〇〇	四四〇〇	四四〇〇	四四〇〇		

種別	日數	實			備考
		上	中	下	
大工	一	一、二〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
左官	一	一、四〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	
石工	一	一、四〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	
木工	一	一、三〇〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	
鍛冶	一	一、五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
建築	一	一、二〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
疊	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
日傭	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
洋服縫入	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
和服縫入	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
菓子製造	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
活版職	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
和料職	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
西料職	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
全洋理	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
摘要	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	
髮女	一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	

一臺北 內地人賃銀 (臺北縣廳廿九年十二月調)

五十二

大板	木材	刻煙	葉卷	史國	香梁	紹興	鴨酒	鷄酒	桐油	茶油	白豆	小麥	朱穀
厚八尺長一丈一分寸	尾長四丈四寸	尾長四丈四寸	尾長四丈四寸	尾長四丈四寸	尾長四丈四寸	尾長四丈四寸	尾長四丈四寸	尾長四丈四寸	尾長四丈四寸	尾長四丈四寸	尾長四丈四寸	尾長四丈四寸	尾長四丈四寸
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
十片	百枝	百枝	百枝	百枝	百枝	百枝	百枝	百枝	百枝	百枝	百枝	百枝	百枝
四六〇〇〇	二八〇〇〇	一八〇〇〇	一三〇〇〇	三〇〇〇〇	八五〇〇〇	三五〇〇〇	二八〇〇〇	二九〇〇〇	二七〇〇〇	二六〇〇〇	二五〇〇〇	二四〇〇〇	二三〇〇〇
福州ヨリ輸入)		(香港ヨリ輸入)	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上

五十

表春瓦烟農器 具米燒草 師夫夫夫夫夫	小六一月一一一日 全一本	幅石給梱日里	九 一二二〇六四四一 〇〇〇〇〇〇五五	八 〇五三三一 〇五三五一一	一人 一細ヲ刻々二日餘ヲ投ス 附付
--------------------------	-----------------	--------	---------------------------	----------------------	-------------------------

五十三

若全鑛銀へ全銀木全石全左全大	種別	本島人賃銀		湯女
助道細ノ助助助助				髮結
力手夫工塗手工挽手工手官手工				錢結
全全一月一全月全全全全全一	日數			全一人
日給日給				
一〇、五、七 三四五〇〇〇四二三五〇〇四三五	上			二〇〇 三〇〇
九、四、五 二二四〇〇四五〇〇三五二〇三五三〇四	中			一五〇
一二五	下			
全贈付	摘要			五十二

臺灣漁業一斑

(民政局殖產部報文中廿九年ノ調査)

基隆管内

漁業上ノ規定、漁業ハ地方經濟上重要ノ事業ナルニ拘ラス清國政府ハ毫モ之ニ重キヲ置カス唯人民ノ爲スカ儘ニ一任シテ何等ノ規定ヲモ設クルナシ是ヲ以テ漁業ニ從事スル者ハ各自相互ノ間ニ於テ權利ヲ確ルノ必要アリ乃チ之カ規約ヲ設ケテ相侵サ、ル丈クノ機關ヲ備ヘリ开ハ次項ニ於テ知ルヲ得ベシ

特許漁場及漁具漁船ノ税法、漁業上ノ規定ナキト共ニ漁場ヲ認許シテ特種ノ漁業ヲ行ハシムルコトナシ然レトモ鯉ノ漁場ニ至リテハ漁業者特ニ其相互ノ間ニ結ハレタル規約ニ基キ之カ權利ヲ有スル者モ他ノ漁場ニ向テハ一步モ踏入ルコトヲ得サルノ定メアリ

漁具漁船ニ對シテハ曾テ課稅セシコトアルヲ開カス獨リ監魚又ハ他ニ輸出スル物品ニ對シテハ毎月百斤ニ付釐金稅拾錢ト監釐金稅五錢トヲ上納スルノ義務アリシナリ此外魚撻即チ魚行及ヒ魚商ハ每年金百八拾圓ヲ納メ以テ和興頭應公廟ノ祭祀料並ニ舊基隆直轄ナル崇基書院ノ教育費ニ充テタリ

水産業者

戶籍法ノ不完全ナルト清國官人ニ統計的觀念ナキト三貂及ヒ金包里堡等昨年戰亂後引續キ土匪ノ蜂起セシ等ニ由リ其員數ヲ詳ニスルヲ得ス但基隆堡ニ於ケルモノハ專業者八百三拾餘人兼業者九百餘人アリ

漁業及水産ニ關スル土地

魚介養殖場、去年戰亂前迄基隆附近ノ農業者カ設置セル養鯉池アリシノミニシテ其他魚介養殖場ノ設ケナシ

漁場區別何レノ場所ヲ問ハス自由ニ漁業ヲ營ミ得ベシト雖モ各村概テ漁所ノ區別ヲ定メ以テ相侵スルナカラシムルノ習慣アリ殊ニ地曳網漁業ニ至リテハ一層嚴然タル區別ヲ定メ頗ル見ルベキ者アリ凡ソ地曳網ハ各村特別ノ權利アリ即チ甲村ノ地曳網ハ甲村沿岸ニ於テ之ヲ使用シ乙村ノ者ハ一步タモ侵スヘカラス又各村ニ一定セル地曳網ノ株アリテ如何ナル場合ト雖モ決シテ其數ヲ侵スヘカラス恰モ靜岡縣下伊豆地方ノ網代ニ於ケルカ如シ又地曳網使用區域内ニ於テ解船ニ使用スル者ハ如何ナル事故アルモ之ヲ捕獲スルヲ得ス且ツ先ニスレハ人ヲ制スルノ理ニ同シク先ツ海濱ヲ占領シテ漁業ヲ營ム者アレハ之ニ後レテ到ル者ハ前者ト爭フヘカラスルカ故ニ更ニ其位置ヲ擇ハサルヘカラス古來ノ習慣斯クノ如クナルヲ以テ直ニ其權利ヲ侵サルルコトナク以テ優ニ今日迄推移セリ

漁船漁具

漁船網ヲ使用スル漁船ニ三種アリ其大ナル者ヲ母母ト云ヒ中ヲ母仔小ヲ火船ト稱ス其他ハ悉ク貨物船ニシテ罾船、臥船、較邊、双撐、等ナリ而シテ其數ハ基隆堡十四庄ニ於テ大小二百九拾八艘アリ漁具網ノ種類ハ大約罾網、手罾網、大綾網、綾網、手網等ニシテ釣具ハ細繩等ナリ

綾網ハ一ニ鯉捲網ト稱スルモ不可ナルヘク船四五艘ニ漁夫十數人ヲ要ス先ツ網ヲ敷テ一方ヲ開放シ魚群ノ網中ニ進入スルヲ認メテ後チ網口ヲ閉鎖シ徐ロニ捕獲スルナリ

手網ハ即チ投網ニシテ内地ノモノト異ナラス

細繩ハ網細ト稱スルモ不可ナルヘク重ニ鯛魚ヲ釣ニ用ニ

漁獲及ヒ製造

魚ノ種類ハ鮫、鯛、鱈、鱒、鰻、飛魚、魷、大刀魚、其他鱈科ニ屬スル數種ノ魚類等ニテ價格ハ百目平均三十錢内外ナリ
製造品 製造ノ種類ハ熟鹽、乾脯、等ニシテ就中其最モ多キモノハ熟魚ナリ即チ鱈、鯉及鯛ノ如キハ一旦煮沸シテ後チ各地ニ輸送セラル、モノ頗ル多シ而シテ以上三種ノ製造高ハ毎年凡ソ三四十万斤ノ多キニ達シ價格ノ如キモ昨年已來著ク騰貴シ上等百斤平均五圓中等四圓下等三圓餘ナリ左レハ之ヲ昨年以前ノ相場ニ比シ殆ソト二倍餘ノ騰貴ヲ現シタリト云フ

販賣

生魚及ヒ製造品ノ販路 基隆ハ其附近ノ漁村ヲ統轄セル魚市場ニシテ各地ヨリ運搬シ來ル者又之ヲ買ニ來ルモノ夥シ殊ニ昨年來軍隊ノ集散ニ引續キ普通内地人ノ來往亦繁昌セル爲俄カニ需用ノ度ヲ高メタルニ拘ハラス漁者ハ一時ノ利益ニ安ソシ其生産力ヲ減少セシニ由リ忽チ不足ヲ生シ該市街ノミノ需用ヲ少ヘ滿スヘカラサルニ至レリ又製造品ハ該市街ニ需用者ナク單ニ唯勞動者間ニ少許ノ購買力アルノミ他ハ臺北、淡水、鹿港、新竹、等ノ需用ニ應ス是レ亦一方ニ購買力ヲ増シタレトモ未タ充分ニ其需用ヲ充タス能ハス

運送ノ便否、基隆ヨリ各地ニ向テ水産物ヲ運搬スルニハ淡水、新竹、鹿港、等ノ大魚商ハ自ラ船舶ヲ航スト雖モ小商人ニ至テハ僅カニ人肩ニ依リテ之ヲ運搬スルニ過キサレハ其不便云ハソ方ナシ又各

漁村ヨリ基隆ニ集合スル有様ヲ見ルニ基隆附近ノ漁村中其最モ遠隔地タル金包里ノ如キモ尙且ツ風波ノ日ハ人肩ニ依ラサルヘカラス然レトモ平日ハ孰レモ水運ニ依ルカ故ニ比較上幾分カ便利ナルカ如シ

水産物販賣人戸數、基隆ニ在リテハ水産物ヲ販賣スル者ノ中ニ魚行魚商ノ二種アリ之ヲ總稱シテ魚撞ト云フ是等ハ重モニ媽祖宮口街ニ居住ス今現ニ八戸アリ又其小賣商人ハ暗街、仔街、及ヒ坎仔頂街等ニ住シ外ニ烏獸肉野菜等ノ販賣ヲ兼業スル者甚タ多シ

漁市場基隆ニハ特ニ魚市場ト稱スルモノナシト雖モ曾テ坎仔頂街、暗街、仔街等ノ軒下及ヒ媽祖宮口街ノ廣場ニ魚鳥、獸肉野菜類ヲ陳列シテ盛ソニ賣買ヲ行シカ斯クテハ衛生上至大ナル關係アルヲ以テ昨年ノ八月ヲ以テ基隆總理陳文貴等ノ發起ニヨリ媽祖宮街ノ廣場巾三間長十六間ノ板葺小屋三棟ヲ建築シ同年九月以來此所ニ於テ魚鳥獸肉及ヒ野菜類ノ市場ヲ開ケリ

賣買上ノ慣行、漁者水産物ヲ捕獲スレハ直チニ之ヲ魚撞ノ許ニ送ル魚撞ハ之ヲ相當ノ時價ニテ賣買シ其手数料トシテ賣上高ノ百分ノ五ヲ收ムルヲ例トス市上ノ取引ハ斯ル單純ナル習慣ニ依リテ行ハレ此外別ニ著シキ慣行ナシ

嘉義管内

漁業上ノ規定、特許漁場及ヒ漁具漁船ノ税法、漁場區劃禁漁場等ノ制度ナク又常設漁場、漁市場及ヒ賣買上ニ於ケル特種ノ慣行ナシ而シテ漁民魚商ノ員數ハ戶籍調査ノ充分ナラサル爲メ今之ヲ知ルニ由ナシ

漁場及ヒ水産ニ關スル土地
魚介養殖場管内沿岸各村ニ養魚池ノ設ケアリ其面積概チ二反内外ノモノ數拾個井然排列セリ是等養

魚池ニハ面積ノ廣狹ニ依リテ課税セシヨトアルハ疑フヘカラサル事實ナルモ充分調査ノ上ナラテハ
確知スルヲ得ス

是等養魚池ハ四五月ノ頃大雨降ニ際シ魚兒ヲ放チ之ヲ養ヒ七月ヨリ十月迄ノ間ニ於テ漸次之ヲ捕フ
其養フ所ノ魚兒ハ概テ每池二千尾乃至一万尾ニシテ人糞等ヲ水中ニ散布シ紅色ノ最小蟲ヲ發生セシ
メ以テ魚餌トナス而シテ魚族ノ種類ハ連魚、草魚、建魚(鯉)烏仔魚(鯽)鯽仔魚(鯽)鰻等ナリ

漁船漁具

漁船長方形ニテ稍其中央ノ凹メル竹排船ナリ大ナルハ長二丈巾五尺小ナルハ長七尺巾四尺五寸ヲ以
テ通例トス

漁具大網鐘、中網鐘、小網仔、ノ三種アリ大網鐘ハ長二十丈高二丈アリテ其兩端ニ十六丈宛ノ鰹ヲ
付シ上部ノ一帯ニ浮木ヲ付シ又其一帯ニ鐘ヲ付着ス、中網鐘ハ長高共ニ二丈小網仔ハ一丈ニシテ構
造ハ總テ大網鐘ト同様ナリ而シテ大網鐘ヲ使用スルニハ大竹排船各一艘舟夫六人魚籠二個ヲ要シ
中網鐘、小網仔之ニ準ス然レトモ釣具ハ一切之ヲ用ヒス
漁獲物其統計ハ之ヲ知ルニ由ナキモ漁獲物及ヒ價格ハ大約左表ノ如シ

魚族名及ヒ價格表

魚名	合計	同内地又ハ形容	一年間捕獲高
蝦	候	手長エヒ	三〇〇
蝦	又ハ小蝦	二寸内外ノ小蝦	五〇〇
沙	又ハ小蝦	五寸内外ノモノ	一〇〇〇
蚶		蠣	三〇〇〇

魚名	合計	同内地又ハ形容	一年間捕獲高
蚌		カザミ	二〇〇
蚌		カザミ	二〇〇
蛤		養魚池へ放ツ魚苗	七〇〇
幼			五〇〇
連			三〇〇
草			二〇〇
白腹又ハ馬加魚			一〇〇
沙			一〇〇
水			一〇〇
烏			一〇〇
烏			一〇〇
竹葉鰻又ハ青鱗仔			五〇〇
油			三〇〇
加			三〇〇
加			二〇〇
鮭			四〇〇
鮭			二〇〇
九			四〇〇
鰻			二〇〇
目			二〇〇

烏	白魚	荊魚	成魚	紅魚	鱈魚	土魚	鯽魚	苦魚	鰻魚	花魚	雜魚	合計
烏魚又ハ白帶魚	葱魚	大仔魚	小ナマヅ	コヒ	ナマヅ	フナ	シラハヘ	スツボン	ドシヨウ			
イタウチ	青魚ニ似タリ	青色ニシテ臭氣アリ										
三〇〇〇	一〇〇〇	五〇〇〇	一、二〇〇	八〇〇	七〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	三〇〇	二、〇〇〇	五〇〇	二、〇〇〇	三二、〇〇〇

六十

製造品 秋季風波ノ爲メ出漁スルコト能ハス故ニ此ノ期節ニ在リテハ製造ヲ專業トスルモノ多シ

販賣 生魚ノ販路 概テ皆五六里以内ノ地ニ販賣ス但シ魚ノ種類及ヒ季節ヲ計リテ朴仔脚、監水港、等ニ在ル商人ノ手ヲ經テ嘉義其他ノ地方ニ販賣スルモノ多シ

スルコトアルモ陸運ハ道路狹隘ニシテ車馬ノ利ナク頗ル不便ナリ

鳳山管内

打狗附近ノ實況ヲ取調タルニ漁業上ノ規定ニ特許漁場、漁具、漁船、ノ税法漁場區劃禁漁場等ノ制度ナク且ツ漁業者ノ員數ヲ知ルニ由ナシ

漁場及ヒ水産ニ關スル土地 魚介養殖場 發魚池ノ設ク管下ヲ通シ九十六ヶ所アリ定設漁場打狗灣口ニ設置セル定設漁場ハ豫テ木杭二本ヲ樹立シテ網仔ヲ設クル用ニ供ス而シテ其數十餘ヶ所アリ之カ使用者固ヨリ一定シテ相侵スコトナシ

製鹽場茶仔寮附近ニアルモノ其面積凡ソ六十甲下ヲサレシテ該地方ニ於ケル鹽田一甲ノ賣買價格ハ(即チ晒干ノ權利)上等六百圓乃至七百圓中等三百圓乃至四百圓下等三百圓以下二百圓ナリ

漁具漁船

漁船竹排ノ備アリ然レトモ其員數ヲ詳ニスルヲ得ス 漁具網、荊網、手網、網仔放鯿仔、釣魚桿等ヲ有スト雖モ是レ亦員數ヲ詳ニセス 漁獲物烏魚ハ陰曆十一、十二月其他ハ一月四月間ヲ漁業ノ好時季トス而シテ其重ナルモノヲ示セハ左ノ如シ

重要魚類捕獲高(一ヶ年分)

魚	名	捕獲高
烏	魚	三十四万斤
		四千五百
		千
		圓

六十一

沙	加	狗	臭	烟	鉄
魚	魚	魚	魚	魚	魚
四	二	二	二	二	二
斤	斤	斤	斤	斤	斤
五	七	三	三	三	三
百	八	四	三	四	四
圓	百	百	百	百	百
	圓	圓	圓	圓	圓

製造品其ノ重ナルモノハ鳥臭魚ノ鹽漬ナリ鹽漬鳥魚ハ一年平均十五六万斤(此ノ價凡三圓)鹽臭魚ハ凡ソ二万斤(此ノ價凡二圓)ヲ製出ス

販賣

生魚及ヒ製造品ノ販路 生魚ハ概シテ管内各市街其他附近ノ村落ニ販賣ス製造品モ亦同様ナレトモ時ニ或ハ臺南地方ニ輸送スルコトアリ
運送ノ便否、陸送ハ多ク人肩ニ依リ其牛車ニ依ル者ハ極メテ稀ナリ然レトモ幸ニ道路平坦ナルカ故ニ左シタル不便ヲ感セス又臺南地方へ運フニハ戎克船ニ積載シテ安平港ニ送ル
水産物販賣人名數是レ多クハ兼業ナルカ故ニ其數ヲ詳ニスヘカラサルモ之ヲ專業トナス者ハ旗後、荖仔寮地方ニ凡ソ二十戶許リアルヘシ
魚市場旗後、荖仔寮地方ニ各一ヶ所アリ
賣買上ノ慣行、市場ノ賣買ハ總テ現金取引ナルモ漁業者ト魚商トノ間ニ於ケル計算ハ或ハ之ヲ翌日ニ延ハスコトアリ其他慣行ノ記スヘキモノナシ

宜蘭管内

專業者戸數五百餘、人口六百五十餘、兼業者戸數四百四十餘人アリ

漁場及ヒ水産ニ關スル土地

魚介養殖場、港口庄、港乾庄ニ各一ヶ所アリ其面積孰レモ一方里ニ過キス
漁場區劃、北東ノ方石城ヨリ西南社頭庄ニ至ル迄海岸及ヒ海中ニ突起セル龜山島迄ノ間ヲ一般ノ漁業區トナスモノ、如シ而シテ其面積ハ凡二十五方里ニ及フ各漁村ニ於テ別ニ確乎タル漁場區域ノ定メナキモ大網船即チ地曳網ヲ使用スルニハ自然ニ定リタル區劃アリ敢テ相侵スコトナシ

漁船

漁船、網船、大網船、釣船、小網船ノ各種アリ其數大小凡ソ百二十餘艘ニ及フ

漁獲及ヒ製造

漁獲物一ヶ年ノ漁獲高ハ凡ソ十四万斤余ニシテ此ノ價一萬圓内外ナリ

製造品生魚ノ鹽販賣シ能ハサルトキ鹽魚ヲ製スルモノアリ其他製造品トシテ記スヘキモノナシ

販賣

生魚及製造品ノ販路、生魚ハ多シ各堡内ニ販賣シ時ニ或ハ宜蘭、基隆地方ニ販賣スルコトアリ而シテ其製品モ亦同シ
運送ノ便否、陸送ハ甚タ不便ナレトモ水運ノ便アルカ故ニ他地方へ輸出スルニハ稍ヤ便利ナリ
水産物販賣人戸數凡ソ十餘戸アリ
魚市場、頭圍街ニ一ヶ所アリ
賣買上ノ慣行商人ノ手ヲ經シテ直接需用者ニ販賣スルモノ多シ他ハ別ニ記スヘキモノナシ

臺南管内

漁業上ノ規定特許漁場及ヒ漁具漁船ノ課稅法漁場區劃禁漁場等ノ制度ナク又常設漁場等ノ設ナシ
 各漁村概テ貧困ニシテ財ヲ有スル者頗ル尠ナク唯僅ニ頂那定庄下那定庄四鯤身社ノ三庄ニ五百圓内
 外ノ資産ヲ有スルモノ三四名在住スルノミ本管内ノ漁業ハ毎年十月(曆)ニ始マリテ翌年四月ニ終リ
 五、六、七、八、九ノ五ヶ月間ハ殆ント休業同様ナリ是レ此季間ハ西南風常ニ強吹シテ舟楫ノ便ヲ
 妨ルカ故ナリ左レハ此季節ニ當リテハ漁業者中養魚池ヲ有スル者ハ之ニ依リテ生計ヲ營ミ其之ナキ
 ハ薪柴及ヒ米穀ヲ澎湖島ニ鬻キ又ハ耕農苦力ニ依リテ纒カニ糊口スル者多シ今各漁村ノ戶數人口及
 ヒ漁船ノ員數ヲ左表ニ示サン

人口及漁船表

漁村名	職	業	戶數	人口	船數
四草湖	農漁兼業		一四	六八	一
安平港	全		三二	一五九	一
二鯤身社	全		六	二八	一
四鯤身社	全		二〇〇	一、〇〇〇	一
喜樹庄	全		二〇	一三〇	一
灣理庄	全		六〇	三一〇	一
白沙崙	全		四〇	二〇〇	一
頂加定庄	全		一六〇	八〇〇	一
下加定庄	全		二〇	四〇〇	一
全				全	全
				一〇〇〇	一〇〇〇

漁場及水産ニ關スル土地

魚介養殖場、臺南安平間ノ平沙湖水乾滿其他到ル所ノ漁村ニ養魚池ノ設ケアリ概テ二反歩内外ノ地
 ナ方形ニ區劃セラレタルモノ多シ

漁場區劃、海面ハ總テ入會漁場ノ觀テ成シ現ニ澎湖島ノ漁夫ニシテ安平、二鯤身、附近ノ沿岸ニ來リ
 漁撈スル者モ多シ

鹽田、新昌里及ヒ鹽埕庄ニ五十七町四反九畝廿一步ノ鹽田アリ晒丁百六十八戶之ニ依テ衣食ス

漁船漁具

漁船種類、員數ハ前項表中ニ示シタレハ略ス其乘組員數ハ支那形船ト同シ大ハ三人小ハ二人ナリ
 漁具、網ノ外時ニ或ハ釣具ヲ用ユルコトアリ又網尾ニ釣ヲ附シテ之ヲ使用ス迂濶ナル鱖等之ニ釣ル
 コトアルモ可笑シ

漁獲及製造

漁獲物漁期ハ前項ニ記スルカ如シト雖モ怕頭魚秋孤魚、真魚、九母魚、等ノ養魚種ハ陰曆二、三、月
 馬加魚ハ一月温魚ハ十二月ヨリ翌年二月迄ヲ好期トス本管内ニ於タル捕獲魚類ノ重モナルモノハ左
 表ノ如シ

魚名表

魚名	同内地名	魚名	同内地名
真魚	ク	麵線坊魚	キ
九母魚	チ	鮫魚	ス
怕頭魚	ソ	烏沙	ダ
		格	ヒ

西	木	大	花	程	金	龍	油	蝦	皮	燧	馬	廣
刀	目	目	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
魚	賊	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
イ	ア	ノ	カ	ヒ	小	エ	ク	小	ア	ク	小	ア
			ド	ラ	ク		チ	チ	サ		チ	サ
			イ	ア	チ		グ	グ	ワ			ワ
			メ	ヂ	ソ		ロ	ロ	ラ			ラ
			シ	メ	コ		ビ					
秋	大	沙	黃	到	九	扁	雞	雞	雞	象	温	花
狐	蹄	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚
ホ	フ	カ	ア	コ	キ	小	イ	ウ	ヤ	イ	イ	イ
			カ	ソ	ソ	カ	シ	チ	ノ	ノ	ノ	ノ
			エ	ボ	レ	レ	サ	ガ	イ	イ	イ	イ
			イ	チ	チ	チ	キ	キ	キ	キ	キ	キ
ク	グ	ニ	イ	チ	チ	チ	キ	キ	キ	キ	キ	キ

製造品、烏賊及ヒ扁魚、鰻、鱈、ノ乾物并ニ鹽漬等ヲ製造スルモ其數甚タ少シ

販賣

生魚及製造品ノ販路生魚製造品共ニ多ク臺南城內ニ販賣シ其殘レルモノハ附近ノ各庄ニ向テ散ス運送ノ便否、水陸共ニ便利ナリ臺南城內ニ送ルモノハ安平港ヲ經テ河流ヲ溯リ附近各庄ニ送ルモノハ人肩ニ依ル

水産物販賣人戶數、臺南ノ大西門外及ヒ各庄二十戶内外ノ魚商アリ其他行商數十名アリ之ヲ各地ニ

行商ス

魚市場、臺南大西門外ニ一ヶ所アリ

賣買上ノ慣行魚商特ニ人ヲ漁村ニ派シテ買收スル者又漁夫ノ問屋ニ運搬シ來ルモノ等アリ而シテ其代金ハ賣買ノ翌日ヲ以テ支拂フ定メナルカ問屋ハ此時五分ノ口錢ヲ引去ルヲ例トス

臺中管内

漁業上ノ規定、特許漁場及ヒ漁具漁船ノ課税法漁場區域禁漁場等ノ制度ナシ

水産業者

專業者三百四十戶人口七百八十八人アリ而シテ兼業者ハ二百八十戶人口三百五十人ナリ

漁場及水産ニ關スル土地

魚介養殖場凡ソ二反歩許リノ養蠔場アリ又梧西及ヒ漁菴堀ニ自然ニ成リタル周圍三町又ハ一丁餘ノ養魚池二三ヶ所アリ

定設漁場河溪ニハ魚柵ニ類スルモノ一二ヶ所アリト雖モ粗造且ツ狹隘ニシテ漁利甚タ少シ

漁船漁具

漁船筏船百七十餘艘ノ外尙ホ小船廿七艘許アリ尤モ小船ハ專ラ運搬ノ用ニ供シ漁船トシテ使用スルコト稀ナリ漁網搖鐘網、透港網、四指網、黃魚網等ノ外置靴漁、籃手却等ナリ

漁穫及製造

漁獲物一ヶ年ノ漁獲物數量價格ハ左表ノ如シ

漁獲物數量及價格表

魚	名	數	量	價	格
---	---	---	---	---	---

製造品少許ノ鹽魚ヲ製造スルノミ他ハ皆鹿港地方ニ於ケル魚商ノ手ニテ製造セラル
 販賣
 生魚ノ販路梧栖以北凡ソ二里間ノ各村落ハ梧栖ニ販賣シ餘ハ皆土地ノ需用ニ充ツ又安良港以南二里

六十九

合	疲	孤	土	犁	龜	鯊	速	草	盾	鱸	烏	烏	連	蜥	龍
計	魚	鮓	糸	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	鰻	魚	鮓	
	二八三、八五〇	一、二〇〇	二五〇	二二〇	二二〇	一、一〇〇	二二〇	二四〇	一五〇	二六〇	二五〇	二二〇	二二〇	二六〇	一一〇〇
	二六、四九五	二七	二四	二一	二三	一七	二三	二四	二四	二四	二四	二二	二二	二四	五〇〇

金	沙	狗	粉	水	鰻	有	青	西	花	黃	魷	烏	烏	魴	沙	潤	午	白	白
梭	點	母	鱧	尖	魚	頭	兒	刀	枝	魚	仔	魚	鯛	魚	魚	魚	魚	比	魚
一、二〇〇	一、四〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇
一、五〇〇	一、四〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇

六十八

間ノ各村落ハ概テ之ヲ鹿港ノ魚商ニ賣ル運送ノ便否海運稍ヤ便利ナル上ニ陸路平坦ナルヲ以テ甚シキ不便ヲ感セス

水産物販賣人戸數屈指スベキモノ三戸アリ

魚市場本年二月年額百圓ノ税金ヲ納メテ開業セシモノ一ヶ所アリ而シテ賣買上ノ慣行ハ別ニ記スベキモノナシ

鹿港管内

本管内ニ於ケルモノハ新竹鹿港間ノ漁業調査記事中ニ遍ク記載セルヲ以テ之ヲ容ス但其漁場區劃及

ヒ其所有權ニ就キ舊彰化縣ヨリ管内ニ告示セシ全文ヲ譯載シ參考ニ供ス

鹿港海菜戸タル尤頂與ノ子尤有志ノ願書ニ據レハ原來尤頂與ナルモノ在世ノ時馬芝邊社番ヨリ先ニ尤秀琳ニ典入シ後キ尤秀琳再ヒ尤頂與ニ轉典シタル祖父ノ遺業ニ係ル鹿港一帶ノ海陸ハ東ハ山ニ至リ西ハ海ニ至リ南ハ大突溪白壳山ニ至リ北ハ草港灣青山仔ニ至ル四至ノ界址ハ已ニ前憲派出委員ノ勘査ヲ經石ヲ立テ境界ヲ定メ總テノ手續ヲ濟シ有志カ管理スルコト多年因テ有志カ界内ニ在テ漁業ヲナス漁丁及ヒ大小船隻ノ碇泊ニ就テハ例ニ依リ港稅ヲ有志ニ納メシメ有志ハ年々縣餉及ヒ番費ヲ支納シ來ルコトハ毫モ相違ナシ然レモ咸豐四年ニ至リ巨族施姓ノ爲メ特強ノ勢ニ仗リ稅銀ヲ勒欠セラル其時前憲孔姓ヨリ仍ホ舊章ニ依照スヘキ旨ノ告示ヲ發ル原來衝西港ニ來泊スル大小商船ニ對シ規定スル港稅中舩船ハ每回港稅五十錢近方ヨリ來ル網仔船ハ每回港稅清錢四百文翻身船ハ每次港稅清錢二百文府(府)澎(澎湖島)淡(淡水縣)ヨリ來泊船ハ每次港稅二百文ニシテ從來各行舖ニ向テ收取シタル賬簿ノ確證アリテ差異アルコトナシ然ルニ漁丁施立等強テ特ミテ稅銀ヲ抗欠シ共謀混拒ノ所爲ヲ違フスルタメ起訴スルニ至ルモ幸ニシテ前憲陶姓カ該人等ヲ召喚シ訊問ノ後チ果シテ有志ノ

漁業戸タル證據及ヒ漁丁ヲ抗欠シタル實情ヲ查出シテ施立郭和尙ノ兩戸ヲ差押ヘ施欠スル所ノ稅額ヲ追還シ有志ニ領收セシメ仍ホ每年春季海搖(漁利ノ季)ニ至レハ網篋增加スルタメ毎隊ノ港稅ヲ清錢四千文卜定メ季ニ届ル毎ニ其年稅ヲ完納セシム如シ施欠スルモノ有レハ直ニ所有主ニシテ願出ノ退徵ヲ許スハ勿論仍ホ原被兩造ニ命シテ憲諭ヲ遵依スヘキ契約書ヲ作り呈出セシメラレタリ此ノ如シ前憲陶姓ノ斷定ヲ蒙レモ告示未タ出デサルタメ施姓ノ三行舖ハ示諭ノ未出ヲ名トシ嫌ヲ挾ミ端ヲ藉リ竟ニ強テ特ミテ稅銀ヲ抗納ス爲ニ支納スヘキ縣餉番費モ徵收スル能ハス此レ豈明斷ニ負キ訟害ヲ貽スニ非サランヤ故ニ已テ得ス實情ヲ瀝陳シ前憲諭草ノ寫ヲ附添シテ呈稟ス伏シテ乞フ明並日月公心違著ノ詮議ヲ以テ各漁丁及ヒ大小船戸並ニ各行舖等ニ曉諭シ永遠有志ニ由テ縣餉番費ヲ收納セシメ違犯スルモノナク各々ヲシテ生業ニ安シ後禍ナカラシメハ沾感不淺云々ノ情形ヲ稟情セリ因テ本官此案ヲ查スルニ先チ已ニ陶分府ヨリ兩告ヲ略喚シ訊結セシモノニ係ルノミナラス生員(秀才)黃鏞ナルモノヨリモ該業ハ仍ホ有志ノ所有ニ歸シ收稅納餉スヘキモノニ付施立等ヲ差押ヘ文稅退徵スルコトノ結約書ヲ出セリ然ルニ今又稟請セシニ付茲ニ批示ヲ爲シ相違ス因テ爾等沿海一帶ノ漁丁船戸行舖等ハ堅ク規定ノ章程ヲ遵照シ海菜戸タル尤有志ニ稅納シ縣餉及番費ヲ支納セシム可シ若シ違犯者アリテ指名願出スルコトハ規定率一倍ヲ罰スルモノトス

咸豐八年七月廿九日曉諭ス

欽加知府銜臺灣北路里番駐鎮鹿港海紛總補分府與

恒春管内

漁業上ノ規定特許漁場漁具漁船ノ稅法漁場區劃禁漁場等ノ制度ナク又魚介養殖場製鹽場定設漁場魚市場ナク殊ニ其最モ幼稚ナルモノナリ漁夫ノ員數ハ六七十名ニ過キサレハク筏漁船漁網釣具ヲ有ス

ルモ僅々タル數ニ過キス清曆三月ヨリ五月迄ノ間ハ裁即チ魚見ヲ捕ヘテ桶中ニ養ヒ其丈ハ二三分ニ生長スルトキ之ヲ臺南地方ノ養魚者ニ鬻ク其價凡ソ一女二三毛ナリ網ヲ以テ捕獲スルモノハ飛鳥魚最モ多ク鰻、海草魚沙魚之ニ次ク又其釣具ハ破爾傘朱郭魚佛仔魚紅曹魚竹梭魚、鶴仔魚等ヲ捕フ鰻海草魚沙魚等ハ六月ヨリ十月ノ間ニ多シ然レモ僅々其地方居民ノ食用ニ供スルニ過キス鳥魚ハ十一月ノ候最モ多シ是レ亦土民ノ食用ニ供シ餘剩アレハ曬乾物ニ製造シ他地方ニ販賣ス又其卵ヲ晒干シテ鳥魚仔即チ「カラスミ」ヲ製シ肚ヲ晒干シテ鳥魚隣ヲ造ル而シテ飛鳥魚モ亦土民ニ供給シテ其剩ルモノヲ鹽乾品ニ製造シ臺南及ヒ東港地方ニ販賣ス

澎湖島管内

漁業上ノ規定特許漁場、漁場區劃、禁漁場等ノ制度ナク又魚介養殖場等ノ設ケナシ

水産ニ關スル舊來ノ制度

漁具漁船ノ税法漁具ニ對シテハ別ニ税法ノ定メナキモ船舶ニ對シテハ其漁船ト商船トノ別ナク大小ニ區別シテ各一定ノ稅ヲ課ス即チ其大ナルモノハ鑑札料トシテ毎年拾四錢四厘ト別ニ筆紙料トシテ九錢貳厘ヲ納メ又其小ナルモノハ鑑札料拾錢ト別ニ筆紙料九錢貳厘トヲ納ムル規定アリ

水産業者

專業者トテハ一人モナク就レモ皆漁農兼業者ノミナリ而シテ其戶數六千内外人口三万人許ナリ

漁場及水産ニ關スル土地

定設漁場各漁村ヲ通シテ概チ皆化石ヲ以テ海中ニ形ノ柵ヲ造リ置キ其中央ニ一ノ窟穴ヲ穿テ干潮ノ際柵中ニ入りタル魚類ヲ捕獲ス其數凡ソ六七拾個所モアリ就中大ナル者ハ周圍凡ソ三町乃至五町許ニシテ他ハ甚々シキ差違アルナシ

鹽田本列島ハ古來製鹽場ノ設ケナシト雖モ澎湖本島ノ北蔡鄉ト白猿抗社トノ灣口ハ水淺ク沙泥ニシテ一タヒ手ヲ下セハ頗ル良好ノ製鹽場拾萬坪餘ヲ得シト云フ

漁具漁船

漁船討海船ト稱スルモノ大中小ノ三種アリ即チ大貳拾貳艘中三十二艘小千五拾艘ナリ

漁具及製造

漁具罾網、浮罾、大漁網、鰻蝦網、零網、拋網、釣籠牽網、青鱗魚罾、放罾、釣仔、等ヲ有ス

漁獲物一ケ年間ノ賣場代金凡ソ壹萬七千五百圓ニシテ魚ノ重量ハ約拾五萬七千貳百斤ナリ其魚ノ種類ヲ舉レハ左ノ如シ

九	海	大	赤	鱒	監	石	魴	青	燕	魷
目										仔
鯨	鼠	魚	燕	魚	停	鰻	魚	嘴	魚	鱈
鰻	虎	鳥	鳥	飛	鰻	鰻	鰻	鰻	鰻	鰻
魚	魚	燕	燕	鳥	魚	魚	魚	魚	魚	魚
魷	燕	例	竹	枋	臭	鰻	烏	魴	龍	鰻
仔	甲									
終	枋	吊	魚	業	肉	魚	魚	魚	古	鰻
九	枋	象	皮	松	扁	紅	九	魷	黃	魴
						娘				
蝦	伍	耳	力	菜	魚	魚	母	鱈	記	魚
龍	九	疎	沒	丁	烏	沙	鰻	肥	赤	白
		齒		尾						
蝦	鱈	魚	仔	香	東	魴	魚	鰻	海	腹

厚鱗	加沙	墨鱈	鯨魚	蠟魚	香螺	蚌目	沙目
丁鱗	網鱈	斗魚	魚	螺	賊	蝦	
青鱗	緞白	鱸加	大鱈	鱈香	鱈柔	班節	
鱗	鱈帶	目	蝦	螺	魚	蝦	
沙鱗	荷包	紅哥	鱈魚	螺	管	魚	
馬盤	鱈仔	鱈	石	攪	沙	花	鱈
鞭魚	哥	五	鱈	螺	鱈	枝	頭
紡車	澤仔	按	黑	紅	鱈	紅	水
鱈	鱈	美	點	鱈	螺	占	孔

製造品其數ヲ知ルヘカラサルモ大概左ノ如キモノナリ

九龍鮑	鮑	龍	鮑
母舌	鮑	鮑	鮑
鱈青	鮑	鮑	鮑
鮑	鮑	鮑	鮑
鮑	鮑	鮑	鮑
鮑	鮑	鮑	鮑
鮑	鮑	鮑	鮑
鮑	鮑	鮑	鮑
鮑	鮑	鮑	鮑
鮑	鮑	鮑	鮑

(以上干或ハ鹽魚)

鮑	長
鮑	終
鮑	鱈
鮑	蝦
鮑	珠
鮑	螺
鮑	鱈
鮑	魚
鮑	小
鮑	鮑

(以上鹽魚)

紅目	九仔	沒仔
蝦	賊	孔
小	柔	象
管	魚	耳
蝦	沙	海
		蠶
鱈	石	扁
魚	矩	魚
春	龍	九
螺	蝦	蝦

(以上干魚)

販賣

生魚及製造品ノ販路、生魚ハ島内ニノミ販賣シ製造品ハ臺南、安平、布袋嘴、猴樹、東石寮、打狗、鰲港及ヒ清國廈門銅山等ニ販賣ス
 運送ノ便否、運送ハ一ニ戒克船ニ依ル島内各港灣同船ノ出入容易ナルカ故ニ敢テ其不便ヲ感セス
 水産物販賣戸數、島内ノ全數ヲ知ルヘカラサルモ媽宮城内ニハ確カニ十三戸アリ
 魚市場媽宮城内南町二丁目ニ一ヶ所アリ其戸數十六
 賣買上ノ慣行問屋ト漁者トノ間ニ特約ヲ結ヒ漁船漁具ニ要スル資本金ノ半額ヲ問屋ヨリ出金シ其漁具ニテ捕獲セシモノハ必ス問屋ニ悉ク之ヲ販賣セサルヘカラサルモノトス而シテ問屋ガ收ムル所ノ一般ノ口錢ハ五分ナリ

魚介一覽表

本島ノ魚介ハ概テ内地産ト同様ナルモ名稱ヲ異ニスルカ故ニ了解ニ苦シムモノ多シ今其實物ヲ查察セシモノニ限リ内地、臺北、臺中、臺南、澎湖島、各地ノ名稱ヲ對照スヘシ

鯛	內	地
鮫	臺	
鱈	北	臺
	中	臺
加	南	澎
鱈	湖	島
鮫		
鱈		

狗鰻	杜	シ	キ	ア	ク	牛	鱧	甲	鮓	ノ	糸	蛸	海	貝	海	鮫	鮪
母		エ	ン	ゴ	ン			烏		ハ	綆		珠				
魚	蛎	チ	ホ	シ	球	舌	賦		ル	鯛	蠟	綿	母	豚			

蚶投沙牛番油
仔
魚魚魚頭鱈

鰻
魚
鰻
魚

九鰻						蒸	目	烏	長	銖	紅	峨	掃	珠	海	海	背
母	魚					鱈	賊	鮓	實	魚	魚	蛸	線	蠟	鮓	翁	嘴

七十七

小車	ウ	真	章	鮫	鮮	飛	鰻	白	刀	鱈	鱈	黑	鮓	舒	鮓	鰻	鮓
母	ル						烏										
蝦	蝦	鮓	鮓	魚		魚	賊	魚	魚								

蟻			紅	扁	飛	柔	文	刀		鱈	赤	白	金	景		烏	沙
仔			鮓	烏							翅						
			魚	魚	魚	魚	魚	魚		魚	魚	腹	鮓	兵		魚	魚

金
鮓

鉄
甲
魚

九	臭	內	章							花		鮓	鮓
肉													
蝦	魚	鮓	魚							連		魚	魚

七十六

地方誌

臺北縣

縣廳ハ臺北府後街ニ在リ舊淡水縣廳ヲ以テ之ニ充ツ而シテ本縣ハ堡一四街一八六庄七八八社(ナシ)戸數七八、八二二人口四九六、四六八ヲ管轄ス

臺北ハ總督府ノ所在地ニシテ本島第一ノ都會ナリ府廳ハ元ノ撫臺衙門ヲ以テ假用ス其構造ハ總テ支那風ニシテ大廈宏壯ナリト雖モ日本風ノ官衙トシテ頗ル不便ナリトス蓋シ早晚其改築ヲ要ハサルヲ得サルナリ現時ノ府廳一廓ヲ擗ヘ廓中各局部ヲ分割シ以テ諸務ヲ辦理ス

此地淡水河ノ上流ニアリテ新店河ノ支流其西ヲ流レ四面山岳邱陵ニシテ北ニ大屯觀音ノ二峯屹立セリ南河水ノ流域平野三四里ニシテ山地ニ接ス西ハ大湖陷河ニ沿テ平原五六里ニ互レリ府城ハ平地ニシテ光緒八年(我明治十五年)時ノ巡撫劉銘傳之ヲ築キ南北凡ソ七丁東西ハ稍々之ヨリ狹シ繞スニ石壁ヲ以テシ其高凡ソ三間厚二間半許上部ハ凸凹形ヲナシ射擊ニ便ス四方ニ樓門アリ街衢ハ比較的稍廣濶ニシテ幅凡六間狹キモ二間半許アリ城内ノ商戶巨屋連屋凡二千人人口二五、二八〇許而シテ其七分ハ内地人ノ出店ニ係レリ商業頗ル繁盛ナリ又文廟武廟天皇宮ノ三廟アリ公會所ニハ淡水館アリ其結構奇觀壯麗ナリトス又所々ニ噴水井ヲ鑿チ水質極メテ清冽ナリ臺灣從來人力車ナルモノナカリシモ我帝國領土トナリシヨリ始メテ相行ハレ當今ハ當地方數百輛ノ多キニ及ヘリト云フ

又西門外ニ市街アリ艦艀或ハ舊街ト稱シ其西南ハ新店河ニ臨ミ連簷櫺比大小ノ支那船是ニ往來シ商業盛也此地多シハ土着ノ商賈也ト雖モ又廣東人福建人ノ店舗少シトナサス街路ハ狹隘ニシテ極メテ不潔也

北ニ大稻埕ノ市街アリ一名新街ト云フ北門外五丁余ノ所ニ在リ淡水河流舟楫ノ便アリテ東岸ニ沿テ巨

秋刀魚	鮒魚	鯉魚	似鯉	蛤	泥鰌	鮎魚	イサキ魚	石首魚	黃鱔	皮刺魚	河豚
	鯽魚	竹高頭魚	蟻	魚	丕魚						
西刀魚								鮭	鱒	昌刺魚	鱒魚

商簾ヲ連テ本島ノ製茶ハ多ク此地ニ輻輳シ以テ淡水港ヨリ輸出セラル故ニ歐米人ノ來往スル者多ク且
 獨米二領事館アリ洋行數個及ヒ廣東人ノ茶行十余アリテ商業頗ル繁盛也
 臺北ハ元淡水縣ノ所轄ニシテ一小市街ニ過キカリシカ光緒八年臺灣島ヲ一省ト爲シ劉銘傳ヲ以テ巡撫
 ニ任スルニ及ヒ初メ府治ヲ臺灣(今ノ臺中)ニ置キシモ交通不便ニシテ行政ノ中樞トシテ適當ナラサル
 ナ以テ更ニ此地ヲシテ一大土工ヲ起シ府城ヲ築造シ以テ撫台衙門ヲ置キ巡撫ノ行政廳ト爲ス是ヨリ本
 島第一ノ都會トナリ今日ノ繁盛ヲ見ルニ至レリ今ヤ鐵道ハ東基隆ニ起リ此地ヲ經テ西新竹ニ延長セリ
 又郵便電信電燈等ノ便アリ大ニ文明國ノ利器行ハレリ又大稻埕ヨリ小蒸氣船ニテ淡水港ニ往復スル
 便アリ

此地人民ノ職業ハ男子ハ重ニ農業ニ從事スル者ニシテ年二回收穫ノ稻作及ヒ甘蔗薯蕷豆類蔬菜等ヲ耕
 作シ或ハ茶園ヲ栽培スル等重ナル職業ニシテ川岸便利ノ地方ニ至テハ一戸ニシテ數百羽ノ家鴨ヲ飼養
 スルモノアリ此等ハ皆市場ニ日々擔出シテ卸賣ヲ爲ス下等社會ニ至レハ概テ貨物擔夫或ハ人力車
 夫ノ業ヲ營ムモノ多シ商工業雜多錯綜職業ヲナシテ甚タ職別シ難ク煉瓦製造大土工等專業ノモノア
 リト雖モ甚タ少數ナリ

女子ノ職業トシテハ自家ニ在リテ衣類ノ裁縫ヲ業トスルモノアルモ春ヨリ秋ニ至レバ製茶家ノ雇トナ
 リ老若ノ婦女概テ茶ノ選別方ニ從事ス茶ノ摘採ハ年五回乃至六回ナルモ皆是婦女ノ職業トス
 此地方土人ノ人情風俗ヲ概舉スレハ台北附近ハ福州人尤モ多ク而シテ中壠地方ニハ廣東人ノ部落多シ
 又間々廈門人モ雜居ス而シテ各住民迭ニ其風俗言語等ノ異ルヨリ自ラ其感情モ間隔セリ概言スレハ福
 州人ト廈門人トハ言語風俗共ニ稍類似スルヲ以テ互ニ相反目スルカ如キ勢ナシト雖モ廣東人ニ至テハ
 大ニ言語風俗ヲ異ニシ試ミニ其風俗ノ一例ヲ舉クレハ婦人ノ緊足ハ支那人一般ノ習俗ナルモ獨リ廣東
 人ニ於テハ絶テ之ヲ爲サス天然ノ形狀ヲ保カキ其他習俗異ナルヨリ其感情自カラ相反スルノ勢ア
 リ

淡水港ハ臺北ノ北凡ソ五里ノ所ニ在リ支那人之ヲ滬尾ト稱シ淡水河ノ注テ海ニ入ル所ナリ河ノ東岸ニ
 市街アリ戸數凡ソ千餘人口一万余港ハ山嶽ヲ負ヒ河流ニ臨ミ對岸峭壁聳立シ北方ハ遠ク渺茫タル支那
 海ニ而ス河口ノ廣サ凡ソ半里許港口ハ沙洲ニシテ吃水ノ大ナル氣船ハ滿潮ニアラサレバ出入スル能ハ
 ス故ニ此港ニ多ク出入スルハ支那形シヤンシ船ナリトス本島物産中ノ製茶樟腦等ノ輸出港ニシテ支那
 ノ巨商店舗又ハ洋行等アリ

此地稅關アリ又外國領事廳アリ
 港口ノ北岸刺岬ニ燈臺アリ又其附近ニハ砲臺ノ設クアリ一千六百年代西班牙人始テ此地ニ據リテ一砲

臺ヲ築キ蘭人ト南洋ノ商權ヲ爭フ後遂ニ蘭人ノ爲メニ驅逐セラル今ノ英國領事廳所在地是ナリト云フ其後又今ヲ去ル十餘年前清佛構兵ノ時ニ當リ佛軍此地ヨリ上陸セント試タルモ清兵ノ爲メニ擊退セラレタリ

此地淡水支廳ヲ置カレシモ後之ヲ廢止セラル人民ノ職業ハ第一農業ニシテ漁業ヲ兼業トスルモノ多シ次キハ苦力(勞動者)トス商業者ハ雜貨商乾物商茶商等亦多シ

基隆港(或ハ雞籠トモ書ス)臺北ヲ距ル東凡九里餘ノ所ニアリ其東西南ノ三面ハ山岳連亘海而ヲ圍ミ北方ノ一而開ケテ外洋ニ連リ基隆島ハ港口ノ東邊ニ屹立シ社寮島亦港ノ東方ニ横ハレリ市街ハ港内南岸ニ位シ戸數千四百人口一萬餘アリ平地少シテ人家頗ル稠密ナリ街衢ハ狹隘ニシテ且ノ不潔ナリ此港輸出ノ物産ハ石炭ヲ以テ重ナルモノトス此地本島ニ在テハ北部第一ノ要港ニシテ我帝國歸版以來内地人ノ往復スルモノ皆此地ヨリスルヲ以テ常ニ我漁船ノ碇泊スルモノ數艘ニ及ベリ然レモ北風強キ時ハ波濤高ク且ツ港内暗礁多クシテ殊ニ夜間ハ漁船ノ出入自在ナラス此地往時西班牙人和蘭人ノ迭ニ相據リ城ヲ築キ相爭ヒシ所ニシテ所々其城趾砲臺等ノ跡アリ又鄭成功カ蘭人ヲ擊退セシ時據リシト云フ城趾アリ後清朝ノ警備スルニ及ヒ數座ノ砲臺ヲ設ケタリ清佛戰爭ノ際ニハ頗ル激戰アリテ佛軍ノ爲メニ破壊セラレタル其殘壘ハ今猶ホ大沙灣頭ニ存セリ而シテ其傍ニ當時佛軍戰歿者ノ墳墓アリ

港内ハ廣シト雖モ潮ノ干滿甚シク小船ニアラサレハ深ク港奥ニ入ル能ハス大艦巨舶ハ常ニ港内二十四五丁ノ所ニ繫泊ス

市街ハ港奥ニ在ルモノヲ大基隆トシ其東方ニ一區劃ヲ爲セルモノヲ小基隆トス即チ稅關ノ在ル所ナリ

停車場ハ街ノ西北端ニ在リ旅客常ニ輻輳ス

此地初メ基隆支廳ヲ置カレシモ後之ヲ廢止ラレタリ

人民ノ職業ハ農漁業者多數ニシテ舢舨水夫及ヒ苦力ノ類亦少カラズ商業者多シト雖モ巨商ハ少シ

人種ハ福州廈門廣東人雜居スト雖モ少シク僻地ニ至テハ廣東人ノ部落殊ニ多シトス

大湖陷ハ臺北ヲ距ル西南七八里ニ在リ山中ノ一都會ニシテ大湖陷河ノ上流ニ位シ人口凡ソ一萬内外アリ此地生蕃地ニ接シ往々番民ノ爲メニ侵害セラル、ヲ以テ舊時支那政府兵ヲ駐メテ防禦ニ備ヘタル云

新竹縣

新竹元竹暨下稱ス舊時淡水縣廳ノ所在地ニシテ後又新竹縣ヲ置キ我帝國歸版後新竹支廳ヲ置キ後改メテ新竹縣ヲ置カル

本縣ノ管轄ハ堡六街二五庄九六一社(ナシ)戶數五三、七六八人口二七一、五〇五ナリ
縣城ハ平地ニシテ石壁ヲ繞シ四門ヲ設ケ番兵ヲ以テ之ヲ嚴守ス市街ノ人口ハ大約一万内外アリ此地四方田園開ク頗ル農産物ニ富ムト雖モ附近ノ港灣ハ船舶ノ交通不便ニシテ輸出入品ノ途ナク獨リ鐵道ニヨリ臺北ヘノ交通ヲ得ルノミニシテ商業不振ナリ街衢狹隘殊ニ不潔ニシテ商戶ハ概テ矮屋ノミ
住民多クハ福州人ニシテ廣東人ハ少數ナリ故ニ多數ニ制セラレ常ニ侮蔑ヲ受クルノ狀勢アリ職業ハ農民大部分ヲ占メ又苦力漁夫ノ類多ク純商ノ如キハ少數ナリ
苗栗ハ山中ノ一都會ニシテ後龍河ノ上流五六里ノ處ニ在リ境域生蕃地ニ接近セルヲ以テ蕃民ノ害ヲ被ムル常ニ少シトセス舊時支那政府ハ防禦兵ヲ置キ又縣地トナセリ帝國歸版後苗栗支廳ヲ置キ後及之ヲ廢止セラル

此地住民ハ廣東人大部分ヲ占メ福州人厦門人稀ナリ又附近ノ山間ニハ熟蕃人ノ部落所々ニ居住ス市街ノ人口凡ソ一万内外ニシテ商業甚タ繁盛ナラズト雖モ此地方ハ樟腦盛産ノ地ニシテ男女共ニ能ク勞役ニ服スルヲ以テ貧民少シ近年又石油坑ノ發見アリ

臺中縣

臺中元臺灣下稱シ支那政府臺灣ヲ一省ト爲スニ當リ此ニ中央政府ヲ置クノ計畫ナリシモ交通不便ノ地タルヲ以テ半途ニシテ停止シ更ニ臺北ニ設置セルヲ以テ此地新開ノ一小市街ニ過キサリシカレ我帝國歸版後臺中縣廳ヲ置カレ漸ク内地人ノ移住スルモノ多ク市街日チ盛テ盛況ニ趣ケリ

本縣ノ管轄ハ堡二街三三庄一、二五九社九戶數一〇三、四二九人口四九〇、四六五トス
彰化ハ臺中ヲ西南方ニ距ル凡ソ四里ノ地ニ在リ舊時彰化縣治及ヒ臺灣府治ノ在リシ所ニシテ臺灣西部ノ一都會ナリ縣城ハ石壁ヲ繞ラシ城門四個アリ商戶稠密ニシテ戶數凡ソ三千余人口一万四千余アリ街衢ハ頗ル狹隘ニシテ且ツ不潔ナリ縣城ノ北數丁ニシテ邱陵アリ八卦山ト云フ要害ノ地ニシテ舊砲臺ノ跡アリ頂上征臺役陣歿者山根少將始メ將校其他兵卒ノ墳墓アリ
鹿港ハ帝國歸版後支廳ヲ置カレシ所ニシテ商業繁盛ノ地也良港ニアラスシテ漁船ノ來往ナシト雖モ支那大陸泉州ニ相對シ最近ノ地タルヲ以テ支那船常ニ輻輳シ西部商業ノ中心トナリ貨物ノ集散盛ナリ戶數三千余人口二万三百余アリ此地常ニ烈風多ク家屋ノ構造他地方ト其觀ヲ異ニセリ又此地沿岸ハ一体ニ漁村多クシテ魚族ノ收穫ハ常ニ許多ナリトス
鹿港支廳ハ後彰化ニ移シ尋テ廢止セラレタリ
埔裡社ハ彰化ノ東六七里山中溪間ニ在リテ熟蕃支那人ノ雜居地ニシテ耶蘇教ヲ信スルノ人民少シトセス舊時埔裡廳ヲ南投街ニ置キ歸版後猶ホ支廳ヲ置カレシモ後及之ヲ廢止セラル

臺南縣

臺南ハ明ノ天啓中海盜顏思齋鄭芝龍ノ徒根據地トシテ居住セシ所ニシテ萬曆年間閩人來テ小地ヲ借リ赤崁城ヲ築キ(今ノ安平是也)爾來閩人跋扈シ漸ク全島ヲ併有セントスルノ勢ナリシカ滑ノ順治年間芝龍ノ子鄭成功厦門ヨリ來リテ遂ニ閩人ヲ逐テ之ニ據リ改メテ承天府城ヲ築キ爾來本島中ノ一大都府トナリ康熙年間清朝歸版後又臺灣府城トナシ木柵ヲ立テ籬竹ヲ環ラシ以テ城市ヲ結フ於是漳州泉州等ノ民來リ集ル乾隆五十五年清國內地ノ制ニ倣ヒ木柵ヲ改メテ磚瓦城ヲ築キ後光緒十年劉銘傳本島巡撫トナルニ及ヒ臺南府城ト改ム

城壁ハ周圍十六清里ニシテ高サ二間乃至三間厚サ約二間トス四周八個ノ樓門ヲ設ク東ニ在ル者ヲ大東門小東門ト云ヒ西ニ在ルヲ大西門小西門ト云ヒ南ニ在ルヲ大南門小南門ト云ヒ北ニ在ルモノヲ大北門小北門ト云フ各門概テ二重ニシテ城上多ク銃眼ヲ穿テリ城内市街ハ商戶稠密繁盛ヲ極ムト雖モ道路甚タ狹隘ニシテ一モ大道ナルモノナシ而シテ路上敷クニ磚瓦或ハ石ヲ以テシ雨中ノ歩行ニハ多少ノ利便ヲ得ヘシト雖モ車輛ノ若キハ到底通ス可ラス城内人口二十万九千三百八十五戶數四万七千五百八十七アリト云フ

市内巨商多ク大家屋ヲ連テ店頭常ニ賑ハヘリ中ニ就ク建造ノ宏壯華麗ヲ以テ有名ナルモノハ舊學館節成功廟天后宮關雲長廟及兩廣會館四春園等ナリ

本縣ノ管轄ハ堡里四〇街一六九庄七一三社一〇戶數四八、一一九人口四九六、一六九トス

安平港ハ元安平縣ト稱セシ所ニシテ臺南ノ北一里ニ在ル港口也人口凡一万余ト云フ船舶碇泊地ハ海岸ヲ距ル一里許ノ外ニ在リ其間ヲ往來スルニ「かたまりん」ト稱スル竹筏ヲ用ユ貨物ノ運送極メテ不便ニシテ夏季西南信風ノ吹ク間ニハ往々陸地トノ間交通遮斷セラル、コトアリ又港ヨリ直ニ府城ノ西門ニ通スル運河アリ船舶ヨリ端船ニテ貨物ヲ送ルヲ得ヘシ

往時關人ノ築ケル砲臺赤鏡城及ヒ紅毛樓等ノ遺跡猶觀近ニ至ルマテ存在セリト云フ咸豐八年以來本港ヲ開キ貿易港トセリ其輸物ノ重ナル物ハ砂糖樟腦等ニシテ輸入品ハ阿片棉布毛布ノ類ナリ

6

嘉義縣

嘉義元諸羅ト稱ス林爽文ノ亂ニ功アリ清帝特ニ此名ヲ賜フト云フ縣廳ノ所在地ニシテ一都會ナリ商戶稠密戶數凡ソ二千八百人口九千六百余アリ縣廳ハ石壁ヲ繞ラシ壕ヲ穿テ四門ヲ設ク舊時諸羅縣後嘉義縣ノ所在地ナリシカ歸版後嘉義支廳ヲ置カレ又改メテ縣治ヲ置カル商業繁盛ノ地ニシテ常ニ地方庶民ノ輻輳頻繁ナリ

是ヨリ南十七里臺南ニ至ルノ間トロック貨車ノ便アリ

本縣ハ堡一街四三庄一、九一二社西戶數一二〇、七八七人口五三五、一六三ヲ管ス

鳳山縣

鳳山縣廳ハ臺南ヲ距ル南十五里ノ所ニ在リ乾隆五十三年林爽文ノ亂後縣ヲ置キ帝國歸版後支廳ヲ置カレ後明治三十年改メテ縣治ヲ置カル縣城ハ土壘ヲ繞ラシ五門アリ人口五六千アリ二條ノ新路ヲ以テ東部卑南ニ通セリ

本縣ハ堡里四一街庄社一、〇七四戶數七三、七四七人口三九八、〇五八ヲ管轄ス

打狗港ハ鳳山ノ西三里ニ在リ港ノ北岸ハ打狗ニシテ其西南岸ニ在ルヲ旗後街ト云フ亦本島通商港ノ一ニシテ港口甚タ狹隘港内ハ水底淺ク吃水ノ大ナル船舶ハ出入スル能ハス常ニ出入スルモノハ小蒸氣船及ヒ支那形商船ニ過キス其輸出品ノ重ナルモノハ砂糖或ハ藤ノ類ナリ

東港ハ淡水河ノ河口ニ在リ支那形船舶ヲ容ルヘキ一良港ニシテ近傍ハ米穀ヲ産スル有名ノ地方タルヲ以テ商業稍繁盛也人口一万余アリト云フ

恒春ハ本島極南ノ地ニ在リヲ山嶽多ク田野少シ三而海ヲ帶フルモ良港灣ナシ社寮艾南ノ小港アリト雖モ儘カニ天氣平穩ノ時碇泊スルヲ得ルノミ

此地方ハ生蕃多ク近來迄支那政府治外ノ地方タリシカ明治七年我征臺ノ事アリシヨリ生蕃鎮壓ノ要起
リ初メテ縣ヲ置キ兵ヲ駐ムルニ至レリ福建廣東人多ク來リテ蕃民ト雜居ス人口四五千蕃社ハ五十八ア
リ標悍殘忍ヲ以テ有名ナル牡丹社ハ北部ノ山中ニ在リ

南岬ノ近海ハ暗礁多ク海流急激ニシテ暴風屢起ルヲ以テ船舶ノ沈没スル者多ク岬頭ニ燈臺ノ設ケアリ
小琉球島ハ東港ノ南一里余ノ所ニ在リ島形ハ東北ニ走リ長サ一里余幅員半里許アリ島中小舍散在シ支
那人ノ漁夫住セリ

紅頭嶼ハ南岬ヲ東方ニ距ル海上二十里ノ所ニ在リ其形狀南東ヨリ北西ニ長ク凡三里半幅一里半許ヲ有
ス樹木ハ椰子多ク動物ハ雞羊豚ノミ住民ハ番來化外ノ番人ニシテ稼穡ノ事ヲ知ラス専ラ漁業或ハ牧畜
ヲ以テ生計ヲ營ミ其形貌ハ稍臺灣生蕃人ニ似タリト雖モ性質ハ馴良ヲ以テ目スベク又一種ノ山羊ヲ産
シ其毛美色ナリト云フ本島ノ蕃人ハ凡ソ六七社ニシテ人口一千内外アリト云フ

火燒嶼ハ紅島嶼ヲ北ニ距ル凡十七里臺灣東海岸ヲ距ル七里許ノ所ニ在リ其長徑一里ニ及バサル一小島
也島民ハ支那人ニシテ厦門ヨリ移住セルモノ、後裔ナリト雖モ治外ノ人民ニシテ辨髪ヲ着ケズ終テ後
頭ニ結ヘリ家屋ハ泥土ニテ作り露兜樹ノ葉ヲ以テ之ヲ葺ケリ人口不詳也産物ハ米穀玉蜀黍胡椒瓜其他ノ
蔬菜ナリ

臺東廳

當廳ハ卑南ニ在リ四十蕃社ヲ管轄スト云フ然レモ戶數人口未タ詳ナラス東部山間ノ一小都會ニシテ舊
時臺東州ヲ水尾ニ置帝國版圖後臺東支廳ヲ置カレ後又臺東廳ヲ改置セラル風山ヨリ二條ノ山道ヲ經
テ斯ニ至ル

宜蘭廳

本廳ハ舊噶嗎蘭廳ノ所在地ナリ噶嗎蘭ハ原東北部蕃族ノ自稱ニシテ支那人ハ之ヲ蛤仔難ト云フ土城府
腹ニシテ一收穫五十万石ヲ産スト云フ嘉慶十五年清廷收メテ版圖トシテ噶嗎蘭廳ヲ置キ後同治十三年
我征臺ノ舉アリシヨリ生蕃ヲ馴治スル爲メ改メテ宜蘭縣ヲ置キ周圍ニ土壁ヲ繞ラシ荊竹ヲ密植シテ籬
垣トナシ小濠ヲ穿テ要害ヲ堅固ニセリ住民ハ熟蕃人大部分ヲ占メ人口六七千許アリト云フ
當廳ノ管轄ハ堡十二街十九庄二百二十三社三十六戶數二万四千六百六十四人口十一万四千九百五十五アリ
蘇澳ハ宜蘭ヲ距ル南七里許ノ所ニアリ灣内廣闊ナラサルモ水底深シ數艘シ大艦ヲ泊スベシ沿岸ニ三村
落アリ北ナルヲ北風澳ト云ヒ中央ナルヲ蘇澳ト云ヒ南ニアルヲ南風澳ト云フ皆人口數十個ニ過キス往
時番人ノ根據地ナリシモ今ハ支那移住ノ民多ク土蕃ハ多ク南ニ避クタリト云フ蘇澳ノ近傍數所ニ炭酸
及ヒ鐵分ヲ含メル冷泉湧出ス
蘇澳ヲ距ル北方七里ノ海上ニ一小島アリ小龜山ト云フ支那人居住シ山頂ニ至ルマテ耕作シ常ニ陸地ヲ
交通シテ彼我ノ産物ヲ以テ交易スト云フ

澎湖廳

常陸ハ媽宮城ニ在リ澎湖列島ノ首府ニシテ其管轄ノ面積ハ十三方里餘東西十四里餘南北十三里餘漢數十三城一鄉九十四戸數八千九百四十五人口四万九千四百五十アリ

本列島中大山嶼ハ最大島ニシテ周廻二十里許南北ノ長四里許狹隘ナル水道ヲ以テ島内ヲ三分セリ其南東海岸良正角ト候角ノ間ニ二澳アリ南西海岸ニ固頂灣アリ繫泊ニ便ス然レ日本島ノ最良港ナルモノハ馬公港ニシテ「マヤツク」灣圓頂灣ヲ分タズ一大灣ヲ成シタルモノ即チ澎湖灣是ナリ港口ノ北東角ニ近ク「マヤツク」灣アリテ其北岸ハ即媽宮城ナリ港内水底深キヲ以テ吃水ノ大ナル船舶ヲモ繫泊セシムベク又北岸ニモ數個ノ小灣アリ鼎灣ハ其大ナルモノニテ城ノ北東ニアリ其東ニ龜窟港文良港アリ皆水淺クシテ船舶ノ繫留ニ便ナラス港内ノ戸數凡一千三百人口六千四百餘アリ住民ハ皆支那人ナリ

漁翁島ハ澎湖島ノ西方ニ在リテ蜿蜒南北ニ延ヒタルモノ即是ナリ支那人ハ之ヲ西嶼ト云フ南北ノ長サ二里半許濶サ一里半ニシテ周圍凡七里アリ其南東角ヲ小頭ト云ヒ其南西角ヲ「リツィー」角ト云ヒ其角ノ間ニ頭巾灣アリ北東角ヲ漁角ト云ヒ本島ト北海島(白沙嶼)トノ間ニ牛公灣アリ南西風ヲ避クベシ東岸ハ小頭ヨリ北走シテ數小灣ヲ成シ其稍大ナルヲ吸水灣ト云フ北海島(白沙)ハ北ニ在リテ兩島ノ北岸ト成レリ

「ローツァー」群島ハ八罩島倉島ノ二大島及ヒ數多ノ岩嶼ヨリ成ル八罩島ハ群島中西ニ在リテ南北一里幅員半里許其南岸ニノミ數十ノ人家アリ倉島ハ東ニ位シ北東ヨリ南西ニ長サ半里許アリ

「マヤツク」島ハ諸島中最南ニ在リ東西一里許幅員半里餘ニシテ近傍ノ水底稍々深シ東島(東吉嶼)ハ八罩島ノ南ニ在リ周圍半里許其西ニ筆鏡島(西吉嶼)アリ周圍半里許アリ

檳島(船蓬嶼)ハ「フイツシエル」島ノ燈臺ヲ距ル南東二里許ノ所ニ在リ其名ノ如ク島頂平坦ナリ

島島(大烈嶼)ハ諸島ノ北ニ位シ其北ニ北島(小烈島)アリ澎湖列島ノ氣候ハ臺灣本島ト異ナルナシ年中北東風多ク山嶽ノ之ヲ遮ルナク猛烈ニシテ島内喬木ヲ成長スル能ハス僅カニ桑樹榕樹ノ類ノミアリト

雖モ成木ニ至ラス
農産物ハ粟高粱落花生甘藷蔬菜ハ菘白菜豌豆南瓜西瓜ノ類ノミ家畜ハ豚家雞鴨ノミ
島民ノ大多數ハ漁業ヲ以テ生活ヲ爲ス又苦力ノ類多シ

蓋シ臺灣ハ元無政府ノ一孤島ニシテ繼氏棲息ノ地タルニ過キス往古支那ニ於テハ之ヲ東蕃ト呼ビ又宋代ニハ昆舍那ト稱セシト傳ルモ曾テ其政令治化ノ及ビシ事蹟ナシ降テ明ノ宣德五年我永享二年監官王三保ナル者南方ニ使スルノ途次海上颶風ニ遭テ本島今ノ臺灣附近ニ漂着シタルヲ以テ支那官吏ノ來ル始メトス然レ共政府ハ尙ホ之ヲ荒服化外ノ地ト爲シ亦顧ル所ナシ是ヲ以テ本島ハ當時南海々賊ノ巢窟ト爲リ漂掠奪奪其爲ス所ニ任セリ而シテ其割據時代ハ極メテ短少ニシテ區域ノ狹隘ナル其經營ノ事蹟割據ノ形狀等漠トシテ尋ヌ可ラス今岡田東寧ノ著セル臺灣歷史考ニ據リ其梗概ヲ記シ

明ノ嘉靖年間ハ即チ我足利氏ノ末世ニシテ英雄割據雄ヲ中原ニ争フ時ニ方テ其猛士ノ志ヲ得サル者轉シテ海賊ノ群ニ入り明朝ノ末路邊海ノ防備全カラサルニ乘シ支那南部ノ沿海七百里ノ間ニ出沒シテ剽掠ヲ逞フス明朝之ヲ倭寇ト稱シテ大ニ其防禦ニ苦メリ嘉靖四十二年ニ至リ是等冒險家ノ船隊ハ總兵戚繼光ノ爲メニ破ラレ其一隊ハ轉シテ遼東ノ沿海ニ出沒シ又一隊ハ支那ノ海賊林道憲ヲ嚮導トシテ澎湖ニ據リ屢々福建廣東ノ沿岸ヲ犯セリ而シテ又提督俞大猷ノ逐フ所トナリ遂ニ退テ臺灣ニ據リ其後林道憲ト相協ハサルコトアリ分離シテ道憲ハ獨リ浚泥ニ割據シ我冒險者ハ萬歴ノ末迄臺灣ニ割據セシカハ遂ニ之ヲ放棄セリト云フ又吳平、許朝光、及ヒ會一本ノ三巨賊アリ前後相繼テ澎湖島ニ據リ之ヲ根據ノ地ト爲シ南海ノ洋面ニ横行シ商船ヲ掠メ大ニ暴威ヲ逞セシト云フ

其頃海賊中頭目トシテ最有名ナルモノヲ顏思齋ト爲ス思齋ハ嘗テ日本ニ流寓シ後チ臺灣北港ニ據リ福建廣東ノ沿岸ヲ犯シ剽掠ヲ逞フセル者也其率フル所ノ船艘甚々多クシテ從フ所ノ部下少カラズ彼ノ鄭芝龍ノ如キ亦部下ノ一人ナリ其暴威ノ及フ所福建廣東ノ人民思齋ノ名ヲ聞テ發動セサルナキニ至ル而シテ天啓五年思齋病テ死スルヤ其部下芝龍ヲ推シテ頭目ト爲セリ芝龍思齋ノ後ヲ襲フテ其部下及ヒ船

艘ヲ率ヒタリ無賴ノ遊民來リ投スルモノ益々多ク聲勢日ニ加ハリテ海上覇ヲ弄スルノ看アリ而シテ政府其暴掠ヲ制壓スルコト能ハス遂ニ榮爵ヲ授ケテ之ヲ招キ福建沿岸ノ防禦提督ト爲ス而シテ芝龍ノ部下ニアルモノ陳衷紀、楊六、楊七、等以下十三人官爵ヲ受ケヌ又去テ臺灣ニ回ル或ハ曰ク澎湖ニ於テ海賊李魁李ニ遭テ其圍ム所トナリ陳衷紀等之ニ死シ楊六楊七尙ホ海上ニ暴ヲ逞フセリト

鄭芝龍ハ萬歴三十二年三月十日ヲ以テ福建省泉州府管下ニ生ル幼名ヲ一官ト呼フ母ハ黃氏父名ハ紹祖嘗テ泉州ノ廩吏ニ任セラレ芝龍天性頗ル聰明年七歲嘗テ國桂ノ門ニ學フ或日學堂ノ歸途游戯砂ヲ投シ過テ太守蔡善繼ノ紗帽ニ中ル善繼人ヲ派シ芝龍ヲ引致セシム紹祖驚キ罪ヲ請フテ已マス善繼亦有慮ノ人ナリ其芝龍ヲ引見スルヤ眉目清秀氣宇軒昂ナルヲ見テ罪科ヲ責メサルノミナラス却テ賞揚背ヲ撫シテ曰ク此レ寧馨兒ナリト芝龍カ善繼ノ德ニ感シタル蓋シ此時ニ存ス己ニ長シテ十八歳トナルヤ臂力衆ニ過ク拳棒ヲ好ミ性情蕩逸讀書ヲ喜ハス父母ノ許諾ヲ得スシテ潛カニ粵東(廣東)香山澳ニ往キ母舅黃程ヲ訪黃程其來訪ヲ喜フト雖モ擅ニ父母ヲ離レ遠游ヲ企ツルノ甚々道ヲ得サルヲ責メ且少年ノ時宜シク潜心持重スヘキヲ諭シ其家ニ留メ優待ス芝龍黃程ノ家ニ寓スル三年遠遊ノ志勃々トシテ禁スル能ハス時ニ黃程白糖樟腦麝香等ノ貨物ヲ販賣スルノ目的ヲ以テ日本ニ航セントス芝龍請フテ同行ス是レ鄭氏ノ事業カ我ノ日本ト淺カラサル因縁ヲ有スル濫觴ナリ時ニ天啓三年癸亥夏五月ナリ我元和幕府召シ見テ問フニ外國ノ事情ヲ以テシ命シテ長崎ニ寄館セシム後チ徒テ平戸河内浦ニ住シ田川氏ヲ娶リテ妻トナシ屢々藩士ノ家ニ出入シテ双刀技ヲ學ブ自ラ平戸老一官ト稱シテ日本ト支那トノ間ヲ往來セリ後チ遂ニ顏思齋ノ群ニ投シ海賊トナレリト云フ或曰ク芝龍ハ其日本ニ在リシ當時ヨリ尙ホ思齋ノ圍ニ在リシト姑ク左ニ臺灣外記ノ記スル所ヲ譯載セン

爾時顏思齋ナルモノアリ福建省漳州府海澄縣ノ人日本ニ寄寓スル多年武力精熟思慮寬廣又積蓄頗ル裕カニシテ財ヲ散シ俠ヲ立ツルノ所以ヲ以テ彼等寓居ノ唐人間ニ重セラレ其部下トシテ屬スルモノ

亦少カラス自カラ執ル所ノ職ハ裁縫ヲ業ト爲スト雖モ彼レカ性行ヨリ推セバ海上暴ヲ姿ニスル海賊
 タラズンハアラズ今其部下ヲ擧クレハ楊天生、洪泉郷、陳勳、張弘、陳衷紀、林福、林翼、黃碧、
 張輝、王平、黃昭、李俊臣、何錦、高貫等以下九人而シテ楊天生最モ信任セラル芝龍亦天生ノ推ス
 所トナリテ其班末ニ列セリ依テ芝龍ヲ合セテ部下ノ數合計廿八人日本政府稍ヤ是等流寓唐人ノ舉動
 ニ注意シ其純真ナル商人ニ非スシテ一種不法ヲ業トナセルモノタルヲ發見スルヤ直チニ緝拏ヲ命ス
 思齋ノ部下廿八人ヲ始メ其他ノ唐人等船ニ投シ辛シテ虎口ヲ脱セリ是レ實ニ天啓四年八月十四日未
 刻ナリ 我算永 船皆ナ州仔ニ相聚リ來レリ思齋其搭スル所ノ船ヲ點算セシニ十三隻ニシテ皆萬一ヲ僥
 倖セシヲ祝シ一同圍坐シテ將來ノ善後策ニ就キ計畫ヲ議ス天生曰ク暫ク舟山ニ到リテ再議ヲ爲サ
 ト衷紀曰ク何ゾ舟ニ到ルヲ用ヒン若シ舟山ニ到レハ人々都テ散セシ人散スレバ則チ孤立以テ事ヲ濟
 シ難シ速カニ十三隻ノ船ヲ率ヒ秋風ニ乘シ直ニ馳セテ臺灣ニ到ルヲ以テ最モ策ノ得タルモノトナ
 ト天生大ニ贊シテ曰ク是言實ニ理アリト思齋亦同意ヲ表シテ曰ク然ラハ衷紀張弘ノ二人ヲ頭目ニ推
 シ夜間火箭ヲ放チテ出發ノ信號ト爲シ共ニ帆ヲ揚グント天生曰ク之レ實ニ良法ナリト此ニ於テ平衆
 議一決皆別ヲ告ゲテ各自ノ本船ニ歸ル其翌日ノ天明(天啓四年八月十五日)信號思齋ノ乘ル船ヨリ
 揚ガルヤ十三隻ノ船ハ魚貫シテ臺灣ニ向テ出帆シ凡ソ八晝夜ニシテ臺灣北港ニ到達ス先ツ寮寮ヲ設
 ク土蕃ヲ撫シ大ニ經營ヲ施セリ而シテ是ノ團體カ所謂事ヲナスト云フ則チ常職ナルモノハ臺灣ヲ根
 據トシテ海上ニ出テ常ニ掠奪ヲ逞フスルニ外ナラス故ニ閩浙沿岸ノモノ誰カ思齋ノ名ヲ聞テ其掠奪
 ヲ恐レサルモノアラナヤ

天啓五年 我算永 秋九月ニ至リ是等一團ノ上ニ一大不幸ハ落來セリ是レ他ナラス統領顏思齋猪羅山ニ
 登リ徘徊道遙與極リ意適シ飲酒度ニ過キ爲メニ風寒ヲ感シ遂ニ起ツ能ハザルニ至ル一日部下枕頭
 ニ聚メ訣別ヲナシテ曰諸君ト事ヲ共ニスルニ載登ニ他ヲ期セシヤ唯タ富貴ヲ求ムルニ在リ今不幸ニ

シテ重病ニ罹リ中途分別スルノ已ムヲ得サルニ至ルト天生等慰籍シテ曰ク人誰カ病ナカラシ唯タ時
 々調養ヲ加エテ平癒ヲ期セシノミ何ソ痛歎スルヲ用ヒン思齋曰諸君ト帆ヲ波濤ノ中ニ揚クル能ハス
 天數己ニ盡キタルヲ奈セント言訖テ嗚咽シテ死ス天生等痛哭已マス厚ク殮殮ヲ行ヒ又タ恭シク祭禮
 ヲ執ル己ニ統領ノ顏思齋幽冥ニ赴クヤ是レニ代リテ部下ヲ統領スルノ頭目ヲ推サハルベカラサルニ
 至ル而シテ其頭目ニ推サレタルモノハ天生衷紀輩ノ如キ重キヲ彼等團體間ニ負フモノニ非ズシテ然カ
 テ如此意外ノ結果トハナリシソ臺灣外紀ノ記スル所ニヨレバ統領ノ推舉ヲ神ニ祈リ兩腕ヲ連投シテ
 破壤セサルモノヲ擧テ統領トナサント衆議一決ス而シテ天生以下皆投スル腕皆ナ壞裂シテ唯タ芝龍ノ
 投スル腕一モ破壤セズ遂ニ此ニ依リテ統領ノ榮任ニ當ルニ至レリト云フ其ノ脱稍ヤ荒唐ニ近シト雖
 モ海賊輩ノ撰擧又タ奇法ヲ用ユル少シトモ形勢一變今ヤ鄭芝龍カ技術ヲ演スヘキ舞臺トハナレリ
 鄭芝龍ハ規模ヲ宏大ニシ規律ヲ嚴肅ニシタリ其改定セラレタルノ規律及規模ヲ見ルトキハ海賊ノ一
 團ト雖モ純乎タル軍隊組織ニシテ南海ノ洋上暴威ヲ恣ニシ浙閩ノ沿岸掠奪ヲ逞フシタル亦宜哉
 一日芝龍衆ニ謂テ曰ク今ヤ諸務己ニ其緒ニ就ク豈坐カラ師ヲ老スベクンヤ我レ戰船十隻快哨三隻ヲ
 領シ大陸沿岸ニ至リ一ハ以テ邊境ヲ窺ヒ一ハ以テ糧食ヲ取ラント則チ泉鄉衷紀ヲシテ精壯ヲ選ヒ船
 隻ヲ調ヘシメ船師ノ排列ヲ指揮シテ曰ク第一號先鋒第二號先鋒第三號援勳第五號衝鋒第六號中軍ニ
 シテ芝龍自カラ之ニ坐シ參謀ノ天生泉鄉之レニ侍ス第七號護衛第八號護衛第九號遊哨第十號監督ヲ
 リト各船六十人ヲ配置シ快哨ハ每隻二十五人ヲ坐セシム皆一ヶ月ノ糧々ヲ備ヘ出發セリ
 以上ノ如ク魚貫隊ヲ連テ洋面沿岸ニ出沒シ其ノ最モ多ク襲撃ヲ蒙リタルモノハ福建省ノ金門廈門
 及廣東省ノ靖海甲子ノ地トナス
 明朝ノ末路威令下ニ及ハス一世舉テ偷安ヲ事トスルノ時代沿岸ノ防備完全ナラサルヤ芝龍ノ黨志ヲ

肆ニスルコトヲ得テ岸ニ登リテ擒掠至ラサルナシ然リト雖モ其間規律ノ整然タルアリテ婦女ヲ擒ニ
スルコト人民ヲ屠ルコト人家ヲ焚クコト稻穀ヲ艾ルコト等ノ四作ヲ嚴禁ス部下之レヲ犯スモノナカ
リシ是芝龍輩ノ海賊ハ尋常ノ黨與ニ非サルヲ知ルヘシ而シテ此ノ時ニ際シ氣侯常ヲ失ヒ風雨順
ナラス秋冬ノ收穫宜キヲ得サルヲ以テ米價暴騰流民艱苦其ノ常業ヲ捨テ芝龍ノ黨ニ投スルモノ甚タ
多ク聲勢日ニ加ル雖然當路ノ知府之レヲ如何トモナス能ハス而シテ己レ威ヲ以テ壓スル能ハサレハ
恩ヲ以テ撫シ芝龍ニ顯位ヲ與ヘ撫恤良材ヲ用ユルノ法ヲ執ルヘシトハ當時救濟ノ良策トシテ堂上ニ
喧傳セラレタルモノナリ嘗テ前章記スル如ク知府蔡善繼ノ芝龍ニ於ケル御石ノ罪科ヲ實メサルノ緣
故アルヲ以テ芝龍ヲ招撫スルカ爲メ蔡善繼ヲシテ泉州道臺ノ任ニ當ラシメ且ツ黃昌奇ナルモノアリ
嘗テ泉州府庫吏トナリ芝龍ノ父紹祖ト事ヲ共ニセシコトアリ依テ之ヲ使者トナシ歸順ノ旨ヲ芝龍ニ
向テ説カシメタリ

昌奇一日芝龍ノ船ニ至ルヤ芝龍之レヲ第宅ニ延キ互ニ久闊ヲ叙セリ昌奇先ツ口ヲ開テ曰ク老拙ガ老
大人ト事ヲ共ニスルトキ將軍機カニ六七歲頭要石ヲ擲シ老太守ノ紗帽ニ著ル太守實メスシテ却テ非
凡ヲ贊セリ將軍能ク記スルヤ否ヤ芝龍曰ク影響略知ス昌奇曰ク現任ノ海道臺ハ則チ當日ノ老太守ナ
リ芝龍之レヲ聞テ嗟然タリ此時昌奇辯ヲ弄シテ曰ク蔡道臺ハ將軍ノ威名ヲ聞キテ其不世出ノ資ヲ以
テ徒ラニ跡ヲ海濱ニ寄スルヲ惜ミ老拙昌奇ヲシテ將軍ノ意ヲ聞カシメ將軍若シ聖世ノ良民トナルヲ
欲セバ蔡道臺ハ大ニ將軍ノ爲メニ盡ス所アルヘシト則チ袖ニスル所ノ蔡道臺ノ諭書ヲ出シ芝龍ニ附
ス(諭書ハ略ス)

芝龍ハ蔡道臺ノ諭書ヲ觀且ツ幼少石ヲ擲タル當時ヲ追想シ轉々感ニ沈ミ謂テ曰ク海上兵ヲ弄スル
原本意ニ非サレバ部下諸將ト議シテ決スル所アルヘシト芝龍即チ部下ヲ集メテ議シテ曰ク徒ラニ海
中ニ飄泊シテ虛シク歲月ヲ費シ結了スル所ナシ今蔡道臺招撫ノ好意ニ從ハント欲ス諸君ノ意如何ト

衷紀曰ク我等固ト蔡道臺ト舊縁ナキヲ以テ請フ幾許ノ船隻ヲ分領シ臺灣ニ回ラント而シテ衷紀ノ説
ニ從フモノ泉鄉子大陳勳等十三人大船六隻ト糧食薪蔬布帛器械ヲ領シテ芝龍ト手ヲ分チテ臺灣ニ回
ル芝龍ハ十二隻ノ船八百餘ノ部下ヲ率ヒテ昌奇ト共ニ泉州港ニ入り投降ノ禮ヲ執リテ蔡道臺ニ見ユ
互ニ手ヲ握リ相見ルノ晚キヲ憾ミ芝龍カ海上暴ヲ勤クノ道ニ背キ醜然自新スルノ正鵠タルヲ説キ且
ツ芝龍ノ爲メニ巡撫ニ申奏シテ必ス推薦スヘキヲ約シテ相別レタリ

是時ニ當リテ巡撫朱欽相病ニ罹リ事務頗アル滯滞セリ依テ芝龍ノ處置ノ如キ曠日彌久而シテ巡撫ハ
芝龍カ船隻及軍器ヲ繳收シタル後處置ニ及ハント欲ス芝龍之ヲ諾スト雖モ芝龍ノ部下其ノ船隻軍器
ヲ繳收セラル、ヤ又如何トモ爲スヘカラサルヲ主張シテ應セズ夜ニ乘シテ芝龍ト共ニ海上ニ逃レ去
ル蔡道臺之レヲ聞テ大ニ怒ル芝龍ハ蔡道臺ノ約束ニ背キテ海上ニ去ルヤ遠ク粵(廣東)ノ海豐ニ至リ
嵌頭村甲子靖海ノ地方ヲ犯セリ而シテ其後廣東省ヨリ福建ノ沿岸ニ歸リ來レリ時ニ崇禎元年ニシテ
治岸ノ防備前日ノ如ク空虚ナラス巡撫朱之潛ハ都司洪先春ヲシテ把總許心素陳文廉ト力ヲ併セ戒嚴
セシム雖然海上ノ戰術芝龍カ如ク操縱自由ナラス敗績數次潰裂逃走ス而シテ芝龍カ軍ヲ收メテ追窮
セサル所以ノモノ其意果シテ如何ソヤ

洪春先許心素及陳文廉輩ノ技倆ハ到底鄭芝龍ノ敵ニアラサルヲ以テ朱巡撫ハ遊擊盧毓英ヲ擢テ防備
ノ任ニ當ラシメタリ盧遊擊ハ嘗テ浙閩沿海ニ於テ海賊討勦ノ功ヲ立テタル經歷アルヲ以テ驍勇ノ將
軍トシテ歡迎セラレタリ芝龍ハ盧遊擊ガ來リ攻ムルト聞キ部下芝虎、芝堯、芝鄂、芝燕等ニ命シテ奇計
ヲ設ケ擒ニセシコトヲ期セリ盧遊擊ハ昔日ノ威名ヲ自負シ芝龍カ船隊ノ僅少ナルヲ侮リ直進ス遂ニ
芝虎、芝堯、芝燕等ノ包圍スル所トナリテ傷ヲ受ケテ捕虜トナル
芝龍ハ盧遊擊ヲ虜ニシテ唯ニ殺戮セサルノミナラス厚遇シテ互ニ肝膽相照ス芝龍ハ盧遊擊ニ蔡道臺
ノ約束ニ背キ逃走シタル理由ヲ説テ曰ク蔡道臺ノ招撫ハ單ニ罪科ヲ問ハサルノミ此ニ依テ衆皆ナ失

百
望逸走セリ若シ朝廷芝龍ニ一節ヲ授クバ不肖ノ芝龍力ヲ朝廷ニ致シ東南ノ半壁以テ枕ヲ高フスベシ
ト盧遊擊大ニ芝龍ノ志ヲ贊シ省城ニ歸リテ巡撫ニ説キ芝龍ノ爲メテ盡サントヲ約ス芝龍ハ盧遊擊
ヲ放チテ省城ニ歸ラシメタリ

盧遊擊廈門ニ至リテ都督俞咨皋ニ見エテ戰敗ノ情由ヲ語リ且ツ芝龍ノ真意ヲ述ベテ策ヲ設ケテ招撫
スルノ利ヲ説ク俞都督唯々其説ニ同意セサルノミナラズ却テ敗軍ノ罪ヲ責ム盧遊擊快々樂マス去テ
王猷ニ説ク猷大ニ贊シテ曰ク是レ所謂權道撫恤人ヲ用ユルノ要法ナリト於是乎芝龍ニ對スル處置法
ハ二派ニ別レタリ遂ニ討伐主義ハ勝テ制シ朱巡撫ハ俞都督ニ命シテ嚴ニ剿除セシム俞都督ハ馬勝揚
世ノ二驍將ヲ派シテ擊攻セシムルト雖モ勝ヲ得サルヲ以テ俞都督自ラ兵ヲ督シテ擊戰ス而シテ又勝
ヲ得ル能ハス實ニ海而ノ戰術ハ連戰連敗ト云モ亦タ過言ニアラサルヘン芝龍ハ勝ニ乘シテ廈門港ニ
來リ泊セリ於此手俞都督ノ討伐説ヲ批難スルモノ甚タ多シ工料事中顏繼祖及泉州知府王猷ノ如キハ
討伐ノ不得策ニシテ招撫ノ良法ナルヲ痛論シ上疏ヲ奉スルニ至ル

秋七月(崇禎元年)舊巡撫朱之冕去リテ新巡撫熊文燦來リテ任ニ莅ム熊巡撫ハ泉州知府王猷ノ上奏ヲ
容レテ芝龍ヲ招撫スルコトヲ批准セリ而シテ其ノ招撫スル主旨ハ所謂贖功罪ニシテ有功ノ日ヲ俟テ
待ツニ爵秩ヲ以テスルモノナリ則チ熊巡撫ハ招撫ノ命ヲ盧遊擊ニ傳ヘ泉州知府王猷ト協議セシム而
シテ盧遊擊ハ先キ芝龍ノ虜トナリテ生還シタル後ハ芝龍ノ恩ニ感シ大ニ盡スアラントナリシタ
ル者ナレバ盧遊擊ハ舊ヲ招撫使ノ任ニ當リ芝龍ニ會シテ説クニ閩浙沿岸ノ海賊ヲ討平シテ立功ノ日
ヲ俟テ保題スルコトヲ以テス其意先キ蔡道臺ノ如ク船隻軍械ヲ繳收シテ手足羽翼ヲ斷チテ而シテ
後チ重用スル如キ者ニ非レバ芝龍大ニ喜ビ盧遊擊ノ招撫ニ從ヒ芝燕芝風ヲシテ遊擊ト共ニ泉州府ニ
至リ知府王猷及鄧良知ニ見ヘ就撫ノ意ヲ致サシム又タ盧遊擊ハ自カラ巡撫熊文燦ニ見ヘ始末ヲ報告
ス於此乎芝龍ノ徒曾ナ岸ニ登リ食品及貨物ヲ買辦スルコトヲ許サレタリ而シテ芝龍ハ立功贖罪ノ第一

歩トシテ沿海ニ跳梁セル李魁李ヲ討平スルコトヲ期セリ

崇禎二年四月

我寬永六年

李魁李等遊羅ノ地方ニ在リテ跳梁暴ヲ逞フスルノ報頻々トシテ至ル鄭芝龍ハ盧

遊擊ト與ニ芝虎以下ノ部下ヲ率ヒ船隊魚貫大舉シテ勦討ノ途ニ上ル魁奇寡衆敵セズ逃遁ヲ企テ得ズ

遂ニ芝麟、芝虎等ノ爲メニ斬セラル其餘黨ニシテ投順ヲ願フモノハ收容シ率ヒテ以テ軍ヲ收ム其後

二ヶ月ヲ經過スルト雖モ揚六、揚七來リ投セサルヲ以テ福州港ニ追擊シテ之レヲ滅ス

崇禎六年冬十一月 我寬永十年 劉香仔老福建ノ沿海ヲ犯シ芝龍ノ打撃スル所トナリテ遁レテ廣東ニ至リ擄

掠ヲ爲ス崇禎八年三月 我寬永十二年 兩廣統督ノ檄ニ接シテ鄭芝龍部下船隊ヲ率ヒテ廣東ノ沿海ニ至リ剿討

ニ從事ス劉香ハ李魁ノ如キ弱敵ニ非ス調法見ルベキアリテ一擊ノ下討剿スル能ハス芝虎、芝麟之レ

ニ死ス稍ヤ苦戰ヲ免レサリシ戰鬪數次遂ニ劉香ヲ倒セリ崇禎十二年芝龍荷蘭陀ヲ擊テ之レヲ却ク鄭

芝龍ハ沿岸防禦ノ任ヲ受ケテ其ノ任ヲ盡シ浙閩ノ沿岸兩廣ノ洋面海波與ラス鯨鯢跡ヲ屏メタルモノ

職トシテ芝龍ノ威制ニ依ラズンバアテ途ニ擡テ南澳總兵トナリ又タ福建都督トナル

星移リ月去リ明朝ノ九鼎已ニ傾覆シテ京師陷リ帝后社稷ニ殉シ江南已ニ滿清ノ領スル處トナリ兵勢

焰々將ニ抗州ヲ席卷セントス明朝ノ餘臣黃道周、會稽、何楷、郭朝汾、黃累時、蔣繼路、振飛、張

家、玉朱、繼祚等抗州ヨリ鎮海將軍鄭鴻遠總兵鄭粉ハ江口ヨリ唐藩ハ河南ヨリ曾ヲ難ヲ遁レテ福建

省ニ來リ投ス福建都督鄭芝龍タルモノ何ソ一片忠義ノ心ヲ致シ是レ等逃難ノ皇子及亡臣ヲ擁護セサ

ランヤ會議數回遂ニ唐藩ヲ奉シテ位ニ即カシメ明朝恢復ヲ計ル是レ順治二年六月ナリ

唐藩位ニ即キ改元シテ隆武ト云フ福州府ヲ改メテ天興府ト稱シ福建布政署ヲ以テ大内ト爲シ大學士

及六郡ヲ置キ事務ヲ處辨セシム黃道周筆ヲ執リテ詔及ヒ詔ヲ書ス其ノ論ニ曰ク

孤即漢室再墜、大統猶繫人心、唐宗三失長安、不改舊物、豈獨其風俗醇

固、不忘累世之澤哉、亦其忠義感憤、聚傑相激、使之然也、孤少遭多難、勉

百一

事詩書長痛妖氛遂親戎旅亦以我太祖驅除群雄功在百姓方十三葉而屬彝舊然睨神器為子孫者誠不忍守文自命坐視其陵遲也二十年来狂冠薦鶩孤未會乘味而食重席而處北方二載兩京繼陷天下藩服委身奔竄孤中夜臥起垂涕縱橫得少康一旅之師周平晉鄭之助躬率天下以受彤弓豈板蕩哉今幸南安芝龍定鹵鴻遠二大將軍志切匡復共賦無衣一二文臣以春陵瑯琊之義過相推戴登壇設誓感動路人嗚呼昔光武昭烈皆起布衣所遭絕續與大敵為仇而能正言舉義躬承舊業况今神器乍傾天命未改孤以藩服感憤間關逢諸豪傑應即投袂知明赫之際神人叶謨上天所眷顧我太祖紹其子孫猶未艾也書曰與治同道罔不興傳曰多助之至天下順之得道者多助自六月初二日監國伊始一切民間利病許賢達條陳孤將悉與維新總其道揆副海內嗚嗚之意焉

其詔曰

朕以天步多艱遭家未造憂勞監國又閱月於茲矣天下勤王之師既已漸集向義之心亦以漸起匡復之謀漸有次第朕方親從行間鼓舞率勵以觀厥成而文武臣僚咸稱萃渙之義實干立君寵綏之方本乎天作時哉不可失天命靡不勝朕自飲然未有丕績以仰對上帝克慰祖宗而臨安悉轡遊饒無期大小汎汎如河中之水朕敢不勉勉以附衆志而慰羣望朕稽載籍漢光武開子嬰之信以六月即位邵南即以是年為建元元年證膺天命昭烈開山陽之信以四月即位漢中即以是年為章武元年

立宗廟社稷艱危之中豈利大寶亦惟是與義執言繫我臣庶之故也、以今揆古即以是年為隆武元年其承天翼運定難功臣悉以次第進爵分茅胙土稱侯恢復以勤勳猷其翊運宜猷守正文臣亦以次第進級別備來章孝秀者宿軍民人等俱依前論優給行所在山川鬼神除淫祠外皆遣官祭告以示朕懋緒為天下請命之意焉

已二敕詔發シ恢復ノ主旨ヲ發表ス何ノ職闕ノ準備ナクシテ可ナラシヤ隆武ハ黃道周何楷以下文武ノ百官ヲ會シ大ニ戰守ヲ議ス時ニ鄭芝龍ノ座位東ニ在リ何楷之ヲ實メラ曰ク文東武西ハ大祖ノ定制ナリ今芝龍安リニ尊大ヲ裝ビ座ヲ東方ニ占ム實ニ陛下下ヲ眼中ニ置カザルモノナリト芝龍曰ク是レ古今ノ定制ト雖モ現ニ大祖ハ徐達ヲシテ東班ヲ占セシメシニ非ス哉黃道周曰ク徐達ハ開國ノ元勳汝取テ達ト比セシ哉芝龍曰ク今我兵ヲ統テ起程福建直チニ燕都ニ至レハ其功徐達ノ下ニアラス何楷曰ク爾カ北京ヲ恢復シタルヲ俟テ東班ヲ占ル未タ遲シトナサズト互ニ相爭論シテ相下ラス此ノ會議ハ戰守ノ討議ヨリ寧ロ楷級ノ爭論場トナレリ而シテ是ヨリ文官武官ノ和睦ヲ欠キ遂ニ收拾スベカラザルニ至レリ是レ豈ニ明朝恢復ノ為メ痛歎セサルヘケンヤ已ニシテ鄭鴻遠、鄭彩ハ關ヲ越テ浙東ヲ恢復セントス黃道周ハ延平建寧ヲ經テ江西ニ至リ門下生ヲ募リ大ニ為ス所アラント欲シ智ナ途ニ上リ中途糧盡キ上疏撥ヲ請フト雖遞送スル能ハズ遂ニ黃道周ノ軍敗レテ擒ニセラレ鄭鴻遠、鄭彩ノ軍又タ敗レテ進ム能ハス軍氣阻喪軍師進マズ唯タニ恢復期ナキノミナラス防備道ヲ失ハシトテ恐レ已ムコトヲ得ズ隆武親征ヲ企テ水路金陵ヲ撞カシコトヲ欲シ命ヲ鄭芝龍ニ傳フ時ニ時勢日ニ非ナルノミナラス文臣權ヲ弄シ芝龍快々樂マサルヲ以テ命ヲ奉スト雖モ遲疑起ス

黃道周已ニ擒トナリ鄭鴻遠、鄭彩遂ニ仙霞ノ守ヲ失ヒ其懸テ以テ恢復ノ業ヲ委スル芝龍遂巡起タス於此乎隆武ハ恢復ノ望ナキヲ難シテ僅カニ何吾、騶郭、維經、朱經、祚黃、鳴岐ノ六人ヲ從ヘ逃遁

ナリト云フ實ニ明朝恢復ノ大願ヲセラルモノト云フベシ而シテ明朝ノ餘黨忠義士或ハ慷慨自カラ縊レテ死或ハ憤慨戰テ死シ或ハ隱レ或ハ走リテ其ノ餘餘ヲ保テ強テ一方ニ恣ニスルモノ唯タ鄭芝龍ノ船隊アルノミ
清朝政府ハ明朝ノ餘黨ナル鄭芝龍ヲハ兵刃以テ戮盡セス所謂招撫ノ主意ニ依リ招致センコトヲ爲セリ是レ清朝政府ガ鄭芝龍カ爵位ニ懸々タル心勝ヲ觀破シタレバナリ貝勒ハ兵部尙書郭必昌ヲシテ左ノ書ヲ持シテ芝龍ニ致シシム

吾所_レ以_レ重_ニ將軍者、以_レ將軍能_レ立_ニ唐藩也、人臣事_レ王、苟有_レ可_レ爲_ニ、必竭_ニ其力、力盡_レ不_レ勝_レ天、則_レ投_レ明_ニ而事_レ、乘_レ時_レ建_レ功、此_レ豪傑事_レ也、若_レ將軍不_レ輔_レ主、吾_レ何_レ用_ニ將軍哉、且_レ兩粵未_レ平、令_レ餘_ニ閩粵總督印_ニ以_レ相待、吾_レ欲_レ見_レ將軍者、商_ニ地方_ニ故_レ也
芝龍ハ此ノ書ヲ得テ心動キ欲_レ發_ニ清朝政府_ニ降_レラント欲_ス其子成功_ニ諫_テ曰ク兒ヲ以_レテ之_レヲ度_ルニ清廷ノ來討敢恐_ル、ニ足_ラズ如何トナレバ閩粵ノ地ニ據_リ人心ヲ收拾シテ以_レテ根底ヲ固_メ海道ヲ開キ以_レテ糧餉ヲ足_ラシ兵ヲ練_リ將ヲ選_ベ又_タ以_レテ天下ニ號_令スル敢_テ難_ラサルナリ芝龍曰ク稚子ノ妄談實_ニ天時ヲ知_ラサルナリ四鎮ノ兵已_ニ拒_ク能_ハス何_ソ一隅ニ偏安シテ天下ノ兵ニ抗_セシヤ成功曰ク吾父ノ觀_ル所_ハ未_タ細微ニ至_ラサルナリ天時地利同_シカラザルアルヲ知_ラサル可_カラス我朝_ノ滅亡スル細_カニ其由_ヲ察_{スル}ニ戡亂ノ君主ニ非_スシテ庸碌ノ陪臣多_ク氷裂瓦解遂_ニ天下ノ英雄_ヲシテ恨_テ飲_マシムルニ至_ル天時已_ニ斯_ノ如_ク依_テ長江特_テ失_ヒ天塹_ヲ難_カリシナリ若_シ吾父_ニシテ人心ヲ收_メテ險要ヲ扼_セバ何_ソ爲_シ難_キコトアラ_ナヤ芝龍曰ク時務ヲ議_ルハ俊傑ナ_リ今_ノ清朝我_レ重シテ招撫ス我_レ之_ニ就_ク必_ス厚禮_ヲスベシ苟_モ鋒_ヲ交_テ一敗_ヲ乞_フ如_キニ至_ル追悔_及ブナシ豎_子ハ徒_ラニ渺視_ヲナス再_ヒ多言_{スル}勿_レト成功父芝龍ノ必_ニ決_シテ回_スヘカラザルヲ見_テ其衣_ヲ牽_テ跪_キ哭_シテ曰ク夫_レ虎_ハ山_ヲ離_ル可_カラス魚_ハ淵_ヲ脱_スベカラズ山_ヲ離_レバ則_チ其威_ヲ失_フ淵_ヲ脱_スレ

バ即_チ直_チニ困_セラル吾父宜_ク三思_シテ行_フベシト芝龍ハ成功_カ言_ヲ聽_クコトヲ厭_ヒ袖_ヲ拂_フテ起_ツ成功_ノ言_ヲ聽_カレズ諫_用ヒラレズシテ出_ツ途_ニ叔父鴻逵_ニ遇_フ爾_ニ諫_言聽_用セラレサリシテ以_テス鴻逵_之レ_ヲ壯_トナシ又_入テ芝龍_ヲ諫_ム芝龍聽_カス遂_ニ投降_ニ決_シ成功_ヲ伴_フテ貝勒_ニ會_セント欲_シテ人_ヲ金門_ニ派_シ成功_ヲ迎_エシモ成功_從ズシテ諫_書ヲ上_ル書_中句_{アリ}曰ク有_ニ從來_ノ父教_ヲ子_以テ忠未_レ聞_ク教_ヲ子_以テ貳_今吾父_不聽_見言_後倘_有不_測見_只縞_素而已_ト芝龍_之レ_ヲ見_テ大_ニ狂_悖ヲ嗤_ヒ又_{成功}ノ伴_ヲ能_ハサルヤ則_チ季子_灣ト同行_ス貝勒_ハ必_昌カ復_命ニ依_リ芝龍_ノ來_リ會_{スル}ヲ知_リ沿_道吏員_ヲ派_シ迎接_シテ大_ニ歡迎_ス芝龍_ノ貝勒_ニ會_{スル}ヤ滿_心歡喜_ヲ表_シ手_ヲ握_リテ互_ニ相_見ルノ晚_キヲ恨_ム貝勒_{芝龍}ヲ招_キ大筵_ヲ張_ル芝龍_語テ曰ク龍營_ヲ唐藩_{隆武}ヲ擁_シテ明朝_ノ恢復_ヲ謀_リタル其_ノ罪_小ナラス貝勒_{再三}之_レヲ慰_シテ曰ク是_レ實_ニ將軍_ノ經_權アルヲ知_ルニ足_ルナリ苟_モ事_爲ス可_クハ則_チ之_ヲ爲_スベシ爲_スベカ_ラザレバ則_チ主_ヲ擇_テ而_シテ事_フベシ況_ヤ今日_ノ時勢_兩粵_ノ未_タ平_カナラス海_濱ノ防_備將軍_ノ熟_議ヲ借_ル少_々ニア_ラサルベシ而_シテ今日_茲ニ將軍_ヲ見_ルヲ得_ル實_ニ朝廷_ノ幸福_ト云_フベシ芝龍_ハ貝勒_ノ甘_言ヲ信_シ遂_ニ蓬髮_シテ降_ル而_シテ貝勒_ハ決_シテ芝龍_ヲ重用_{スル}ノ意_{アラ}ズ其_ノ芝龍_ガ重_兵ヲ率_ヒテ來_ラザルヲ好_機トシテ之_レヲ擒_ニセ_ムコトヲ欲_セリ貝勒_ハ內院_ニ告_テ曰ク賊_ヲ擒_{ニスル}宜_シク頭_首ヲ擒_{ニス}ベシ蛇_ニシテ首_ナキ何_ソ能_ク爲_ステ得_ンヤ已_ニ芝龍_ヲ擒_{ニスル}其餘_ハ碌_々ノ徒_{ナリ}則_チ連_日宴_ヲ張_リ大_ニ歡_待ス第三_日ノ宴_ニ於_テ內院_ハ芝龍_ニ告_クテ曰ク皇帝_旨意_{アリ}將軍_ヲ陛_見シ而_{タリ}閩粵_ノ方_略ヲ詢_ハント依_テ即日_{北京}ニ向_テ出發_スベシト遂_ニ芝龍_ヲ擁_シテ北上_ス芝龍_ノ北京_ニ到_ルヤ陛_見ノ榮_ヲ得_テ一時_周安_侯ノ高_位ニ昇_ルト雖_モ遂_ニ其_子成功_ト計_ヲ通_{スル}嫌疑_ヲ以_テ縲_繼ノ愧_ヲ蒙_リ斬_ニ處_セラル、ニ至_ル窮_ニ思_フ芝龍_カ北京_ニ上_ルハ則_チ虎_ノ山_ヲ離_レ魚_ノ淵_ヲ脱_シタルナリ其_威ヲ失_フテ困_殺ニ遭_フ亦_宜哉嗚呼_{一世}ノ英雄_{鄭芝龍}ハ貝勒_カ抛_チ與_ヘタル閩粵_統督_ノ印_綬ナル香_餌ニ誑_カサ_ン實_ニ憐_ムヘキ最後_ヲ遂_グルニ至_ル嗚呼_痛歎_ニ堪_ヘ

サランヤ余ハ芝龍ノ最後ヲ悲ムノミナラズ明朝恢復ノ茲ニ氣焰ヲ斷ツヲ痛ム雖然芝龍ノ子成功アリ
 恢復ノ餘燼再ヒ熾盛トナリ進テハ江南ヲ攻メ退テハ臺灣ヲ守リ其ノ活劇其ノ經綸ハ大ニ芝龍ニ超越
 スルアリ其ハ後ニ出ス

海賊李魁李ナル者ハ泉州惠安人ニシテ固ト漁夫ナリ深ク水性ヲ識リ又能ク潜水術ニ達ス諸漁船ヲ糾合
 シテ商船ヲ劫掠ス時ニ澎湖島附近ニ會集シテ呂宋ノ洋船來リ航スルニ會セハ之ヲ奪セリ其鄭芝龍カ海
 賊ノ群ヲ脱シテ榮爵ヲ拜スルニ至リテハ魁李ハ海上暴賊ノ覇トナルニ至レリ然ト雖モ崇禎二年遂ニ沿
 海防禦提督芝龍ノ爲メニ滅セラル

以上ノ海賊ハ廣東福建ノ沿岸及臺灣澎湖ノ附近ニ跳梁スルモノニシテ根據ヲ臺灣ニ構フト雖モ僅カニ
 臺灣ノ一部ヲ占領シテ巢窟ト爲スニ過キス故ニ臺灣ノ開明進歩ニ關シテハ何等ノ涉ル所ナシ而シテ臺
 灣ノ開明進歩ナルモノハ其端ヲ荷蘭陀占領時代ニ啓クモノナリ

荷蘭陀人臺灣占領ノ由來ヲ釋スルニ萬曆三年^{我天正三年}ノ頃蘭人始メテ明朝政府ニ向ヒ互市通商ヲ求ム而
 シテ明朝政府之ヲ拒ンテ許サ、リシ其後蘭ノ船隊ハ閩粵ノ沿岸南海ノ洋面ニ出沒シテ通商ノ好機ヲ窺
 ヒタル實ニ久シ此時ニ當リ海澄人李錦ナル者アリ商人潘秀、郭震等ト共ニ大泥ニ在リ貿易ヲ營ミ兼テ
 蘭語ヲ學ヒ能ク熟ス錦等蘭人ニ説テ曰ク貴邦若シ通商港ヲ求メント欲セハ漳州ニ若クハナシ漳州ノ地
 タルヤ南ニ澎湖島アリ此島ヲ奪フテ以テ之レニ據リ互市ヲ求メハ焉ゾ成ラザルノ理アラランヤト蘭人
 ノ酋長麻章郎曰ク守土官若シ許諾セザンハ奈何セント錦曰ク稅使高審性金銀ヲ嗜ム若シ之ニ賄ヘハ彼
 レハ特ニ天子ニ上スヘシ然ラハ守土官何ゾ拒ムコトヲ得ンヤ麻章郎曰ク善シト是ニ於テ平李錦ハ麻章
 郎三代リテ公文三通ヲ草シ潘秀、郭震等ヲシテ贊ラシテ閩(福州)ニ至ラシム其一通ヲ稅使高審ニ其二
 通ヲ兵備副使某及守將陶樸聖ニ贈ル陶樸聖得テ大ニ駭キ當事者(巡撫ナラン)ニ告ク潘秀ヲ捕テ獄
 ニ繋ク郭震辛フシテ逃レ還ル此時李錦又漳州ニ入り消息ヲ掬問セリ而シテ事覺レ捕獲セララル是

レヨリ先キ潘秀等ノ閩(福州)ニ入ル麻章郎ト成約ヲ爲セリ使命ノ消息ハ直チニ船師ニ托シ報聞スヘシ
 ト而シテ麻章郎ノ性質偏急潘秀等ノ情報ヲ待ツ能ハス萬曆三十一年^{我慶長七年}七月ヲ以テ船艦二隻ヲ派シ
 澎湖ニ至ラシム是時澎湖ノ守兵已ニ撤去セシ以後ナリシテ以テ直チニ上陸シ木ヲ伐リ屋ヲ築キ永久住
 居ノ計ヲ爲ス而シテ明朝當局者ハ協議ノ上先キニ獄ニ繋キタル潘秀李錦ノ兩人ヲ諭シ放チテ蘭船ニ歸
 ラシメ蘭會ニ説テ速カニ撤兵歸國セシムヘシト其後又將校詹獻忠ヲ遣シ撤兵歸國ヲ勸告ス詹獻忠ハ是
 重命ヲ負フニモ係ラス竊ニ幣帛食物ヲ齎ラシテ厚酬ヲ得ノコトヲ謀レリ又海澄ノ人民潘カニ食糧及貨
 物ヲ載セテ澎湖ニ至リ貿易ヲ爲ス甚シキニ至テハ稅使高審ハ腹心ノ周之範ナル者ヲシテ蘭人ニ説カシ
 マテ曰ク若シ三萬金ヲ高審ニ贈ルアラハ庶クハ以テ貢市ヲ開クコトヲ得ヘシト蘭人大ニ喜ビ金ヲ贈リ
 テ約スル所アリタリ夫レ此ノ如ク表面撤兵歸國ヲ勸告スルト雖モ其裏面ニ至リテハ陋昧斯ノ如シ於是
 乎蘭人ハ其與ミシ易キヲ知リ敢テ澎湖ヲ撤去セザリシ會々總兵施德政ハ都司沈有容ヲシテ兵士ヲ率ヒ
 澎湖島ニ至リテ撤去スヘキヲ諭告セシム反駁折衝ノ間大聲疾呼シテ大ニ蘭人ノ氣ヲ奪フ又之範ヲシテ
 先キニ領收シタル三萬金ヲ返附セシメ以テ貢市ノ望ヲ示ス蘭人稍ヤ悟ル所アリト雖モ益々素志ヲ
 徹センコトヲ期シ哆囉噠(布名)玻璃器及蕃酒(洋酒)ヲ再ヒ高審ニ贈リ以テ通市ヲ代奏センコトヲ乞フ
 然レモ高審之ニ應セザリキ又總督ハ沿海ノ商民潘カニ食糧貨物ヲ載セテ澎湖ニ至ルヲ嚴禁ス若シ犯ス
 モノアルトキハ死ヲ以テ罪ヲ論スルニ至ル其外巡撫徐學聚ハ先キニ放チタル潘秀及李錦ノ罪科ヲ論シ
 其罪斬ニ處スルモノト該定シ嚴ニ追捕ニ從事セシム形勢斯ニ至ル荷蘭陀人ハ容易ニ互市通商ノ事功ヲ
 奏シ難キヲ知リ澎湖島ヲ撤去シ帆ヲ揚テ去ル時ニ萬曆三十一年十月ナリト云フ然レハ是時ノ占領月數
 ハ僅カニ七月ヨリ十月ニ至ルノ間ト爲ス降テ天啓二年^{我元和八年}ニ至リ荷蘭陀再ヒ澎湖ヲ占領シテ城ヲ築
 キ之ヲ守ル其意之ニ據リテ互市通商ヲ求メントスルニ在リ守土官之ヲ聞キ大ニ懼レ蘭人ニ説テ曰ク若
 シ兵ヲ撤シ澎湖ヲ去ルトキハ其ノ請ヲ容レ互市ヲ許サント荷蘭陀人之ニ從ヒ天啓三年^{我元和九年}城ヲ毀チ

澎湖ヲ去ル巡撫商周祥ハ荷蘭陀ノ撤去セシ旨ヲ上聞ス然リト雖モ是レ一時ノ苟且ノ手順ニヨリ撤去セシメタルモノナレハ荷蘭陀カ再ヒ來リ請フコトハ必然ノ勢ナリ其後蘭人ハ明朝政府カ約ノ如ク互市通商ヲ請ヒサルヲ以テ亦澎湖ニ據リ築城ヲ企テ之カ助勢ヲ爲サシメカ爲メ漁船六百余艘ヲ掠メ土人ヲシテ土石運搬ニ從事セシメタリ是ヨリ先キ巡撫南居益ハ必ス荷蘭陀カ再ヒ來寇スルヲ豫測シ之レニ備フル防備ヲ論シタル一片ノ上奏ヲ朝廷ニ奉セリ明廷ハ其上奏ニ從ヒ大ニ防備ノ術ヲ講セリト云フ此時己ニ荷蘭陀ハ澎湖ヲ占領シ居タレハ南居益ハ兵ヲ派シ鎮海港ヲ奪ヒ之レニ城キ荷蘭陀ハ風櫃城ニ據リ防ク互ニ戰端ヲ開キ數月ヲ歷ルト雖モ勝敗ヲ決セザリシ天啓四年我寛永元年正月巡撫南居益ハ總兵俞咨卑ヲシテ大兵ヲ率ヒ討剿セシム蘭人勢窮リ軍ヲ收メテ澎湖ヲ撤去ス唯タ渠師高文律等十二人高臺ニ據リ死守ス俞咨卑破テ之ヲ擒ニシ朝廷ニ獻ス荷蘭陀ハ是ノ一敗ヲ以テ敢テ素志ヲ變セス暫ク附近ノ地方ニ棲息シテ時機ヲ見テ再ヒ爲スアラソトナ斯セリ於此乎始メテ荷蘭陀ハ臺灣ヲ放棄シタル大畧ヲ記サフ其臺灣ヲ占領セシ當時ノ景光及經營ノ事業ヨリ鄭成功ノ爲メニ逐レテ臺灣ヲ放棄シタル大畧ヲ記サフニ天啓四年我寛永元年荷蘭ノ船隊ハ澎湖ヲ去リ別ニ棲息ノ島ヲ見出サント欲シテ洋面ニ向テ去レリ蘭酋麻章郎ノ弟揆一王ノ船先頭ニ在リ一日前面山ヲ見ル揆一王左右ニ問テ曰ク此處亦支那ノ領土ナリヤ左右知ルモノナシ唯ダ郎心即哩阿ナルモノアリ答テ曰ク此處ノ光景ヲ見ル支那ノ領土ニ非サルノ感アリ揆一王曰ク然ラハ小艇ヲ以テ馳セ至リ其何レノ領土タルカヲ探ラシムヘシ千里鏡ヲ執リ遙ニ岸頭ヲ望ム岸頭城郭ノ設アルヲ見ス揆一王ハ公子ヲシテ兵士一百餘名ヲ率ヒ船ニ乘シ偵察セシム舩ニ火砲ヲ備エ兵士ハ銃ヲ擔ヒ劍ヲ帶ヒ大ニ警戒シテ上陸ス是レ即チ鹿耳門地方ニシテ鯤身一帶稍々舊趾ノ殘毀セラルヲ見ルモ鄉村ノ散在セルナシ或曰ク蘭人ノ始メテ上陸セシハ此港ナリト云公子ハ岸ニ沿ヒ江ニ從ヒ徘徊逍遙ス忽チ一人アリ蓬頭跣足赤身縮肚弓ヲ佩ヒ箭ヲ負フ公子人ヲシテ招キ來ラシム言語通セス唯タ手ヲ以テ形容指示スルノミ導テ一村社ニ至ル時ニ何斌ニ會ス何斌ハ李錦ト共ニ通事ニ當リ其後海

上ニ出テ海賊李魁奇ノ追迫スル所トナリ漂流シテ鹿耳門ニ到リ過テ乘船破損シ爲メニ乘客皆ナ溺死シ僅カニ斌ト水手二人九死ニ一生ヲ得タリ然リト雖モ破船ノ際負傷スル所アリ身体遂ニ病ニ罹リ此ノ社内ニ在テ纒カニ除喘ヲ保ツニ過キス而シテ今ヤ端ナクモ公子ノ來ルニ會シ大ニ喜ヒ久潤ヲ叙セリ公子何斌ニ問テ曰ク此處ハ是レ何處ナルヤ斌曰ク臺灣嶋ナリ公子曰ク國王ハ何ト云フ曰ク之アルナシ悉ク是レ散居ノ民ナリ公子此言ヲ聞テ大ニ喜ヒ斌ヲ伴ヒ揆一王ノ船ニ歸リ見聞ノ始末ヲ上申ス揆一王厚ク何斌ヲ遇シ用テ通事トナシ事大小トナク之ニ諮フ或曰揆一王問テ曰ク支那ヲ去ル幾何ナリ斌曰ク此處ヨリ澎湖ニ到ル四更澎湖ヨリ廈門ニ至ル七更共ニ二十一更ナリ揆一王曰此ノ如ク此處已ニ統御ナク且ツ支那ヲ去ル遠カラス我此處ニ本據ヲ構フベシ遂ニ之ニ據ル此ニ於テ臺灣ノ地始メテ荷蘭陀ニ依リ占領セラル而シテ其占領ノ始末ヲ報告セシガ爲メ一船ヲ其本國ニ送リタリ蘭酋及ヒ揆一王ハ己ニ臺灣ヲ占領スルヤ一地方ノ築城ニ適セル所ヲ見出サント欲シテ何斌ヲ伴ヒ各地ヲ跋涉シ遂ニ七鯤集ノ地ヲ相シ一城ヲ築カントス會々生蕃等之ヲ拒ンテ許サス蘭酋生蕃ト約シテ曰ク若シ一牛皮ノ地ヲ得レハ足レリ其酬ニル所ノ金銀取テ客ムニ足ラスト生蕃之ヲ許ス蘭酋牛皮ヲ剪ル縷ノ如ク縷相繼キ四周數十丈ノ廣潤ナル一牛皮ヲ造リ以テ築城ノ地ヲ得タリト云フ此レ舊記ノ記スル處ニ從ヒ錄シテ參考ト爲ス己ニ生蕃ノ承諾ヲ經テ築城ノ地ヲ得タルヲ以テ直チニ赤嵌城ヲ築キ又赤嵌樓ヲ起ス其城廓ノ構造樓臺ノ壯麗ノ如キニ至リテハ之ヲ省察セリ此時蘭酋麻章郎ハ己ニ去リテ臺灣經營ノ權ハ全ク揆一王ノ手ニ移レリ揆一王ハ先ツ海岸ノ防備ヲ嚴ニスル爲メ鹿耳門ノ港岸緊要ノ地處ニ砲臺ヲ築キ又鹿耳門ノ港灣廣潤ニシテ何處ヲ問ハス船隻侵入シ易キヲ以テ灣曲廻旋ノ處巨石ヲ沈メ之ニ依リテ外洋ヨリ進ミ來ル船艦ハ必ラス砲臺前ヲ通過セサル可カラサル形勝ノ地ト爲シ大ニ防備ノ設計ヲ嚴ニセリ揆一王ハ其率ヒ來リタル軍士ヲ悉ク新港社土蕃ト結婚セシメ互ニ交情ヲ親密ナラシメタリト云フ果シテ然ラハ今日ノ臺灣人種中或ハ蘭人ノ遺種ヲ存在セルナキヲ保セシヤ此時代ニ於テ蘭人カ施シタル經營事

業其重ナルモノヲ舉クレハ耕作組合ヲ作り開墾ヲ奨励セリ牧畜ノ業ヲ起セリ耶蘇教ノ傳播ヲ謀レル等
 是レナリ其經營ノ事業漸ク歩ヲ進メ内治已ニ緒ニ就キタルヲ以テ進テ南部支那ニ一海港ヲ得テ素志ヲ
 貫カント欲セリ
 崇徳四年^{我寛永十六年}荷蘭陀ハ臺灣ヲ本據トシテ厦門ヲ犯ス厦門ノ守將之ヲ防キ利アラズ依テ巡撫ハ鄭芝龍
 ニ檄シテ克平セシム時ニ芝龍ハ海寇ノ群ヲ脱シ明朝ニ投シテ福建沿岸防禦ノ任ニ當レルモノナレハ直
 チニ出師ノ準備ヲ爲セリ此時芝龍嘆シテ曰ク惜ムラクハ盧寧侯毓英已ニ死セリ若シ侯ヲシテ今日在ラ
 シメハ蘭軍ヲ破ル易々タル耳ト遂ニ芝豹芝彪等ヲシテ先鋒ト爲シ芝鳳芝蟒ヲ左右軍トナシ自ラ芝麟芝
 陳秀郭儀陳霸ヲ率ヒ先ツ先鋒彭豹兩將ニ命シテ曰ク船艦良否彼我相比較スレハ固ヨリ彼レ優ニシテ決
 シテ同日ノ論ニアラズ宜シク臨機事ヲ決シ戰フヘクハ則チ戰フヘシ我リニ勇ヲ恃ミテ自ラ禍ヲ招ク
 勿レト彭豹兩將旨ヲ領シテ去ル滑州外洋ニ於テ蘭軍ニ逢ヒ交戰數合時ニ芝龍率ユル所ノ船隻傍ヨリ來
 リ包圍激戰スト雖モ奈何セシ蘭軍ノ船艦堅牢ニシテ當ルヘカラス芝龍ノ軍利アラズ芝蟒芝鶴ノ二船ヲ
 失ヒ死傷甚々衆シ遂ニ賊ヲ鳴シ軍ヲ収メテ楓亭港口ニ逃ル芝龍ハ芝豹芝彪ヲ呼ヒテ曰ク彼レカ乗ル所
 ノ船艦堅牢破リ難シ須ラク火攻ヲ以テ破ルヘシト遂ニ荷蘭船五隻ヲ燒キ大ニ之ヲ敗レリ是ヨリ蘭人
 退テ臺灣ヲ守リ再ヒ閩浙ノ沿岸ヲ窺ハサリシ
 順治七年^{我慶安三年}臺灣島中ニ在リテ郭懷一ナル者陰謀テ企テ荷蘭陀人ヲ逐ノコトヲ謀ル事覺レテ戮セラ
 ル而シテ支那人ノ臺灣ニアルモノ嫌疑ヲ以テ屠殺セラレタルモノ甚々多シ
 此頃我長崎ノ商船支那南海ニ通商スル途次澎湖附近ニ於テ蘭人ノ爲メニ暴掠ニ遭テ歸リ來レルモノ
 アリ代官末次平藏大ニ憤リ濱田彌兵衛等ニ囑シテ其復讐ヲ謀ラシム彌兵衛等數百人ノ人數ト共ニ來
 テ大ニ蘭酋「マイツ」ヲ苦メタリ其事蹟ハ本邦ニ傳ヘラレテ彌兵衛等ノ勇名ハ今ニ噴々タリ然レ其傳
 フル所區々ニシテ何レカ其真相タルヤヲ臆辨スル能ハス然ルニ近頃熊本縣下肥後國下益城郡小川町

柏原八郎ノ祖先太郎左衛門ナル者彌兵衛等ト俱ニ臺灣ニ渡航シ彼蘭酋ト交渉シ大ニ殊功ヲ建タル頗
 末ヲ記シタル古文書ヲ藏セルコト世ニ傳ヘラルヲ聞編者客年十月親シシ其家ニ就テ之ヲ見ルニ寛文
 元年十一月太郎左衛門子金右衛門ナル者父ノ遺言ニ由テ筆記シタルモノ及ヒ太郎左衛門カ臺灣事件
 ニ付自身其事實ヲ書シ豊前小倉ノ醫師菊原某ニ送リタル書翰ノ控等ニシテ其書間々讀ミ難キ所アル
 モ當時ノ文体ニテ且ツ其墨色筆跡等全ク其頃ノ物ニシテ毫モ疑ハシキ點ナシ其事蹟ハ世ニ傳フル所
 ノモノト異ナリ其主功者ハ全ク彌兵衛ニアラスシテ太郎左衛門ニ在ルカ如シ而シテ之ヲ猪俣昌之ノ
 譯セル和蘭模沙島ニ載スル所ノ領事「マイツ」ノ書翰及ヒ當日ノ狀況ヲ目撃セル蘭人ノ筆記ニ照セハ
 稍符合スルノ點多因テ茲ニ兩書ヲ記シテ以テ讀者ノ判斷ニ資ス

異國高砂一卷

一寛永六年に長崎より末次平藏殿船貳艘に而高砂へ相渡買物相調歸國仕等之處おらんだ城大將より
 此方之船日本へ相渡不申内に此方へ無斷買物相調候間荷物少に而も相渡申間敷と申押置候に付種
 々斷申候得共渡不申候間不及力明船に而歸國仕申候處明年おらんだの大將長崎へ相渡江戸へ御
 禮に參上仕候に付我等おらんだ大將より先に江戸へ參上仕候而御老中様へ去年おらんだ高砂に而
 日本船に不義仕候一卷言上申上候處御老中様被仰候者其様成不義者と不被遊御存知御禮御受可被
 遊候處一に以不所存者之由被聞召上御禮御請被爲成間敷之由にて大坂より追歸被成候右老中様よ
 り來春高砂へ相渡智略を以右之荷物取返し可申候少も武邊わざと而者成間敷候若智略に而相渡
 候は、如何様共御分別御取返可被下候由被仰出候事
 一寛永八年之春右貳艘之船に人數四百八十人之餘乘り高砂へ相渡申候處平戸より聞傳高砂之川口に
 番船貳艘出置陸には土塗(壁ノ誤歟)あつき石火矢仕懸日本船待請既に打可果と仕候付迷惑に存我
 等に五人おらんだの城へ參理り申候處少も合點不仕其儘我等共籠舎させ召置候間に日本船貳艘改
 不殘武具を取其後高砂本港へ船を入させ其時籠より出日本に一人も歸朝させ間敷由堅申付候事

一ちらんだ右之仕方にて御座候間我等中之者に種々談合仕候共同心壹人も無之候然共彌兵衛をとり
かい五月五日にちらんだの城へ禮に出大將生捕可申と内談仕候處舟中之者聞付肥前國村田彌三右
衛門平戸之町松永吉左衛門兩人にて我等を留置彌兵衛親子三人城へ參候得共右申合手はつ相違仕
不及力其儘罷戻申候事

一同五月廿八日に惣中談合を以濱田彌兵衛同小左衛門同新藏あめかた町喜左衛門尾之道九郎右衛門
對馬四郎右衛門此六人ちらんだ城へ行日本へ歸國之斷可申由に候處私申候者我々も同意參斷可申
と申候處舟中之者前以之儀共被仕候間同心仕間敷由申候處に我等申候者左様成儀共にて而者少も無
之候いか様共申無事に歸朝可仕と申我々共七人城へ參申候其時に我等召連參候安兵衛と申者に刀
相渡申聞せ候者自然之儀有之候時此刀にて而番之者に隨分一命を捨働可申由具申付候事

一右七人同道にて大將に一體仕其後ちらんと申通子に我々申候者能様に被申日本へ歸國仕様に
と種々斷申候へ共大將申候は日本へ每歲拾人宛之質被取置候其質御戻候は、其方共も日本へ歸可
申無左者高砂の土と相心得可申由申聞候間何共仕様無之候間何も居申候我々等ふらんそに申候者日
本之作法にて而袴着仕候然共温氣にて而候へ者道服袴ぬき申度由申候處大將聞如何にも道服袴ぬき緩
々と涼可申由申候付ぬき申候其時に餘も山の斷二ツ三ツ仕時分考が、一命を捨大將之前に近付寄
貳間計にして則大將を捕而押脇指をぬき首に當て日本へ歸朝させ間敷哉と申候處石火矢三ツ四ツ
打懸申候其時ふらんそに申候者矢の口を留させよ無左者大將差殺と申候付矢の口留申候則大將に
細を召懸申候右我等召連候安兵衛と申者番人兩人斬伏せ申に付殘番之者共壹人も無之候日本のは
し船のかこ本船へ逃申所を城より石火矢にて而壹人打殺申候其後我等申候者前以理申に不入聞然上
は唯今差殺可申由申に付尤に存候然上は日本へ戻し可申候間御赦可被下と立而斷申に付我等申候
者然は先年日本へ高砂仁廿人被召寄其者に御拜領被仰付候を其方押置不相渡候間唯今被廿人に相

渡可申由申に付城大將之子又頭ちらんだ四人已上五人召連日本へ歸國仕候而大村に籠舎させ召置
申候大將之子は病死仕候相殘四人は其後御歸被爲遊候事

一右高砂之一巻江戸へ言上申處加藤平左衛門殿に被仰付先以忠廣様より口上被聞召上儀有之候間早
々當御國へ可罷越候之旨被仰付候付熊本へ參上仕候處忠廣様より平左衛門殿を以右高砂之手柄自
分に言上申聞敷との堅書物相調させ御取被爲成候付自分言上申上候忠廣様被仰出候者來春は
早々江戸へ罷越間太郎左衛門手柄之様子被成御披露御國之覺に可被成之由被仰付候身体之儀は重
而從江戸御下問之上を以可被仰付候是は當座之姿美之由にて而百俵被爲拜領候家屋敷之儀も重而御
沙汰可被遊候旨被仰出候然處に忠廣様御改易に御逢被成候者無是非仕合に奉存候然共一旦自分言
上申上間敷と堅申上置候間我等一代には不申候而相果申候
以後には右之段時節を以言上可仕之由遺言仕候間如斯に御座候

寛文元年十一月 日

柏原金右衛門判

左に掲ぐるは柏原太郎左衛門の履歷なり

小川町居住一領一疋柏原平八郎先祖遺書之内書抜仕上由來書之事

一私親天野屋太郎左衛門儀生國は攝津國之者にて而御座候十六歳にて而一門之者共高麗陣に罷立申に付
此者共一同に高麗陣に罷立申候其後歸陣に罷成候に付清正様當國に御内入被遊候に付柏原平左衛
門と申候則太郎左衛門親類にて而御座候其後御名字被爲拜領加藤平左衛門と申候其縁を以當國へ參
對面申度候得共陳草臥之浪人之儀御座候得者其儀無御座先々町人仕居申候間次第に身体宜敷罷成
候時分親類へも面談仕猶以清正様へも御目見仕候夫より熊本に家屋敷定居住仕其後八代郡小川町
に家屋敷又は長崎へも家屋敷持方(事か)に仕居申候處忠廣様御代之時分長崎之家屋敷則太郎左衛
門物領天野屋藤左衛門へ相渡に成申候其後忠廣様御改易之時分一門共牢人仕に付太郎左衛門儀も

熊本より小川町へ引越罷在候處其後從江戸御上使御兩人被爲成御下八代には内藤左馬之助様御通被遊候に付太郎左衛門存候は當時御落去之時分に而道中諸事不自由可被成御座候と奉存候而宿本へ種々申付候而小川江頭と申所迄御迎に罷出申候而其時太郎左衛門申上候は道中御草臥可被成御座と奉察候間見苦敷御座候得共拙宅へ被懸御腰御休息可被遊と申上候處殊之外御悦喜にて御立寄被遊候に付本より宿本へ申置事に御座候者内衆迄御馳走申候其左馬之助様御意候者扱々今度太郎左衛門馳走之段何より以不殘被思召候我等儀は不辨之儀は無之候得共此國へ内入候より道すから下々之者及難儀何共不便に存候何より以今度の馳走御満足に被思召候由被仰出候其後被成御意候者太郎左衛門儀當國之者に而者有之間敷候兎角一宿致太郎左衛門と御斷可被遊と被仰出候而御一宿被遊候其時御前に被召出由來委く咄可申由蒙仰候に付太郎衛門申候者私生國は津國之者に而御座候由申上候得者又々御尋被遊候者兎角太郎左衛門儀故有者と御見及被爲成候間先祖不包名乘可申由被仰出候に付則太郎左衛門申上は私親之儀は小堀遠江守殿御内柏原兵部左衛門と申而御奉公相勤申候私儀は幼年の時より高麗陣に罷立清正様當國へ御内入被遊候に付其内へ親類共奉公相勤居候に付其縁を以私儀も當國へ居住仕候尤長崎へも家屋敷持方に仕候由申上候處左馬之助様被成御意候者柏原と云名字を聞候得共關原陣に而石田次部少家老に柏原彦右衛門と申一番備之大將に而打死申たるは如何様其方か一門に而之哉と御尋被遊候に付太郎左衛門申上は則彦右衛門儀は私爲には伯父に而御座候由申上候其時左馬之助様被仰出候者本より太郎左衛門儀故有者と見及候に扱々彦右衛門錫に而候哉と被仰候而御悦喜被遊候其後被仰出候は太郎左衛門儀は長崎へ家屋敷持居申候は、先年長崎より高砂へ相渡らんだの城大將を生捕無比類手柄爲仕者如何様之者爲仕哉其方は存不申哉と御尋被遊候に付太郎左衛門存候は此段は太郎左衛門爲仕手柄餘人とは不被申則私爲仕由一々申上候其時左馬之助様被仰出候者は程日本之覺爲仕事何迎江戸へ言上不申上候

哉と被仰出候若言上申上候は、我等江戸に而言上可申上由被爲成御意候其時太郎左衛門申上候者此段は右より江戸に而御老中様より御意請高砂へ相渡爲仕手柄之儀御座候へ共忠廣様被聞召上自分に言上申上間敷由之書物差上堅く御契約申上候に付我一代に者不申上候由申上候乍去自然子共代時節を以言上可申上候者其時分者可然様奉願候由申候左馬之助様被爲成御意候者夫は餘り堅事に候然共左様之心底に候事何時に而も御取次可被成由被仰候我等代は右前段子孫迄も堅可申候間左様に心得可申由被成御意候而色々御懇意之御意共御座候又々太郎左衛門申候者長崎へ家屋敷も御座候間已後には引越可申由申上候其時左馬之助様被仰出候者當國者越中守様へ御拜領被仰付候八代三齋様へ御隠居に御取被成候間其方之儀可然様被御申可被成由被仰出候而八代へ被爲成御通候夫より太郎左衛門御禮に參上仕候處殊之外御悦喜被遊夫より被仰出候は自是江戸へ歸可申存居候得者又々歸に其方へ行今一宿致其方と斷申度候間左様に心得可被申由被仰候而又々立寄被成御一宿被遊候而夫より江戸へ御通被成候處三齋様御入國被遊道中之御行合に而三齋様左馬之助様御對面被成太郎左衛門事具に御斷被遊候付八代に御通之節直に御立寄被遊則御一宿被成太郎左衛門儀御前へ被召出被仰出候者其方之様子左馬之助殿御斷に而具に御聞被遊候一年長崎より高砂へ渡らんだの城大將生捕無比類手柄爲仕由御聞被遊候其時之様子具に斷可申由被仰出候其時太郎左衛門右之様子一々御斷申上候處三齋様被爲成候者無比類手柄之由被仰候夫より被仰出候者先年關原陣に而石田治部少家老柏原彦右衛門一番備之大將に而がふとふの渡に而無比類手柄致討死爲仕首尾則我等其陣に而慥に見届申候彼彦右衛門爲に其方は甥之由被聞召上候被仰出候則太郎左衛門申上者如何にも彦右衛門儀は我爲には伯父之由申上候其時三齋様被成御意候者太郎左衛門儀も柏原一門之儀に而候間是程之手柄爲仕由被仰出候而殊之外御悦喜被遊候又々被成御意候者其時分豊前にて菊原如安長崎より罷歸候而御前に被召出高砂之手柄御尋被遊候者暇と不存其船之船頭濱田

彌兵衛爲仕由申上候間右者左様に被聞召上候由被仰出候其時太郎左衛門申上候者當國へ者其時之首尾爲存者無御座候長崎へ者爲存者餘多御座候間早刻長崎へ罷越其穿鑿仕證據を取可差上由申上候所三齋様被仰出候者太郎左衛門今度高砂之手柄仕間敷者不被思召候は、箇様に者不被仰出候穿鑿者無用之由被仰出候而明る日八代之様に御通被遊候夫より太郎左衛門早刻御禮致上夫より諸事御懇意之御意共御座候其後嶺島雲庵老御取次に而御知行三百石拜領被仰付候其時太郎左衛門雲庵老迄申入候者今度御知行被爲拜領候段雖有存候へ共貫様存知之通方々之家屋敷持太分之家來召置候間只今三百石之知行拜領仕候而者其覺悟罷成間敷候間兎角御前可然様御斷被仰上可被下由申候其時分立允様一入御念比に御意被下候に付一年少し御進物杯差上申候付則御會頂戴仕候間唯今迄傳置申候其後太郎左衛門高砂手柄之様子爲後日存長崎へ罷越豊前菊原如安に長崎へ御越可然之由申遣則如安被罷越候間其時太郎左衛門申候者三齋様より高砂之手柄之様子貫殿へ御尋被成候に則其船頭濱田彌兵衛爲仕様御咄被申上候由承候間則彌兵衛方に貫殿被參彌兵衛に聞可被申候由申候付則彌兵衛に行右之様子尋被申候へは其段は太郎左衛門爲被仕由申候夫より如安方より理り狀遣申候其時太郎左衛門申候者其方と我との肝忍に而者縁者之證據に而御座候間餘人一人證據人に可被立由申候に付則博多屋興三兵衛村田彦兵衛右兩人之者より理り狀參り候間肝忍仕り是干今傳置申候夫より太郎左衛門一年三齋様御上國之時分長崎へ召置候右紛相果申候付天領之町屋敷荒申候間此方へ可被越由町中より切々申越候間就夫御公義へ御理り申長崎へ罷越送年月申候夫より又々當國小川町へ引越居申候而十年以前に相果申候右之様太郎左衛門遺言仕置候通如斯に御座候已上

寛文元年十一月 日

柏原 金右衛門 判

態壹(よか)入を以可申入候處に能便宜幸に存末期御意候得共一書令啓上候然者去六月 八代様御

上國被成御座豊前内裏に御着被成御座候刻 御前に貴殿御出にて先年高砂れらんだ之一卷御存知之様に言上被成其上我等事殊外御さらへ之由此春承候間其地へ罷越あらんだ一卷平に旨越申承度候得共豊前御國中にあらんだ一卷御存知之方無御座故不參申候承候へは貫殿毎年長崎へ御越之由に候我等茂六月末に長崎へ罷下可申候間急度御出可被成候若遲御越候者八月中は待可申候れらんだ一卷手柄之黑白長崎ならては存知之方無御座候就夫高砂にて我等仕たる覺あらまし申入候一末次平藏殿松尾艘高砂を被相渡候事別之儀にては無之候其前年江戸御奉行様に我等罷越異國あらんだ不届之儀日本船に仕候其通言上申候條御上意を以我々は商信に付此船に罷渡候船頭は濱田彌兵衛めめかた町喜左衛門侍衆其外上下人数四百八十計乗渡候事平戸より聞傳あらんだ高砂川口に番舟貳艘出し既陸には土塗をつき石火矢を仕懸日本船待請己に打可果と任り候に付迷惑に存我等共に五人れらんだ城に參理り申候處に少し合點不仕其儘我等籠舎させめし置其間日本貳艘舟を改不殘武器を取其後高砂本港之舟を入させ其時より籠より出し日本に壹人茂歸朝させましき由堅申付候事

一あらんだ右之仕方にて御座候間我等舟中之衆に種々談合仕候得共同心壹人も無之候然ども彌兵衛をとりかひ五月五日にあらんだ城へ禮に出武容を以あらんだの大城生捕可申と内談仕候處に舟中之衆聞付肥前之國村田彌兵衛親子三人あらんだ城江被參候へ共右入々手管相違仕力に不及其儘罷戻被申候是又舟中に無其隱候事

一同五月廿八日に惣中談合を以濱田彌兵衛同小左衛門同新藏雨かた町喜左衛門尾ノ道九郎衛門對馬四郎右衛門我等共に七人あらんだ城へ參日本へ歸朝仕候様に種々詫言申候へ共承引不仕故我等一身之分別を以一命を究あらんだの大城を生捕細をかけ召置候處にあらんだ方より扱ひ入申候間就夫脇大將を五人質に召連日本へ歸國仕候其座中之内四郎右衛門は本國に而對馬に被居殘五人は

長崎に居住被申候おらんだの一卷右之衆ならでは被存知問敷候其外平戸おらんだ籠舎に罷居候おらんそと申通子其座中之事委敷爲存知儀に候不及申に候得共此状之趣長崎に而御披露可被成候おらんだ一卷の通具に申入度候得共而ならては難申候條書中不能一二候恐惶謹言

寛 拾貳
六月十日

天野屋太郎左衛門 判

豊前之國小倉に而

菊原 如 庵 老

猶以申入候急長崎を御出待申候若御延引被成候は拙者小倉を罷越面上にて申候以上

一昨日は預貴札候折節他出仕候故御報不申上候高砂にておらんだの一卷貴殿御手柄被成候段不承候由我等入城に而申候に付御不足之由候就夫村田喜兵衛殿橋本惣右衛門殿被仰候は濱田彌兵衛殿高砂物頭承候由に付同道仕参貴殿御手柄之段此度承届候石に付貴殿御手柄は不承候に付濱田彌兵衛殿計手柄之様に承候由申候御手柄此度御不足尤に存候乍去我等其方に如在候而何かと申たる儀には無御座候何茂面上之節可申述候恐々謹言

八月十九日

菊原 如 安 判

天野屋太郎左衛門様

尙々今度之儀我等共に被對御分別被成候儀彌恭奉存候以上

一筆令啓上候然は菊原如安高砂之出入跡先不存候儀被申上候に付御立腹之段御尤に奉存候右に貴様御喜留之砌に付此元にて御沙汰其隠れ無御座候うかうか爲仕儀を不申中々可申様も無御座候今度亦不珍敷儀共に候得共濱田彌兵衛殿へ如安引合問ひ聞せ申候貴公高砂に而之御手柄無比類儀共承仰天被仕候就夫如安手前を我々兩人相願被申候に付御理申候處に御分別被成如安店引に而相濟

被申候事千々々恭奉存候尤如安いか様共書物させ進上可申上候右に如申上通に御座候向以届面拜御禮等可申上候恐惶謹言

八月十九日

博多屋與三兵衛 末次判
村田 彦兵衛 貞次判

天野屋太郎左衛門様

人々御中

領事スイトヨリバタヴィア總領事カルベンチールニ與タル書「爰ニ又四百七十人乗レル日本船北畠灣嶋ニ到着セリ其首長ヲ彌兵衛ト云ヒ彼未タ陸ニ上ラス船中ニ在テ大膽ナル惡言ヲ發セリ因テ僕等用心堅固ハシテ專ラ彼等ヲ防ク事ヲ要シ若シ陸ニ上ラハ彼等ノ惡言ヲ懲ラシ且船中ヲ查驗シ武器ヲ取上ケヘシト心ニ定メヌ此日本船ニ客トナリテ來レル支那人直ニ上陸シテ彼等心中ニ惡計アリト僕等ニ告ケヌ

日本船ノ首長彌兵衛使ヲ以テ屢々互市ヲ乞ヘリ僕其使ニ對シテ爾等互市ヲ乞フントナラハ首長自ラ來リ禮ヲ厚フシテ之ヲ乞フヘキニ使ヲ以テスルハ甚タ不遜ナリ禮ナキ者ニコレテ許シヤト答ヘシカハ彌兵衛其旨ヲ承諾シ吾自ラ到ルニ非スハ事果ツヘカラスト察シ上陸僕カ家ニ來レリ其時僕彌兵衛ニ示セルハ此嶋ノ先酋長テウイツテノ時ハ來船ヲ改ムル等ノ事ハ爲サ、ルコトモアラソカ然レトモ彼既ニ此ヲ退キ今ハ予カ治ル所ナリ因テ此島ニ到ル者ハ悉ク予カ令テ守ルヘシ既ニ和蘭船ノ日本ニ到リシ時モ其國ノ法トテ船ヲ改メ武器ヲ預ルコトヲ爲ス此地ニ於テモ亦船ヲ改メ武器ヲ預リ出帆ノ時返シ與フベシト説ケレハ彌兵衛此事ヲ肯ズル色ナシ因テ彼ヲ吾家ニ留メ置キ大將モイゼルトニ兵士數人ヲ深ヘ日本船ニ遣ハシ船ヲ改メ銃炮十五挺劍鎗楯弓矢等ヲ取上ク又僕彌兵衛等ニ向テ爾等武器ヲ持來ルハ何ノ爲ナルヤ信陸シテ互市ヲナサントニハアラテ必ズ冠

ヲ爲サントシテ來リシナルヘシ吾等不虞ノ備有テ士卒アリ軍船アリ爾吾ニ敵スル意アラバ吾等何
 テカ恐レシヤ今ニテモ接戦スヘシト實メ問ヒシ處彼既ニ武器ヲ取上ラレタルニヨリ其謀ヲ敗ラレ
 其度ヲ失ヒ甚タ困シ果テ漸クニシテ答ケルハ吾等武器ヲ持來ルハ曾テ和蘭人ニ冠セン爲ニアラス
 海上ニテ賊ヲ防ガシガ爲ナリト僕又曰ク爾既ニ此島ニ着セシ上ハ其賊ノ患ナシ武器ハ出帆ノ時與
 フヘシト彼斯ク難シラレ返ス言ナシ唯怒氣ヲ含ミ此鬱念晴サテ置クヘキヤト云ハシ氣色ニテ僕ニ
 向ヒ和蘭人ノ日本王ニ朝見スル事ノナルモナラヌモ吾頭役ボートマンノ註ニ云ク蓋シボートマン
 シ掌握中ニアリト其惡言甚シキコト誠ニ惡ムベク紙上ニ盡シガタシ彼此ニ到レルハ此商館ニ百貫
 目ノ損失ヨリハ其害甚シカラシ

彌兵衛初日本人等種々謀計ヲ設ケテ武器ヲ取返サント計レハ僕常ニ堅ク守リテ心ヲユルサス悉ク
 其計ヲ挫キシカハ彼カ企空シクナレリ其後彼又昨年支那ニ殘シ置ケル貨物ヲ得ゾ爲ニ彼地ニ到ラ
 ノトテ七八隻ノ支那船ヲ借ストモ賣ルトモセヨト頼ニ僕ニ乞ヘリ此事モ拒ミ否マント思ヒシカト
 モ然カセハ彼ニ尙怒ヲ増サシメ前ニ厲リシ如ク若シ日本ト互市ノ妨モアラハ後悔ストモ詮ナシト
 思ヒ彼ノ怒ヲ宥ンタメ其乞フニ任セヌ然ルニ其支那船ノ水夫們之ヲ肯セス怒斯スル様ハ遣事吾法
 ニ違ヘリ今此法ヲ犯シ父母兄弟親屬ヲ罪セラレノヨリハ現今吾等ヲ殺シタマヘト云ヘリ依テ一旦
 彌兵衛ニ許セシカトモ又止ミヌ

彌兵衛始ニハ臺灣島ヲ出帆シ澎湖島ニ到リ事ヲ謀リ夫ヨリ支那ニ到ラント云シカ其後支那ニ到ル
 事ヲ止メ直ニ日本ニ歸ルヘシト云ヘリ是ヨリ先制札ヲ建テ此島ヨリ他國ニ鹿皮ヲ出ス事ヲ禁セシ
 ニ今日日本人鹿皮ヲ數枚船中ニ積メルヲ見ケレトモ大事ニアツカラサレハ之ヲ糺サズ見逃セリ
 遣回ノ事件文章ニ巧ナル者ニ書シメハ猶詳ニシテ日本人ノ助靜等君カ目前ニ見ルガ如ク書送ルヘ
 クレトモ今其真史ヲ闕ク事遺憾ナリ君日本人ノ事ニ就テ書ヲ僕ニ送レリト傳聞スレトモ其書未タ

到ラス尙エラスミニヌ彌兵衛此ニ到レトモ君ノ書ヲ見ス君ノ意如何ナルヤヲ掛念スル事甚シ
 然ルニ今一友人來テ告ケルハ日本人等急ニ此地ヲ出帆シ日本ニ歸ラントスト依テ僕考フルニ此書
 翰君ニ達シ未タ返簡ヲ得ザル前ニ日本人出帆セハ吾和蘭國ノ耻辱ヲ醸スコトモアラシク因テ乞フ此
 書君ノ机下ニ到ラハ直ニ一雙ノ松ヲ獻シテ速ニ返簡ヲ給ヘ彼出帆ヲ促ストモ今暫クノ間留メ置ク
 べシ

僕彌兵衛等ニ向テ左ノ件ヲ説示サントテ欲ス

- 一、吾儕ニ對シ暴惡殘忍ヲアルマツ者
 - 一、和蘭ト日本トノ平和ヲ破テ亂ヲ作ス者
 - 一、和蘭商館ニ對シテ仇敵ノ動作ヲナス者
 - 右三件ヲ犯ス者ハ互市ヲ免サ、ル而已ナラズ其罪死刑ニ當レトモ格別ノ憐愍ヲ以テ生命ヲ免シ
 - 直ニ本國ニ送スベキモノナリ
- 右ヲ彌兵衛ニ諭シ且諸買人ニハ他年温順ノ首長ト共ニ此ニ來ルハ吾儕力ヲ盡シテ互市ヲナシ信義
 ヲ以テ交ラント諭スベシト思ヘリ
- 千六百二十八年寛永五月六月十八日

領事館員ノ手記
 千六百二十八年寛永五月六月二十九日彌兵衛其他ノ日本人臺灣ヨリ歸帆セント欲シ當長ノイッノ館ニ
 到リ速ニ出帆セシコトヲ乞フ當長彼等ノ速ニ出帆スルコトヲ好マザルノ因故アルヲ以テ言語ヲ和
 シ慰撫ニシテ之ヲ止ムレドモ彼等之ニ隨フ色ナク豪言シテ類ニ歸帆ノ事ヲ云フ此ニ於テ當長彌兵

本船ニテ彼地歸リテ後互ニ人質ヲ替ヘ返スヘシ是日本ヨリ望ム所ナリ爾等此議ヲ肯セバ和陸調ヒ予速ニ成テ免サレト告タリ

評事官等此書ヲ見テ復衆議スルニ趣意異ニシテ決定セズ且日本人本國ニ歸テ後人質ヲ恙ナク返スヘキヤヲ疑惑セリ依テ評事官等其事ヲ再ヒ酋長ニ問ヒシニ這回ノ誓約爾等少シモ疑惑ヲ生ゼズ又怯懼ヲ懷シコト勿レト返答セリ由テ評事官等モ是ニ從ヒシカト猶全ク日本人ノ心ヲ信セサルニヨリ堅ク守リテ不虞ノ備ヲ爲セリ此夜甚々熱セシニ大雨降テ衆人清冷ヲ覺ユ翌六月初日ニ至テ雨降ルヲ尙甚シカリシニヨリ評事官等ヨリ日本人ニ使シテ斯ノ如キ雨天ニテモ人質交替スヘキヤ且其備既ニ整ヒシヤト問ヒシニ此時彌兵衛ヨリ酋長ニ人質交替ノ外別ニ求ル事アリ三ツ一ニハ日本人前ニ支那ニ白糸二萬斤遣シ置シテ取ラントテ日本人彼地ニ到ラントセシニ和蘭人ニ妨ケラレタルヨリ今既ニ賊一官ノ爲ニ奪レタリト思ハル由テ今和蘭人ヨリ之ヲ償フヘシニハ和蘭人爲ニ虜トナリタルサカム人ヲ赦シ放ツベシ三ニハ汝等取上置タルサカム人ノ貨物ヲ彼等ニ返シ與フベシトナリ此議ニ就テ酋長彌兵衛ト討論スルノ間久シキニヨリ評事官ヨリ問ヒシ人質交替ノ答遲引セリ由テ皆内ニ集會セル評事官等甚怪シミ日本人ノ返答斯ク遲キハ彼等ニ於テ必ズ惡計アルニ疑ナシ若シ午後迄返答ヲ爲スコトナクハ兵ヲ擧テ彌兵衛ノ旅館ヲ襲ヒ酋長ヲ扶ケ出スベシト評決シ此事ヲ書記役ヲ以テ酋長ニ告タリシニ酋長答ケルハ事平穩ニ整フコトヲ欲ス予午後マテニ事ノ狀ヲ悉ク告クベシ先ツ辭リ居ラントテ乞フトナリ

此ニ於テ評事官等酋長ノ再報ヲ待テリ其間ニ尙衆評事スルニ酋長ノ生命ヲ全シ吾儕ノ安全ヲ欲セハ劍戟ヲ助サスシテ先ツ日本人ノ動靜ヲ窺ヒ待ツテ上策ナリト議定シ又此議ヲ巨細ニ酋長ニ告タリ

同日二日早朝ニ酋長ヨリ評事官ニ使テ遣シテ曰ク昨日ノ評定ノ如ク汝等必ズ兵ヲ動スコト勿レ日本人等入質交替ノ外ニ猶此方ニ求ントスル事アリテ彼等今專ラ其事ヲ評ス必事穩ニ治ルニ疑ナ

シ日本人ノ評議決セバ吾又委細ヲ告クベシト

晚ニ至テ酋長日本人ノ望ミ求ル諸件ヲ審シテ評事官ニ通ス左ノ如シ

其一ハ此方ヨリ日本人ニ渡スベキ人質ハ酋長ノ長子アウレンスノイツ船大將ビートル、モイセルト、ハンデル、ハーゲン、モウル、コルトヤン、ハルトマン右五人日本船ニテ彼地ニ帶ヒ行キ彼地ニテ和蘭人ニ歸シ又日本人ヨリ此方ニ入質トシテ渡スベキ者ハ則チヘーノードロノ從弟シフタ、ハツセメト、譯者ノ註ニ曰ク平藏殿ノ從弟進田ハ左衛門殿トイフカ如ク士大將西卿左衛門目付役山岡新左衛門長子濱田新藏買人ノ頭小野道五郎衛右門等ナリ右五人ハ和蘭船ニテ日本人ニ將テ彼方ニテ再ヒ交替スベキ事其二ニハ今和蘭人ノ爲ニ虜トナレルサカム人十一人并支那ノ譯官二人ヲ赦シ歸サシムベキ事其三ニハ臺灣ノ官人等ヨリ彌兵衛ニ進物ヲ贈ルベキ事

其四ニハ日本人此地ヨリ出帆前ニ此港ニ繫ク所和蘭船ノ楫ヲ悉ク陸上ニ上ケ置ベキ事

其五ニハ日本人支那ニテ買ヒ彼地ニ遣シ置タル白糸二萬斤和蘭人ニ遞ラレ彼地ニ取ニ行事延引セシニヨリ今恐シハ一官ノ手ニ在ルベシ和蘭人之ヲ償ヒ且日本人先年第一世ノ酋長マルテン、ソノシト賭シテ之ニ負ケマルテン、ソノクニ奪ハレタル白糸千五百斤ヲモ今日日本人ニ渡スベキ事

右五條ノ外堅ク他ヲ望ミ求ムベカラザル事ヲ千六百二十八年七月二日日本人セテインヂニ於テ誓約セリ

同月三日評事官等集會熟議スルニ第一件ヨリ第三件マテハ直ニ其望ニ應シテ可ナラン但第四件先試ニ日本人ヲシテ止メシメシテ事ヲ謀ルヘン若シ彼等強テ肯セズハ其望ニ從フヘシ第五件ハ彼等ノ云フ所確証ナシト雖モ吾等ニ遞ラレ支那ヨリ取り返スコト能ハサリト云テ以テ考アレハ此望モ叶ヘ遣スヲ上策トス若シ吾等今日日本人ノ意ニ逆フテ子弋ニ及ハズ大利アル日本通商ノ道絶ヘ且酋

長ノ生命モ危カラシム由テ此件モ日本人ノ求ニ應スルヲ其策トス今彼等ニ與ヘ遣ストモ和蘭人日本ニ到テ彼地ノ審事官ニ訴ヘ巨細ニ載定スルニ於テハ右白糸再ヒ和蘭人ニ返シ與フルハ必然タラン尙尙長ノソングノ奪ヒ置タル白糸千五百斤モ返シ遣スヘシ此等ハ既ニ印度ノ尙長カルベソチルモ日本人ニ返スナ上策ナリト云ヘルコアリトテ衆議決定シ右ノ諸件ヲ書シ各連印シテ日本人ニ密書ヲ送レリ其連印ノ姓名ハビトル、モイセルト、ハンデルハスグ、ヤン、ハルトマン、ヤコフゾホウケン、モウルコウルト、ヤコフゾン、マテ、イス、ハイレノ、ラムベルト、エロニシユス等ナリ此ニ於テ千六百二十八年七月三日日本人ヨリモ亦密書ヲ送レリ明日午後迄ニ人質ヲ交替シ三日内ニハ日本人悉ク臺灣島ヲ出帆スヘシトテ事穩ニ治ルニ至レリ

四月四日天氣快晴ナリ此日五人質ヲ交替セリ四月五日白糸二萬斤ノ内一萬二千五百斤ハ絲ヲ與ヘ七千九百四十七斤ト外ニマイルテン、ソクカ奪ヘル千五百斤トハ百斤ニテ價銀壹萬四百十錢ノ割ヲ以テ銀ニテ與フ其他日本人望ム所ノ諸件其求ムル所ニ應セシニヨリ日本人尙長ノイツチ免セリ此ニ於テ日本人其翌日ヨリ出帆ノ準備ヲナセリ

順治十八年我元通事何斌ナルモノ一王ノ庫銀數十萬ヲ私消シ清算ノ際事ノ發覺セシコトヲ懼レテ機ヲ見テ逃脫セシコト謀ルニ夕何斌ハ一王及ヒ各尙長ヲ招テ大會宴ヲ張リ珍味ヲ備ヘ歌妓ヲ招キ款待至ラサルナシ而シテ竊ニ帆船二隻ヲ宴館ノ附近ニ泊セシメ其宴酣ニ興盛ナルニ乘シ何斌ハ酒ニ堪ヘス腹痛ノ狀ヲナシテ廁ニ行クト稱シ竊ニ後門ヨリ出テ前キニ備ヘル所ノ帆船ニ乘テ廈門ニ向テ去レリ而シテ彼レ一王ハ何斌ノ招待ニ應シ紅燈綠酒以テ夜ヲ徹セリ何斌席ヲ去ルト雖モ艱酒ノ爲メ禮ヲ欠クト察シ敢テ怪マサリシ次日ニ及テ其ノ逃遁セルヲ知ルヤ何斌力庫銀費消セルヲ以テ危難ヲ免カレンカ爲跡ヲ潛メタルモノト信シ敢テ怪シマサリシ何ソ計是ノ何斌ハ廈門ニ進テ鄭成功ノ先導トシテ來リ征スルニ至ントハ

茲ニ明末ノ忠臣ニシテ明朝恢復ノ大業ニ熱中セル鄭成功カ未ダ臺灣占領以前ニ於ケル經歷ヲ略記セシニ

抑々鄭成功ノ素性ヲ尋ヌルニ其父鄭芝龍ナル者嘗テ日本ニ流寓セル時田川氏ヲ娶ル田川氏ハ肥前平戸田川某ノ女也而シテ成功ハ日本寛永元年七月二十三日ヲ以テ平戸千里濱ニ生ル其分婉ノ概略ヲ記スルモノアリ曰ク一日出テ千里濱ニ遊ビ文具ヲ拾フ俄カニ分娩セントス家ニ還ルニ追アラズシテ濱邊ノ巨石ニ就キ以テ誕ス今尙其石ヲ呼テ兒誕石ト云フ

成功初名福松ト稱ス弟ヲ七左衛門ト云フ後芝龍ハ妻見テ日本ニ留メテ福建ニ歸リ風雲ニ際會シ一躍福建海防備ノ任ニ當ルニ至ルヤ日本ニ留遣セシ妻見ヲ迎エント欲シ芝龍ヲ使トナシ來リテ幕府ニ請フ幕府之ヲ許ス時ニ次子七左衛門尙幼ニシテ供ニ往テ背セス唯々成功ノミ芝龍ニ伴ハレテ福建ニ至ル時ニ年已ニ七歳也父芝龍ニ會スルヤ七年ノ久闊父子握手ノ歡實ニ想見スヘシ時ニ崇禎三年我元ナリ又タ芝龍ハ成功カ容儀雄偉聲音洪亮ナルヲ見テ大ニ喜ヒ師ヲ延テ書ヲ學ハシメ名ヲ森ト呼ビ字ヲ大木ト稱セシム性質穎敏研書甚々勉ム繼母顏氏ニ仕テ尤モ孝ナリ然レトモ尙ホ日本ヲ慕フノ情ニ堪エス毎夜必ス東方ニ向テ翹首シ嗟嘆大息之レヲ久ス蓋シ其實母ヲ慕望スレハナリ森ノ諸季父兄弟屢々之ヲ窘ム獨リ叔父鄭鴻遠甚々重器シ毎ニ其ノ項ヲ摩シテ曰ク是レ吾家ノ千里駒ナリト又タ相者アリ成功ヲ見テ曰ク郎君英物骨格非常ナリト芝龍曰ク尙シ能ク一科目ヲ博スルヲ得ハ則チ幸甚ナリ相者曰ク實ニ濟世ノ雄才決シテ科用中ノ人ニ非スト成功常ニ喜テ春秋ヲ讀ミ又孫吳ノ兵書ヲ誦ス成功ハ實母田川氏ヲ愛慕シテ己マシ父芝龍ニ請テ屢々使テ日本ニ送リ迎ヘシム途ニ順治二年我元十月田川氏長崎ヨリ來リ航ス成功ノ歡喜亦何ヲ以テ譬ヘン常ニ其側ニ侍シテ孝ヲ盡ス而シテ氏ハ賢母ナリ能ク成功ヲ撫育シ其々ノ間大和心ノ藹陶ヲ受クシメ其明末澆季ノ時屹然動セス一片精忠ヲ以テ明朝ノ恢復ヲ謀リタルモノ何ソ此時ニ胚胎セサルナキヲ知ラマヤ一日芝龍成功ヲ隨テ隆武帝ニ見ユ帝

其狀ヲ奇トシテ之レヲ問フ應對流ル、カ如シ隆武帝成功ノ背ヲ撫シテ曰ク恨ラクハ朕ニ女ナク以テ卿ニ妻シ難シト途ニ國性ノ號ヲ賜フ是レ成功ヲ呼テ國性爺トナス起因ナリ成功カ明朝恢復ニ一身ヲ犧牲ニ供シタル又タ何ソ是ノ誠意ニ感シタルモノニ非ズンハアラス

順治三年^{我正保三年}隆武帝江州ニ走リテ崩シ芝龍志ヲ變シテ貝勒ノ勸誘ニ從ヒ將ニ清朝ニ投セントスルヤ諫諍措カス其諫諍ノ用ヒラレサルヤ出テ叔父鄭鴻逵ニ會シ告グルニ事情ノ始末ヲ以テ述之レテ壯トナシ密カニ成功ニ授クルニ一旅ノ兵ヲ以テ遣レテ金門ニ至ラシム成功ハ是ノ一旅ノ兵ニ依リテ當初一片ノ忠心ヲ貫キ明朝恢復ヲ謀ル而シテ其ノ隆武帝ノ凶信ヲ聞クヤ位ヲ設ク祭ヲ行ヒ部下ヲ率ヒテ拜セシム誓書シテ曰ク本藩乃明朝之臣子、縞素應然、實中興之將佐、披肝無地冀諸英傑其伸大義ト成功中興ノ念切ナリト隆武帝崩セシ後其ノ奉スル所ノ君ナク仲心熒々トシテ徒ラニ師ヲ擁シテ安平ニ割據セリ(安平ハ臺灣安平ニ非ス)

順治四年^{我正保四年}二月韓固山(貝勒ノ世子)命ヲ奉シテ滿騎漢兵ヲ率ヒテ安平ヲ攻撃ス時ニ成功安平ニ在ラズ海澄ニ赴クリ鄭芝豹、芝綱等大兵來リ攻ムルヲ懼テ逃レテ巨艦ニ入ル成功ノ生母田川氏手ニ劍ヲ持シ留テ去ラズ之レヲ強ク再四又去ラス其大兵至リ勢ヒ免ルベカラザルヲ見ルヤ毅然劍ヲ援キ壯ヲ割テ死ス實ニ壯烈ト云フベシ成功生母ノ計ヲ聞キテ號哭シ師ヲ飛シテ固山ノ陣ヲ突ク固山狂勢當ルヘカラザルヲ以テ陣ヲ引キ泉州ニ回ル鄭鴻逵ハ成功ノ叔父ナリ金門ニ據リ雄ヲ一方ニ擅ニスルモノ成功ニ脱テ曰ク凡ソ事ハ本ヲ固フシテ而シテ後ヲ求ムヘシ安平ハ彈丸ノ地長江險要ノ恃ム可キ無シ余一旅ノ兵ヲ以テ汝ノ軍ヲ助ケン汝宜シク泉州ヲ攻メテ安身ノ地位ヲ作り然シテ後兵ヲ畜ニ銳ヲ養ヒ覺隙ヲ窺フテ事ヲ舉グヘシト成功之ニ從ヒ將卒ヲ率ヒ鴻逵ノ軍ニ會シテ共ニ泉州城ヲ圍ム會々漳州城守王進ノ來リ援フニ遣フ依テ成功其意ヲ遂クル能ハスレテ止ム

以上ノ如クシテ南部支那ノ盤龍タル鄭成功ハ時ニ師ヲ助シ附近ノ州縣ヲ襲撃スト雖モ未タ雲南ヲ得

大飛揚ヲナス能ハカリシ而シテ其ノ部下ニ屬スル輩前ニ洪政陳新アルニ過キス彼レカ泉州ニ破レテ安平ニ歸リタル以後成功カ軍ニ投シ來ル諸傑又タ少カラス文官トシテハ原浙江巡撫盧若騰進士葉翼雲舉人陳鼎武人トシテ甘輝、藍登、施郎ハ其優ナルモノニシテ其他顧貴邱縉、林壯、鄭金裕等アリ此等ノ諸傑ヲ得テ成功ハ漸ク驥足ヲ伸スノ端ヲ開クヲ得タリ時ニ習式相等桂王ヲ擁立シテ改元シテ永曆ト稱ス成功之ヲ聞クヤ喜ソテ曰ク吾ニ君アリト香案ヲ設ク南拜シテ勅號ヲ奉シ又タ江干燦黃志高二人ヲ遣シ海道ヨリ廣西ニ到リ賀ヲ稱シ時勢ヲ陳セシム順治五年^{我慶安元年}戊子秋八月桂王ノ詔ヲ得タリ於此乎成功カ奉シテ以テ明朝恢復ヲ謀ル君ヲ得タリ己ニ奉スル所ノ君ヲ得又タ諸傑ノ輔弼アリ是ヨリ成功ノ偉業以テ見ル可キモノアラシ

安平ハ一彈丸ノ地以テ本據トナスニ足ラサルヲ知ルヤ久シ依テ泉州ヲ取ラントト企テタレトモ能ハス茲ニ芝綱ノ潮陽ニ至ルニ會シ成功ニ説クニ廈門ヲ取ルヘキヲ以テス廈門ハ鄭彩ノ據ル所又タ成功ノ兄鄭聯ノ守ル所ナリ成功ハ兄ヲ殺スノ惡名ヲ得ルコトヲ恐レテ大ニ躊躇ス然リト雖成功ハ本據ヲ得ルニ熱中シテ意ヲ決シテ之レヲ占領ス其ノ之ヲ占領スルヤ告示ヲ出シ市井ヲシテ驚惶スル勿ラシム既ニ鄭聯部下ノ將士來リ投スルモノ甚タ多ク又タ叔父鄭彩ハ成功カ尋常ノ人物ニ非サルヲ知リ已レカ率ユル所ノ將士ヲ舉テ成功ニ讓ラント欲シテ成功ニ謂テ曰ク能ク吾志ヲ繼クモノハ汝ヲ大木アルノミト大木ハ成功ノ字ナリ乃チ軍旅ヲ成功ニ委シテ自カラ退隱シテ餘生ヲ樂メリ此ニ至リテ成功ハ唯ニ本據ヲ得タルノミナラス大ニ軍旅ノ數ヲ增加スルヲ得タリ順治八年^{我慶安四年}成功已ニ廈門ヲ得ルヤ守備ヲ置キ自カラ舟師ヲ率ヒテ白沙湖ニ至リ暴風ニ遭フテ退テ鹽州港ニ入り碇泊ス時ニ福建巡撫張學聖ハ成功ノ廈門ニアラサルヲ知リ遽ニ乘シテ之レヲ襲ハント欲シ得功ヲ將トシテ討伐セシム芝莞報ヲ聞テ珍寶ヲ取テ戰ハスシテ遁ル爲メニ島中鼎沸ス會々旋瑯ノ來リ援フアリテ廈門全キヲ得タリ而シテ敵將得功ハ施瑯ノ橫截トナリテ歸路ヲ失フ纒カニ鄭鴻逵ノ庇蔭ニヨリテ虎口ヲ脱ス

ルヲ得タリ
 成功ハ厦門ノ報ヲ得テ急遽歸來セリ此時已ニ敵兵ヲ討チ拂タル後ニシテ且ツ敵將得功ハ已ニ鄭鴻逵
 ノ庇蔭ニヨリ逃避セシヲ聞キテ大ニ怒ル是ヨリ成功ト叔父鄭鴻逵ノ交情舊ノ如クナラサルニ至ル而
 シテ成功ハ軍規ヲ嚴肅ナラシメシカ爲メ厦門敗將ノ罪ヲ論シテ芝莞ヲ斬リ其他罪ニ應シテ處分ス叔
 父鄭鴻逵ハ成功カ執法嚴厲ニシテ聲望日ニ加ルヲ見ルヤ相拮抗シ難キヲ悟リ自己ノ船隻及將士ヲ擧
 テ悉ク成功ニ解付シ自ラ白沙地方ニ一地ヲ擇ヒ亭樹ヲ築キ歸隱シテ餘生ヲ樂ム成功ハ先ニ鄭彩ノ軍
 旅ヲ得今又鄭鴻逵ノ部下ヲ握ル其ノ率ユル所ノ將士益々數ヲ加フルノミナラス管轄ノ地方又々漸々
 ク廣曠ナルニ至ル於此乎成功ハ軍營ヲ金門ノ後浦ニ移シ且ツ部將ヲ分チテ地方ノ守備ニ當ラシム則
 チ厦門ヲ守ルモノハ供旭金門ヲ守ルモノハ鄭泰安平ハ芝豹、施天福等或ハ張進、代季壽ヲシテ銅山
 ニ備ヘシメ或ハ陳霸ヲシテ南澳ヲ鎮セシメタリ
 成功ハ廣西行在所ニ在ル皇上(永歷王)ノ陳邦傳カ爲メニ劫掠スル所トナリ梧州ヨリ遁レテ南陵ニ至
 リ困厄ノ裡ニ在ルヲ聞キ之ヲ援助セシムコトヲ欲シテ舟師ヲ整ヘ粵東ニ向テ進ム會々颶風ニ遭フテ潮
 陽港ニ退キ行ヲ果ス能ハス此行施郎先鋒タリ施郎ノ從將會德ナルモノアリ法ヲ犯シ其罪死ニ當ル成
 功死罪ヲ寬フセシムコトヲ施郎ニ請フ施郎肯セシメテ捕ヘテ之レヲ殺ス且ツ曰ク成功カ法ヲ曲クルハ
 是レ國ヲ亂スナリト成功大ニ怒リ黃廷ニ命シテ施郎及其ノ父大宜其ノ弟顯貴ヲ擊テ材習山ニ渡ス習
 山ハ副將吳芳ヲシテ看守セシム施郎奇策ヲ運ラシテ逃レテ岸ニ登ル成功憤怒ニ堪ヘス其父ノ大宜其
 弟ノ顯貴ヲ收テ斬ニ處ス之成功ハ猛虎ヲ掌裡ヨリ脱セシモノ、如シ(是ノ施郎ハ後日施瑯ト名ヲ改
 メ清廷ニ投シ水師都督トナリ征臺灣ノ大將トナリテ鄭氏ヲ臺灣ヨリ追ヒ臺灣ヲシテ清廷ノ版圖ニ歸
 セシメタルハ是ノ施瑯ノ力ニアリ)成功ハ守備ノ佈置漸々宜シキヲ得ルヤ附近ノ郡縣ヲ犯シ大ニ
 勝利ヲ占ム其守將ニシテ成功ニ來リ投セシモノ、漳浦ノ守將揚世德海澄ノ守將郝文興アリテ漳浦海澄

ノ二縣又タ成功ノ掌裡ニ歸セリ斯クノ如クシテ附近縣邑ノ將士ヲ収ムルヤ士卒繁多窄狹ヲ加フルハ
 理應サニ然ルヘキモノニシテ加之軍器備ハラス糧餉足ラサルニ至ル依テ之レカ救濟ノ策ヲ講セサル
 ベカラス時ニ參軍中ニ澄世ナルモノアリテ策ヲ獻シテ曰ク方今糧餉充足シテ鉛銅饒多ナル國ハ日本
 ニ如クモノナシ而シテ日本ハ藩主(成功)ノ老太夫人ノ鄉國實ニ淺カラサル緣由アリ宜シク禮ヲ執テ
 書ヲ修メ以テ好ヲ日本ニ通スベシト若シ日本糧餉軍器ヲ貸シテ吾用ヲ濟セハ糧餉足リテ進取易シト
 成功之レニ從ヒ兄ノ鄭泰正使トナシ洪旭ヲシテ之レカ副タラシメ共ニ日本ニ到リ好ヲ通スルコト
 ヲ請ヒ且ツ糧餉及軍器ノ扶助ヲ願フ幕府之レヲ許容シテ贈クルニ鉛、銅及ヒ銅煩永歷鐵蓋ヲ鑄ル器
 械ヲ以テス時ニ慶安四年ニシテ將軍家綱ノ時代ナリ
 成功ハ軍旅ヲ整ヘ糧餉ヲ充タシ大ニ明朝恢復ヲシテ速ナラシメント欲シ籌策ヲ講シテ己マズ時ニ同
 安厝州人周全斌ナルモノアリ或功ニ謁シテ八閩(福建省)ヲ占領スルノ計ヲ述テ曰ク先ツ漳泉二府ヲ
 取リテ根底トナシ陸路汀郡ヨリ進ミ水道福州興化ヨリ入レバ八閩ヲ握ル敢テ難キニ非スト成功大ニ
 喜テ全斌ヲ重用シテ授クルニ房宿鎮ヲ以テス順治九年我承應元年成功ハ周全斌カ計策ヲ用ヒテ先ツ漳州府
 ノ征討ニ上ル漳州府ヲ圍ム數旬城中糧盡キ餓殍市ニ充テ城將ニ落チントス此ノ報會々省城(福州)ニ聞
 ムルヤ新總督鄭清泰ハ金礦ヲシテ大兵ヲ率ヒテ往テ救ハシム成功ハ金礦ノ大兵ト戰フ數次力戰大ニ
 勉ムト雖衆寡敵セズ漳州府ヲ圍テ解キテ全軍ヲ收テ厦門ニ歸ル成功ハ茲ニ素志ヲ達スル能ハスト雖モ
 其ノ泉漳二府共ニ地形ニ於テ八閩ノ要衝ニ當ル後來清廷ト鄭氏兩者ノ爭點ハ常ニ此ノ二府ニアリシ
 ヲ知ルベシ
 順治十年我正德二年鄭芝龍李德ヲ差ハシテ成功ニ説キ歸順ヲ勸ム若シ歸順スルニ於テハ海澄ニ知ダラシ
 ムルノ條件ヲ以テ海澄公ニ封スル勅印ヲ持シ來レリ唯タニ芝龍ノ使ヲ送リ歸順ヲ勸ムルノミナラス
 總督劉清泰又タ書ヲ致シテ勸告ス成功ハ地方未タ安穩ナラサルヲ辭柄トシテ勅印ヲ受クス來使ヲ歡

待シテ復ラシム
順治十一年三月六月清朝政府ハ鄭氏一族ヲ厚遇シテ鄭芝龍ヲ同安侯ニ鄭鴻逵ヲ奉化伯ニ鄭芝豹ヲ左都督ニ封シ且ツ芝龍第四子鄭渡ヲ伴ヒ勅命ヲ奉シ閩ニ入り成功ニ向テ歸順ヲ勸諭ス總督劉清泰モ又タ再ヒ書ヲ致シテ曰ク

八月總督劉清泰再修書費到云費到
勅印不佞既慶其事之確遂令尊於君臣之間父子之際實費大力苦心
但
勅印久爲虛懸其事勢既已垂成何必稍存芥蒂且
勅中歸順人數且奏掃地方會同督撫詳細報聞何不斟酌次第商及乎
今一拜一詔不但足下可以持疏不佞亦常補贖倘必緩成命以俟議待
家書而入告在足下一多一番形跡在尊翁多一番躊躇此不佞半夜代
籌至恐至篤之論想英雄豁達之見亦不以爲其意之迂且賤也不佞滯
筆以俟裁決萬勿游移耳所言取餉事不佞亦效一得焉今日聯異姓于
同舟化國家于骨肉則地方者各有關係之地方也人民者各有聯屬之
人民也留得一人他日多一家養留一土地他日多一生聚况足下于桑
梓姻友之間更須調護者又無煩不佞之醇懇矣不佞以侍從之舊人偶
蒞封疆去就裕如但得始終此事自不貪以爲己功抵可告無罪于尊翁
握手時則厚幸矣餘伺計哉
先ッ總督ノ招撫書ヲ成功ニ送り而シテ後葉成格阿山ノ兩人精騎數千ヲ率ヒテ詔書ヲ奉シテ安平(臺
灣ノ安平ニ非ス)ニ臨ミ交渉ヲナス成功ハ兩大使ニ請テ先ッ詔書ヲ披キテ其ノ條件如何ニ依リ酌

議セントス兩大使ハ薙髮セザルモノハ臣ニ非ス焉ノ輕シク詔書ヲ出サシ先ッ薙髮シテ而シテ後詔
ヲ受クベシト兩々相爭ヒ日ヲ費ス二十有二日ニ至ル成功ハ兩大使ノ舉動ヲ觀テ清朝ノ招撫決シテ眞
心ニ出タルニ非ラスシテ父芝龍ヲ招撫シタル貝勒ト同一轍ノモノナルヲ看破セリ彼レ何ソ眞ノ詔書
ナルモノヲ持セシヤ若シ成功薙髮シテ詔書ニ接シ不意ニ乘シ挈擒セラル如キアラバ頭髮豈ニ再ヒ
長セシヤ葉成格阿山ノ兩大使ハ成功カ心容易ニ動シ難キヲ見テ去ル而シテ六表ナルモノ總督ニ返書
ヲ致サンコトヲ請フ成功允サズ唯々父芝龍ノ北京ニ在ルヲ以テ筆ヲ執テ一片ノ丹心ヲ書シ贈與セリ
則チ成功カ其父芝龍ニ送リタル書翰ニ曰ク
見戊子年差王裕入京間候父新福履以致交親被圍王裕被擒從此而
隻字不敢相通恐有貽累也至壬辰年杪忽周繼武等復交親之信見且
駭且疑既而李葉帥等復書繼至見疑信參半乃差李德入京實前傳聞
父親已無其人試徑觀之果有否修稟聊述素志和議非本心也不然豈
有甘受招撫而詞意如彼豈有欲盡忠而又能盡孝此不待明言而可知
矣不意海澄公之命突至見不得已按兵以示信繼而四府之命又
至見又不得已接詔以示信至於請益地方原爲安插數十萬兵將固
圖善後至計何以曰詞多乖徵求無厭又不意地方無加增而四府竟爲
畫餅欲傲前贖吾父故智不出見平日所料遽然薙髮三軍爲之衝冠嗟
嗟自古英雄豪傑以禮服其心利不得而動之害不得而悚之
清朝之予地方將以利餌乎見之請地方將以利動乎在
清朝羅人才以鞏封疆當不吝土地在見安民將以綏民生將必籍土地
今以薙髮爲詞天下間豈有未稱臣而輕削髮者乎天下間豈有彼不以

實許而此以實應者乎天下間豈有未相信以心而輕削以髮者乎天下間豈有事體未明而可胡塗者乎大丈夫作事磊々落落毫無曖昧若能信見言則于吾父為孝若不能信見言則于吾君為忠人生在世不過此忠孝二字而已此八月十九日李德周繼武等自京回至中左詔使抵省渡弟同李德周繼武等與葉阿相議欲照前鄭賈例俟見差人去請然後下來正欲差官往省敦請報詔使已于念四日到泉矣偵其到泉的確九月初四日辰時即差李德同呂太往送禮渡弟初七日來見十一日即回見囑其致意葉阿約期相而葉阿于十七日隨到安平盛設供帳于報恩寺乃葉阿不敢信宿哨馬四出布帳山坡舉動十分疑忌勅書委之艸莽成何事體且奉勅堂々正々而來安用生疑被疑生疑見安能無疑乎兒再差林侯送禮回稱葉阿二大人念五日的相見繼而周繼武來報葉阿二位決欲先薙髮然後接詔其詔亦安在安平署中且薙髮萬分大事非容易苟且須與葉阿二位面議十分妥當奉旨命下然後可兒猶恐周繼武傳述失實各得一毫為據再差史謙同渡弟進城再請葉阿來安平而議念九日葉阿遂史謙等回又接周繼武李德來稟云武等念九早見三位大人被留仍差撥什庫催迫起身不容刻緩於午刻二大人先出東門立喚德等齊行德等稱說夫役未便限三十三早起身三十日酉時李春吳文榜等來報葉阿二位大人于九月念九手回省去矣蓋葉阿身為大臣奉勅入關不惟傳宣德意亦得以尊安兆民今百姓如此困苦將士如此番多在泉月餘日目睹脫巾情形未嘗與

見商確徒以薙髮二字相逼挾兒一薙髮即今諸將薙髮乎即今數十萬兵皆薙髮乎一旦突然盡落其形能保其不激變乎葉阿二位不為始終之圖代國家虛心相商而徒躁氣相加李德亦見差也不令之來而狹且作事亦胎笑于天下後世矣且吾父往見貝勒之時已入毅中其得全至今者大幸也萬一父一不幸天也命也兒只有綸素復仇以結忠孝之局耳又據都督府行文各府備辦馬料策大兵李德周繼武來稟孟兵部兵已到仙霞此即是前口之部院金固山一攻一和葉阿此番佈置一割一狹前後同一轍也兒此時惟有抹厲以待他何言哉兒本不敢具稟緣黃六表痛哭流涕必欲得見一字回覆姑詳悉頭末統惟尊慈垂照已父芝龍返書送及又其弟鄭渡一書致其文曰

兄弟隔別數載聚首幾日忽然被挾而去天耶命耶弟之多方規諫繼以痛哭可謂無所不至矣而兄之忠貞自待不特利害不足以動心即斧鉞相加亦不能少移吾志也何則決之已早而籌之已熟矣今兄之心緒盡在父親稟中弟閱之可以了然矣夫風凰翔千仞之上悠悠于宇宙之間任其縱橫所之者以超然脫乎世俗之外也兄聞四海用兵老矣豈有舍風凰而就虎豹者哉惟吾弟善事父母厥盡孝道從此之後勿以兄為念

右ノ答書ヲ黃六表ニ交ヘタル後砲臺ヲ添設シ舟師ヲ整頓スル等大ニ戰鬪ノ準備ヲナセリ
時ニ漳州ヲ警備セルモノハ總兵張世輝ニシテ其部下ニ劉嗣軒ナルモノアリ材貌雄偉又々權略ニ富ム

一日左監遊擊林世用ヲ説クニ鄭成功ニ與ミシテ大ニ爲ス所アルヘキヲ以テセリ林世用之レニ從ヒ國
軒ヲシテ其意ヲ成功ノ參軍馮濬世ニ致ス馮濬世國軒ヲ成功ニ引見ス成功大ニ悅ヒ相約シテ曰ク東門
捕頭若シ連珠ノ火箭起ルアラハ是レ即チ我兵ノ到ル記號ナリ汝之レヲ見テ內應セヨト秘シテ歸ラシ
ム十一月一日成功、洪旭、甘輝、林勝、陳堯策、陳斌、戴捷等ヲシテ海澄ニ到リ浦頭ニ於テ連夜號箭ヲ放
ツ國軒之レニ內應ス總兵ノ張世趨事ノ倉卒ニ起リ內外敵ヲ受ケ如何トモナス能ハス遂ニ成功ニ降ル
成功親カラ漳州ニ至リ劉國軒ヲ以テ護衛後鎮トナシ魏其意ヲ火武鎮トナシ林世用ヲ木武鎮トナシ總
兵張世趨ヲ監督ト爲ス其外知縣丞ノ如キ文官皆ナ故ニ從ヒ禮待ス漳州ノ堅城一卒ヲ損セスシテ陷ル
四邊ノ郡邑皆ナ風ヲ望テ來リ投ス漳州附近ノ郡邑來投スルノミナラス泉州ノ附近來リ投スルモノ多
シ唯々城守韓尙亮固守シテ降ラス甘輝ヲシテ之レヲ攻メシムト雖モ峻拒下ラス時ニ洪善ナルモノ策
ヲ獻スルアリ其策ニ從ヒ火藥ヲ以テ城ヲ毀ク城守自ラ縊レ死シ城陷ル
時ニ廣西ノ行在所ヨリ大監劉玉ナルモノ永歷王(桂王)ノ詔ヲ奉シテ來ル成功謹テ詔勅ヲ拜シ且ツ恢
復ノ事業ヲ問フ成功其ノ李定國カ奮闘ヲ聞キ大ニ喜ブト雖モ又タ孫可望ト李定國兩人功ヲ特ミ陸シ
カラサルヲ聞ニ及ンテハ大ニ國家ノ福ニ非ルヲ歎シタリ如此シテ廣西行在所ノ恢復事業萎靡振ハス
ト雖モ成功ノ經綸稍ヤ緒ニ着キタルヲ以テ六官審理ヲ設ク大ニ衛門ノ軀裁ヲ作レリ

順治十二年我明六月成功ハ又タ一書ヲ總督ヨリ得タリ曰ク
激切再奮、無非早定海上之議、早報
聖明之念、以早結尊公父子忠孝之局耳、何足下舉動依然、毫釐千里耶、
天下事情、理與勢耳、尊公位列大臣之上、今祖母年追風燭之期、念津泉
寸土、爲足下脈絡所關、則祖宗虛墓所依、足下咫尺弄兵、荆棘其上、在尊

公之魂夢、一刻未安、今祖母之寢食、一刻不樂、足下將泰然波濤之間、自
謂功名富貴之計得乎、此情理之絕無者也、更有慮者、固山枕戈久矣、今
大師駐馬於漳畔、勁旅露刃于泉南、有不能頃刻得蓋、不佞意主於撫、固
山力主於攻、在足下夸浮恍惚、不佞焉敢執爲必撫、而止於攻、倘一攻而
緩、撫局之成、猶可言也、一攻而遂成撫局之變、則尊公前後之綢繆、與不
佞前後之挽回、俱無所用矣、此又勢之了然者也、足下家報所陳、皆足以
啓詳疑之誹、而激聖明之怒、緒疏而入、幾費躊躇、然一片苦心、不得不
爲足下所言、再爲披瀝、所云不知有父久矣、此言一出、不但傷天性之恩、
且貽後世之刺、尊公身爲朋季重臣、國亡而擇主、非背國而事仇也、足下
前無顧命、今無共主、何得滅不可易之親、而從不必然之議也、古之求忠
臣於孝子者、幾無據矣、至今猶屢執此三省卑之說、胡爲乎來哉、今天下
中外帖然十載、而足下身羈海甸、猶欲招徠之以大一統之勢、唯敢取臣
服之版圖、惟正之則、皆而輕議之、且從來無此廟算、無此邊籌也、則如足
下所云、亦可笑矣、無三省、則舍我而忠於彼、將有三省、則棄彼而忠於我、
此皆拂情影借之言、知非足下之心也、但念朝廷加恩一番、尊公經營一
番、不佞來此區畫一番、天下事、寧可瓦全、勿爲玉碎、足下或謀之族黨、或
謀之老成、務爲開心見誠、勿得藏頭揜面、勿再以必不可告之言、必不可
爲之事、徒費口舌、徒滋議論、而終於坐失機會也、不佞言至此、力已竭矣、
他日見尊公放班聯之間、亦可告無罪矣、至進止之事、則有固山並諸大
人成敗之局、則關乎足下一門父子兄弟、不佞雖膺其職、其肯盡任其咎

乎、惟足下裁之

或ハ脅スカ如ク或ハ慰スルカ如ク父芝龍ヲ質トシテ成功ニ歸順ヲ勸ム成功一片ノ忠義心ハ如斯慮妄文字ヲ以テ變スヘカラス斷然之レヲ拒ミタリ於此平業世格阿山ノ兩人ハ北京ニ到リ成功談判ノ成ラザルヲ逐一復命報告セリ北京政府ハ成功ヲ以テ驕兵無狀反覆不定トナシ討伐勦除ニ決セリ唯ニ成功ヲ討伐ニ決スルノミナラス前ニ成功ノ歡心ヲ買ハシムカ爲メ同安侯マヲニ昇進セシメタル其父芝龍ヲ囚シテ高牆ノ中ニ置キ其胞弟芝豹モ亦タ同時ニ寧右塔ニ戍セラル嗚呼何ソ其處置ノ不道理ナル北京政府カ招播ノ真意此ニ至リテ洞察スルヲ得所謂虎山ヲ出テ魚淵ヲ離レタルモノニシテ芝龍ノ官爵ニ戀々トシテ穿ニ陥リ追悔及フナシ而シテ成功ノ眼四邊ニ徹シ招撫ニ應セサル實ニ感歎ノ外アラサルナリ

北京政府ノ願議己ニ討伐ニ決スルヤ貝勒世子龍命シテ兵ヲ率ヒ大舉シテ勦除ニ從事セシム成功之レヲ偵察スルヤ諸參軍ヲ集メテ戰鬪ノ計畫ヲ議ス
馮澄世策ヲ獻ツテ曰ク海上ノ戰鬪ハ彼ノ長所ニ非ス須ラク全軍ヲ擧テ暫ク廈門ニ退キ以テ各島ヲ監守スヘシ水戰ニ熱セサル兵士ハ必ス眩暈ノ苦ニ遭フテ奮戰スル能ハサルヘシ是レ逸ヲ以テ勞ヲ待ツ法ナリ則チ之レニ從ヒ檄ヲ鄭泰ニ飛シテ安平ノ家資ヲ以テ盡ク金門ニ移サシム又タ杜輝ヲシテ告示ヲ發シ泉屬ノ士民ニ諭シテ隨行ヲ願フモノハ悉ク金廈兩島ニ渡ラシメ從行ヲ願サルモノハ遠ク山中ニ避テ兵馬ノ蹂躪ヲ免レシメタリ是レ單ニ安平泉州ニ布告セシノミナラス惠安同安漳州ニモ同一ノ告示ヲナシタリ皆ナ家眷ヲ海澄ニ移スモノ多カリシ巴ニ戰鬪ノ準備ヲナシ且ツ諸將ニ命シテ部所ヲ守ラシメ唯タ來襲ノ晚キヲ待チ居タリ貝勒帥ヲ提ヘ泉州ニ至リ成功カ諸城ヲ毀落シテ退テ金門廈門ニ移リタルヲ見笑テ曰ク海賊伎倆ナシト於此乎何ノ苦モナク泉漳ノ二州ハ占領セラレタリ人ヲ遣シ奮テ成功ニ送り成功拒テ納レヌ

順治十三年 二月 貝勒ハ何ノ苦モナク泉漳二州ヲ占領シタルモ唯タ海澄一州防備甚タ固シ多方誘降スト雖モ王秀奇等終ニ下ラス梧功、蘇明ノ兩將王秀奇カ廈門ニ至リテ本營ニテラサルヲ機トシテ貝勒ニ降リ海澄ノ堅城又清朝ノ有ニ歸セリ海澄一城カ敵將ノ爲ニ占領セララルヤ成功ノ作戦上ニ於テ一大打擊ヲ蒙リタルモノナリ如何トナレハ海澄ハ地形上金廈ノ門口ニシテ糧食儲蓄ノ所ナレハナリ是ノ門口是ノ儲糧所ニシテ破ラレタラハ金廈ノ危急且タニアリト云フヘシ成功ハ大舉シテ是ノ回復ヲ計リ舟師ヲ發シ計戰セシト雖モ其ノ意ヲ果ス能ハサリシ途ニ又タ諸參軍ヲ會シテ策戰ノ商議ヲソ開キタリ參軍商議ノ結果ハ意外ナル策戰ノ方針トナリ輸贏ヲ金廈ノ孤島ニ爭ハスシテ敵將ノ本據タル福州城ヲ襲フコトトナレリ商議ノ席上ニ於テ成功カ發言シタル言ニ曰ク現今貝勒及總督共ニ漳州ニ駐在セルニ於テハ福州ノ省城空虛ナルヤ必セリ此時ニ乘シ南風ニ駕シテ直チニ閩安ニ至リ福州ヲ占領セシバ福州ヲ占領スル漳泉二州ノ如キ地勢上下游ニシテ我有トナルヤ必セリ敵兵奔走東西ニ救應スルアラシカ所謂馳驅ニ疲ル、モノナリト此ノ策戰ハ實ニ諸參軍ノ大贊成ヲ得タルモノナリ前提督黃廷及陳鵬周全斌ヲシテ廈門ヲ守ラシメ洪旭及其兄ノ鄭泰ヲシテ金門ヲ守ラシメ成功目ヲ船兵ニ將トシテ十五鎮ノ兵ヲ率ヒ戰艦四十隻快船廿隻ヲ以テ閩安ニ向テ發ス閩安ノ守將事ノ不意ニ起ルヲ見テ敢テ迎ヒ戰フモノナシ成功直チニ進ンテ福州ノ南臺ヲ占領シ日夜攻擊轟天ニ震フ實ニ福州城ハ包圍ノ中ニ在リ且ツ總督ノ出征シテ漳州ニ在リ守城ノ防備空虛ナルヤ民人驚愕舉城騷然タリ而シテ能ク防備ノ任ニ當ルモノナク機カニ在獄ノ罪人タル周亮工及王進ヲ大赦シテ立功贖罪ノ旨ヲ以テ防備ヲナサシメヨク其ノ窮迫ヲ知ルベシ貝勒及ヒ總督李卒泰等漳州ニ在リテ意外ニモ成功本據福州ヲ犯スヲ聞キ阿格ヲシテ驍騎ヲ領シ救援ニ赴カシム軍氣動搖ス成功ノ軍其ノ大勢來援ヲ見ルヤ再ヒ船ニ上リ潮ニ乘シテ走レリ如此シテ固ヨリ成功ハ長ク福州ヲ占領スル能ハサリシト雖モ其奇計ヲ以テ敵軍ヲ奔命ニ疲レンメ依テ以テ廈門金門ヲシテ陷落ノ急ヨリ援出セリ北京政府ハ大舉

シテ南部一隅ニ跳梁ヲ逞フル成功ヲ剷除セリト企テ徒ラニ馳驅ニ腦ミ奔命ニ疲レ功ヲ奏スル能ハサルヲ見テ成功ヲ數拒絶スルニモ拘ハラズ招撫ノ策ヲ以テ成功ヲ招キ大局ヲ結ハシコトヲ欲シ又々修巡撫書ヲ裁シテ成功ニ送ル

我皇上定鼎以來、不專用兵、德威所迄、無遠弗屆、東至高麗、淮見哈魚皮、國、西至播漢、緬甸諸國、南至土苗、洞蠻諸國、北至河套、海西諸國、率皆慕義、向化、稽顙恐後、至於孔耿、尙吳諸藩、封躬、膺茅、土任專一、而君臣之情、親於父子、邇來卷々於詐信之間、是自疑貳也、天時人事、侈口而談、驕蹇滿紙、殊甚憤恨、不佞畧一拆之、大凡開創之初、久而後定、如周武一戎衣、猶因小腆未靖、作多士方八篇、以曉告之、楚越弄兵、不遇地方殺運未終、敢煩王師勘定、耳、近報執轍、颯停、風飄籟捲、至西人入河州一事、全無影響、而臺々伏處海隅、見聞不遠、一二浮食之輩、生事造言、以相簧鼓、此乃山野村落、傳說稱奇、而不知其無稽也、至如河北水溢、關中地震、事實有之、董子謂天之仁愛二居、故時出災異不一、以見天之絕愛人君也、自古殷憂啓聖、母論堯湯之世、水旱尤甚、漢文帝日有王家、然貞觀之治、千古最稱、宣帝時、鳳五出、麟一至、究仁慈不振、卒以短祚、災異之驗、果何如乎、從來竊發海上者、不乏人矣、其不能離於海者、猶魚之不能脫於淵也、廟堂妙算、以爲興師動衆、於烟波浩渺之中、勞民而費財、不若收其英傑、使相統馭、居民得以永逸、此不過以海治海之策、今恩綸頻頒、詔使疊至、而臺々錯認、以爲窮洋孤島、洵足爲萬里長城、鱗鱗櫓檣、可作邊隅、而意益驕、念益侈、不亦疎乎

聖天子車書一統、海宇率賓、猶温詔慰勉、推心置腹、臺臺備強於鷲島之中、期不奉詔、偃蹇恣肆、與夜郎王問漢、使者曰、漢比、我何大也、若夫蒙備舉動、似不如是、不佞以爲、尙可爲言者、臺臺不反覆於旣撫之後、而徘徊於未撫之先、洵駭辨男子哉、今若歛兵而退、以待

天龍之命、不佞亦當代劉制臺其事、補版上請、全天倫之恩、磨帶礪之錫、鐵券全章、如取如拂、爾公爾侯、爰及苗裔、不特呼筆、文臣不敢留、即從龍諸熱策、血戰數十年、未易致者、臺臺一旦得之、此賊布衣之極、致匹夫之偉業矣、若夫擁烏合之衆、逞噬臂之勢、九重之上、赫然一怒、六師南至、豈願有逆行者哉、抑或懸五等之賞、以待海濱之士、而肘腋之間、豈無懷我好音者乎、存亡利害間、不容髮、願高朋熟思、而審處之、踏出由衷、竝無欺飾、仰祈裁察、不勝企翹

成功答書ヲ謝表ニ附シテ其父芝龍ニ致ス曰ク

嗟嗟曾不思往見貝勒之時、許多好言、竟爾不聽、自投虎口、毋怪乎其今日也、吾父禍福存亡、兄料之熟矣、見其待投誠之人、有始無終、天下共挽、先以禮貌、後遂魚肉、總是挾之一字、兄豈可挾之人哉、固已言之於先、而決於早矣、今又以不入耳之談、再相勸勉、前言已盡、回之何益、但謝表日夜跪哭、謂無可以回復、爲愛、不得、不因、前言而詳明之、蓋自古治天下、惟德可以服人、三代無論矣、漢光武恢宏大度、推誠實融、唐太宗於尉遲敬德、朝爲仇敵、一見而待以腹心、宋太祖時、越王俶全家來朝、二月遣還、羣臣乞留、章疏封固、賜之、皆有裕達規模、故英雄感德、樂爲之用、若專用詐

力、雖可服人、而人未必心服、况詐力之必不能行乎、自入閩以來、與許多
 人馬、費許多錢糧、百姓塗炭、赤地千里、險于往時、茲世子傾國來、已三載、
 殊無奇謀異能、只是補苴破城、建造煙燴而已、一弄兵於白砂、而船隻覆
 沒、再弄兵於銅山、而全軍殲滅、揚帆所到、而閩安便得、羅源殿後、而格商
 授首、此果有損耶、益耶、此不待析而明矣、今欲別順逆、而不知順逆在于
 心、不在於形、試觀姜懷金、假海時行、豈非逆之人哉、大丈夫磊々落落
 之域中、意是誰家之天下、損無數之兵馬、費無稽之錢糧、死億萬之生靈、
 區々爭頭數根之髮、大為失策、且亦量之不廣也、試能略其小、而計其大、
 益地足食、插我辨、將何難、罷兵息民、彼無詐我無疑、如此則奉
 清朝正朔、無非為民生地也、為吾父祖也、文官聽部選、錢糧照前約、又非
 為生民計、為吾父祖也、將兵安插得宜、則
 清朝無內顧之憂、海外刑一天地、見效、果由嚴光、優游山林、高尙其志耳、
 兒志已堅、而言尤實、毋煩再役、乞赦不孝之罪、
 若シ是ノ往復ノ文章ヲ看一看スルトキハ、巡撫招撫ノ真意如何及成功カ其父芝龍ノ幽囚ニ對スル決心
 等以テ其全貌ヲ窺フヲ得ヘシ誠忠ヲ以テ接セサル何ソ成功ヲ勸ルヲ得シヤ
 順治十四年我朝 成功ハ一大銳斷ヲ以テ恢復中興ノ業ヲ成就セシコトヲ謀レリ成功タルモノ敗レテ
 益々勇ナルモノ乎而シテ成功カ業ノ成敗ハ是ノ一舉ニ決セル者ノ如シ
 成功曰ク今日ノ勢ヲ以テ之レヲ見ル時ハ各地郡邑頻リニ得テ頻リニ失フ途ニ了局無クシ知ラス何時
 カ中興ヲ望ムヲ得ヤト參軍吏官潘庚鐘曰ク假令邊地ヲ得ルモ亦タ以テ天下ノ豪傑ヲ呼號スルニ足

ラス若カス數百ノ戰艦ヲ以テ直チニ瓜鎮ヨリ入テ南京ヲ取ランニハ南京一タヒ得ハ彼ノ閩粵浙楚ヨ
 リ以テ黔蜀ニ及フマテ諸豪傑悉ク應セント甘輝大ニ反對シテ曰ク貝勒若シ虛ニ乘シテ來リ攻メハ金
 厦兩島豈能ク全キヲ得ノヤ庚鐘曰ク廣西ノ行在所現ニ孫可望李定國アリ兵ヲ合セテ長江ヲ橫截セバ
 江南ノ半壁我有ニ歸セシテ徒ラニ師ヲ勞シテ自滅ヲ待タシマ馮澄世ハ庚鐘ノ論ヲ以テ未ヲ捨テ本ニ
 就クト贊シ陣永華又タ徒ラニ閩ニ在リテ爭フノ不可ナルヲ以テ進シテ江南ヲ略取スベシト議ス然レ
 トモ甘輝ハ堅ク前說ヲ執テ江南進取ノ不可ヲ說キ衆議一ナラズ途ニ成功ハ庚鐘ノ言ヲ用ヒテ先ツ廣
 西ノ孫可望、李定國ヲシテ滇黔粵楚ノ兵ヲ以テ洞庭ニ出テシメ以テ吾軍ト江南ニ會スルヲ約セシム
 唯タ孫可望、李定國交情睦シカラス為メニ荏苒日ヲ空フセシメ以テ孫可望、李定國九軍ヲシテ廣西
 ニ到リ孫李兩人ニ說クニ私憤ヲ捨テ大義ヲ伸スヘキヲ以テ孫楊廷世劉九軍ヲ行在所ニ至リ請
 フニ成功躬カラ舟師ヲ督シテ直チニ金陵ヲ窺セント欲スルヲ以テ李定國孫可望ニ命シテ楚ヨリ洞庭
 ニ出テ會合シテ聖駕ヲ迎エシメシメコトヲ以テ孫楊廷世劉九軍ヲ引見シテ成功
 カ恢復如何ヲ問フ兩人詳細之レニ答フ皇上ハ成功ガ江南ノ畧取ヲ以テ恢復ノ大業ヲ成サントスル大
 志ヲ嘉シ又タ明朝ノ宗室及舊臣ヲ厚待スルヲ聞キ大ニ成功カ精忠ニ感シ即チ成功ヲ延平一府ノ王ト
 爲ス其他成功部下ノ諸功臣ニシテ侯伯ノ爵位ヲ授ケラレタルモノ十數人皇上ハ余爵ノ禮ヲ鄭重ナラ
 シメン爲メ漳平伯周金湯、大監劉國柱ヲシテ延平王ノ印冊及候顯ヲ持シテ楊廷世劉九軍ト共ニ廈門
 ニ至ラシメタリ順治五年我朝 六月成功船隻百二十兵士四万ヲ以テ金陵侵入ノ途ニ上ル平陽温州ヲ
 犯シ七月半山ノ麓ニ至ル
 半山ノ麓海上常ニ險ナリ傳ヘ云フ海中神アリ崇テ之ヲ爲スト成功意ニ介セシテ過ク果シテ颶風ニ
 遭ヒ船舶破損スルモノ甚タ多シ成功屈セス沿海諸縣ヲ犯シテ進行ス漸ク順治十六年我朝 二月ヲ以
 テ定海關ニ到リ直チニ寧波ニ入り船ヲ焚テ去ル五月四日舟山烈港ニ達シ同月十八日崇明縣ニ到ル崇

明一帯ノ守備ヲ司ルモノハ梁化風ニシテ堅守能ク拒ク成功其ノ容易ニ拔クヘカラザルヲ知ルヤ崇明
 ヲ捨テ順風瓜州ニ入ラント欲ス兜澄世之レニ反對シテ曰ク兵ヲ瓜州ニ進メント欲セバ必ス先ツ崇明
 ヲ拔ク可シ崇明ヲ拔テ蓄積ヲ流通シテ外援ヲ爲スベシ成功曰ク崇明城小ナリト雖モ之ヲ取ル必ス日
 月ヲ遷延ス其間反テ瓜州ヲシテ備アラシム如カス先ツ瓜州鎮ヲ取ランニハ若シ瓜鎮ヲ得ハ則チ江南
 ノ門戸已ニ破レタルモノニシテ勢ニ乘シテ江南ヲ取レバ崇明攻メズシテ自カラ破レント途ニ崇明ヲ
 捨テ瓜州ヲ攻撃スルコトニ決シタリ議遂ニ決スルヤ六月十四日舟師焦山ニ至ル時ニ鎮江操江軍門朱
 依佐意ヲ盡シ防範スト雖モ不意突至セル途ニ拒ク能ハスシテ瓜州陷ル周全斌曰ク已ニ瓜州ヲ得ル勢
 ニ乘シテ鎮江ヲ拔クベシト若シ遲緩セハ彼レ深溝固守徒ラニ士卒ヲ費スベシト成功之ニ從ヒ六月十
 九日親カラ舟師ヲ督シテ鎮江南岸七里港ニ泊シテ先ツ銀山ヲ占領シ進ント鎮江城ヲ圍ム鎮江總兵高
 謙其固守スヘカラザルヲ悟リ城ヲ以テ降ル既ニ瓜州ヲ陷レ又々鎮江ヲ占メ破竹ノ勢ニ乘シテ直チニ
 江南ヲ襲ハントス瓜州途ニ守テ失ヒ鎮江又々陷ルノ報一タヒ南京城内ニ達スルヤ人心大ニ震動ス是
 於テ總督營效忠防備ヲ嚴ニス時ニ操江軍門朱依佐單騎總督ニ見ユ朱依佐ハ嘗テ成功ノ擒トナリテ放
 タレテ歸城セシ者能ク成功カ軍情ニ通ス依テ總督ニ説テ曰ク海賊(成功ヲ指ス)猖獗ナリト雖モ兵數
 多カラズ今辭ヲ卑シ款ヲ納レ投降ノ期ヲ寬フシテ以テ彼レノ志ヲ驕ラシ其隙ニ乘シテ守備ノ方軍ヲ
 立テ大軍ノ來援ヲ請フベシト總督營效忠大ニ之レヲ贊ス此ノ時成功ハ各提鎮ヲ督シテ一舉之レヲ陷
 ノコトヲ期ス忽ニシテ城内一使者報スルモノアリ款ヲ納レ投降スト成功延テ之レヲ見ル使者叩首シ
 テ曰ク大師茲ニ到ル宜シク門ヲ開テ投降スヘキモ奈何セシ我朝例規アリ城ヲ守ル者三十日ヲ過クレ
 バ假令城ヲ失フト雖モ其罪妻孥ニ及バスト今文武諸官ノ眷屬皆ナ北京ニアリ若シ藩主寬大ノ度ヲ以
 テ三十日ヲ緩フセバ必ス門ヲ開テ迎ヘ降ラント成功之レヲ聞キテ其ノ請ヲ容レ猶且ツ告テ曰ク吾レ
 期ヲ寬フスルモノハ信ヲ天下ニ表スル所以ナリ汝等若シ期ニ至リテ降ラサレバ攻入殺戮寸草ヲ留メ

ス使者叩首シテ去ル潘庚鐘曰ク辭卑キモノハ詐ナリ約無フシテ和ヲ請フモノハ謀ナリ降ラント欲セ
 ハ直チニ降ルベシ何ノ猶豫スルヲ用ヒシ宜シク城中ノ空虛ニ乘シテ攻メテ之レヲ拔クベシト成功聞
 カズ則チ諸提鎮ヲ督シテ日夜防護以テ來降ヲ待ツ時ニ城中化風ナルモノアリ化風ハ崇明ノ城守ニシ
 テ先キニ成功カ崇明ヲ攻ムルニ當リテ能ク孤城ヲ死守シテ馳名ヲ博シタル勇將ナリ今南京城ノ危急
 ナ聞キ來リテ授セシ者ナリ常ニ城樓ニ在テ成功カ軍狀ヲ窺ヒ其隙ニ乘シテ突擊セシコトヲ期セリ二
 十一日三更梁化風ハ騎兵五百ヲ率ヒ神策門ヨリ出テ突進シテ余新ノ營ヲ衝ク余新破レテ蕭拱震ノ陣
 ニ投ス拱震出テ迎ヘテ接戰ス拱震又々敗レテ遁ル萬禮報ヲ聞テ來リ授フト雖モ化風已ニ軍ヲ收メタ
 ル後ニシテ途ニ及ハサリキ甘輝、林勝、潘庚等成功ニ勸メテ大舉攻撃セシム成功諸將ヲ分チテ所部
 ヲ定ムト雖モ諸軍ヲシテ動ク勿ラシム越テ二日則チ二十三日化風ハ再ヒ驍騎ヲ率ヒテ直チニ楊祖ノ
 陣ニ迫ル揚祖大ニ苦戰ス然リト雖モ當時ハ休戰ノ際トテ命令アリ曰ク不得吾令擅進兵者罪之ト成功
 カ法ヲ執ルノ嚴厲ナル皆ナ恐レテ違フモノナシ依テ各將皆ナ自己ノ所部ヲ守リテ來リ授フモノナク
 皆ナ曰ク藩主ノ號令ヲ發セサルニ齊擊スルモノハ謬ナリト狼リニ動キ救援應スルナシ而シテ化風ハ
 城中ノ兵ト合シ機ニ乘シテ奮闘シ大ニ成功ノ軍ヲ破ル成功ノ諸軍潰亂シテ殆ント收拾スヘカラス名
 將ノ此役ニ死スルモノ甘輝、潘庚、萬禮、張、英林、勝、藍、衛、陳、魁、李、泌、揚、標、外數名アリ成功
 大ニ勦シテ曰ク我レ敵ノ欺ク所トナリテ茲ニ至ル爾等ノ罪ニ非ルナリト殘卒敗士ヲ收テ鎮江ニ退キ
 亦タ南京ニ進入スル勢ナク鎮江ヨリ下リテ吳淞港ニ泊シ梁化風カ守城ナル崇明城ヲ砲擊ス化風又々
 能ク守リテ降ラス周全斌曰ク城小ト雖モ堅ナリ驟カニ破リ難シ假令此一城ヲ得ルト雖モ亦タ用ニル
 所ナク徒ラニ士卒ヲ損スル耳ト成功ハ謀ノ成ラサルヲ見テ萬斛ノ恨ヲ吞シテ師ヲ卒ヒテ廈門ニ還リ
 遂ニ李明世ナルモノヲ派シテ廣西ノ行在所ニ到ラシメ表ヲ上リテ江南ノ一敗徒ラニ兵ヲ損シ尺土ノ
 伸アルナキヲ述ヘ自カラ前ニ賜フ所ノ王爵ヲ返還ス

成功ハ城南ノ一敗以後金門厦門ニ籠蹙シ轉々驍足ヲ伸シ難キヲ歎シ居タリ時ニ飛報アリ曰ク將軍連
 索ハ成功カ喘息未タ定マラサルニ乘シテ一舉勦討セシメトナリ期シ滿漢ノ兵ヲ卒ヒ己ニ福州ニ到レリ
 ト已ニシテ又タ報アリ曰ク己ニ泉州ニ達セリト於此乎成功ハ是レカ防備トシテ先ツ告示ヲ發シ厦門
 ノ人民ヲ金門ニ移シ厦門ヲ空虛トナシ全カヲ海上ニ集メテ來襲ヲ待ツ將軍連索ノ軍猛ナリト雖モ水
 戰ニ熟セサル途ニ海中ニ孤立セル金門嶼ヲ占領スル能ハスニ敗軍ヲ收メテ去ルニ至ル雖然其後將軍
 連索ノ軍カ再度ノ襲撃ヲ謀ルノ報ハ幾度カ成功ノ耳染ニ接セリ己ニ四百余州清朝ノ版圖ニ歸シ南部
 ノ一隅ニ跳梁セル成功カ一團未タ歸順セス北京政府タルモノ何ソ是ノ厄介ナル一團ヲ勦除セサラン
 ヤ而シテ又成功タルモノ備フル所無クシテ可ナランヤ
 時維順治十七年^{我西治}成功ハ兵官張光啓ヲ使者トシテ大日本ニ到リ援兵ヲ請ハシム然レトモ當時
 鎮港主義ヲ執リタル徳川政府ハ何ソ其請ヲ容レンヤ時ノ將軍家綱ハ無情ニ明朝恢復ヲ双肩ニ擔フ
 タル賊忠ナル成功カ使者ヲシテ要領ヲ得ス手ヲ空シフシテ歸ラシメタリ
 成敗ヲ賭シテ金陵占領ヲ企テ敗レ使者ヲ派シテ恢復援助ヲ請フテ拒マレ成功カ計營ノ苦心亦タ慘憺
 ナ免レス是ノ慘憺ナル苦心途ニ成功ヲシテ他日中興ノ基ヲ開クヘキ一好案ヲ案出セシメタリ是レ他
 ナシ成功ハ彼ノ彈丸黒子ナル金陵厦門ノ島嶼到底天下ノ兵ニ抗ス能サルヲ知り別ニ一根據ヲ求メン
 コトヲ決心セシムルニ至リシ一事ナリ
 是ニ至テ成功ハ或日諸參軍ヲ會シテ曰ク吾夙ニ聞ク臺灣ハ茲ヲ去ル遠カラス若シ師ヲ整ヘテ之ニ據ラ
 バ金門厦門ヲ連ネ進テハ以テ戰フ可ク退テハ以テ守ルベシ是レ豈好箇ノ根據地ニアラスヤト吳豪曰ク
 臺灣ハ前太師芝龍嘗テ跡ヲ寄セシ地ナリ今ヤ荷蘭陀ノ占領スル所トナレリ守備ヲ嚴ニシ赤嵌鯤身ノ地
 或ハ砲臺ヲ築キ或ハ堅城ヲ造リ容易ニ攻ムベカラス况ヤ水路險難船艦破レ易シ之ヲ取ルハ徒ラニ力
 ナ勞スルノミト諫諍措カス成功途ニ之ニ從テ中止ス此ノ有留ナル臺灣割據ノ奇策ハ何ソ能ク成功ヲシ

ヲ永ク中止ノ域ニ沈淪セシムンヤ茲ニ成功ヲシテ三代ノ偉業ヲ臺灣ニ建設セシムヘキ援助者出テ來レ
 リ即彼ノ何斌ナルモノ臺灣ヲ脱シテ厦門ニ來リ成功ニ謁ズ成功其來意ヲ問フ斌曰ク臺灣ハ沃野千里海
 洋ニ横絶シテ實ニ霸王ノ區ナリ豊饒ノ土地耕種以テ兵食ヲ足ラシ四邊ノ外國通商以テ銅錢ヲ輸セバ國
 以テ富マスヘク兵以テ強フスベシ如斯ニシテ十年教養セバ進攻退守具ニ能ク清廷ト相拮抗スルニ足ル
 ヘン而シテ藩主之レテ略取セシムコトヲ欲セバ手ニ唾スヨリ易シト説キ終リテ袖中ヨリ地圖ヲ出シ座右
 ニ獻ス陸地險夷ノ狀水路變易ノ態歷々掌ヲ指スカ如シ成功其言ヲ聞キ其ノ圖ヲ見テ大ニ喜ヒ起テ何斌
 ガ背ヲ撫シテ曰ク公ノ來リ投スルハ實ニ天與ナリ後來必ス報ユル所アルベシ吾ニ成算アリ請秘シテ揚
 言スルコト勿レト則チ何斌ヲ室內ニ留メ人ヲシテ知ラシメザリキ茲ニ於テ成功ハ先キニ吳豪ノ諫ヲ容
 レテ中止シタル臺灣占領ノ評議ヲシテ再ヒ參軍ノ諸將ニ諮詢シ以テ大ニ素志ヲ貫カント欲シ會議ヲ開
 ケタリ
 宣毅後鎮起テ對テ曰ク臺灣占領ノ事前日己ニ述タル如ク砲臺堅固ニシテ水路險惡縱ヘ奇謀アリト雖モ
 用ユル所ナキヲ如何セシ是レ徒ニ其力ヲ費スノミト成功曰ク此レ常俗ノ見今日用テ吾ノ一臂ヲ佐クル
 ニ足ラス黃廷曰ク聞ク臺灣ノ地甚タ深廣足未タ其地ヲ踏マサレバ其情形ヲ審セス若シ吳豪ノ陳ル所ノ
 如クシテ閩人傳フル砲火アリテ船隻必ス砲臺前ヨリ進ムノ外別路ノ達スヘキナクレバ此レ所謂兵ヲ以
 テ敵ニ與フルモ功曰ク此レ亦常見ノミト建威伯馬信曰ク藩主ノ憂アル所ハ諸島ヲ以テ清朝ニ抗シ
 難キニ在リ依リテ先ツ其根本ヲ堅固ニシテ而シテ後其技業ヲ壯ニセシト欲ス此レ則チ終始萬全ノ至計
 ト云フ可シ信ハ北方ノ人ナリ素ヨリ愚ニシテ事ヲ知ラス但タ人事ヲ以テ而シテ論セシニ蜀ニ高山峻嶺
 アリト雖モ尙ホ藤ニ攀テ而シテ登ルヘク旣ヲ捲イテ而シテ降ルヲ得可シ吳ニ鐵鎖ノ江ニ横ハリアル
 モ尙ホ火ヲ用テ燒斷ス可キナリ之ヲ以テ此ヲ推セバ紅毛如何ニ築點布置周密ナリト雖モ之レ破ルコト
 豈ニ別計ナシト云ハシヤ今ヤ將士間暇ニ苦ム此機ニ乘シテ一旅ヲ統ベテ先ツ臺灣附近ニ至リ深ク探偵

ヲナスヘシ倘シ進マテ取ル可クハ則チ力ヲ盡シテ略取スベシ能スレバ歸リ來テ再ヒ謀議ヲ爲ス未タ
 以テ晚シトナサス此レ信ノ管見ナリ成功曰ク此レ乃チ時ニ因テ宜ヲ制シ機ヲ見テ而シテ動クノ論ナリ
 豪復タ曰ク臺灣ハ實ニ豪ノ屢々踏勘セシ地ナリ既ニ其ノ詳况ヲ知ルヲ以テ阻諫ス若シ阻諫セスシテ徒
 ニ其說ニ附會スル如キアリテハ藩主ノ大事ヲ誤ルニ至レバ豪ノ罪實ニ大ナリト甲論乙駁諸將ノ議論一
 致スル能ハス陣永華曰ク凡ソ事ハ必ス先ツ之ヲ人ニ盡シ而シテ天ニ任スベシ今宣毅ノ言ヲ聞クニ是レ
 自身ノ經歷ヨリ細カニ利害ヲ陳シ實ニ守經ノ見ト謂フベシ亦タ主ヲ愛スルノ言ナリ未タ以テ不可ト爲ス
 可カラズ建威伯ノ論ノ如キハ大ニ舟師ヲ興マテ先ツ勢ヲ審ニシテ慮ニ乗シテ觀ハント欲ス乃チ權ヲ行フ
 ノ將略ナリ試ニ之ヲ行ヒ人カヲ盡シテ成敗ヲ天ニ任セヨ此レ一ニ藩主ノ裁決ニアリ揚朝棟亦タ側ニ
 在リ斷行ス可キヲ唱言ス成功大ニ喜ヒテ曰ク朝棟ノ言以テ千古ノ疑惑ヲ破ル可シト又參軍蔡協吉佐兄
 ノ鄭泰ヲ以テ金門ヲ守シメ洪天祐揚儀蔡祿ヲシテ本部ノ兵士ヲ卒ヒテ銅山ニ往キ張進ト協守シテ南來
 ノ兵ニ備ヘシメ富揚、來嘉、何義、陳輝ニ命シテ南ノ方日園頭滄州一帶ヲ守備シテ金門ニ連接シテ以
 テ北來ノ師ヲ防カシム洪旭、黃廷、王奇、林智山、杜輝、林順、蕭泗、鄭肇、柱鄧、會薛、聯桂、陳
 永華、葉享、柯平等及ヒ旭ノ子孫潞澄世ノ子錫範永華ノ姪繩武三人合テ十六人ヲシテ世子鄭經ヲ輔佐
 シテ廈門ヲ守リテ各島ヲ調度セシム時ニ經年二十一成功自カラ馬信、周全斌、蕭拱震、陳蟒、黃昭、
 材明、張志、朱堯、羅蘊章、陳澤、揚祥、薛進思、陳瑞、戴捷、黃昌、劉國軒、洪隍、陳廣、林福、
 張在、何祐、吳蒙、蔡鳴留、親英、謝賢、季胤及襲ヲ領シテ征臺ノ途ニ就ク時ニ順治十八年 我寬文二
 月一日ナリ兵部尙書唐順悅、兵部侍郎王忠孝、浙江軍門盧若騰、吏部給事中華朝薦、古副都御史沈佺
 期、御史御宇遠、光祿寺卿諸葛偉、監紀許國、等并ニ寧靖王、魯王世子瀘溪王、巴東王、留守各提鎮
 參軍文武ノ員辨郊饒祖道ノ禮ヲ行フ初三日午刻成功ノ舟師ハ齊シク遼羅ヲ離レテ洋中ニ入ル初四日早
 朝人ヲシテ桅ニ上リ望看セシム其人報シテ曰ク澎湖見コト未刻ニ至リテ澎湖ニ抵ル直チニ娘媽宮ニ入

ル從フ所ノ諸船悉ク到リテ一船ノ失フ者ナシ成功海岳ヲ祭リ且附近ノ諸嶼ヲ巡視シテ衆ニ謂テ曰ク若
 臺灣ヲ得ハ則チ澎湖ヲ以テ門戶保障トナサン則チ陳廣、揚祖、林福、張在、等ヲ駐メテ澎湖ヲ守ラシ
 ム初七日成功令テ下シテ曰ク本藩恢復中興ノ念ニ切ニシテ先キニ師ヲ起シテ金陵ニ至リ尺土ノ地ヲ得
 ル能ハサルヲ恨ム既ニシテ舳艫數萬ヲ卒ヒ波濤ヲ冒シテ不服ノ區ヲ開カントスル者敢テ海外ヲ貪念ス
 ルニ非ス暫ク軍旅ヲ寄セテ養晦時ヲ待ツノミ皇天及列祖ニ禱リテ其威靈ニ依リ潮水順ニ從ヒ舟師ヲ通
 スルヲ得ル爾等決シテ火砲ヲ疑畏スルナク單ニ本藩カ鎗首ノ向フ所ヲ觀テ進ムベシ初八日早朝全隊ノ
 船隻滿帆ヲ施シ發砲三聲魚貫シテ澎湖ヲ出發ス暫クニシテ遙ニ鹿耳門ヲ認ムルヲ得ルヤ冠帶叩祝シテ
 曰ク成功先帝ノ眷顧ヲ受ク征伐ヲ委セラレ寸土得ルナク茲ニ師ヲ移シテ東征ス是レ他ナシ此ノ塊地ヲ
 假リテ暫ク身ヲ安ンシ再ヒ時ヲ見テ甲兵ヲ整ヘ中興恢復ヲ計ラント欲ス若天命ニシテ在ルアラハ成
 功大ニ願フ所アラントス即チ先キニ禱ル所ニシテ成ル無クンバ直チニ狂風怒濤ヲ起シ全軍ヲシテ覆沒
 セシメヨ若シ將來一純ノ脈アラバ皇天憐ヲ垂レテ我ニ潮水ヲ假シ鎗首ノ向フ所ヲシテ直チニ入りテ礙
 リナカラシメヨ依テ三軍ヲシテ從容岸ニ登ルヲ得シメヨト從容祝シ畢リテ人ヲシテ斗頭ニ於テ竹篙ヲ
 以テ水ノ深淺ヲ探ラシム探水者徐カニ回報シテ曰ク是レ藩主ノ弘福ナリ水北ニ往キテ加ニ漲ル成功復
 タ問フテ曰ク漲水幾許アリヤ曰ク漲水丈餘アリ成功大ニ喜ブ砲ヲ放チ金鼓ヲ播テ進ム但シ成功力ノ
 騰ヲナスモノ蓋シ兵士ヲシテ紅毛ノ炮火ヲ恐ルナカラシメントノ策ニ外ナラサルベシ而シテ漲退如何
 ハ嘗テ何斌ノ言ニヨリ能ク熟知セルナリ何ソ今日ニ於テ更ニ云フヲ要セシヤ又タ密ニ何斌ヲシテ斗頭
 ニ坐シ圖ヲ按シテ紆廻シ探水者ヲシテ點簡セシム徐々照應舵ヲ轉シ帆ヲ揚ケテ赤嵌城ヨリ進ム成功曰
 ク隊ヲ整ヘテ岸ニ登ラント斌詰フテ曰ク急ニ倉庫ヲ圍テ之レヲ奪ヒ然シテ後陣ヲ列シテ兵ヲ進ムベシ
 恐ラクハ焚毀ニ會セシトトテ其ノ赤嵌ヲ守ル描難丁ハ成功カ意外ニモ沿路ニ熟シテ砲臺前ヲ過
 キスシテ上陸スルヲ異ミ且少成功大隊ノ岸ニ登リ軍威赫耀タルヲ見テ直チニ即何機ヲ遣ハシテ鯤身

ヨリ安平ニ至リ樓ヲ請ハシム此時揆一王ハ安平ニ在リ鹿耳門外砲臺森クヲ聞キ臺ニ登リ忽チ船隻旌旗ノ海面ヲ壓シテ來ルヲ見ル雖然水路險惡砲臺堅固ヲ恃ミ成功カ軍容易ニ上陸シ能ハサルヲ信シテ歡笑自若敢テ驚サリシ己ニシテ成功ノ軍上陸シテ軍威赫盛ナルヲ聞クヤ即チ黎英三ヲシテ艦身ヨリ赤嵌城ニ行キ樓ハシム而シテ黎英三ハ三鯤身ニ於テ描難丁カ遣リタル請使即何機ニ會シ相伴フテ揆一王ノ處ニ到ル即何機曰ク成功カ軍實ニ天ヨリ降り來ル如キ感アリ全力ヲ盡シテ防禦スルニ非サレバ能サルナリ王直チ兵ヲ派シテ往援セシム而シテ此時成功ノ軍ハ赤嵌城ヲ包圍シ守備描難丁ヲ降伏セシメ狂進安平ニ迫ラントス揆一王頻リニ大砲ヲ放チテ固守ス砲丸ニ中ツテ死傷スルモノ甚タ多シ於此乎成功ハ砲臺ヲ築キ之レヲ防キタリ八月ニ至リテ揆一王ハ赤嵌城ヲ回復セント欲シテ全力ヲ注キテ水陸來リ攻ム遂ニ破レテ而シテ退ク十一月成功通事李仲ヲシテ揆一王ヲ説キ兵ヲ撤シ臺灣ヲ去ラシム則チ荷蘭陀ト約シテ私積ニ屬スル珍寶珠銀盡ク載セ去ラシメ以テ臺灣全島ヲ手裡ニ収メタリ庫銀火砲皆ナ冊ニ照シテ繳納シ其ノ金門廈門各島ハ鄭經之シテ監シ臺灣全島ハ成功自カラ之レヲ治ム此ニ至リテ臺灣ヨリ金厦兩島ヲ連チテ南海洋面ノ霸權ヲ握ルニ至レリト云フベシ

鄭成功臺灣ヲ占領シテ大ニ經綸ノ策ヲ講ス先ツ芝莖ノ長子鄭省英ヲシテ府ノ尹令トナシ望安ヲシテ安平鎮ノ監守トナス又々周全斌ヲ以テ承天府南北諸路ノ總督ニ任セリ而シテ成功ハ自カラ何斌、馬信、揚祥、蕭拱宸等ヲ率ヒ十日間ノ口糧ヲ備ヘ新溝目加留灣地方巡視ノ途ニ上ル成功ハ備仗ヲ盛大ニシテ護衛トシテ手銃三百牌手三百弓箭三百ヲ從ヘリ巡視到處土番各社羅列シテ恭迎ス成功與フルニ煙草及布帛ヲ以テシ且ツ好言之ヲ慰ム土蕃等皆チ跳躍歡舞ス成功其ノ社里ヲ觀ルニ悉ク茅ヲ斬リ竹ヲ編ミ矮屋ヲ築造シ鞏固ナラスト唯モ疎林修竹アリテ幽趣閑雅誠ニ三代以上ノ人民ナリ遂ニ新溝目加留灣ヨリ蕭龍麻豆ノ各所ヲ勘踏シ大ニ沃野豐饒開墾ノ有望ナルヲ認メタリ次ノ日大ニ諸督鎮參軍ヲ集メ事ヲ議ス成功曰ク大凡ソ國家ヲ治ムルハ食ヲ以テ先キト爲ス苟モ家ニシテ食ナクハ父子夫婦以テ和ス可カ

ラス國ヲ治ムルニ苟クモ食ナキ時ハ忠君愛國ノ士アリト雖モ亦其國ヲ治ムル能ハズ今ヤ上ハ皇天ノ垂庇ニ托シ下ハ諸君ノ努力ニ頼リテ此地ヲ得タリ然レトモ食ヲ求ムルノ家衆クシテ而シテ之ヲ作ルノ家寡キトキハ一朝糧餉ノ匱乏ニ會シ兵師飽食セザレハ其ノ國家ヲシテ與固ナラシメント欲スルモ得ヘケンヤ昨日自ラ地方ヲ勘踏シ遍ク情形ヲ審ニシテ大ニ地味ノ膏腴ナルヲ認ム若シ寓兵于農之法ヲ用ヒテ開墾スルトキハ庶クハ糧餉置キ事ナキヲ得ン斯ノ如クハ兵士多シト雖モ糧食足ル可シ然シテ後靜カニ墾闢ヲ窺フテ進取ノ計ヲ策スル事ヲ得黃安曰ク疆境ヲ開キ土地ヲ闢キ以テ業ヲ萬世ニ垂ル諸將誰カ唯唯タラサランヤ雖然寓兵于農之法果シテ如何請フ致テ垂レヨ成功曰ク人民ヲ量リテ土地ヲ授ク土地ヲ量リテ賦ヲ取ル是古代ノ法ナリ商ニ至リテ變シテ井田ノ法トナル雖然是レ亦九一ノ法ニシテ兵民ヲ區別セズ秦ニ至リ井田ヲ廢スルヤ始テ兵ト民トノ區別ヲ爲ス民ハ納糧ノ任ニ當リ兵ハ征戰ノ責ニ任ス後漢唐宋元ノ如キ屢年征戰相繼キ糧餉スル者匱乏スルニ至ル故ニ善ク將タル者ハ屯ヲ興シテ以テ兵ヲ富マサルヲ得ス諸葛孔明ノ斜谷ニ屯シ司馬ノ淮南ニ屯シ姜維ノ漢中ニ屯シ杜預ノ襄陽ニ屯スルカ如キ悉ク是レ兩敵相對スル際轉運維ノ難ク爲メニ士卒ニ飢色アルヲ恐レ兵ヲ農ニ寓シテ以テ敵ニ備フナリ今ヤ臺灣ハ乃チ開創ノ地ニシテ海濱僻處スト雖モ安ソ能ク戰ヲ忘ルヘケンヤ暫ク待衛二旅ノ兵勇ヲ以テ安平鎮承天府二處ヲ守備セシメ其餘諸鎮ハ皆ナ鎮ヲ按シテ地ヲ分チ地ヲ按シテ開墾セシム輪流迭更セハ皆ナ閑丁ナク亦タ逸民ナシ竹ヲ植エテ社村ノ地ヲ作り茅ヲ斬リテ家屋ノ構トナス而シテ生牛ヲ牧シ之ニ教ユルニ犁ヲ以テセバ野ニ曠土ナク軍ニ餘糧アラフ正丁ニシテ伍ヲ出テ、田ヲ耕サノトテ願フモノハ他人ヲ以テ之レヲ補フテ許ス從來其鄉ヲ名クテ社ト云フ其畝ヲ呼テ甲ト云フ必ス改ムルヲ要セズ一甲ハ三十一畝二尺五寸一畝ハ東西南北皆ナ一丈二尺五寸トス是則チ前代法則ナリ吾カ版圖ニ歸シテ又タ此レヲ以テ則法ト爲スベシ開墾三年ヲ俟テ其上中下三則ニ照シ賦稅ヲ取ル但シ此ノ三年ノ內收成スル者ハ十分ノ三ヲ以テ正用ニ供セシム又農ニシテ隙アレハ武事ヲ訓練セシメ警アレバ則チ干戈ヲ

取リテ以テ戰ヒ警ナクレバ則チ未テ取リテ耕ス兵ヲ農ニ寓スルノ意蓋シ此ノ如シ馬信諸鎮咸ク起テ聯シテ曰ク藩主辛勤ヲ惜マズ陷海師ヲ興シ海外ノ乾坤ヲ開闢シテ子孫ニ遺ス是レ誠ニ古來未嘗有ノ事業ナリ今又タ兵ヲ農ニ寓スルノ法ヲ立ツ實ニ萬世ノ良法誰カ能カ勉之レテ勤メサルモノアラシヤ即日貼分シテ各地方ニ通シ各鎮ヲシテ開墾ニ從事セシメタリ

清朝廷ハ成功ヲ勦除セント欲シテ能ハス招撫セント企テ成ラズ曠日彌久餘燼再ヒ臺灣ニ於テ熾ナラントスルヤ大ニ警戒スル所アリテ私憤洩ス所ナク北京ニ幽囚セラレタル鄭芝龍ヲ殺戮セル如キハ實ニ不情ナル舉動ト云フヘシ則チ芝龍ハ其子成功ト遙ニ聲援ヲ通シ不軌ヲ謀レリトノ口實ヲ以テ殺サレタリ

延テ子弟十一人ヲ斬ニ處シ燕京ノ街頭ニ棄市セリ是實ニ順治十八年十月ニシテ其ノ凶計カ成功ノ耳ニ達シタルハ康熙元年正月ナリシ成功ハ是ノ訃報ヲ聞キ頓足臂踊シテ北ヲ望ミ大ニ哭シテ曰ク吾父ニシテ若シ見カ諫ヲ容レテ清廷ニ降ル無クンバ何ゾ身ヲ殺スノ不幸ニ至ランヤ雖然生命ヲ今日ニ延スヲ得ル實ニ不幸ノ幸ナリト文武官辨皆ナ喪ヲ服シテ敬禮至ラサルナシ

康熙元年四月兵部司務林英斐ヲ削リテ僧トナリ逃レテ雲南ヨリ臺灣ニ來リ成功ヲ見ル成功始メテ永歷王(桂王)ノ居狀ヲ審スルコトヲ得タリ

成功ハ林英ニ問テ曰ク永歷王廣西ヲ去リテ雲南ニ入ル知ラス當時恢復ノ事業如何ト林英答テ曰ク敗軍ノ後皇上ヲ奉シテ峒島ニ到ル峒島ハ諸蠻雜處ノ地ナルヲ以テ茲ニ一帝國ヲ立ノコトヲ計レリ而シテ皇上ハ忠臣李定國ノ諫諍スルニモ關セズ奸臣沐天波、馬吉祥、李國泰ノ言ヲ信シテ緬甸ニ入レリ聞ク其後吳三桂カ緬甸ヲ攻ムルヤ緬甸之ニ通シテ皇上辱ヲ受タリト成功之ヲ聞悲テ曰ク皇上李定國ノ言ヲ信セズ執迷茲ニ至ルヤ時ニ馬信成功ニ謂テ曰ク皇上已ニ難ヲ蒙ル宜ク祭奠ヲ行ヒ正朔ヲ改ムベシト成功曰ク不可ナリ皇上ノ蒙難ハ單ニ林英ノ耳聞ニ過キズ今日妄舉事ヲ行ヒ後來聖駕來リ臨ムアラバ如何處セントスルヤ成功明朝恢復ニ熱中シ片時モ忘レザル精誠誰カ稱歎ヒサランヤ

明朝恢復ノ事業是ノ精忠ナル鄭成功ヲ措テ他ニ求ムベクンヤ成功ガ倒ル時ハ明朝恢復ノ望ヲ絶ツ時ナリ而シテ明朝恢復ノ望ヲ絶ツヘキ不幸ナル時機ハ來レリ

康熙元年五月一日ハ何等ノ不幸ナル日ゾ成功ガ風寒ニ犯サレタルハ實ニ五月一日ナリ是ノ日病ヲ強テ高臺ニ登リ千里鏡ヲ以テ澎湖ヲ望ム脚リニ問テ曰ク船隻來ルヤ否ヤト越テ八日又ク高臺ニ登リテ望觀之レテ入フス下リテ書室ニ入り冠帶ヲ着ク威儀ヲ正太祖ノ祖訓ヲ出シ謹テ禮拜シ畢テ胡床ニ坐シ左右ヲ見テ曰ク吾レ何ノ面目アリテ先帝ヲ地下ニ見シヤト兩手ヲ以テ其面ヲ掩ヒ遂ニ死ス左右驚テ其ノ弟襲及ヒ黃安馬信ニ報ス馬信直チニ紅帛ヲ以テ之レヲ蓋ヒ文武ノ百官ニ通知ス皆ナ痛哭セサルハナシ哀ヲ擧テ厚ク祭奠ヲ行フ

鄭經時代

鄭成功ノ後裔ヲ襲フテ臺灣ノ經綸ニ當リシハ其長子鄭經ナリ然リト雖モ襲裔ニ關シテハ鄭經ト成功ノ弟襲護理トノ間ニ紛争ヲ生セリ暫ラシ其始末ヲ記シテ而シテ後鄭經ノ經綸ニ及ハント欲ス

始メ成功ノ訃音廈門ニ達スルヤ各島擧クテ哀ヲ表シ直チニ設位掛孝ノ禮ヲ行ヒ又々世子鄭經ヲ推シテ君トナシ位ヲ襲カシメタリ然ルニ在臺ノ諸將中不軌ヲ謀ルモノアリ鄭成功ノ遺言ト稱シテ成功ノ弟襲護理ヲ擁シテ東都主トナス於此乎廈門ニ一主臺灣ニ一主兩主相争フニ至ル夫レ鄭經ハ成功ノ實子世襲ニ於テ何ノ間然スル所アラシヤ而シテ襲護理ガ衆心ヲ壓シテ臺灣ニ於テ東都主ト自稱スルモノ亦口實トスル所非スハアラス試ニ世子鄭經カ人物性行ヲ左ニ記述スベシ

鄭經ハ仁慈謙恭ニシテ學ヲ好ミ射ヲ善ス然リト雖モ嚴毅果敢父成功ノ風ニ似ス而シテ其闊門ノ修ラサル如キ尤モ父成功ニ似サル處ナリ鄭經ハ康熙順悅長子ノ女ヲ娶リテ妻トナセリ妻ハ端莊靜正ノ資性ナリ依テ相陸シカラス外ニ狡童驪婦ヲ蓄テ遊樂ニ耽ケレリ其尤モ甚シキモノハ鄭經四弟ノ乳母陳氏ナルモノアリ姿色窈窕言平韻鄭經密カニ陳氏ニ通シ恰モ佳偶ノ如シ斯ノ如ク閩中狼亂ヲ極メシカハ百官皆ナ

批難セサルナシ此ノ醜聞一タヒ臺灣ニ傳リ成功ノ知ル處下ナルヤ成功憤怒已ム能ハス立ロニ都事黃毓
ヲ差遣シ董夫人(成功ノ妻)鄭經乳母ノ陳氏及ヒ陳氏ノ生ム所ノ兒ヲ斬戮以テ法ヲ正サシム都事黃毓命
ヲ奉シ先ツ金門ニ到リ金門ヨリ鄭泰ヲ伴フテ廈門ニ達ス廈門ニ在ル黃廷洪旭ノ盟命令ヲ聞テ駭然タリ
假令鄭經ノ閩門不修ノ罪アリ又タ董夫人治家監視ノ道ヲ失フト雖モ是ヲ以テ斬ニ處スルニ忍ヒシヤト
途ニ鄭泰ハ黃毓ト相議シテ陳氏及其兒ヲ斬ニ處シテ復命シ董夫人及小主鄭經ノ如キハ哀ヲ請フテ救濟
スヘシト則チ陳氏及生兒ヲ斬リ臺灣ニ歸リ復命ス成功允サスシテ佩ル所ノ劍ヲ黃毓ニ與ヒ再ヒ廈門ニ
至リテ必ス董夫人及鄭經ヲ斬ニ處スヘキヲ命ス黃毓再ヒ金門ニ到テ躊躇ス鄭經之レヲ聞テ黃毓ヲ拘禁
ス成功又タ周全斌ヲ遣シテ法ヲ正サシム全斌又タ鄭經ノ執フル所トナレリ斯ノ如ク罪科ノ完了セサル
前ニ成功ハ濫然トシテ逝クテ依テ果サス實ニ成功カ法ヲ執ル嚴ニ過キルモノアリテ親眷臣下ニ於ケル
敢テ假借スル所ナカリキ

以上ノ如ク鄭經素行修マラス且ツ成功カ嚴肅ナル呵責ヲ受ケテ未タ其罪科ノ減セサルヲ以テ襲護理カ
機トシテ不軌ヲ謀リタル所以ナリ其鄭經ノ行フ所ヲ視ルニ良ニ人ノ上ト爲ルニ堪ス又曰島中ノ世子兵
ヲ弄シテ父ヲ拒ム臺灣獨リ兄ノ後ヲ承クテ統ヲ繼クヘカラサランヤトハ當時鄭經ヲ中傷スル好材料
ニシテ謀叛者ノ依テ以テ口實トナセル所ナリ其襲護理ノ服心トシテ屬スルモノハ蔡雲、李應清、曹從
龍、張曠ノ四人ニシテ之レヲ助勢スル將士ハ黃昭、蕭拱宸アリ其他ノ諸將ハ陰カニ兩端ヲ持シ、觀望
ヲナセリ獨リ黃安心ナルモノ陽ニ從ヒ陰ニ忍リテ人ヲ派シテ廈門ニ至リ連ニ兵ヲ整ヘテ來ルヘキヲ鄭
經ニ告ク鄭經報ヲ聞キテ直チニ兵ヲ起シ攻入セント欲ス而シテ此時一警報アリ總督李泰率ハ成功カ死
ヲ好機トシテ兵ヲ提テ福州ヲ發將ニ泉州ニ到ラントスト己ニ東ノ方臺灣ニ不軌ヲ謀ルモノアリ北ノ方
大兵ノ襲來スルアリ内憂外患併ヒ至ル鄭經ノ胸中如何處セントスルヤ

時ニ總督李泰率ハ大軍ヲ以テ鄭經ヲ討伐スルニ先チ李振華及林忠ヲシテ招撫使トナシ廈門ニ至リ鄭經

ニ説カシメ曰朝廷信ニ人ヲ待ツ汝今マ蓬髮シテ投降セハ賜フニ厚祿ヲ以テシ叙スルニ高爵ヲ以テスベ
シト鄭經ハ朝鮮ノ例ニ依リテ髮ヲ削ラスシテ臣ト稱セシメト要求ス李振華林忠直チニ歸リテ鄭經ノ
要趣ヲ總督李泰率再ヒ林忠ヲ遣リ再議セシム其議スル所ハ鄭經ハ交渉員一人ヲ派シ今日マテ陷シ入レ
タル州縣ノ印信ヲ持シテ北京ニ到リ協議スヘキヲ勸告スルニアリ鄭經ハ此勸告ヲ聞キ鄭泰洪旭等ト密
議シテ曰ク現ニ内訌蕭牆ノ内ニ起レリ宜シク招撫和ヲ交渉テシテ苟且遷延セシナ其間ニ乘シテ臺灣
ノ内亂ヲ靖定シ然ル後チ大ニ畫策スル所アラント是ヲ陽ニ和シテ陰ニ違フモノ豈妙計ニ非サヤト則チ
揚來嘉、吳陰兩人ヲ使者トシ今日マテ得タル各州縣ノ印璽十五顆ヲ持シテ林忠ト共ニ廈門ヲ出發セシ
メタリ己ニ一時ノ奇計ヲ以テ漸ヤク李泰率ノ來襲ヲ免カレ外患ノ一方ヲ切り抜ケタリ是ヨリ鄭經ノ策
スヘキモノハ臺灣ノ内訌ヲ靖定スルニ在リ

鄭經ハ招撫和ヲ交渉テナシテ遷延セシメ其間ニ乘シテ臺灣ノ内訌ヲ靖定セシメトナ期スルヤ金廈各
島ノ統轄ヲ鄭泰、洪旭、黃廷、王秀奇ニ委シテ鄭經自カラ諸軍ヲ督シテ臺灣ニ向テ出發ス先ツ澎湖ニ
至リテ諸軍ヲ裝ヘ策戰ヲ議ス

陳永華曰ク凡ソ事ハ必ス先ツ禮ヲ以テシ而シテ後兵ヲ加フレバ出師名アリ今マ藩主新喪ノ時國家其人
ナシ諸將ガ襲護理ヲ推シテ軍民ヲ彈壓スル理應サニ然ルヘキナリ依テ一應通知ヲ爲シテ各官ノ舉動如
何ヲ看テ始メテ兵ヲ進ムベシ若シ通知ヲ爲サズ驟然兵ヲ進ムル亦タ人主ノ所爲ニ非サルベシ全斌曰ク
陣參軍ノ言フ所實ニ至論ナリ若シ通知セザレバ是レ故無クシテ自カラ疑忌ヲ生シ亦親眷ヲ待スル所以
ニ非ズ况ヤ襲爺ハ諸公ノ推舉ニヨリ自カラ專ニセシモノニアラサレハ假令黃安ノ密報アリト雖モ悉ク
信ズヘクンヤ鄭經曰ク若シ二公ノ指示無レバ舉動輕卒笑テ四方ニ貽セシ也ト即チ禮官鄭斌ヲシテ諭ヲ
齎ラシ臺灣ニ向ハシメタリ鄭斌臺灣ニ到リ布告シテ曰ク不日世藩親カラ六師ヲ統テ臺灣ニ來リ喪ニ走
ル故ニ各鎮守土者ハ宜シク本處ニアリテ位ヲ設ケヨト列坐ノ諸將觀望敢テ口ヲ開クモノナシ獨リ黃

昭、蕭拱震二人争テ曰ク世子ニシテ大統ヲ繼ク正理ナリ誰カ之レニ背カザヤ然リト雖モ世子嘗テ國ヲ守リテ人倫ヲ破リ先王ノ大怒ニ遭フ已ニ再度ナリ而シテ世子悔過自新スル能ハズ反テ兵ヲ擁シテ反抗ス其舉動先王ヲシテ日夜憂慮遂ニ恨ヲ飲テ死ニ至ラシメタリ先王己ニ世子ノ不肖ニシテ人ノ上タル能ハサルヲ知ルヤ遺言シテ位ヲ其弟襲ニ傳フ諸將敢テ異心ヲ生スル勿レ況ンヤ襲爺ハ仁慈勇敢先王ノ愛慕スル所ナリ今マ亡兄ノ遺命ヲ承テ亡兄ノ大統ヲ繼ク煌々タル遺言敢テ之レニ逆ハンヤト假造ノ遺言ヲ書載シタル片紙ヲ鄭斌ニ交ヘテ澎湖ニ回ラシメタリ鄭斌歸リテ黃昭、蕭拱震ノ二將拒命ノ情况ヲ報告ス全斌之レヲ聞テ曰ク出師名アリト即チ諸鎮ニ命シテ出師ノ準備ヲ爲サシメタリ鄭經カ軍中能ク臺灣ノ地形ニ熟スルモノハ周全斌ヲ推シテ第一トナス全斌ハ嘗テ鄭成功ト共ニ臺灣ニ駐在セシコトアリ全斌ハ彼ノ敵將黃昭、蕭拱震カ智謀ニ富ミ險ニ據リ固守スルヲ知ルヤ灣頭ニ泊シテ敢テ上陸セシメサリシ時大霧天ヲ蔽ヒ咫尺ヲ辨セス周全斌急ニ將士ニ命シテ深霧ヲ犯シテ枚ヲ啣ミ上陸セシメタリ黃昭ハ水聲人語ヲ聞キ陣ヲ列チ拒戦ス鄭經ノ軍殺傷ヲ被ムルモノ甚ダ多シ全斌屈セス兵ヲ勵シテ戰ヒ黃昭遂ニ流矢ニ中リテ死スルニ至ル己ニシテ天白ク霧霽レテ朝々タル天氣トナレリ全斌ハ陣頭ニ立テ疾呼シテ曰ク世藩(鄭經)茲ニ來リ黃昭己ニ死セリ速ニ戈ヲ倒ニシテ來リ投セヨト諸將皆ナ曰ク此子ハ吾主ノ世子ナリ往テ之レヲ迎フヘシト來リ從フ者甚ダ多シ鄭經厚ク之レヲ待禮ス又タ鄭經ハ鄭斌ヲシテ襲理ヲ迎ヘシメタリ襲理來リテ鄭經ヲ見ルヤ相抱テ哭シテ曰ク奸人ノ爲メ骨肉ヲ離閉セラレタリ自後鄭經カ襲理ヲ待ツ舊ノ如クシテ敢テ變スルナシ各鎮ノ諸將皆ナ來リ仰テ人民大ニ脫服ス即チ奸人ナル蕭拱震ヲ搜索シテ之レヲ斬リ以テ衆ニ示シ其餘問フ所ナシ此ニ至リテ臺灣ノ内訌大局ヲ結フヲ得タリ

鄭經ハ己ニ臺灣ノ内患ヲ鎮定シタルカ故ニ安平鎮ノ防備ヲ統領顏望忠ニ託シ其他承天府及南北ニ路兵馬行政ノ權ヲ勇衛黃安ニ委シテ提理セシメ自身ハ一應廈門ニ赴キ一時彌縫ヲ以テ防キタル外患ニ當ラントス其鄭經カ容易ニ臺灣ノ内憂ヲ壓シテ廈門ニ歸ルヤ廈門各島ノ將帥來リ賀シ大ニ歡迎セリ獨リ鄭泰親親ノ志ヲ抱キ病ト稱シテ來リ賀セサルヲ以テ計ヲ設ク擒ニシテ殺ス而シテ事平ク己ニ内憂ヲ防キタリ是ヨリ以後決スヘキモノハ唯タ臺灣及廈門各島ヲ舉テ北京政府ニ歸順スルヤ否ヤノ問題ニシテ所謂外患ニ當ルヘキ時機ハ迫リ來レリ固ヨリ一時ノ計策トシテ使テ北京ニ送リ和ヲ講シタルモノ真心歸順ノ意アラサルベキ舉動自カラ反抗ニ屬シ嘗テ北京政府ノ間ニ立テ交渉セル鄭泰ヲ謀殺シタル如キ北京政府ノ威觸ヲ害セシナリ依テ締和使トシテ派遣セラレタル揚成喜吳陰ノ兩人ハ鄭泰ノ殺サレタルヲ聞ヤ驚テ廈門ニ歸ラス直チニ北京政府ニ降ル此ニ於テ乎締和ハ遂ニ破レタリト知ルヘシ

康熙二年 我寛文三年 七月蘭人管テ鄭成功ノ逐フ所トナリテ臺灣ヲ撤去セシ怨恨措キ難ク機ヲ看テ恢復ヲ計ラソトナリ今マ征討ノ議アルヤ即チ總督ニ請フテ先鋒タラソトテ欲ス途ニ總督ハ荷蘭陀ノ軍ヲ合セテ來リ攻ム戰艦海ヲ壓シ廈門島ヲ圍ム鄭經奮戰防禦スト雖モ一敗守リテ失ヒ途ニ廈門島ヲ撤シテ銅山ニ退クニ至ル敵兵廈門ヲ占領スルヤ大ニ暴ヲ行ヒ荷蘭陀人最モ甚シク凡ソ廟宇神佛像破毀ヲ蒙ラサルナシト云フ

康熙三年 我寛文四年 鄭經銅山ニ退キ竊カニ大勢ヲ熟察スルニ人心日ニ散シテ募兵以テ大兵ニ抗シ難キヲ知ルヤ陳永華、馮錫范ヲシテ董夫人及ヒ鄭氏一家ノ家族ヲ護シテ先ツ臺灣ニ至ラシム又タ當時明朝皇室ノ諸親王ニシテ鄭氏ニ寄寓セル寧靖王瀝溪王魯王ノ生子ノ如キ皆ナ渡臺ス其他居住人民ニシテ德ヲ慕ヒ道ヲ守リテ相從ハソトテ欲スルモノ皆其願意ニ應シテ船舶ヲ發シ護送スルコトトナセリ依テ紳士ニシテ王忠孝、辜朝薦、沈佺期、郭貞一、慮若騰、李茂春等隨從渡航ス其他移住ノ人民甚ダ多シ時勢此ニ至リテ鄭氏ハ大陸連絡ヲ離レテ臺灣ノ一隅ニ割據スルニ至レリ此時周全斌黃廷等清朝ニ降ル己ニ臺灣ニ據ル是レカ防備ヲ謀ラサルベカラズ而シテ臺灣ノ防備ニ欲クヘカラサルハ澎湖ノ守備ナルヲ以テ第一著手トシテ澎湖島ニ砲臺ヲ築キ守兵ヲ置キ薛進思戴捷、林陞等ヲシテ守ラシメ次テ必要ナ

ルモノハ臺灣沿岸ノ警戒ニアルヲ以テ大ニ防備ヲ施セリ此時清朝ノ軍進メテ臺灣ヲ攻メ克クズシテ退
 康熙四年 我寬永五年 正月鄭經ハ臺灣割據カ明朝恢復ノ基業タルヲ以テ臺灣ニ本據ヲ占ムルト同時ニ文武百
 官ヲ率テ安平鎮ニ於テ永歷王(桂王)ニ向テ遙拜朝賀ノ禮ヲ行ヒ又皇室諸親王ノ爲メニ第宅ヲ築キ其他
 隨從移住民ノ爲メニ各荒地ニ分配シテ大工事ヲ起サシム
 鄭經ハ奉スル所ノ主君ヲ明ニシ又布シ所ノ政策ヲシテ整ハシメンカ爲メ朝閣ノ組織ヲ立テ六官ヲ設ク
 洪禔(洪旭ノ子)ヲ吏官トナシ陳繩武(陳永華ノ姪)ヲ兵官トナシ楊英ヲ戶官トナシ葉亨ヲ禮官トナシ柯
 平ヲ刑官トナシ謝賢ヲ工官トナス劉國軒ハ左武衛ニ薛進思ハ右武衛ニ柄祐ハ左虎衛ニ各々任テ分ク職
 ヲ授ク事務ニ就カシム惜シムラクハ此ノ經營開緒ノ時ニ當リテ有力ナル洪旭溘然瞑目セシカ如キハ鄭
 經ノ最モ痛惜スル所ナリ然リト雖モ尙陳永華ノアルアリ大ニ經營起業ヲ施シタレハ臺灣ノ開明是ヨリ
 見ルヘキモノアリ

參軍陳永華勇衛ト爲ル永華ハ浯州ノ人ニシテ陳鼎ノ子大ニ經濟ノ術ニ富ム又タ鄭經ノ信任スル所トナ
 リテ親ラ南北兩路ノ各社ヲ經歴シテ諸鎮ノ兵士ヲ勸メテ開墾ニ從事セシム其五穀ヲ栽植シテ糧類ヲ蓄
 積セル甘蔗ヲ插置シテ砂糖ヲ製造セル皆ナ永華力大ニ經營ヲ務メタルモノナリ又タ臺灣ノ煎鹽其味苦
 澁ナルカ故ニ更ニ瀨口地方ニ坵埕ヲ修築シテ海水ヲ潑シテ暴酒シテ製鹽ヲナサシム如斯諸事漸ヤ緒
 ニ就クヤ永華ハ鄭經ニ告テ曰ク開闢ノ業漸ヤ緒ニ就キ屯墾ノ法略々其道ヲ得タリ依テ是ヨリ爲スヘ
 キノ急務ハ廟及ヒ學校ヲ建立スルニ在リ鄭經曰ク荒服新創ノ地狹促ニシテ人民稀少ナリ之レテ後日ノ
 業ニ待タノ永華曰ク昔シ成湯ハ百里ヲ以テ王タリ文王ハ七十里ヲ以テ興ルル豈ニ地方ノ廣濶ニ關セシヤ
 國君ノ賢能ヲ好ミ人材ヲ求メテ能ク政務ヲ輔佐セシムルニ在リ今臺灣ハ沃野數千里遠ク海外ニ濱シ且
 ツ其風俗ハ醇其土地ハ豊故ニ國君ニシテ能ク賢者ヲ舉用シ依テ以テ政務ヲ輔佐セシメ十年教養セハ其

成果二十年ニシテ中原ト相ヒ並肩スルコトヲ得ルヤ必セリ何ソ其地ノ廣狹人民ノ多少ヲ論セシヤ今既
 ニ食足ル則チ當ニ之ヲ教ユヘキノ時ナリ若シ逸居教ヘ無レハ何ソ禽獸ト異ナラン須ク地ヲ擇ンテ聖廟
 學校ヲ設立シテ人材ヲ收メハ庶クハ國ニ賢士アリテ世運日々昌大トナルヘシ經大ニ悦ビ陳永華ノ請ヲ
 允シ地ヲ擇ンテ聖廟ヲ興建シ又タ學校ヲ承天府鬼仔埔上ニ築造ス
 康熙五年 我寬文六年 正月ニ至リテ先師聖廟始メテ成就スルヲ見ル

聖廟ノ旁ラニ明倫堂ヲ築ク其他各社ニ命シテ學校ヲ設ク教師ヲ延キ弟子ヲシテ書ヲ讀シム斯ノ如ク文
 教ヲ獎勵スルト同時ニ學制ヲ立テ兩州ニ於テ三年ニ兩度ノ試験ヲ行ヒ其學生ニシテ州試ニ及第スルモ
 ノハ府ニ送リ府試ニ及第スル者ハ院ニ送ル院試ニ及第スルモノハ進ンテ大學ニ入ルコトヲ允ス仍テ三
 年ニ於テ中試ヲ取ルモノハ六官ニ補スルヲ得ルノ方法ヲ立ツ鄭經ハ陳永華ヲ以テ學院トナシ葉亨ヲ國
 子助教トナシ教育ヲ獎勵セシム此レヨリ臺灣ノ人民始メテ學ヲ知ル

陳永華ハ鄉進紳士倪俊明進士李其蔚二人ヲ聘シテ參軍トナシ鄭省ヲ以テ宣慰トナシ大ニ税法ヲ改革シ
 渡稅酒稅及猪牙稅トノ法ヲ設ク又タ臺灣ノ事例ニ照シ各人皆チ丁銀ヲ負擔ス此丁銀ヲ毎月每人五分ト
 定メ名ケテ毛丁ト云フ其他船隻ノ丈尺ヲ計リテ稅ヲ徵ス是ヲ槩類ト云フ

八月呂宋國王巴禮僧ヲシテ臺灣ニ至リ教會堂ヲ建テ耶蘇教ヲ布教セシムコトヲ請フ鄭經賓客ノ禮ヲ以テ
 厚ク之ヲ待ツ蓋遠人ヲ柔クルノ意ニ基ク而シテ陳永華ハ巴禮カ詐術ヲ用ヒテ化シ陰カニ覬覦ヲ抱クヲ
 以テ布教ヲ禁セシムコトヲ主張スト雖モ鄭經之ニ從ハズ笑テ曰彼レ能ク人ヲ化セシヤ我能ク彼ヲ化スト
 巴禮ニ賜フニ衣冠ヲ以テシ穿テ入朝セシム巴禮自國ノ衣冠ヲ脱シテ賜フ所ノ衣冠ヲ著シ臣禮ヲ執テ鄭
 經ニ見ユ鄭經約ヲ立テ規ヲ設ク關擾ヲ廢ス勿ラシム巴禮一トシテ違フ無ク唯々トシテ從フ蓋シ傳教使
 カ布教ノ爲メ盡スノ巧ナル以テ知ルヘシ是レ荷蘭時代ニ注流シタル耶蘇教カ驅逐セラレテ再ヒ進入
 シタルモノナリ臺灣ニ割據シテ大陸ノ連絡ナク貨物販賣ノ途絶ヘ交通運輸ノ道塞カリ不便言フヘカラ

ス鄭經カ此一活路ヲ開クニカテ用ユルヤ久シ江勝ナルモノアリ漳浦ノ人数百ノ部下ヲ集メテ厦門ノ一隅ニ據リ竊カニ欸ヲ納レ消息ヲ通ス鄭經ハ江勝ト連絡ヲ通シ漸ヤク貨物ノ輸入ヲ計ルコトヲ得タリ而シテ大陸ノ人民ニシテ利ニ敏ナル夜ニ乘シテ竊カニ貨物ヲ負フテ來リ販クモノ甚ダ多シ是ヨリ漸ク交易ノ路開ク貨物流入シ物價平均スルコトヲ得タリ而シテ邱輝、江勝ノ盟時ニ婦女ヲ擄掠シ以テ臺灣ニ輸スルアリシト云フ其後臺灣秋禾大ニ熟シ移民心ヲ安ス臺灣稍ヤ氣配ヲ生スルニ至ル鄭經カ其父成功ノ如ク一身ヲ犧牲ニ供シ以テ恢復ヲ謀ラントスルノ決心ナク稍ヤ歸順ノ意アルヲ見ル若シ彼レカ真情ヲ吐露セシメハ實ニ左ノ如クナルヲ知ル

鄭經ハ先キニ彼ノ揚來嘉、吳陰ノ二人ヲ派シタル當時ノ如ク朝鮮ノ例ニ准テ世々臺灣ヲ守リ年々朝貢ヲ納レ外臣ノ禮ヲ執リテ歸順スルコトヲ得ハ以テ投降セシト

鄭經ハ恢復ノ大志ヲ翻シ歸順セントスルモ條件ヲ付シテ投降セシトス彼ノ鄭成功ガ死前ノ一言トシテ吐キタル吾レハ此數莖ノ髮ヲ留メンカ爲メ累テ桑梓人民ニ及スト又タ鄭經カ北京政府ノ使者ヘ答ヘ首ハ斷ツヘキモ髮ヲ薙キテ降ルコトハ允セスト以テ當時ノ決心ヲ見ルヘシ此ニ依リテ左ニ康熙六年以後北京政府カ臺灣ノ鄭經ト招撫勸降ノ件ニ付交渉セシ頃末ノ概略ヲ左ニ抄録スヘシ

康熙六年 我實 七年 六年孔元章招撫ノ策遂ニ鄭經カ容ササル所トナリタル後康熙八年二月刑部尙書明珠兵部侍郎蔡毓榮等北京ヨリ泉州ニ來リ靖藩耿繼茂總督祖澤ト會シテ鄭經招撫ノ事ヲ議ス先ツ興化縣知府孫天顏都督僉事李儉ヲ招撫使トナシ詔書及刑部尙書明珠ノ書ヲ持シテ臺灣ニ航シ鄭經ニ説カシム明珠ノ書ニ曰ク

嘗聞安民之謂仁、誦時之謂知、古來豪傑知天命之有歸、信歿民之無益、決策不疑、培身天闕、履衍黎庶、澤流子孫、名垂青史、常發美談、閣下通時達變、爲世豪傑、比肩前哲、若易易耳、而姓名

不通於

上國、封爵不出於

天朝、浮沈海外、聊且一時、不令有識之士爲惋惜耶、今幸

聖天子一旦惻然念海濱之民、瘡痍未復、其有去鄉離井、通流海嶼、近有十餘年、遠有二十餘載、骨肉多殘、生死茫然、以爲均在覆轍之中、孰非光復

之責、稅車閭甸、會同靖藩督撫提、宣諭宸衷、禮當先之以信、端遣太常寺卿孫天顏都督僉事李儉等、聞於左右、閣

下桑梓之地、無論聖天子瘝至意、所當仰體不遑、即聞之黃童白叟、大都閣下之父老子弟、而

忍令其長相離歎耶、况我國家與人以誠、待人以信、意咸孚、遐邇畢達、是以車書一統之盛、振古無倫、

窮荒絕域、尙不憚重譯來朝、閣下人中之傑、反自外於皇仁者、此豈有損朝廷哉、但爲閣下惜之耳、誠能翻然歸命、使海隅變爲樂土、流離復其故鄉、

閣下亦自海外、而歸中原、不亦千古之大快、而事機不可再得者乎、我皇上推心置腹、其有聖書、閣下宜讀之餘、自當仰見

聖主至仁至愛之心、佇候德音、臨穎神注云

鄭經ハ明珠ノ書ニ接シ群臣ヲ集メ來使孫天顏李儉ノ兩人ヲ厚遇シ且ツ告ケテ曰ク經豈兵ヲ動シ民ヲ苦ムルコトヲ好マンヤ若シ朝鮮ノ事例ニ照シ髮ヲ削ラスシテ臣ト稱スルヲ得ハ招撫ニ就カント爾使肯セズ削髮二字各々意見ヲ執テ定ラス依テ天顏ハ鄭經ニ勤メテ特ニ一使ヲ派シ泉州ニ至リ協議セシム鄭經之レニ從ヒ禮官葉亨刑官柯平ヲシテ慕天顏、李儉ト共ニ泉州ニ至ラシム其時鄭經ハ一書ヲ修メテ明珠

ニ答フ其文ニ曰ク

蓋聞麟鳳之姿、非蕪樊所能囿、英雄之見、非遊說所能惑、但屬生民之主、宜以覆轍爲心、使跛行喙息、咸潤其澤、匹婦有不安其生者、君子耻之、頃日遷界以來、五省流離、萬里坵墟、是以不穀不憚遑隱、建國東寧、庶幾寢兵息民、相安無事、而

貴朝尙未忘情、以致海濱之民流亡失所、心竊憾之、閣下街命遠來、欲爲生靈造福、流亡復業、海宇奠安、爲德建善、又所傳免削髮、不登岸等語、言頗有緒、而蚤諭未曾詳悉、唯醇醇以迎

勅爲辭事、必前定、而後可以寧悔、言必前定、後可以踐跡、大丈夫相信以心、披肝見膽、尋々落落、何必遊移其說、特遣督理行營兼官刑事柯平、監軍兵部郎中葉亨等、面商妥當、不穀躬承先訓、恪守丕基、心敢棄先人之業、以一時之利、惟是生民塗炭、惻焉在懷、倘

貴朝果以愛人爲心、不穀不難降心相從、尊事大之禮、至通好之後、巡邏兵哨、自當弔回、若夫沿海地方、俱屬執事撫綏、非不穀所與焉、不盡之言、惟閣下教之

天顏李佺ハ鄭經ノ特使ナル葉亨柯平二人ヲ伴ヒ泉州ニ來ル明珠大ニ悅フ天顏李佺ハ鄭經ト交渉ノ始末及葉亨柯平兩使ノ來由ヲ語ル此ニ於テ乎明珠ハ耿繼茂祖澤ト協議シ鄭經ヲシテ臣ト稱シテ世々臺灣ヲ守ラシムル事ハ承認スルト雖モ己ニ臣ト稱スル豈其制ヲ異ニシ其服ヲ別ニセンヤ而シテ其蓬髮ヲ拒ム如キハ使命ノ貫徹セサルモノナリ再ヒ幕天顏李佺ノ兩人ヲ派シ鄭經ヲ説カシム耿繼茂書ヲ鄭經ニ贈リタリ其書ニ曰ク

國家欲延攬英雄、以安邊民、故不惜詔使前來、今既允藩封、子守臺灣、其修己極、殿下既然稱臣、又何異制、大丈夫當賊來賊往、不必過於固泥、徒賣筆舌、僕僕波濤云々

其他總督巡撫提督連署ヲ以テ鄭經ニ一書ヲ致シテ曰
承臺教所示、及使員所陳、並即上達

宸衷

聖天子明見萬里、曲體其情、但以閣下爲中國之人、不宜引朝鮮例、閣下以荒外、自居、朝廷以一體相待、九重至意、高厚何如、恭錄

願賜不佞等諭旨、閣下誠爲捧繹、豈非大哉、皇言千載希遊者乎、夫稱臣納貢、既已遵國制、定君臣之

義、譬猶父子、縱令父子而異其衣冠、豈可君臣而別其章、此剃髮一事、所當一意仰從、無容猶豫者也、況守臺灣、今恭蒙

皇上不吝、曲從閣下之孝、而遵一王之曲制、閣下何不隨臣子之分、忠孝兩全、在此一舉、得失利害、決於片言、我

皇上英明神武、事輕發、今日之事、既允其留住臺灣、又許以高爵厚祿、聖主特出之恩、榮閣下以彈丸之地、躬逢其盛、而不以此時見機速斷、即循

國制、以副聖心、竊恐坐失機會、時不再來、不佞等披肝瀝胆、不惜盡言、仍遣太常寺卿慕天顏、都督僉事李佺、再渡海廣宣

簡意願加三思臨穎懇切

慕天顏柯平ノ兩使ハ再ヒ臺灣ニ至リ鄭經ニ會シテ招撫ノ旨ヲ説キテ曰ク 皇帝已ニ臺灣ヲ世襲スルコトヲ許ス宜シク雅髮歸順スヘシト雖然鄭前志ヲ執リテ動カス則チ左ノ二通ノ答書ヲ以テ慕天顏柯平ニ託シ泉州ニ歸ラシメタリ答書中一通明珠ニ答フル書ニシテ他一通ハ繼茂ニ復スルノ書ナリ

答明珠書

蓋聞兵刃不祥之器、其事好還、是以禍福無常、倚強弱無常、勢恃德者興、恃力者亡、曩歲思明之役、不佞深憫民生疾苦、暴露兵革、連年不休、故遂會師而退、遠絕大海、建國東寧、於版圖疆域之外、別立乾坤、自以為休兵息民、可相安於無事矣、不謂閣下猶有意過督之驅、我叛將再起、兵端豈未聞陳軫蛇足之喻、與、發由基善息之說乎、夫符堅寇晉、力非不强也、隋楊征遼、志非不勇也、此二事閣下之所明知也、況我叛將逃卒、為先王撫養者、二十餘年、今其歸貴朝者、非必盡忘舊恩、而慕斯榮也、不過憚波濤、戀鄉土、為偷安計耳、閣下所以驅之東侵、而不顧者、亦非必以才能為足恃、心迹為可信、也不過以若輩匹測、姑使前死、勝負無深論耳、今閣下待之之意、若輩亦習知之矣、而況大洋之中、晝夜無期、風雷變態、波濤不測、閣下兩載以來、三舉征帆、其勞費得失、既已自知、豈非天意之昭昭者哉、所引夷齊田橫等事、夷齊千古高義、未易冷齒、即如田橫、不過三齊一匹夫耳、猶知守義不屈、而况不佞世受國恩、恭承先王之烈乎、倘以東寧不受、羈縻則海外列國、如日本琉球呂宋廣南、近接浙粵、豈盡服屬、若虞啟哨出沒、實緣貴旅臨江、不得不遣舟偵邏、至於休兵思民、以死生靈塗炭、

復繼茂書曰

此仁人之言、敢不佩服、然衣服吾所自有、而重爵順祿、永世襲封之語、其可以動海外孤臣之心哉、敬披服而言、仰祈垂鑑、
捧接華翰、有誠來誠往、延攬英雄之言、雖不能從、然心異之、殿下中國名豪、天人合徵、金戈鐵馬之雄、固自有在、然醇々所言、無乃遊說之後談、豈猶是不相知者之論乎、東寧偏隅、遠在海外、與版圖渺不相涉、雖泥落部曲、日與為鄰、正如張中堅遠絕扶餘、中土讓太原公子、殿下亦曾知其意乎、

貴朝寬仁無比、遠者不問、以所聞見之事、如方國安、孫可盛、豈非謁誠

貴朝者、今皆何在、往事可鑑、足為寒心、殿下倘能以延攬英雄、休兵為念、即靜飭部曲、慰安邊陲、羊陸故事、敢不勉承、若夫疆場之事、一彼一此、勝負之數、自有天在、得失難易、殿下自知、亦毋庸贅也、
以上ノ如ク北京政府ノ鄭經ニ對スル處置ハ招撫歸順ノ方法ヲ執リ悠々日子ヲ經過シテ成功ヲ見サリシ此時荷蘭陀ハ北京政府カ前約ノ如ク延キ繼キ臺灣攻撃ノ舉アリサルヤ北京政府ハ迫ルコト甚シ且ツ水師提督施琅ハ臺灣進勦ノ事速カニ為サレハ餘燼再ヒ熾ンニ起リ收拾スヘカラサルヲ説キ討伐策及臺灣ノ經綸ニ就キ滔々數千言ノ意見書ヲ北京政府ニ上ル(意見書ハ略ス)如此急要ナル征討臺灣ノ一事北京政府躊躇決スル能ハス悠々日ヲ送ルノミ此ニ於テ乎形勢一變シ福建沿岸一帶光景漸ヤシ不穩ノ狀況トハナレリ

康熙十二年 我延賢 此時ニ當リテ福建沿岸ノ守備ノ任ニアル提督及總兵ハ明朝ノ遺徒ニシテ中途意ヲ翻シテ清朝ニ歸順シタルモノナレハ所謂狡兔倒レテ其狗養テラルノ言ニ違ハズ南部支那一帶ノ平和ニ歸ス

ルト同時ニ北京政府ハ彼等歸順ノ諸將ヲ遇スル稍冷淡ヲ免カレズ且ツ其間猜疑ノ爲メ家ヲ破リ身ヲ亡シタルモノナキニシモアラズ彼レ鄭芝龍カ投降途ニ其終ヲ全フセズ無情最期ヲ遂ケタル如キハ歸順諸將ヲシテ寒心セシメタル大原因タラヌンハアラズ

康熙十二年靖南王耿精忠ノ謀叛西親王吳三桂ノ蜂起ハ實ニ形勢大變ノ現象ト云フヘシ耿精忠吳三桂ハ最モ力戰奮闘シ北京政府ノ爲メニ全力ヲ盡シタル將士ナリ而シテ此ノ舉アリ北京政府カ投降諸將ヲ遇セルノ真相以テ知ルヘシ精忠ノ閩中ニ起ルヤ在臺灣ノ鄭經ノ相通シ其ノ勢大ニ振フ福建各州ノ總兵等風ヲ聞キ髮髮ヲ斷チ明俗ニ回リ陸續來リ從フ興化府ノ總兵馬興惠安縣知縣彭翼宸及惠安ノ提督郭維藩泉州提督王進功漳州海澄公黃梧ノ輩相携ヘ來應スルニ至リテハ全閩福建省再ヒ兵馬ノ間ニ陷リ北京政府ノ支配ヲ脱スルニ至ル精忠ノ軍益々勢ヲ得テ北上平陽蔡朝佐温州總兵祖功勳又々來リ投シ温州陷ル如此精忠ハ得意ノ時トナレリ固ヨリ大義ニ依リテ舉ケタル義兵ニ非ラスシテ一時私慾ヲ逞フスルニ謀リタルヲ以テ徒ラニ州ヲ領シ縣ヲ占メ以テ得々タルニ過キス鎬鏖ノ利ヲ争フテ遂ニ鄭經ト絶スルニ至ル鄭經大ニ怒リ自カラ將トシテ廈門ニ上陸シ廈門ヲ占メ同安海澄ノ二縣忽チ鄭經ノ部下ニ投ス泉州又々鄭經ノ軍ヲ迎フ此ニ至リテ閩ノ地再ヒ鄭經ノ管轄ニ入リ精忠鄭經ノ兵馬盛ナルヲ見テ浦日與ヲシテ泉州ニ至リ和ヲ講セシム而シテ成ラス左ニ掲ケル精忠カ鄭經ニ送リタル書及鄭經カ精忠ニ答ヘタル文ヲ讀ムトキハ其兩者ノ心事ヲ知ルヘシ

乃遣浦日與到泉州與鄭經修好日

日者諸藩建義之舉原從中原大事起見共圖恢復以協天人弟之所以勉力與師者雖爲吳王亦以踐臺約也今事當創始而每有爭地爭城之弊夫閩地縱是殿下父母之邦亦先王世守之土也前以恢復中原爲重故彼此曾有成言今中原尙虛逐鹿而畔端突起閱牆特不可解方今西

北連兵、望救甚切、非我輩游移觀望之時、惟冀殿下俯念吳藩及弟前約、捐小忿、圖進取、勿使海內豪傑、謂我輩旬相矛盾、怯公戰而勇私戰也、經厚待日與而報書曰

天下乃我太祖之天下、侈言天下豈不羞乎、且請弟渡海者誰、令弟母作、妄想者誰、絕不與弟來往者誰、夫有言人而無信、不知其可也、勇私闘而怯公戰、弟亦不得已耳、如果欲修好、當踐前約

其後精忠益々鄭經ト隙ヲ搆フ、不得策ナルヲ感シ康熙十四年正月吏曹張文翰ヲ以テ年賀ノ禮ヲ述ヘシメ前納ヲ踐ムベキヲ以テ構和ス鄭經是ヲ諾シ禮官鄭斌刑官柯平ヲシテ福州ニ到リ答禮セシメ且ツ鄭斌柯平兩使ハ精忠ト協議ヲ開キ陸地占領ノ區畫楓亭ヲ以テ界限トナシ相侵伐スル勿カラシム是ヨリ鄭經ト精忠ト交誼蓄ニ復スルヲ得タリ鄭經ハ本據ヲ漳州ニ移シ軍ヲ東ニ進メ潮州惠州ノ兩府ヲ占領シ彼ノ湖南廣西ニアル吳三桂ト連絡ヲ通スルヲ得タリ此ニ於テ乎吳三桂ハ鄭經精忠ノ兩軍ト合シテ北上シ一舉江南ヲ衝カントヲ約シ中興恢復ノ業稍ヤ望ミアルニ至レリ奈何セム大義ニ依リテ起リタル義兵ニ非サレハ蝸牛角上鎬鏖ヲ争ヒ此好機アル際ニモ拘ラス一塊土ノ汀州ヲ相争ノ不幸ハ精忠ト鄭經ト間ニ起リ猜疑相持シ遂ニ江南進衝ノ舉ヲシテ齟齬ニ歸セシメタリ是ノ時ニ當リテ康親王滿麟漢兵ノ大軍ヲ率ヒ反復ノ叛將ヲ討伐ス整々ノ軍勇猛ノ兵其勢當ルヘカラス精忠已ニ和ヲ鄭經ニ破リ信ヲ吳三桂ニ失ヒ孤立快々轉々感慨ニ沈ミタル際康親王ノ大舉シテ來伐スルニ遭フヤ措置爲ス所ヲ失ヒ途ニ再ヒ剃髮シテ降ルニ至ル或ハ叛キ或ハ降リ反復何ソ常ナキ茲ニ至ルヤ

康親王ハ精忠ト軍ヲ合セ鄭經ヲ剿伐センカ爲メ一舉汀州ヲ拔キ建寧興化次テ陥リ破竹ノ勢ヲ以テ泉州ヲ蹂躪シ鄭經ノ本據タル漳州ヲ占領スルニ至レリ鄭經ハ軍ヲ收メテ廈門ニ退キ若々諸屬ノ臺灣ニ渡來スル甚々多シ此危急ノ時ニ在リテ唯々粵東ノ潮州惠州ノ兩府懸軍孤守スルアルニ而ルニ潮州ノ守將

劉進忠ハ 康親王ノ招撫ニ從ヒ剃髮シテ降レリ而シテ惠州ノ守將劉國軒ハ其守ルベカラサルヲ知ルヤ
 單身逃レテ廈門ニ來レリ此ニ至リテ全粵又タ敵手ニ委シテ鄭經カ大陸ニ於ケル勢力ハ僅カニ廈門ヲ孤
 守スルニ過キス中興恢復ノ業ヲシテ成ラントシテ遂ニ頓挫セシメタリ
 北京政府ノ送リタル招撫勸告ノ使者ハ幾度カ失望ノ答ヲ得テ歸來スルニモ拘ハラス康親王ハ又モヤ僉
 事道朱麟莊慶ヲ使トシテ投降ヲ勸告シタレントモ鄭經諾セズ再ヒ吳公鴻ヲシテ勸告セシメタリ而シテ鄭
 經又タ之レニ應セザリキ
 鄭經ハ已ニ招撫使ヲ拒ミタレハ必スヤ襲撃ノ來ルヲ豫期セサルベカラス國軒曰豈坐ナカラ敵ヲ待ツ可
 クシヤ宜シク我ヨリ兵ヲ進メテ漳州ニ入ルニ如カスト鄭經之レニ從ヒ國軒ヲ總督ニ任シ吳淑ヲシテ之
 レニ副タラシメ以テ兵ヲ進メントヲ命ス國軒請テ曰ク古ノ將タルモノ師出テ外ニ在ルトキハ必ス閩
 外ノ寄アルニ依リ君命タモ受クザルアリ若シ製肘ヲ受ケル如キアラバ軒決シテ命ヲ拜スル能ハスト經
 直チニ請テ容レ出征ノ軍務悉ク國軒ニ悉シ康熙十七年^{我經}二月九日ヲ以テ出征ノ途ニ上ラシメタリ
 敗駒ノ汚名ヲ雪クノ恢復軍トシテ責任ヲ雙肩ニ負タル總督トシテ一番ノ奮發ナクンハアルベカラス率
 ユル所ノ將士又タ豈勇氣ヲ鼓セザランヤ江東ヲ犯シ祖山頭ヲ占メ三四ヶ月ノ間近州ノ縣郡邑ヲ蹂躪シ
 六月初十日海澄縣ヲ恢復セリ副將吳淑ハ國軒ニ進メテ曰ク已ニ海澄ヲ恢復ス宜シク破竹ノ勢ヲ以テ直
 チニ漳州ヲ降スヘキニ非ス宜シク先ツ其手足ヲ剪ルトキハ腹心自カラ潰エン蓋シ國軒ハ附近ノ郡邑ヲ陷レ
 急ニ陷落スヘキニ非ス宜シク先ツ其手足ヲ剪ルトキハ腹心自カラ潰エン蓋シ國軒ハ附近ノ郡邑ヲ陷レ
 障城ヲシテ孤立セシメント欲ス時ノ福建巡撫ハ遠見ノ譽アル姚啓聖ニシテ國軒カ頻リニ郡邑州縣ヲ攻
 撃シテ從テ攻ムレハ從テ陷ル一瀉千里ノ光景ヲ看テ大ニ喜テ曰ク賊兵(國軒ヲ指ス)僅カ既ニ今三萬ヲ
 諸邑ニ得ル必スヤ當サニ衆ヲ分テ把守セシムヘシ衆分レハ則チ勢弱ナリ勢弱ナレハ則チ之レヲ破ル易
 シ是レ兵法ニ所謂兵多クレハ分ツテ貴フ兵少クレハ合スルヲ貴フモノナリ對漳ノ兩雄孰ル所ノ作戰計

畫全ク相反ス知ラス雖レカ最後ノ勝利ヲ握ルモノ
 國軒ハ最初ノ計畫ニ從ヒ泉州二府ノ郡邑州縣ヲ陷レ其衆ヲ分チテ鎮守セシメ先ツ泉州府ヲ恢復シテ後
 チ漳州府ニ及サント欲シ泉州ヲ圍ムコト兩月取テ下ラズ進ンテ漳州ヲ攻ム是時 康親王ハ援兵ヲ率ヒ
 興化府ニ至ル巡撫姚啓聖ハ諸將ヲ部シテ白鶴嶺、廣橋、楓亭ノ三路ヨリ進マシメ又タ總兵林賢ニ命シ
 テ水路海澄ヨリ至ラシメ水陸勢ヲ合テ攻撃セシム國軒部下ノ諸將大兵來リ攻ムルヲ聞キ各地ノ守備兵
 勢單弱ニシテ守リ難キヲ斷ヘ増兵ヲ請フテ已マヌ况ンヤ鄭經ノ本據タル廈門スラ林賢ノ水師連リ來ル
 ナ聞キ風聲鶴唳相驚ク國軒ハ敵軍ノ援兵大舉シテ來ルヲ聞クヤ援兵未タ至ラサルニ先ツ泉漳二府ヲ占
 領セント欲シテ勇ヲ奮ヒ兵ヲ督シテ攻撃セシモ兵氣銳ハスシテ敗衄メ不幸ヲ見ルニ至ル途ニ大勢ノ爲
 ス可カラサルヲ見テ泉漳ノ圍ヲ撤シ各州縣各郡邑ヲ收拾シテ海澄ニ退キ深溝高壘以テ固守防禦ノ準備
 ナナス此ニ至リテ再ヒ澎張セントスル恢復軍モ大陸ニ在テハ海澄廈門ノ地方ニ跳梁タルニ過キササルニ
 至レリ豈惜マサルベクシヤ
 是マテ北京政府ノ鄭氏討伐ニ對スル手段ハ一徹ニ出テ臺灣ノ氣焰漸ク大陸ニ向テ澎張セントスルヤ必
 ス招撫使ヲ派シテ投降ヲ勸告ス今此國軒カ率ヒタル恢復軍ニ對スル又然リ泉漳二府ヨリ打拂ヒタル當
 時姚啓聖ハ漳州ノ進士張雄ヲシテ招撫使トナシ廈門ニ至リ投降ヲ勸告セシム經又應セザリシカ
 越テ五箇月康親王ハ中書蘇鐵ノ姪蘇堪ヲ使者トシテ再ヒ廈門ニ到リ鄭經ト交渉セシム蘇堪カ如何ナル
 條件ヲ以テ鄭經ニ投降ヲ勸告スル乎ヲ記述スル前ニ從來北京政府ト鄭經ノ間ニ交渉シタル構和ノ談判
 カ如何ナル點マテ進行セシカヲ説カントス
 抑モ重位厚祿ヲ授クルニ依リ臺灣及大陸ノ占領ニ屬スル地ヲ獻シテ投降セヨトハ當初ノ勸告ナリシモ
 鄭經ハ朝鮮ノ例ニ依リ世々臺灣ヲ襲ヒ剃髮セシテ外臣タラシトテ申請ス而シテ此ノ談判漸ク其
 歩武ヲ進メ來リ朝鮮ノ例ニ依リ外臣ト稱シテ世々臺灣ヲ襲フノ條件ハ北京政府ノ諾スル所トナリタレ

トモ唯剃髮ノ二字ハ雙方意見ノ撞突トナリテ遂ニ構和成立セス互ニ相攻撃セシ所タリ是レ當時ニ於テ
 ル談判進行ノ經過ナリシ而シテ其後蘇桂カ齟シタル條件ハ又一層ノ武歩ヲ進メタルモノナリ即チ其ノ
 交渉ノ大略ヲ左ニ記サン

蘇桂ハ鄭經及六官ニ會康親王ノ意ヲ致シテ曰ク貴藩若シ黎民塗炭ヲ以テ憂ト爲シ果シテ能ク臺灣ニ歸
 ラバ先キニ請フ所ノ條件ヲ容レテ朝鮮ノ事例ニ照シ永ク藩屏重臣トナサント鄭經ハ蘇桂カ齟シタル條
 件ニ從フ時ハ朝鮮ノ事例ニ照シテ剃髮セサル者ナレバ構和ヲ成立セシメ以テ兵ヲ息メ民ヲ安セント欲
 ス然リト雖モ憑錫范故障ヲ唱ヘテ曰ク海澄ハ實ニ廈門ノ門戶決シテ棄ツベカラス則チ海澄ヲ以テ鄭經
 ノ公所トナサント以テ蘇桂ニ交渉ス蘇桂肯セシテ曰ク己ニ朝鮮ノ事例ニ照シテ投降セハ貴藩ハ
 宜シク退テ臺灣ヲ守リ澎湖ヲ以テ界トシ互ニ通商貿易ヲナサント彼ノ海澄ノ如キ大陸版圖ニ屬ス何ゾ
 公所トナサテ得ンヤ而シテ是レ等權限外ノ事ハ蘇桂自カラ處スル能ハズ貴藩ヨリ一人ヲ派シ余ト共ニ
 福建省ニ來リ再議スル所アルヘシト鄭經即チ賓客司傳爲縣ヲ舉テ交渉員トナシ蘇桂ト共ニ福建省ニ到リ康
 親王ニ見ヘ又漳州ニ至リテ姚啓聖ニ會シ其間ニ奔走斡旋スト雖モ其意ヲ徹スル能ハス遂ニ構和ハ破裂
 スルニ至ル而シテ構和ノ破裂ハ剃髮ノ二字ニ非スシテ彈丸ノ地海澄ヲ還附スト否トニアリ此レヲ從來
 ノ交渉條件ニ比スレバ一段ノ歩武ヲ進メタルモノナリ交渉ハ一步ヲ進ムルニ從ヒ一步ノ故障ハ生シ來
 リ知ラス何ノ日カ北京政府ト鄭氏トノ間ニ構和ノ成立スルモノゾ苟モ臺灣ニ割據シテ死テ以テ守スル
 ノ決心アラシハ固ヨリ論ヲ俟タズ若シ構和ヲ議セント欲セバ今回ノ交渉條件ノ如キ鄭經ノ爲メ尤モ利
 益アル條件ト云フベシ而シテ憑錫范一彈丸ノ海澄ヲ惜ンテ再ヒ得難キ好機ヲ失シタリ

康親王ヲ始メトシテ巡撫姚啓聖ハ到底招撫ノ望ナキヲ知リ遂ニ有力宿老ナル將師ヲ得テ勦除セサル可
 ラサルニ決シ施那カ北京ニ在リテ內大臣ノ任ニアルニモ拘ハラズ南海ノ水務ニ熟練シテ且ツ立功赫赫
 ノ譽レアルヲ以テ擧テ討伐ノ任ニ當ラシメ湖廣岳州總兵萬正色ヲ擢テ福建水師提督ト爲セリ是ヨリ南

海洋面ノ氣焰ヲ滅シ鄭氏割據ノ運命ヲ傾クル最後ノ時期ハ迫リ來レリ

廈門ノ門戶タル海澄ハ國軒カ全幅ノ力ヲ以テ防備スル丈ク數次ノ襲撃ヲ蒙ルルニモ拘ハラズ依然トシ
 テ固守セリ海澄堅ケレハ廈門繼テ安シ依テ此時ニ於テ防備ノ全力ハ海澄ニ注カレタリ而シテ敵ノ襲撃
 ハ意外ニモ水路廈門ニ迫リ來タル鄭經報ヲ聞テ驚慌シ使テ海澄ニ派シ國軒ヲ廈門ニ招還シテ防備ニ當
 ラシム國軒ノ海澄ヲ去ルヤ海澄ノ守備薄クシテ人心大ニ動ク此ノ機ニ乘シ滿騎總兵大軍ハ海澄ニ向テ
 雲集シ來リ遂ニ海澄陷ル海澄己ニ陷ル廈門ノ危急且夕ニ在リ島民鼎沸家眷ヲ携ヘテ逃竄スルモノ甚タ
 多シ而シテ船ノ渡ルヘキナク海濱ニ逼滿シテ號泣ノ聲潮聲ト相和シ頗ル慘憺ヲ極ム人心己ニ變シ將士
 勇ヲ失ヒ謀ノ爲スベカラサルヲ見テ鄭經ハ六官ヲ率ヒ臺灣ニ向テ去レリ劉國軒、兜錫范、陳繩武ノ輩
 又々兵士ヲ率ヒテ鄭經ノ後ニ從フテ退ク大勢絃ニ至リ萬丈ノ氣焰跡ヲ大陸ヨリ收メテ纒カニ南海洋面
 ノ一島ニ餘焰ヲ保ツニ過キサルニ至ル

鄭經ハ兜錫范、劉國軒、陳繩武以下文武百官ヲ率ヒテ廈門ヲ撤去シテ臺灣ニ退クヤ鄭經ノ母董夫人鄭
 經ノ將士ヲ統御スルノ術ニ乏シク遂ニ敗郵ヲ招キタルヲ責ム而シテ鄭經カ臺灣ヨリ大陸經營ニ渡航セ
 シ以後己ニ七年ノ星霜ヲ經過シ其間名士勇將皆ナ左右ニ扈シテ廈門ニ在リ臺灣ノ政務舉テ陳永華ニ委
 シタリ依テ臺灣ニ於ケル陳永華ノ勢力ハ實ニ盛大ナルモノナリシ歸來ノ諸將其ノ權威ノ盛ナルヲ見テ
 嫌忌スルモノ多シ兜錫范ハ最モ其甚タシキモノニシテ策ヲ設ケテ權威ヲ殺カントナ圖ル一日ニ非ス
 遂ニ陳永華ヲ欺テ共ニ退隱風月ヲ樂マンコトヲ約シテ永華ヲシテ其職任ヲ辭セシム是ニ於テ政務ヲ劉
 國軒ニ讓ラシム而シテ錫范自身ハ侍衛ノ任ニアル故ノ如シ永華ハ錫范ノ欺ク所トナリタルヲ憤慨シ遂
 ニ病ヲ得死ス

鄭經ハ廈門ノ一敗軍ヲ收メテ臺灣ニ退據シ再ヒ雄飛スルノ勢氣ヲ失ヒ文武一切ノ事ヲ長子克塽ニ委シ
 自カラ洲仔尾ニ園亭ヲ築キ觀遊ニ沈ル克塽ハ鄭經ノ長子ニシテ事務ノ斷決條規アリテ稍祖父成功ノ風

アリ文武ノ百官皆ナ服從ス克璧ノ聰明ナル如此ト雖モ鄭經ノ驍悍李氏ノ子ニシテ李子闔門修ラス克璧ヲ指シテ鄭氏ノ眞血統ニ非ラストナスモノアリ
鄭經ハ政務ヲ克璧ニ委シ觀望ニ耽クリ優遊自適餘生ヲ送りシカ途ニ病ヲ得テ死ス實ニ康熙二十年ニシテ年紀三十有九鄭經ノ死スルヤ其遺言ニヨリ克璧ヲシテ其後裔ヲ繼カシムヘキヤ否ヤハ當時ノ大問題トナレリ而シテ克璧即即位ニ先チ克璧ハ鄭氏ノ眞血統ニアラサレバ將ニ邦家ニ利アラサルヘシトハ兜錫范ノ唱フ所ニシテ鄭經ノ母董夫人ノ贊スル所タリ而シテ劉國軒又々同意ヲ表ス遂ニ克璧ヲ殺シテ鄭經ノ次子克塽ヲシテ後裔ヲ襲ハシム克璧若シ鄭氏ノ眞血統ニ非ストセバ後裔ヲ襲ハシメス監國ノ印璽ヲ奪フ亦可ナリ何ソ殺戮ヲ行フヲ要センヤ時ニ兵士及人民皆ナ聽テ歎惜セサルモノナシ

鄭克塽時代

鄭經死スルノ後兜錫范及ヒ劉國軒ノ推ス所トナリテ克塽其後裔ヲ襲フ時ニ康熙二十年紀僅カニ十有二此幼稚ナル藩主何ソ能ク軍國ノ事ヲ監シテ明朝ノ恢復ヲ謀ルヲ得ンヤ而シテ一切ノ機務ハ兜錫范、劉國軒ニ於テ裁決セラレ鄭經死後ノ鄭氏ハ恰モ錫范國軒ノ天下トハナレリ而シテ克塽襲爵以來ノ臺灣カ如何ナル形勢トハナリタル乎ニ付キ聊カ記述セント欲ス
鄭經死亡ノ當時長男次子襲爵ヲ爭ヒ閩中波瀾ヲ湧起セシメ次テ或ハ錫范、國軒輩ノ幼主ヲ擁シテ權威ヲ弄シテ漸ク百官ノ相ヒ和セサルアリ或ハ軍隊將士ノ威力ヲ持シテ良家富戶ヲ嚇脅スルアリ加之兵ハ固ト民ヲ衛ルヲ主トナス民自ラ兵ヲ養フベシトノ暴言ハ克塽ノ信スル所トナリ鄭克塽ハ兵食ヲ裕ニシ軍備ヲ擴張センカ爲メ戶稅車稅丁稅等ノ重租ヲ人民ニ課シ大ニ民望ヲ失フニ至レリ臺灣ノ民心漸ク鄭氏ニ背カントスルノ飛報ハ屢々福建省ニ達シ巡撫ハ此ノ機ニ乘シ益々人民ヲ離間センコトヲ謀リ寧海將軍喇ノ名ヲ以テ左ノ如キ告示ヲ出シ沿岸各處ニ貼布シ且ツ又告示ヲ澎湖臺灣ニ送レリ

寧海將軍喇、爲閩疆之殺運將除、海逆之氣數當盡、仰遵天討特布忠言以感民心以彰勸化事照得培國家之元氣首在安民起市井之瘡痍先於除暴海逆鄭氏世爲國賊竊永歷之虛號實非有心爲民竄達嶼之窮陬不過僮名爲寇奪人妻孤人之子竄入屋廬荒人田土迨至輿師問罪振旅征伐則正供雜派既困民於追呼而運械餽糧又疲民於奔命顛沛流離者幾數十年矣此不特南征將士率焉風霜不無切齒嗟彼窮黎受其荼毒更當仇不共戴者也前者搗其巢穴餘氣稍戢乃根株未盡萌孽復生遂乘甲寅之變浸凌州郡肆爲剽掠天戈所指兩島蕩乎而遠遁臺灣魂遊釜底終不免有死灰復燃之虞是賊一日未滅民一日未安本將軍之思憂非一日可已也方今鄭經已伏冥誅而嫡庶爭立奸黨竊權此內亂方深揆之天時人事兩端即可爲敗亡之兆固不待智者而後知也是以本將軍相機度勢會同督撫提赴泉商榷共奉
諭旨同心合意底定海疆正在調遣進發間先委能員前往臺灣宣布威命無非仰體
朝廷好生之德凡一切往來招撫常談皆本將軍所不樂道惟有欲鋤盡根株爲萬年長久之計耳但念爾等皆吾赤子豈生而即爲逆者况其中不無懷戈負異輩倘得展其所長足爲
天朝佳器而所以失身入海者實非得己或爲饑寒所驅或爲賊役所迫或因誤投於法網苟且逃生或受敗凌於勢豪希圖報復身雖已辱志實

可矜、故不吝再四招徠、許其自新、所可駭者、賊非生於空桑、不無眷屬在
 於內地、乃不知極力勸諭、令彼向化、傾心聽、其助賊爲虛、流殃桑梓、所
 稱文物禮教之邦、當如是耶、本將軍前駐泉城、將及兩載、其間潛偵密探、
 無不周知、不欲株連無辜、故隱忍姑待、徐施勸諭、今當大修戰艦、糾合銳
 師、不日東征、勢如破竹、正爾民出力報効之時、賊忍未諭、德意、不得、不反
 覆開陳、合行曉諭、爲此示、抑濱海百姓、焮島上將、辨兵民人等、知悉、夙有
 親屬、陷身海島者、不防密報、本將軍給照前去、勸其及早效命、尙有反邪
 歸正之路、何若背鄉井、棄墳墓、置身於風濤不測之中、誠非計之得已者、
 如果翻然悔悟、羣義前來、將本員立照、原銜叙用、外其勸化之人、功亦
 難泯、定行一體優渥、斷不爾負、若有見機之哲、舉土地而來歸、斬巨魁、而
 獻誠、操舟細疑、率衆輸城、本將軍更當分別具疏題請、從優錄用、爾獨不
 聞當年歸命人員、悉應顯秩、甚至有爵至公侯伯者、我
 朝之待投誠、不可謂不厚矣、往事可徵、正宜各圖功名、乘時建業、將猶若
 戀蚊宮、徘徊水國、舟師南指、玉石俱焚、悔何及焉、嗟嗟、賊氛將盡、民困已
 極、乘此長風破浪之時、直抵島嶼、盡掃餘灰、除東南數十載之殺運、救海
 濱有萬戶之生靈、將見波濤不驚、烽烟無警、與爾民共遊於光天化日之
 下、豈一勞永逸、得享太平之福哉、本將軍滅寇安民、苦心至深且切、故不
 覺其言之長也、各宜猛省、毋違特示

以上ノ如キ種々ナル刺激ハ漸ヤク島内ノ民心ヲ動搖シ來レリ其他天變荐リニ到リ地異盛ニ起リテ鄭氏
 三代ノ偉業ハ一日ニ其運命ヲ短縮セルノ感アリ此時ニ當リテ北京政府ガ臺灣ノ一隅ニ跳梁セル鄭

氏ニ對スル處置自ラ二派ニ別レ招撫主義ヲ執ルモノハ姚啓聖ニシテ勦討主義ヲ唱フルモノハ施瑯ナリ
 聖ハ遼島退守ノ今日ニアリテハ鄭氏ノ執頭又前日ノ如クナラザレバ宜シク招撫ヲ以テ兵刃ニ血ヲズシ
 テ大局ヲ結ブノ得策タルヲ信シ施瑯ハ臺灣ノ鄭氏ハ熄スト欲シテ熾トナリ時ニ或ハ大陸ニ氣焰ヲ吐キ
 其害延テ民命ニ及フ宜シク根柢ヨリ劔交セサル可ラサルヲ論ス而シテ施瑯カ根柢劔交ハ唯今日ニ
 於テ唱ヘラレタルニ非ス嘗テ記セシ如ク彼ノ康熙三年孔元章及ヒ慕天顏李詮ノ盡力招撫使トシテ交涉
 スルノ際ニ於テモ數千言ノ意見書ヲ朝廷ニ奉リ根柢劔交策ヲ執レリ施瑯カ對鄭氏策ハ始メヨリ北京政
 府ノ措置ニ反對シテ一定不動タリシナリ而シテ姚啓聖ハ施瑯ノ反對アルニモ拘ハラズ副將黃朝用ヲシ
 テ嘗テ蘇垣ヲ以テ交涉シタル同條件ニ依リ先ツ澎湖ニアル國軒ニ說カシメ國軒之ヲ臺灣ニ遣リ克塽ト
 協議セシメタリ克塽ハ交涉條件ヲシテ慎重ナランコトヲ欲シ直接姚啓聖ニ見ヘ談辯セシメンカ爲メ林
 珩及ヒ黃學ノ兩人ヲシテ黃朝用ト共ニ福州ニ到ランメタリ余ハ前ニ鄭氏カ招撫ニ就クノ好機已ニ彼ノ
 蘇垣ト交涉シタル當時ニアルヲ論シタリ而シテ彼ノ根柢劔交策ハ施瑯兩者ノ意見撞着ノ爲メ克塽カ派シタ
 晩シ外交ノ遠觀ナキ實ニ古今ノ通患ナリトス果セル哉啓聖ト施瑯兩者ノ意見撞着ノ爲メ克塽カ派シタ
 ル交涉委員林珩黃學等ノ兩人ハ何ノ爲ス所ナク空シク歸リ來レリ大勢已ニ茲ニ至ル姚啓聖ノ招撫主義
 ハ施瑯ノ勦討主義ニ克ツ能ハス廟議ハ遂ニ根柢ヨリ劔交スルノ廟議トナリタル上ハ施瑯タルモノ實任
 ナテ勦討ニ從事セサルヘケンヤ施瑯ハ康熙二十二年我天和三年六月ヲ以テ征臺ノ軍ヲ銅山ニ集メ茲ニ舟
 師ヲ整ヘ糧食ヲ備ヘテ出師ノ準備ヲナセリ而シテ澎湖ノ守備ヲ司ル劉國軒ハ如何ニ之レニ對スルノ
 防備ヲナセル乎ヲ見ルニ國軒ハ今ヤ海上風波險惡ノ時施瑯何ソ師ヲ與サンヤ虛聲ヲ張ルニ過キズト敢
 テ力ヲ防備ニ用ヒサリシ何ソ料ラン施瑯ノ船艦海ヲ歷シ來リ攻ム國軒報ヲ聞テ駭然トシテ倉急防備ノ
 計畫ヲ爲シ諸將ヲ部シテ要口ヲ扼守セシム施瑯ノ船艦ハ海上颶風ニ遭ヒ危險困苦ヲ凌キテ澎湖ニ達シ
 相攻撃セシカ初一戰ハ脆クモ施瑯ノ敗北ニ歸シタリ然リト雖モ施瑯ハ十分ニ澎湖ノ備ナク且船隻兵士

多カラサルヲ探知スルヤ其後三日ヲ經テ率ユル所ノ戦力ヲ盡シテ大舉シテ遂ニ澎湖ヲ占領ス
澎湖ノ敗將劉國軒ヲ始トシテ諸將僅カニ虎口ヲ脱シテ逃レテ臺灣ニ來リ敗衄ノ情狀ヲ語ル鄭克塽、兜
錫范、陳繩武等詳報ヲ聞テ驚惶セサルナシ且ツ澎湖敗衄ノ報一タヒ臺灣ニ至ルヤ島民ノ動搖ハ又タ一
層ニシテ實ニ鄭氏カ運命ヲ決スヘキ時期ハ眼前ニ迫リ來レリ如何トナレハ澎湖ノ臺灣ニ於ケルハ重要
ナル關係ヲ有シテ已ニ澎湖敗レタルハ臺灣ノ門戸ハ打破サレタルモノナリ此時克塽ハ破竹ノ勢ヲ以テ
進ミ來ル勇猛ナル施瑯カ軍ヲ如何ナル謀ヲ以テ防備セントスル乎將又タ別ニ一良策ノ其間ニ施スヘキ
モノアル乎實ニ今日ニ至リテ廟議ノ如何ニ決セラル、乎實ニ鄭氏ノ運命ヲ決スルノ時ナリ茲ニ重大ナ
ル會議ハ開カレ劉國軒、兜錫范、陳繩武及諸將士皆ナ集リ列座相對シ一言ノ發スルナシ時ニ黃良驥ナル
モノアリ挺身語テ吐テ曰ク澎湖已ニ破レ臺灣又タ防備ノ策ナシ若カス直下呂宋ヲ占領シテ別ニ一割據
地ヲ求メンニハト良驥ハ此言ヲ述ヘ且ツ呂宋ノ地圖及呂宋ニ對スル一切ノ事宜ヲ書セル調書ヲ出シ大
ニ呂宋占守ノ策ヲ主張ス
實ニ良驥カ立案ノ如キハ窮策ト云フヘキモ大勢茲ニ至リテ鄭氏ノ餘裔ヲ保タンニハ又一奇策トシテ諸
將ノ贊スル所トナリ討議遂ニ一決ス
討議呂宋占守ニ決スルヤ在臺ノ將士及員弁ニシテ移住ヲ欲セサルモノ多シ詭言四方ニ起リ人心嚮々ト
シテ殆ンド收拾スヘカラス而シテ危機ハ却テ島内蕭牆中ニ破裂セント如此情勢ナルヲ以テ呂宋占
守トシテ海ヲ除テ帆ヲ揚クルノ勇氣ナシ况ンヤ死守ヲヤ此情勢ヲ遠觀シタル劉國軒ハ決意一番全島ヲ
舉テ清朝ニ降伏スベシト説ク錫范之ヲ拒ム然リト雖モ錫范又タ奇策ヲ籌スル能ハス國軒ハ錫范ガ屢々
執拗シテ好機ヲ失ヒタルヲ責メ遂ニ克塽ヲ説キ降伏ノ議ヲ決シタリ康熙二十二年鄭平英、林維榮、朱
紹熙、會輩ヲ使トシテ左ノ降伏書ヲ齎ラシテ澎湖ニ至ラシメタリ
延平王佩招討大將軍印 臣鄭克塽、謹

奏論、城中有常尊、歷代紹百王、爲得統知、天意有攸屬、
與朝、宅九土、以受符、賦五德之推移、爲萬彙所瞻仰、伏念先世自矢愚忠、
追懷前代之恩、未沽
盛朝之澤、是以臣祖成功、華路以開、東土、臣父經殊、駘而雜、文身、寧取負
固重險、自擬、夜即、以保全遺黎、孤棲海角而已、茲蓋伏遇
皇帝陛下、

高覆厚載、仁育義懷、底定中邦、如旭日昇而普照、掃擴六宇、雖浮雲翳
而年消、荷修文德、以來遠人、寧事勝心、而禁海內、乃者舳艫西下、自揣履
踏之獲、愆念此血氣、東成、無非霜露之所墜、顏行何敢再逆、革心以表、後
誠也、昔者威未見德、無怪鳥駭、于虞機、今者悟、已知迷、敢後麟遊、於
圃、伏願、視天地民物、爲一體、合象胥、寄棘于大同、遠柔而邇、寧形民、因無
於醉飽、貳討而服舍、依漁自適、性淵泓、夫且問黃耆之海波、豈特誓丹誠、
以儆日己哉、臣無任、瞻
天仰聖、激切屏營之至、謹、奉、表、稱、進、以、聞

鄭克塽ヨリ施瑯ニ與ヘタル書

側聞大將軍軍擅蓋世之名久矣、恐輜無從攀仰、遠避外荒、株守先祀、初未
嘗妄生憂端、不虞樓船迅裂、震我門庭、僕知過矣、即不敢祈將軍之深爲
布護、獨不爲桑梓生靈、繫念耶、順天之命、謹奉國制、而遵勅諭、永爲
屏翰、蓋東寧遠在淡荒、若服而舍之、使守先祀、猶足以昭大同、而靖南徼、
茲遣協理禮官鄭平英、賓客司林維榮、齎表赴轅門、祈鑒真誠、奏達、

宸聰、倘逸、俞眷、實荷、大德、更有、不逮、惟祈、指南、臨楮、曷勝、翹瞻、
劉國軒ヨリ施瑯ニ贈リタル書ニ曰ク

澎湖之捷已知

天意有在矣、做員曾豈荷恩釋回、誦老親臺盛德、醇爲萬靈造福、感念不淺、今藩主不憚屈所、繕表以成鴻勳、老親臺標名銅柱、其立威甚遠、而持心甚厚、此又伏波所不逮也、茲端員以聽提命、其中款曲、有未合節、煩爲指示、尤所厚望、臨楮無任依馳

以上ノ降伏書ヲ齎ラシ澎湖ニ至リタル降伏使ハ施瑯ニ會シテ請テ曰ク削髮シテ臣ト稱シ世々臺灣ヲ襲ヒ永ク朝廷ノ屏翰トナラント施瑯之ヲ却テ曰ク此ノ如キノ要求ハ澎湖開戦ノ以前ニ於テ真心ヲ表シ之ヲ請フヘキナリ今ヤ門戸己ニ破レ勢弱リ事逼リテ申請スル方如キノ詭譎ニアラサルナキヲ保セス宜シク劉國軒兇錫范ノ二人ヲシテ親ラ軍門ニ來リ臺灣ノ人民土地ヲ舉テ版圖ニ入ラシムベシ其如何ニ處置セラル乎ハ單ニ朝廷ノ定套ニ任スヘシ若シ此ニ關シテ異議アルアラハ唯々再ヒ陣頭ニ見シノミト則チ施瑯ハ來使四人ノ内一方ハ鄭平英、林維榮ヲシテ總督巡撫ノ許ニ送り更ラニ協議セシメ他ノ一方ハ曾祺、朱熙兩人ヲシテ臺灣ニ歸リテ旨ヲ復セシメタリ今左ニ鄭平英、林維榮等ヲ總督巡撫ニ送到スルニ際シ施瑯ガ上奏シタル文ヲ揭ク澎湖占領ノ始末ヨリ善後ノ計策ヲ記載セリ

上疏曰

爲偽藩專差齎書、求撫據情、具題仰祈睿鑑、事竊照臣奉命專征、整頓舟師、于六月十六日、至二十二日、在澎湖連日、與賊鏖戰、炮火雨點、仰賴皇上威靈、官兵用命、渠鎮賊夥、俱被焚殺、殆盡、遂克取澎湖三十六島、業于六月二十六日、繕疏恭外、擬乘勝長驅、搗入臺灣、如摧枯拉朽、惟大小戰船、

被炮打損、破壞甚多、臣始將次號之船、可以補葺者、載送炮傷官兵、回厦調理、將船整固、令其順載柴米火藥弓矢、前來澎湖、以急軍需、至打壞烏船、見泊澎湖、當用工修葺、所需木料油灰釘鐵棕麻等項、匠作各項爲數、不小、刻在要需、賊難稍緩、六臣治師遠島、祇恐呼應不靈、隨于閏六月初三初六等日、移咨督臣、亟行探備、入漿船料、一百隻、一並檄委、祇州海防、同知王錫九、督運解到澎湖、以應整葺製造、用濟我師、到臺灣、穿淺入港、渡賊官兵、登岸之用、至于臣標水陸鎮營、被炮傷死官兵、三百餘員、名、煩傷一千八百餘員、名、陣傷之兵、雖給資醫治、未能痊愈、可荷、戈、臣計進剿臺灣之時、宜留大烏船二十隻、趕給雙帆、船三十隻、共五十隻、應用官兵四千員、名、留守屯割澎湖、以爲兩頭聲援、策應、然查督臣、選調精壯陸師、官兵四千員、名、前來補用、聽命調遣、去後、臣雖彈力疾呼、尤慮汪洋風濤、遠隔實爲、獨力難支、惟分撥船兵、在于入單將軍、澳南大嶼、東西甘吉龍門港、吼門吉貝嶼、島等、倍加巡瞭、以扼其吭、乃殘孽取遁之餘、見臣水陸官兵、逼臨門庭、安插投誠、撫綏地方、民人樂事、鷄犬不驚、臺灣兵民聞之、俱各解體、此閏六月初八日、僞鄭克塽、巨魁劉國軒、差僞禮官鄭平英、僞賓客司林維榮、僞員曾祺、朱紹熙等、齎具降表一通、並與臣書二封、另致督臣書二封、駕趕給雙帆、船二隻、到澎湖、臣軍前納款、請降待命、惟兇錫范與鄭克塽、欲求原居臺灣、承祀祖先、照管物業、懇臣指示、臣思此議未妥、若在未進、即換剿之時、送孽早遣來降、當爲題請、今澎湖既得、窮逼之際、始差鄭平英等、前來求撫、明係詭譎、緩兵之計、難以遽信、臣任專征、正宜主剿、不宜議撫、將鄭平英、林維榮二員、並帶二

封、咨送督臣看守候
旨定套、查鄭克塽年尚幼稚、未諳大禮、操縱指揮權、曾出于劉國軒錫范二
人、並特令曾輩朱紹熙回臺灣、傳諭、若果真心投誠、必須國軒錫范二人來、
臣軍前、面降、將人民土地、悉入版圖、其偽官兵、遵朝廷安輯、若偽藩等、悉如
臣言、臣當體皇上好生之德、以拯數十萬之生靈、具疏題請、我

皇上赦其前罪、卑之新恩、勅行督撫二臣、撫綏安插、臣因船隻被炮擊壞、暫
在整葺、未得乘勝搗剿、其所要需、船料匠作、俟解到、即晝夜兼工、整造、若船
隻修備、風信稍利、殘孽不從、臣之議、即督師進發、當此國軒一戰、敗遁、魂落
魄喪、臺灣人民、風鶴草木、皆兵之際、無難殄滅、淨盡根株、以慰宸衷、謹將
偽藩鄭克塽原具降表、及鄭克塽劉國軒致臣原書、進上御覽、恭聽 睿裁、迅賜

勅旨、其鄭克塽姓致臣書、茫然折閱、乃臣之罪、緣係恭報、偽藩求撫事宜、貼
黃難書、伏乞 皇上全覽施行、為此具、本謹密題請 旨、
曾輩朱紹熙兩人、澎湖ヨリ臺灣ニ回リ施那カ答ヘタル言ヲ爾ル克塽聞テ茫然タリ而シテ范又々躊躇
ス則チ國軒ハ克塽ニ説テ曰ク人心皆ナ惶慌ス守ラン平内必ス變アラシクハソカ士卒瘡痍ス當ニ運命ヲ
天ニ任セ投降スベシト克塽之レニ從ヒ鄭德藩ヲシテ再ヒ左ノ降書ヲ齎シテ澎湖ニ至ラシム
延平王佩招討大將軍印、臣鄭克塽、謹
奏、為、舉、國內附、仰冀

聖恩事、竊臣生自海邦、稚懵無識、膠繼創垂之緒、有乖傾向之誠、邇者樓
船西來、旌旗東指、策壺綏、迎於周旅、于羽煩、舞於虞階、自省重愆、誠為莫
贖、然思

皇靈之赫濯、信知 天命有攸歸、逆者亡、順者昌、乃 覆載待物之廣大、
貳而討、服而舍、諒聖王與人之甚寬、用導往時之成命、爰邀此日、
殊恩、冀守宗祧、以勿失、永作屏翰於東方、業有降表具

奏外、及接提督臣施瑯來書、以復居故土、不敢主張、臣思既傾心而向化、
何難納土以輸誠、茲持繕具表章、並延平王印一顆、册一副、及武平侯臣
劉國軒印一顆、忠誠伯臣范錫范印一顆、敬遣劉國昌、劉錫圭、齎赴軍前、
繳 奏版籍土地人民待

命、境土數千里之封疆、悉歸土宇、百餘萬之戶口、茲屬版圖、導海南、永息
波濤之警、普天之下、均沾雨露之濡、實 聖德之漸被、無方斯遐、區之穢負、恐後、獨念臣全家骨肉、強半孺呱、本係
南人、不諳北土、合情乞就、延闕地方、撥

賜田園廬屋、俾免流移之苦、且養贖有資、則蒙 高厚之生成、當銜丹青、以銜結、至於明室宗親、格外優待、通邦士庶、軫念
綏柔、文武諸官、加

恩、遷擢、前附將領、一體垂仁、夙昔結怨、盡與捐除、籍沒產業、俱行 賜復、
尤當廣推寬大之仁、明布維新之令、使夫群情允愜、共鼓舞於春風、萬壺
熙恬、同泳游於化日、斯誠微臣無厭之請、微望

朝廷不次之恩者也、爲此激切、具本奏聞、伏候勅旨、

鄭德藩ヲ派シタル後又タ錫范ノ胞弟ナル兵官兜錫圭工官陳夢煒及ヒ劉國軒ノ胞弟ナル錫焯ヲシテ曾輩朱紹熙ト共ニ澎湖ニ到ラシメタリコ、ニ於テ幾度トナシ構和使ヲ逐ヒ回シメタル鄭氏カ今ハ却テ陸續相接シテ降使ヲ送ルニ至レリ嗚呼南海ノ氣焰モ茲ニ至リテ再ヒ燃上スル能ハス願レハ鄭成功カ一家一身ヲ犧牲ニ供シテ明朝恢復ヲ企テタル至誠途ニ貫徹セス此ニ降伏ヲ見ルニ至リタル所以ノモノハ夫レ人爲乎將タ又天意乎施瑯ハ待衛吳啓爵ヲシテ臺灣ヨリ來レル鄭氏ノ降使ト交沙セシメ且ツ共ニ臺灣ニ航セシメタリ

吳啓爵カ臺灣驛受使トシテ兜錫圭ト共ニ臺灣ニ著スルヤ鄭克塽ハ劉國軒兜錫范等文武員辨ヲ率ヒ海濱ニ出迎フ啓爵ハ鄭克塽カ獻スル土地人民ノ簿冊及延平王冊一副金印一顆輔政公鄭聰印一武平侯忠誠伯左武衛等印ヲ領收シ且ツ鄭克塽ニ謂テ曰諸公時ヲ議リ天ニ順フ我皇上寬仁大度必ズ汝ニ高爵厚祿ヲ賜ヒ以テ國家ノ柱石ト爲スヘシ提督以下保舉重用セラレ決シテ諸公一片真誠ノ歸順ニ負クコトナシト告示五枚ヲ出シ克塽ニ交ス克塽之レヲ國軒ニ渡シ通衢街路ニ貼布セシム其告示ニ曰ク

爲安撫輸誠文武官員兵民以廣

聖恩事照得

聖朝定鼎以來、法素從寬、恆惟厚撫、順則逆、區宇咸寧、臺灣未靖、本提督奉

旨專征、蓋拯絕島之生靈、俾海疆於莫安、茲僞延平王、及武平侯、職天意之有在、樂皇仁之無偏、遣協理兵工二官、副使二員、齎具表章勅印、前來歸命、土地人民、悉入版圖、本提督體

朝廷好生之德、念至誠未撫之心、現爲題請、仰邀

浩蕩洪慈、安輯咸宜、合就曉諭、爲此示仰臺灣地方軍兵士庶等知悉、示到、各兵民立即削髮、本提督刻日親臨、安插軍紀、素嚴秋毫無犯、今既革心歸誠、官則不失爵秩之果、民則皆獲綏輯之安、兵丁入伍、歸農聽從、其便、各自安生、樂業無事、彷彿懲心、諭旨下頒、新恩遍及、本提督言出金石、決不爾負、須至示者

以上授受ノ式ヲ終フルヤ克塽先ツ髮ヲ削リ劉國軒以下文武員辨ヨリ兵士人民ニ至ルマテ皆ナ制ニ遵削髮セシム時ニ康熙廿二年七月十九日ナリ吳啓爵ハ臺灣授受ノ大任ヲ全シ臺灣ヲ去リ澎湖島ニ歸リ施瑯ニ見テ其始末ヲ詳細報告セリ

施瑯澎湖占領ヨリ鄭氏投降ニ至ルノ詳報及吳啓爵力完了シタル臺灣授受始末ヲ先後二通ヲ以テ北京へ上奏報告セリ左ニ掲ク其一ニ曰ク

題爲恭報臺灣、就撫事宜、仰祈

睿鑑事、竊照澎湖克捷、海逆已失、其險、康熙二十二年閏六月初八日、僞藩鄭克塽、渠魁劉國軒、差僞官鄭平英、林維榮、曾輩、紹熙等、齎送降表、並書、來澎湖軍前、求撫、臣慮其詭譎、緩兵、難以遽信、遂令曾輩、朱紹熙回臺灣、傳諭、若果真心投誠、必須劉國軒兜錫焯、范來、臣軍前面降、將民入土地、悉入版圖、其僞官兵、遵制削髮、移入內地、悉聽

朝廷安輯、若僞藩等、悉如臣言、臣當體皇上好生之德、以拯四海之生靈、題請、赦其前罪、撫綏安輯、業於閏六月十一日、將降表、並書、具疏進上、御覽在案、茲七月十五日、鄭克塽復差僞兵官兜錫圭、僞工官陳官夢煒、

劉國軒、遣胞弟偽副使劉國昌、兗錫范、遣胞弟偽副使兗錫韓、同曾輩、朱紹熙、齊送降本藥、前來澎湖軍前、回話、一一依臣前言、其防守南北淡水、偽左武衛將軍何祐、偽左先鋒鎮、李茂等、所帶賊衆、今俱弔回、臺灣南北淡水已無防守矣、何祐等差齋密稟、到臣納款、是臺灣南北地方、俱已效順、又據曾輩等稟稱、鄭克塽、劉國軒、及兵民人等、咸懇臣發給示、張諭、削髮、俾得遵依、早發一日、則民早獲一日之安、臣因仰體
 浩蕩洪慈、服舍來安、乃敢給示、撫綏、矧鄭逆自來、遠阻聲教、未敢
 聖化、非如吳耿諸逆、受恩背叛者、比諒荷皇上、廣開網赦、其前非、俾沾
 德意、即將劉國昌、馮錫韓、見留軍前、隨于十六日、遣侍衛吳啓爵、六品筆
 帖式常在、同兗錫圭、陳夢煒、曾輩、朱紹熙、帶安插告示五張、先往臺灣、曉
 諭、驗看各偽官兵民等、削髮、令其催齋、偽藩克塽、劉國軒、兗錫范等、勅印、
 並繕降本、前來交繳、以便臣代為齋進、則此事似可妥當也、臣俟各船
 修葺齊備、一面統率船兵、親抵臺灣、看其形勢、暫行安輯、其所製造入漿
 船隻、及再調陸師官兵、已移、否督臣停止矣、第查臺灣土地千餘里、戶口
 數十萬、地在包海之表、或去或留、偽官戶口繁多、當作何安輯、事關重大、
 所當亟請
 皇上、迅賜睿裁、勅差才能、戶兵二部、迅速前來、會同督撫、主裁料理、安置
 得宜、畢此大事、俾臣得即勾當班師、從此金甌永固、玉燭常調、可無慮南
 顧矣、此番澎湖克捷、臺灣就撫、實賴皇上、洪福齊天、威靈遠暨、乃克見成
 效、但臣鹵莽武夫、性質愚癡、直道行事、不肯遺賊、以為

君父憂荷蒙
 皇上蒙養之恩、特加之遇、無足稱報、誓必掃靖海氛、少効涓埃耳、今臣年
 逾六十、筋力衰邁、難勝封疆大任、但孤忠獨立、既不肯苟合、又不能彌縫、
 征剿臺灣之舉、乃而奉醇醇
 俞旨、專征、是以臣竭力效死、堅不可摧、務期蕩平、極知深拂人意、災必逮
 身、茲賊島既平、臣職已盡、早不引退、將來必為禍階、伏乞
 皇上恩賜、召回京、俾得時觀
 天顏、臣所深願也、謹將偽藩抄來、疏藁恭進
 御覽、緣係恭報臺灣、就撫事宜、貼黃難盡、伏乞
 皇上全覽、乾斷、迅賜
 勅旨施行、為此具本、謹密題請
 旨
 其二曰

為恭報臺灣兵民削髮、偽藩齋繳冊印、事緣照偽鄭克塽、差偽兵官馮錫
 圭、工官陳夢煒、劉國軒、遣其胞弟副使國昌、馮錫范、遣其胞弟副使馮錫
 韓、齋本藥、到澎湖軍前、一一悉聽、臣言、臣察其真誠、向化、於本年七月十
 六日、差侍衛吳啓爵、筆帖式常在、前往臺灣、看驗偽兵官削髮、業將情由、
 併將偽藩本稿、于七月二十四日、具題繳報外、此番偽差官求撫、蓋因澎
 湖失險、故革心歸誠、臣就近差遣看驗、削髮、無非畢此、則撫大事、乃吳啓
 爵等、于七月十九日、到臺灣、而督臣亦差候選同知林昇、撫臣、差官頭鄭

瑞生遊擊孫際、駕船二隻、于二十日到臺灣、並無到澎湖、知會狂道直去、臺灣、懸其就撫、是將軍國之事、故作兩途岐視、母乃有輕、國體、而貽笑於逆衆者乎、且臣于閏六月二十一日、因僞官鄭平英、林惟榮、到處張蓋乘轎、自尊無忌、杳移督臣、有搖尾乞隣、祖肉求降等語、督臣所差之員、將此公文、並督臣自題疏稿、抄送臺灣、地方形勢、兵民削髮、安輯事宜、應去應留、頭緒多端、不便繁入、疏稟、吳啓爵、常在、親履其地、俱悉其情、茲專差二員、赴、

闕披陳面奏、本月二十七日、僞藩鄭克塽、復差馮錫圭、陳夢煒、同吳啓爵、常在、齎具降本一通、及繳延平冊一、副印一顆、輔政公鄭聰印一顆、武平侯劉國軒印一顆、忠誠伯馮錫范印一顆、左武衛將軍何祐印一顆、僞藩鄭克塽擬將所樂印冊、令僞副使劉國昌、親齎進京、臣即同吳啓爵、一齊登程、其馮錫韓、適值抱病、不得就道、臣留在軍前、因見督臣如此爭執、是以得鄭克塽奏本一封、冊一、付印五顆、發交吳啓爵、常在、送赴督臣衙門、聽其主稿、具題齎、激去後、倘督臣不為代、激、臣一面囑吳啓爵等、即行齎進、臣常即親臨臺灣、先將要緊之人、載入內地、安插、但僞官兵民、戶口繁多、仰祈皇上、迅差戶兵二部、前來主裁料理、得宜、臣奉命專征、則業已勾當、仰候、

俞旨、以便班師、其安插事宜、悉交督臣、自行料理、鄭克塽、倘有招討大將軍印一顆、據稱有戶口兵馬、各項冊籍、俱未接造、因暫留用、俟繳合將僞藩鄭克塽所具、兵民削髮奏本一通、繳進、

御覽、其鄭克塽、劉國軒、馮錫范、何祐等、及文武大小各僞官、俱在候旨、削髮、緣係僞藩繳印事理、貽黃難盡、伏乞、

皇上俯賜全覽、並祈、

勅旨施行、

已澎湖ヨリ報告ヲ爲シ施瑯自カラ臺灣ニ至リ南北各處ヲ踏破シ再ヒ厦門ニ歸ル是ヨリ如何ニ鄭克塽及劉國軒以下鄭氏部下ノ文武員弁カ處置セラレタル乎左ニ記述セシ

鄭克塽劉國軒馮錫范洪福東繩武劉昌何祐林陸李茂等諸武文眷口皆ナ厦門ニ渡リ劉國軒衆ニ先テ北京ニ至リ議スル所アリ繼テ鄭克塽以下文武北京ニ進ミ謁見ス皇帝引キ見エテ大ニ悦ヒ招撫輯安ノ主意ニ基キ鄭克塽ヲ正黃旗漢軍公ニ拜シ劉國軒ヲ天津營總兵ト爲ス馮錫范ヲ正白旗漢軍伯ニ任シ以下皆順ニ從ヒ位ニ應シテ官爵ヲ授ク於此乎善後策漸ク結了セリ

是ニ於テ臺灣島ハ已ニ鄭氏ノ掌裡ヲ離レ全ク朝廷ノ所轄ニ歸シタリ然レモ當時ニ在リテハ之ヲ棄テ猶化外ニ置カン乎將タ收メテ版圖ニ歸セシムン乎ハ一問題タリシナリ茲ニ施瑯一封ノ奏議ハ北京ノ政府裁可スル所トナリテ遂ニ臺灣ヲ收メテ版圖ニ歸セシメリ今其ノ奏議ヲ採萃シテ左ニ錄セシ

題爲表陳臺灣棄留之利害、仰祈、

睿裁、事、竊照臺灣地方、北連吳會、南接粵嶠、延袤數千里、山川峻峭、港道紆迴、乃江浙閩粵四省之左、離離澎湖一大洋、水路三更餘、遙查、明季設水澎標於金門所出、汎至澎湖而止、水道亦有七更餘、臺灣一地、原爲化外、土番雜處、未入版圖也、然其時中國之民、潛至生聚于其間者、已不十萬人、鄭芝龍爲海寇時、以爲巢穴、及崇禎元年、芝龍就撫、將此地稅、與紅毛爲互市之所、紅毛遂聯絡土番、撫納內地人民、成一海外之國、漸爲

邊患至順治十八年為海逆鄭成功所踞糾集亡命挾誘土蕃荼毒海疆
窺伺南北侵犯江浙傳及其孫克塽四十餘年無時不仰置
宸哀日奉旨征討親歷其地備具野沃土膏物產利溥耕桑並耦漁鹽
滋生滿山皆屬茂林植修竹疏磧水藤糖蔗鹿皮以及一切日用之需無
所不有向之所少者布帛耳茲則木棉盛出經織不且舟帆四達絲繆
靡至飾禁離殿終難杜絕實肥饒之區險阻之域逆孽乃一旦凜
天威懷聖德納土歸命此誠天以未開之方與資

皇上東南之保障永絕邊患之禍豈人力所能致哉夫地方既入版圖土
蕃人民皆屬赤子善後之計尤宜周詳此地若棄為荒陬復置度外則今
臺灣人居稠密戶口繁息農工商賈一行徒棄安土重遷失業流離殊費
經營實非良策况以有限之土渡無限之民非閱數年難以報竣使渡載
不盡苟且塞賈則該地深山窮谷窟伏潛匿者實繁有徒和同土蕃從而
嘯聚假以內地之逃軍閃民急則走險糾黨為崇造舟制器剽掠濱海此
所謂藉寇兵而齎寇糧固昭然較著者甚至此地原紅毛聚處即不貪涎
亦必乘隙以圖一為紅毛所有則彼性狡黠所到之處善能鼓惑人心重
以夾板船隻精壯堅大從來海外所不敵未有土地可以托足倘無伎倆
若再得此地數千里之膏腴附其依泊必倡合黨夥竊窺邊場逼近門庭
乃種禍後來沿海諸省斷難晏然無虞之時復動師遠征兩涉大洋狂波
不測恐未易再建成効如僅守澎湖而棄臺灣則孤懸海中土地單薄界
于臺灣遠隔金廈豈不受制于彼而能一朝居哉是守臺灣則所以圖澎

湖也臺灣一守兼之沿邊水師汎防嚴密各相犄角聲氣關通應援易及
可以寧息况昔日鄭逆之所以得負抗通誅者以臺灣為老巢以澎湖為
門戶四通八達游移肆虐任其所之我舟師往來有阻今地方既為我得
在在官兵星羅棋布風期順利片帆可至雖有奸萌不敢復發臣業與部
臣蘇撫臣金鎔等會議之中部臣撫臣以未履其地未敢造次臣閱歷周
詳不敢遽議輕棄者也伏思
皇上盡極以來仁風遐暢威聲遠播四海賓貢萬國咸寧日月所照霜露
所墜凡有血氣莫不臣服以斯方拓之土奚難設守以為東南之藩籬且
海氛內地溢設之官兵盡可陸續汰減以之分防臺灣澎湖兩處臺灣設
總兵一員水師副將一員陸師參將二員兵八千名澎湖設水師副將一
員兵二千名通共計兵一萬名足以固守又無添兵增餉之費其防守總
兵副參遊等官定以三年或二年轉陞內地無致久任永為成例在我皇
上優爵重祿推心置腹大小將辨誰不勉勵竭忠然當此地方初闢設地
正賦維艱當宜蠲豁見在一萬之兵食權行全給三年後開徵可以佐需
抑且寓兵于農亦能濟用可以減省無庸盡資內地之轉輸也蓋籌天下
之形勢必求萬全臺灣雖屬外島實關四省之要害勿謂彼中耕種尤能
少資兵食固當議留即為不毛荒壤必藉內地輓轉運輸亦斷斷乎其不
可棄惟棄留之際利害攸關恐有知而不言之愆如我
朝兵力比于前代何等強盛當時封疆大臣無經國遠猷矢志圖賊征于
目前之安惟計畫遷五省邊地以避寇患致勢愈熾而生民顛沛往事不

截、近禍及今、重遣

朝廷宵旰之憂、臣仰荷

皇恩天高地厚、行年六十有餘、衰老浮生、類虞報稱、未由熟審該地形勢、

而不敢不言、蓋臣日知而不言、至後世、萬一滋蔓難圖、竊恐

皇上責臣以緘默之罪、臣又焉所自道、故當此地方削平、定計去留、莫敢

擔承、臣思、棄之必釀成大禍、留之誠永固邊疆、因會議之際、臣雖諄々極

道、難盡其辭、在部臣、撫臣等耳、目未經、又不能悉其槩、是臣於會議具疏

之外、不避冒瀆、以其利害自行、詳細披陳、但事關朝廷、封疆重大、棄留出

レ白

乾斷外、臺灣地圖一張、附馬塘遞進

御覽、緣係備陳臺灣去留事宜、貼黃難盡、伏乞

皇上睿鑑、全覽施行

右ノ奏議ニ依リ考フレハ清朝政府カ臺灣ヲ收メテ版圖ニ歸セシメタル主意ハ臺灣ノ富源ヲ開拓シテ國
民ノ幸福ヲ増進セシムト期セシニハ非スシテ若シ臺灣ヲ化外ニ置クトキハ或ハ匪徒ノ巢穴ト爲リ或ハ和
蘭ノ再據ト爲リ其餘波閩浙ハ沿岸常ニ擾犯セラレシトテ恐レテ臺灣ヲ舉クテ福建省ノ屬地ト爲シ浙
閩總督ノ管轄ニ歸セシメタリ臺灣ヲ收メテ版圖ニ歸セシメタル主意已ニ斯ノ如シ其經營規模不完全ナ
ル又以テ推知スルニ足ル竊カニ當時ノ經營ヲ按スルニ海口要害ノ地ヲ警備スル爲メ八千ノ兵ヲ駐セシ
メ總兵副將參將遊擊守備ノ大小辨員ヲ置キ之ヲ統御セシメ又綏緝安民ヲ司ル行政ノ機關トシテ
一府三縣ヲ置キタリ曰ク臺灣府曰ク臺海縣(安平)曰ク鳳山縣曰ク諸羅縣而シテ臺灣府ハ三縣ヲ總轄セ
リ外ニ臺灣道ナル一員ヲ設クテ一切ノ事宜ヲ處辨セシメタリ而シテ當時北京政府ノ臺灣ニ於ケル統治

ノ方策等ハ大ニ冷視セルノ感アリ降テ康熙六十年朱一貴ノ一亂ハ臺灣統治ノ上ニ非常ナル注意ヲ與ヘ
當局ヲシテ島内ノ民治又忽ニスヘカヲサルヲ警覺セシメタリ此レニ依テ清廷更ニ觀察御史ナルモノヲ
置キ毎年一回臺灣ニ渡來シ觀察ヲ遂ク以テ天外ニ僻處セル民間ノ疾苦ヲ訪ハシム其外雍正元年ヲ以テ
諸羅縣ノ所轄地ヲ割テ更ニ彰化縣淡水廳(新竹)ヲ設ク諸羅ヲ改メテ嘉義ト稱セリ又澎湖島ニ一廳ヲ置
キ澎湖廳ト云フ是ヨリ先キノ一府三縣ナルモノヲ變シテ一府四縣ニ屬トナル降テ雍正元年ニ至レハ租稅
ノ條規其他一切ノ制度大ニ完成ヲ告クタリ其後嘉慶道光咸豐同治ヲ歷テ光緒七年劉銘傳カ一大革新ヲ
施ス迄ノ間百四十餘年間小變革ハ免カレサルモ行政ノ大体ニ於テハ著シキ改革ヲ見サルナリ
以上陳スル所ハ清朝カ屬轉時代ニ於テ施シタル臺灣統治ノ概要ニシテ其統治カ能ク民心ヲ得テ謳歌セ
ラレタル乎ハ一疑問ト云ハサルヘカラス試ニ看ヨ雍正十年ヨリ乾隆三十五年ニ至ル四十年間ノ歲月カ
泰平無事ニ經過セシノミニシテ之ヲ除テハ數年ニ一亂十年ニ一變寧歲アルナシ左ニ土匪擾亂分類鬪爭
ノ略史ヲ記シ以テ當時ノ現象ヲ証スヘシ然レトス兵亂相繼クニモ係ラス攷々トシテ歩ヲ進メタルモ
ノハ田園ノ開墾ナリ田園ノ開墾ニ係聯シテ離ル可ラサルモノハ租稅ノ沿革ナリトス乃別項ニ之ヲ記ス
臺灣ノ民人ハ天性亂ヲ好ムモノ乎將タ又激シテ之レヲ起サシムルモノアリテ然ル乎清朝歸版後二百
十有餘年禍亂ヲ醸ス十有八回而シテ十有八回ノ兵燹中之レヲ外ニシテハ禁牽ノ來寇アリ之レヲ内ニ
シテハ朱一貴ノ亂林爽文ノ變及ヒ陳周全ノ叛ハ其大ナルモノトス其他幾多ノ兵燹ハ皆草賊ノ蜂起ニ
過キスト雖モ各地ノ奸徒機ニ乘シ變ヲ窺ヒ同時ニ相應シテ起ツハ其揆皆ナリナリ此ニ於テ平匪徒ノ
蜂起其由テ來ル源由ヲ知ラサルヘカラス鳳山縣誌ノ記スル所ニ依ルト臺灣有「中國民」自「思齊」始云
々顏思齊ハ海上剽掠ヲ逞フスル海賊ニシテ竊窟ヲ臺灣ニ構ヘタルモノナリ然レハ臺灣ニ於ケル支那
人種ノ移住ハ海寇ニ始マリ次テ鄭成功ノ割據トナルヤ部下中ノ幾分ハ沿岸不逞ノ徒ヲ驅テ開墾ヲ企
テタル跡ナキニシモアラス降テ清廷歸版後ニ至リテハ浙閩ノ亡命粵東ノ匪徒逃レテ臺灣ニ投シ跡ヲ

潜メタルモノ甚多シ之レヲ以テ之レヲ推セハ當時ノ形勢ハ恰モ臺灣一嶋ヲシテ亡命匪徒ノ窟巢ヲラシメタリ其亡命ノ餘波ヲ汲ムモノ及匪徒ノ後裔ヲ受クルモノ山嶺僻邑ノ間ニ踞居シテ部下ヲ卒ヒ同盟ヲ結ヒ平時事ナキ時ハ未テ執テ耕シ一朝機ノ投スヘキモノアルトキハ刀ヲ提テ是レヲ以テ一二奸徒ノ盟亂ヲ一方ニ唱フレハ各處ノ匪徒並ニ起ル又々怪ムニ足ラサルナリ是等歷世ノ匪徒ハ臺地到ル處ニ散在スト雖モ鳳山嘉義及ヒ雲林ノ地方ニ於テ尤モ多シトナス是レ史乘ニ照シ巡視ニ鑑ミ昭々トシテ明ナル所ナリ然レハ臺灣ノ民人亂ヲ好ムモノハ其根底ヤ深シト云フヘシ然リト雖モ禍亂ノ起ルノ日ニ起ルニ非ラス必ス依テ起ルヘキ機會ナクソハアラス傳フル所ノ如クソハ朱一貫ノ亂ハ知府王軫ノ苛斂嚴刑ニ基因シ林爽文ノ變ハ知府景燧カ會匪ヲ治ムル始メハ因循ニシテ後ハ輕舉暴動之レカ火導ダラスソハアラス張丙ノ反ハ知縣邵用之貪黷ニ依リ陳周全ハ米價騰貴ニ乘シテ妖言ヲ放チタリ其他草賊ノ蜂起皆ナ起ルヘキノ機會ニ投シタルニ依ラスソハアラス之レニ依テ考フル時ハ臺灣兵燹ノ多キ所以ノモノハ人民ノ天性ニ因ルト雖モ汚吏貪腐ノ叢籍スヘキノ口實ヲ備作スルニ非レハ庸官凡僚ノ徒乘スヘキ機會ヲ附與スルニ基因スト云フヘシ後世局ニ當ルモノ前者ノ覆轍ニ鑑ミテ乘スヘキノ機會籍スヘキノ口實ヲ匪徒奸民ヘ附與スル勿レハ幸ナリトス茲ニ諸書ニ記スル所ノモノヲ採萃シテ譯出スル左ノ如シ

康熙三十五年 我元統元年 月新港民吳球亂ヲ謀ル
 吳球ハ新港東用尾ノ人ニシテ性魯勇ヲ好ム此時ニ當リテ朱祐龍ナルモノ自ラ前明ノ後裔ト稱シ屢々吳球ト往來シ籍カニ黨ヲ集メ陰謀ヲ企ツ
 時ニ吳球ノ妹鳳山縣吏陳樞ニ嫁シテ妻トナレリ陳樞官職ヲ私消シ官ノ督促ニ遭フヤ救ヲ吳救ニ求ム救告テ曰ク官職何ソ還スヲ要セソ我カ大事ニシテ成就セバ倉中ノ穀ハ皆ナ吾有ナリト蓋シ陰謀ノ舉日ナラスシテ發スルヲ云フナリ陳樞喜ント吳球ヲ藏匿シ又々朱祐龍ヲ擁シテ國師ト爲シ陰ニ陽ニ吳

球朱祐龍ノ陰謀ヲ助ク此ニ於テ乎招集漸ヤ多キヲ加フ吳球部下ニ余全盛ナルモノアリ堡長林盛ヲ説テ聲援ヲ爲サシメント欲ス林盛伴リ諾シテ其黨ニ入り夜ニ乘シ走リテ府衙門ニ自首ス府衙門ハ報ヲ聞テ直ニ北路參將陳貴ヲシテ陳樞ノ宅ヲ圍ミ吳球ヲ始トシテ陳樞余全盛等縛ニ就ク皆ナ訊究ノ後杖斃セラル而シテ朱祐龍ハ竟ニ其ノ行ヲ知ラス(臺灣縣誌抄)
 康熙四十年 我元統十四年 十二月諸羅(嘉義)ノ劉却亂ヲ爲ス

劉却平素魯棒ヲ以テ自負シ日々無賴漢ト往來シ血ヲ飲テ盟ヲ訂ス機ヲ看テ事ヲ舉クルコトヲ謀ル日ヲ經ル久キニ至リテ其黨中不逞ノ徒アリテ劉却ヲ非難スル者甚タ多シ劉却計ヲ以テ衆望ヲ博セント欲シ竊カニ樟腦ヲ屋瓦ノ間ニ置キ深夜ニ至リテ火ヲ點ス紅火忽ニシテ燃ニ此ノ如クスルモノ毎夜遂ニ同盟者ヲシテ注意セシムルニ至ル皆ナ曰ク劉大哥ノ屋舍毎夜紅光天ヲ燭ク是レ常兆ニ非ルヘシト又々一日同盟者劉却ノ家ニ集ル故ナシテ神爐火ヲ發ス皆曰ク尋常人ノ所爲ニ非スト是等異兆奇祥ハ無知ノ惡漢ヲシテ尊敬ノ意ヲ起サシメ劉却ノ群ニ投スルモノ又々多シ劉却益々虛亂ノ謀ヲ運シ屋後ニ於テ大穴ヲ掘リ揚言シテ曰ク是レ仙器ヲ貯フ處ナリト而シテ陰然銀治師ヲ穴中ニ招キ竊カニ刀鎗其他ノ武器ヲ製造セシメタリ十二月ニ至ルヤ世上稍ヤ慌忙ノ時節トナル劉却同盟ノ惡漢ヲ率ヒ旗ヲ樹テ鼓ヲ擊チ兵勢猖獗加各營ヲ焚劫ス又々夜ニ乘シ進ンテ茅港尾ヲ襲フ市中ノ各家貨財ヲ掠奪セラレタルモノ甚タ多シ而シテ生蕃此ノ變ヲ聞キ機ニ乘シテ四出シ殺戮ヲ逞フスルヤ百姓大ニ苦ム
 劉却ハ焚掠ヲ肆ニセシ後ヲ退テ急水溪ニ屯シ益々陰謀ノ策ヲ講ス
 北路參將白通隘兵ヲ率ヒテ之レヲ征ス臺灣ノ鎮道又々來リ援フ五日ノ後官兵大ニ集リ剿討ヲ行フ此ノ時劉却等晝間跡ヲ嶺ノ中ニ潛メテ敢テ出テテ夜ニ至レハ隊ヲ結ヒ村庄ニ出テ掠劫ヲ爲ス官兵嚴ニ搜索ニ從事シ遂ニ其ノ翌年二月ニ至リ笨港ノ秀水莊ニ於テ劉却縛ニ就ク劉却及長子某ハ斬ニ處セラレ其妻孥ハ流刑ニ行ハレ而シテ事漸ヤ止ム(臺灣誌抄)

康熙六十年^{我享保}四月臺灣^{六年}於奸民朱一貴亂作ス
 原ト朱一貴ハ福建省漳州長泰縣ノモノニシテ幼名ヲ祖ト云フ天性游惰常ニ無賴ノ徒ト交リ鄉里ノ爲
 メニ忌憚セラレ康熙五十二年臺灣ニ渡リ臺厦道ノ轄役トナル尋テ罪ヲ得工母頂草地ニ革セラレ鴨ヲ
 飼育シ業トナス常ニ無賴ノ徒ノ通過スルアレハ飼鴨ヲ調理シ務テ彼等カ歡心ヲ得ンコトヲ行フ時ニ
 承平日久シク官吏其職ニ飽キ絶テ民治ヲ意トスルモノナク諸事滯滞セリ六十年春鳳山縣令缺ク臺郡
 太守王勳ナルモノ縣篆ヲ攝ス而シテ政ヲ次子ニ委テ頗ル閑ヲ偷ム或ハ苛稅ヲ課シ或ハ風聞ニ依テ朋
 黨ヲ捕フ之ニ依テ其拏捕セラレタルモノ又々數拾人又々禁ヲ犯シテ內山ニ走リタル者百人余奸匪遂
 ニ籍テ口實トシテ日々官府ノ長短ヲ誣謗シ人心ヲ搖惑ス黃殿ナルモノ羅漢門ニ居リ朱一貴ト善シ共
 ニ不逞ヲ謀リ密ニ往來スル三月月ニ亘ル季勇、吳外、鄭定瑞等共ニ羅漢門ニ之キ一貴ニ見テ曰ク今
 ヤ地方官皆其人ヲ得ス爲ニ民心反離ス大事ヲ舉クント欲セハ夫レ此時乎一貴曰ク然リ我姓朱ナリ若
 シ明朝ノ後裔ト稱シ鄉村ニ傳ヘシメハ歸スル者必ス衆シ皆曰ク可ナリト是ニ於テ康熙六十年四月十
 九日季勇、吳外、鄭定瑞、王玉金、陳印、等五十二人黃殿ノ庄中ニ會シ一貴ヲ奉シテ盟主トシ相結
 托シテ各凶徒ヲ招集シ數百人ヲ得タリ幟ヲ舉ク誓スルニ大元帥朱ノ四大字ヲ以テス夜ニ乘シ岡山ノ
 兵營ヲ襲劫ス二十一日警報衙(臺南)ニ達ス總兵官改陽瑞將士ヲ集メ出兵ヲ議ス中營遊擊列得紫行ヲ
 請フテ許サレ右營遊擊周應龍龍魁偉大ニ議論シ兵四百人ヲ以テ賊ヲ平クヘシト云フ依テ之ニ新
 漆、目加留灣、蕭懋麻豆ノ生番四社ヲシテ附隨セシム岡山ハ府城(臺南府)ヲ距ル三十里賊勢未タ盛
 ナラス疾趨之ヲ攻メハ滅スルコト明ナリ然ルニ是日細雨霏霏應龍ハ兵番率ヲ行クコト僅ニ五里半
 路店ニ駐リ翌日進ムコト又僅ニ十五里角帶圍ニ屯ス賊夜襲ヲナス棟榔林兵營守備ノ任ニ在ル把總張
 文學迎戰シテ敗績ス兵器ノ遺棄セラレタルモノハ皆賊ノ有トナル應龍一溪ヲ隔テ之ヲ救フ能ハス賊
 大潮ヲ掠シ守兵ヲ殺シ去ル是日南路ノ賊首杜君英ハ楊來顏、子京ヲ遣シ其百人ヲ率ヒ一貴ニ見ヘ言

ハシメタルニ今君英下淡水檳榔林ニアリテ粵東ノ農工諸民ヲ招集シ陳福壽、劉國基ト謀シテ共ニ臺灣
 府ノ倉庫ヲ掠セントス又郊國正、翁義ハ草澤ニ載程、江國論ハ下埤頭ニ林曹、林堯、林建ハ新園ニ
 王忠ハ小琉球ニ起リ皆君英ニ從ヒ府城ヲ攻メ朱一貴ト約シテ事ヲ共ニセシコトヲ願フト二十三日朱
 一貴山岡ノ麓ニ屯ス應龍ノ兵小岡山ニ於テ賊ニ會シ大ニ戰フ千總陣元、把總吳益等奮戰掩擊シ賊大
 敗シ退テ山ニ入り袁交友莊ヲ奪ヒ之ニ屯ス應龍兵ヲ收メ二濫ニ到ル楊來、顏子京淡水ニ回ル二十四
 日應龍二濫ニ在テ令ヲ兵番ニ傳ヘテ曰ク賊兵一名ヲ殺サバ銀三兩賊目一名ヲ殺サバ五兩ヲ賞セシム
 トヲ以テス土蕃性貪淫民四人ヲ殺シ火ヲ民家ニ放ク復タ八人ヲ斃ス聞ク者皆戰慄シ恐ル二十五日
 遠近ノ賊黨兵番ノ殺掠ヲ辭柄ト爲シ沿道ノ村莊ヲ煽動ス是ヨリ各鄉相應シテ賊ノ幟ヲ堅テ之ニ
 應ス應龍進シテ楠仔坑ニ到リ南路營將苗景龍警報ヲ得タリ曰ク林曹等ノ賊夜新園ヲ攻メ軍器ヲ奪
 ヒ下淡水兵營已ニ陥ルト二十六日應龍復タ行クコト拾五里南路營ニ宿ス二十七日官軍賊ト赤山ニ遇
 フ杜君英、朱一貴兩路ヨリ官軍ヲ夾擊ス應龍後隊ニアリテ遽ニ退ク千總陳元戰死シ把總國應遂ニ擒
 セラレ吳益重傷ヲ蒙リ僅ニ陳元ノ屍側ニ伴死シテ逃ル、ヲ得タリ季煥負傷ヲ負フテ去ル應龍逃レテ
 府治(臺南)ニ歸ル一貴群賊ヲ率テ進ム君英ハ陳福壽劉國基、嚴程、翁飛虎、江國論、郊國正、楊來顏
 子京、林曹、林堯、林建、鄭文苑、王忠等ト偕ヒ鳳山縣ヲ攻ム南路營把總林富戰死守備馬定國ハ自刎
 シテ死ス參將苗景龍ハ逃レテ萬圓港ノ漁家ニ匿ルコト三日穆周、林泗ノ爲ニ捕ハレ郊國正ノ許ニ送
 致ス國正ハ林泗翁義ヲシテ之ヲ殺シメ其首ヲ朱一貴ニ獻ス赤山ノ敗府城(臺南)ニ達スルヤ人民大ニ
 震フ文武諸官ノ家屬先ツ遁ル爭フテ舟ニ乘シ鹿耳門ヲ出ツ士民相率ヒテ逃竄ス二十八日總兵官歐陽
 凱、遊擊劉得繁ハ千余人臺協水師副將許雲ハ五百人ヲ率ヒ春牛埔ニ出テ營ヲ列テ以テ待ツ夜軍中
 驚キ鎮兵四散ス二十九日黎明稍々集ル人々戰フ勇ナシ臺厦道梁文煊知府王珍同知王禮、臺灣知縣
 吳觀域諸羅知縣朱變等銀千五百兩ヲ義捐シ射カラ諸營ヲ歷問シ軍ヲ勞フ參拾日水陸ノ兩軍ヨリ鎗砲

齊發ス許雲馬ヲ躍シテ賊ヲ衝キ之ヲ敗ル官兵決死奮戰ス陸軍繼テ進ム賊大ニ敗レ退テ竿津林ニ屯ス
 把總陳宋ナルモノ周應ノ牛車ニ縛セラル、ヲ見ルヤ退及之ヲ救フテ回ル鎮標把總許陞陸賊勢ニ恐
 レ途中ヨリ還ル是時水師左營遊擊逃レントス時ニ崇功築港ヲ巡哨セリ報ヲ聞キ兵ヲ率テ鹿耳門ニ入
 ル鹿耳門ニ到ルヤ文武ノ眷屬皆舟ニ乘リ逃レントスルヲ見テ嘆シテ曰ク官吏ハ兵民ノ要ナリ官吏ノ
 眷屬逃ルレバ則チ人心散シテ大事去レリト岸ニ登リテ赴ク其婿馬ヲ叩キ眷屬ヲ處世セント請フ崇功
 聲ヲ勵シテ曰ク今日家アルヲ知ルノ違アラシヤ衆ヲ麾ヒテ疾馳春牛埔、ニ至ル五月初日賊衆數萬ト
 號ス對得紫守備張我ヲ率ヒテ半路店ニ到リ敵ヲ迎ニ戰フ歐陽凱、許雲游、崇功等辨兵ヲ率ヒ春牛埔
 ナ護ル此時杜君英朱一貫ヲ合セテ來犯ス鎮兵忽亂レ百總揚泰先ツ賊ニ通ヲテ歐陽凱ヲ刺ス群賊其首
 ナ得テ去ル守備胡忠義、千總蔣子龍把總林彦皆ナ之ニ死ス汀州標把總后林亦戰死ス海壇把總李信重
 創ヲ被リ己ニ死ス王宋ナルモノアリ憐シテ之ヲ埋メントス復蘇生ス借ニ他所ニ匿ル得紫敗ヲ聞キ還
 リ救フ途中賊ノ爲メニ乘馬ヲ倒サレ途ニ守備張成ト俱ニ擒セラル剛將許雲游血戰シテ賊數百人ヲ殺
 シ遊擊崇功千總林文三趙奇奉、把總李茂吉ト共奮然大呼シ向フ所皆靡ク黎明ヨリ戰ヒ日中ニ至リ矢
 折レ砲盡ク此時許雲游重創ヲ負ヒ馬ヨリ墜チ歩行ス猶手カラ賊數ヲ斃ス雖然勢弱ク救援亦來ラズ且
 賊ノ爲ニ左手ヲ切斷セラル仍テ罵テ曰ク生テ逆賊ヲ殺盡スル能ハス我レ死ストモ必ス再ヒ來リ汝等
 ナ滅スヘシト賊兵怒リテ許雲游ノ屍ヲ剝ク又崇功單騎賊數十人ヲ殺ス馬蹶ヒテ殺サル其他林文燦趙
 奇奏俱ニ戰死ス季茂吉賊ニ執ハレテ南ニ戰場ニ至リ載移ヲ見ル挺立嚴然穆其跪カサルヲ怪ミ之ヲ叱
 シテ曰ク汝ハ兵カ茂吉曰ク官ナリ穆曰ク把總ハ微官ノミ汝降ラハ授クルニ將軍ヲ以テセシ茂吉目ヲ瞋
 ラシ聲ヲ勵シ罵テ曰ク我朝廷已ニ官位ヲ授ク豈ニ汝ニ從ヒ賊トナランヤト足ヲ舉テ賊案ヲ踴ル案斷
 ル力ヲ奮テ縛テ絶チ直ニ進ンテ刀ヲ奪ヒ賊ヲ殺サント欲ス衆賊刀ヲ以テ之ヲ斬ル頭腦裂カレト雖
 毛尙ホ賊ヲ痛罵スル初ノ如シ氣絶テ後止ム官兵已ニ敗レ臺灣水師中營遊擊張彥賢、右營遊擊王

鼎、守備萬泰平、陵進、楊進、千把總朱胡、列清、鄭耀等兵千餘人戰船四十餘艘ヲ率ヒ澎湖島ニ逃
 ル鎮標左營遊擊孫文元奔テ鹿耳門ニ至リ海ニ投シテ死ス臺營遊擊周應龍、中營把總王丑商船ニ乘リ
 内地ニ逃レ歸リ直ニ泉州ニ走ル把總李碩、陳福、尹成、道標守備王國祥、千總許自重皆澎湖島ニ逃
 レ臺廈道梁文煊、知府玉珍、同知于禮、臺灣知縣吳觀縣丞馮迪、曲史王定國、諸羅知縣朱王、曲史
 張奇遠皆ナ一時相率テ舟ニ登リ港内商漁ノ船舶ハ賊ノ爲ニ奪ハレノトト慮リ鹿耳門ヲ出テ齊シク
 澎湖島ニ赴キシト云フ

是ヨリ先キ流言スルニ四月ニ於テ大難アリ難至ルノトキ門ニ香案ヲ設ク黃紙ヲ以テ小旗ヲ作り帝令
 ノ二字ヲ書シ案中ニ挿ミ置クハ難ヲ免ルヘシト賊兵ノ杜君英先ツ入りテ總兵官署ニ住シ朱一貫次テ
 入り臺廈道署ニ居ル同ク府庫ヲ開キ金銀ヲ分掠ス復タ蘭人樓ハ荷蘭陀ノ築ク所ニシテ舊名ヲ赤嵌城
 ト云フ蘭人酋長之ニ居レリ鄭氏ニ至リテ火藥軍器ヲ貯フ以後四十年來開ク者ナシ賊疑フテ金銀密ト
 ナシ之ヲ發キ大小砲併刀鎗硝磺鐵鉛彈ヲ得ルニト山ノ如シ參日朱一貫ヲ立テ僞王トナシ天冠黃袍
 玉帶皆ナ之ヲ俳優ニ擬ス羣賊堂上ニ列座シ萬歲ヲ呼フ又年號ヲ永和ト僞號ス北路ノ奸民賴池、張
 岳、鄭惟晃、賴元改、萬和尙、林泰蕭春等此月初日旗ヲ豎テ衆ヲ聚ム三田環ヲ越ヘ諸羅縣ヲ攻ム
 北路營參將改萬倉千總陳徽把總鄭高葉旺各門ヲ守リ敵ヲ迎フ萬倉其南ニ當リ死力ヲ出シテ拒戰ス
 兵少ニシテ援ナク賊陳碧、竹鎗ヲ以テ其喉頭ヲ刺ス張岳、賴元改刀ヲ揮フテ之レヲ殺ス萬倉ノ側
 室蔣氏兵ノ敗ル、ヲ聞キ自刎シテ死ス陣徽、鄭高懸レテ山ニ入り鄉民ヲ集メ自ラ保ツ五日賴池、張
 岳、鄭惟晃、賴元改、羅參將ノ首ヲ將テ府ニ來リ朱一貫ニ獻シ功ヲ請フ一貫全臺俱ニ陷ルヲ見テ
 揚々得意以爲ク己ヲ誅スル者ナシト高臺ニ上リ鳴鐘打鼓呵唱拜跪大ニ群賊ヲ封ス王玉全ヲ以テ僞國
 師トナシ翁飛虎爲帥印、戴穆、郭定瑞、郭國正、顏子京、揚來、黃殿、劉國基、黃日昇、江國論、
 主忠、林曹、薛菊、林養、林健、陳正達、張看、賴池、賴元改、鄭惟晃、鄭文苑、陳成等ヲ僞公國

トス張岳ハ公爵ヲ受ケス偽將軍トナル陳燦、蘇天威等ヲ僞侯ニ張阿山、卓敬、陳國進等ヲ僞都督ニ
 蕭斌、詹遠ヲ僞尙書内閣辦事ニ麻恩、林王ヲ僞輔翼大將軍トシ其餘僞文武部科以下僞武職總兵副
 將以下其數ヲ計ラズ鄭定瑞、蘇天威ヲシテ賊兵三千ヲ領シ鹿耳門ヲ鎮守セシム是時僞職文武官街中
 ニ填キ或ハ漢帽ヲ戴キ或ハ小袖ヲ着ク或ハ紗袍金冠ヲ被リ或ハ芒屨ヲ以テ其首ヲ裏ム異樣變態實ニ
 怪奇ヲ極メ民間之ヲ爲シ諸フテ曰ク頭ニ明朝帽ヲ戴キ身ニ清朝ノ衣ヲ穿ツ五月永和ト稱シ六月康熙
 ニ遷ルト蓋シ童孀婦女皆其且夕勢ヲ失ヒ滅亡ニ至ルヲ知レリ是ヨリ先キ遊劉得綠擒ニセラシ將ニ刑
 セラレントス泰然頭ヲ延シ亦ヲ受ク賊素ヨリ劉得紫ノ威名ヲ重クシ殺ニ忍ス得紫曰ク吾天子ノ命官
 タリ死セサル可ラス且ツ願クハ吾師已ニ戮セラレタリ其ノ屍首ヲ埋ルコトヲ得バ死シテ瞑目セシノミ
 賊島目鼻其義ニ感シ許シテ收理セシム而シテ賊徒ハ劉得紫ヲ殺サズシテ之ヲ學官朱子祠ニ監禁ス死ヲ
 求メテ得ズ賊與ニ言フモ應セス食ヲ進ムルモ食ハス七日仍ホ死セス土民兵僧等溺ヲ進メ苦勵スルモ
 食ハス是ニ於テ諸生林卓、劉化解等諸賊ヲ滅亡スル且夕ニ在リ其時ニ乘シ仇ノ報スベキヲ諭セシカ
 ハ始テ民ノ餽食ヲ受ク溺ヲ啜リ命ヲ延ヘ以テ大師ヲ待テ恢復ノ計ヲナサントナ期ス此時臺中跳竄ノ
 各官及避難ノ人民皆ヲ澎湖ニ到ル澎湖將辦倉皇措ク所ヲ知ラス群情洶々其ノ臺灣ノ文武官皆ヲ逃レ
 來リタルヲ見テ亦各家屬ヲ舟ニ遷シ將ニ廈門ニ渡ラントスル百性婦女舟ヲ爭ヒ哀聲島中ニ震フ右營
 守備林亮之ヲ聞キ協營主將ニ命シ舟ニ登リタル各家屬ヲ呼ヒ回シ澎湖島ヲ死守セント企ツ諸將將
 決セス林亮勵聲シテ曰ク朝廷海外封疆ヲ以テ我等ニ付托スル所以ノモノ正ニ緩急ノ倚頼ヲナスニア
 リ何ソノ昇平ニ安シ祿ヲ食ミ身家ヲ營ムノ爲ナラシヤ今鋒刃未タ血ヲ流ラシテ相率ヒテ去ル其爵立ロ
 ニ至リ他日首ヲ市ニ駢ヘン寧ロ能ク免ル、コトアラシヤ大丈夫死セスレハ則己ム死スレハ則己忠義
 ニ死センノミ請フ兵ヲ整ヘ船ヲ配リ要害ヲ守禦シ賊至ルヲ俟テ死ヲ決シテ戰ハシ戰ヒ捷サレバ亮
 必ス死スベシ然ル後公等歸ルモ亦未タ遲カラズ皆曰ク請フ死守セント亮馳テ江ニ出テ主將ニ號令ヲ

傳ヘ佩刀ヲ拔キ官民ノ家屬ヲ驅リ各々岸ニ登ラシム衆心始メテ安シ是時水師提督施世驛避難ノ民船
 廈門ニ至ルヲ見テ初メテ臺灣ノ變ヲ知ルコトヲ得タリ然リト雖モ未タ全臺ノ已ニ陷ル如キ大亂タル
 ナ意ハサルナリ已ニシテ文武諸官ノ逃レテ澎湖ニ至ルモノ喘息稍ヤ定ルヲ以テ文ヲ具シ申報スルニ
 至リテ始メテ其ノ詳報ヲ確ムルヲ得タリ六日報廈門ニ達ス世驛諸將ヲ集メ議シテ曰ク賊勢猖獗極マ
 レリ六七日間ニシテ全臺俱ニ陷ル此小敵ニアラス今數百艘逃レテ内地ニ入ル慮ニ乘シ奸徒ノ跡ヲ潛
 メ地方ヲ煽動スルアラハ罪言フヘクシヤ各々巡防ヲ戒メ守備ヲ嚴ニシ敢テ懈怠スルナカレト浙閩總
 督覺羅滿保臺灣已ニ陷ルト聞キ又々以爲ク廈門ハ臺灣ヲ控制シ閩南沿海ノ咽喉ニシテ根本ノ重地タ
 リ親臨防禦以テ人心ヲ定メ進取恢復ノ計ヲナサ、ル可カラズト巡撫呂德龍ト會商シ呂猶龍ニ命シ省
 城ノ糧餉軍需一切ノ諸務ヲ統轄セシム使テ京師ニ派シ密ニ事變ヲ上疏シ一月ヲ限リ兇醜ヲ掃除シ土
 疆ヲ復還セントテ狀請シ且ツ速ニ廈門ニ赴クコトヲ言上ス復廈門ハ地狹クシテ人衆シ軍隊ノ到ル必
 ス米價ノ騰貴スルヲ慮リ先ツ撤テ浙江廣東兩省ニ移シ糧米ヲ運ンテ廈門ニ來ラシム布政使沙木哈ニ
 命シテ正建上游ノ糧米ヲ買收シ舟路運載シテ廈門ニ赴キ平糶セシム總督覺羅萬保咨ヲ飛シテ提督世
 驛ヲ促シ期ヲ刻シテ出師セシム又々南澳總兵官藍廷珩ヲ速ニ廈門ニ到リ征臺ノ機務ヲ面商セシ
 ム其他命令發シテ糧驛道韓變ヲ以テ糧餉軍需ノ調撥船隻僱募ノ諸事ヲ總理セシム督標左營參將王萬
 化、撫標左營遊擊邊士偉兩人ヲシテ急遽廈門ニ赴キ百姓ニ慰諭シテ恐ル、ナカラシム閩省水陸各標
 營將守備等ハ弁兵ヲ量調シ悉ク水道ヨリ廈門ニ赴キ調遣ヲ聽候セシム十日總督覺羅滿保三山ヲ發ス
 十二日泉州塗嶺ニ抵ル此時南澳鎮ノ總兵藍廷珩ノ專函ニ接シ大ニ喜シテ曰ク總兵ノ所見皆ナ吾ト符
 合ス吾レ此人ニ遇フ臺灣ヲ平クルニ人ヲ得タルナリト蓋シ是ノ言ヲ爲ス所以ノモノハ先キニ藍廷珩
 警ヲ聞キ進兵ノ策ヲ陳シ其ノ首條ニ曰ク總督廈門ニ駐リ軍師ヲ督セシムコトヲ請フ云々而ルニ此時滿
 保已ニ兼程疾趨スル三日廈門ニ向ヘリ此ノ如クニシテ廷珩ノ策ハ滿保已ニ實行ノ中ニ在リシニ依レ

リ其他ノ指畫謀謀皆ナ適切條アリ是レ滿保カ藍廷珩ヲ得テ喜ビタル所以ナリ時ニ陰雨連旬竹橋ニ乘
 シ數騎ヲ從ヘ雨ヲ犯シテ行ク過ル所ノ人之ヲ知ルモナシ十四日廈門ニ至ル此時施世驥已ニ舟ニ乘
 リ港ヲ出ルコト兩日ナリ初メ廈島ノ居民驚變ヲ聞キ倉卒相驚キ賊ノ長驅シテ澎湖及廈門ニ及ハシ
 トヲ疑フ而シテ泉州漳州ノ山間僻邑無賴ノ徒露々偶語シ四處ニ匪徒ヲ囑集スルノ密謀ヲ企ツ郡邑ニ
 居ルモノハ眷屬ヲ從ヘ深山ニ避レ鄉村ニ居ル者郡邑ニ入り岌乎トシテ安スルコト能ハス或ハ各路ノ
 徵兵ヲ聞キ人民騷擾シ或ハ米價ノ騰貴ヲ恐レテ市里驚惶ス而シテ總督廈門ニ至ルニ及ンテ是等人民
 ノ杞憂忽チ鎮靜ス於此平民乃チ安然タリ丁壯ヲ召募シ遊手ヲ藉リ督軍中ニ隸セシム各地ノ鎮協營兵
 多ク海路ヨリ來ル其陸路ヨリスル者モ亦之ヲ船中ニ置キ銀米蔬菜ヲ給ス嚴令ヲ布キ多數岸ニ登リ買
 フコトヲ禁ス其買フ所皆民價ニ依ラシム故ニ大鬧雲集スト雖モ街巷寂然トシテ騷カス未タ幾ナラス
 諸道ノ米石皆至リ米價頓ニ平ク民益歡ヒ亂ヲ忘レテ臺灣ノ回復ヲ待ツ願ミテ臺灣ノ賊情ヲ察スルニ
 群賊雄長ヲ爭ヒ統一ヲ欠クノ觀アリ是ヨリ先キ杜君英府ニ入ルン時其子杜會三ヲ立テ玉トナサント
 欲ス衆服セス朱一貫ヲ立ツ君英之ヲ悲リ常ニ騷擾ヲ逞ス朱一貫令ヲ出シテ掠淫ヲ禁ス杜君英是ノ令
 ニ從ハズ婦女七人ヲ掠メ營中ニ閉禁シ穢辱又々民間ノ婦女ヲ強娶ス之ニ依リテ朱一貫ハ賊程ヲ殺シ
 法ヲ正ス而シテ君英掠ムル所ノ女ハ吳外ノ戚屬ニ係ル因リテ吳外之ヲ釋サント請フ聽カス怒リテ相
 攻メントス一貫ハ揚來、林鍾ヲ遣シ究問ス君英二人ヲ縛ス一貫怒リテ密ニ李勇郭國正等ト謀リ兵ヲ
 整ヘ圍攻ス君英之ヲ敗ル後チ林沙掌等ト共輿賊數萬人ヲ率ヒ北ノ方虎尾綫ニ走リ猶兔千屯ニ至リ社
 村ヲ剽掠ス半線上下地方多ク蹂躪セラレ惟南嶺以北ノ地ノミ害ヲ蒙ラサルヲ得タリ淡水營守備陳策
 台南ノ陷落ヲ聽キ賊ノ將ニ至ラントヲ恐レ兵ヲ督シヲ堅守ス鄉兵ヲ招集シ要害ニ分布ス奸民范景
 交潛ニ境ニ入り蕃民ヲ煽搖シ叛ヲサントス策之ヲ捕ヘテ斬ル隊目鄭明、禁武ヲ遣シ廈門ニ赴キ救
 ヲ請ハシム則チ總督滿保ハ巡撫呂爾龍ニ命シ省城ニ於テ兵ヲ發シ船ヲ賃ヒ閩安ヨリ直ニ淡水ニ向ハ

シム廈門ニ着スルヤ復タ十艘ヲ増シ之ニ兵五百名ヲ配シ金門守備李燕北路營守備劉錫ニ令シ之ヲ率
 ヒテ淡水ヲ救ハシム鄭明、禁武ノ船風ニ遭ヒ澎湖島ニ飄入ス施世驥復タ澎湖右營運糧張賊ヲシテ
 兵ヲ領シテ前往セシム鄭明等廈門ニ至ルニ及ンテ呂爾龍調發援兵ノ兵船亦廈門ニ至ル總督滿保ハ千
 總李郡ヲ遣シ令箭ヲ發シテ之ヲ帶領シ並ニ諸道ノ官兵ニ會シ淡水ニ急進シテ應援セシム救淡ノ兵
 合セテ千七百餘名ナリ二十七日南澳總兵官藍廷珩驍騎廈門ニ着ス所部ノ舟師繼テ至ル總督滿保大ニ
 喜ヒ與ニ平臺ノ方略ヲ定メ征臺水陸大軍ヲ總統シ將辦八十餘員官兵丁壯八千餘名商艘、杉板、頭
 仔等ノ船四百艘舵工木手四千餘名ヲ領シ澎湖ニ至リ提督施世驥ト會シ一舉シテ進剿セシム將ニ發セ
 トスルヤ江ヲ祭リ師ニ誓フ滿保躬ヲ海濱ニ至リ之ヲ送ル廷珩意氣慷慨從容トシテ滿保ニ謂テ曰ク草
 寇何ヲ意ニ介スルニ足ランヤ其一タヒ彼岸ニ登ラバ即チ蕩平ヲ奏報スベシト六月朔船廈門港ヲ出テ
 翌日青木溝ニ至ル颶風驟ニ起リ浪高ク桅折レ溺ル者數次三軍相顧シテ色動ク藍廷珩親ヲ舟ヲ操リ風
 ヲ御シ銅山ニ颶着ス八日風定リ銅山ヲ發ス十日澎湖ニ赴ク從征ノ將辦ヲ舉クレハ督標左營參將王萬
 化、陸路提標中營參將林政、後營遊擊范國斗、將軍標右營遊擊魏天錫、軍標左營遊擊邊士偉水師提
 標、右營遊擊王良駿、前營遊擊材秀、後營遊擊許華、金門鎮標右營遊擊薄有成、銅山營遊擊鄭耀祖
 海壇鎮標左營遊擊謝希賢、閩安協標左營遊擊朱文、福寧鎮標右營遊擊鄭祺、汀州鎮標左營遊擊王紹
 緒、漳州鎮標左營遊擊齊元輔、雲霄營遊擊金作礪、興化協標右營遊擊胡璟、原信海壇鎮左營遊擊李祖、
 原信黃殿鎮中營遊擊陳允陞、澎湖協右營守備林亮、海壇右營守備魏大猷、南澳鎮左營守備康凌、水
 師提標左營守備高得志、泉州城守營守備鄭文祥、興化協左營守備刻永貴、同安營守備葉應龍、烽火
 營守備蔡勇、漳浦營守備蘇明良、安平協千總董方乃名標營千總胡廣把、總蘇榮榮休滿千總林若卿等
 參遊都守千把一百二十員官兵丁壯一萬二千名大小船六百餘艘工水手六千名ニシテ軍火器械米
 鹽蔬菜等一切ノ軍需ハ皆總督滿保廈門ヨリ整備輸送シ欠缺スルコトナシ商船ハ之ヲ備募シ銀ヲ給ス

内ニハ義ヲ守リ賞金ヲ受ケサルモノアリ然レ共之ヲ諭シテ收メシム外委守備千把總シテ兵士ヲ鼓舞セシム斯クノ如ク大兵進軍シ澎湖島ノ空虛トナルヲ慮リ金門鎮總兵官黃普英、統領衛靖鎮標右營遊擊李殿臣、羅源營遊擊王其翰福州城守營都司李經世、將軍標左營守備黃元僑、水師提標後營守備何重申、桐山營守備閩威長、福營守備王晏協同副將羅光乾、左營遊擊陳國星、守備邱延祚等ヲ檄召シ官兵ヲ督シテ澎湖ヲ防守セシム其繼至スル者ハ皆ヲ施世驥藍延珩ノ軍ニ赴キ從征セシム是ヨリ先キ周應龍逃レテ泉州ニ回リ陸路提督程廷ノ爲ニ獲ラレ總督軍前ニ送ラレ其他世驥澎湖ニ至リ亦々臺灣ヨリ逃遁ノ將士張彥賢等十余人ヲ捕テ押解シ厦門ニ送ル總督軍法ニ處セントセシニ皆ナ敵前ニ於テ矢石ヲ冒シ功ヲ立テ罪ヲ贖ハント請フ依テ之ヲ許ス千總游全與ヲシテ管押征臺ニ赴カシム是ニ至リ亦々澎湖ニ回ル其ノ姓名ヲ舉クレバ周應龍、張彥賢、王鼎王、國祥萬、秦平凌、進揚、進朱、明對清、鄭耀、陳福、尹成、李碩、陳奇通、牛龍、許自重等臺灣逃回ノ將士十六人トナス澎湖右營把總吳良臺灣ニアリテ戰艦ヲ脩理セシカ臺灣陷ニ及ンテ賊ニ降リ賊ノ爲ニ澎湖ヲ取ラント謀ル偽割百張白金五百兩ヲ領シ其黨十二人ト偕ニ澎湖ニ到ル世驥故ラニ之ヲ納レ酒ヲ以テ其同行者ヲ醉シメ其醉中ニ乘シ賊ノ實情ヲ得タリ始メテ賊黨相擊チテ百姓ノ撫附セサルヲ知リ藍延珩世驥ニ謂テ曰ク群盜ハ皆ナ島合ノ徒皆ナ死ヲ畏レ之ニ脅從セシノミ一度之ヲ攻ナハ即チ靡カン但恐ル其衆三十萬ノ多キニ至ル之ヲ盡シ誅スルヲ得ス且多ク生靈ヲ殺スモ何ノ益カアラシ某愚見ヲ以テスレハ巨魁數人ヲ殲シテ餘アリ餘ハ問フ所ナカラシニハ即チ人々皆ナ生ヲ思ヒ死スルノ心ナシ刀ニ血ヲスシテ平クヘン世驥曰ク善シト將辨ヲ戒メ岸ニ登ルノ日矣リニ賊ヲ殺ス勿ラシム又々來リ降ル者ハ悉ク之ヲ許シ其外門戸ニ大清良民ト書シタル旗幟アルモノヲ良民トシ之レヲ傷フ勿ラシム己ニ是ノ令ヲ爲ス兵士ニシテ之ヲ拒ム者ハ則チ斬ルベシト十三日澎湖ヲ發ス林亮、董方ヲ以テ前鋒トス外委洪就、洪選等善ク泳ク者十二人ヲシテ小舟ニ駕シ前鋒ト同シシ先ツ鹿耳門ニ行キ港内ニ標ヲ插シ舟行ノ路徑ヲ記明

セシム十六日黎明舟師悉ク鹿耳門外ニ抵ル賊目蘇天威衆ヲ率ヒ鹿耳門ノ砲臺ニ據リ大砲ヲ發シ又小舟ヲ以テ險ヲ扼シ敵ヲ迎フ前鋒林亮董方六艘ヲ以テ死ヲ冒シテ直進ス亦大砲ヲ以テ攻撃ス遙ニ砲臺ニ火藥堆積累々タルヲ留ミ林亮砲手ニ命シ專ラ火藥ニ向テ放タシム槽中火起リ賊ノ死スルモノ算ナシ賊潰ヘ逃レテ鹿耳門ニ入ル時ニ滿潮ニ際シ海水高サ八尺ニ及ビ廷珩、王萬化、林政等四百餘艘ヲ率ヒ橋ヲ連テ並進ス林亮、董方、勝ニ乘シテ掩擊賊船ヲ燬ク把總蘇榮先ヲ爭フテ同シク岸ニ上リ鹿耳門砲臺ヲ奪取シ其砲臺ヲ焚ク遊擊林秀、薄有成、守備魏大猷、葉應龍追フテ逸賊ヲ殺ス威將蘇天威逃レテ安平鎮城ニ入り賊目鄭定瑞ト兵ヲ列テ拒キ戰フ林亮、董方奮フテ先登シ又々賊陳ヲ陷ル藍廷珩、參將王萬化、林政、遊擊魏天錫、邊士偉、朱文謝希賢、鄭耀祖、環郭祺、王紹緒、齊元輔、金作、礪范、國斗、李祖、陳允陞、守備呂瑞麟、洪平、鄭文祥、劉永貴、康陵、蘇明良等ヲ率ヒ上陸ス各辨兵之ニ繼ク賊敗走ス林亮、董方復々安平鎮城ニ登リ大軍ノ旗幟ヲ堅立ス廷珩出示シテ民ヲ安ス蓋日未タ晡ニス安平既ニ陷リ鄭耀祖、王紹緒ヲシテ專ラ安平城ヲ守ラシメ許華ヲシテ鹿耳門ニ備ヘシム王萬化、林政、林秀、邊士偉、李祖、康陵、蘇明良ヲシテ鯤身頭ニ駐劄シテ要害ヲ固守セシム安平ノ百姓喜ソテ曰ク王師至ルト老幼ハ趨踰爭フテ軍食ヲ給シ少壯ハ自ラ鄉兵ト爲リ官軍ヲ導キ賊ヲ殺サント請フ是夕施世驥ノ船鹿耳門ニ到ル十七日滿潮ニ乘シテ安平ニ入ル朱一貴、揚來、顏子京、張阿山、翁飛虎等各敵ヲ迎フ千總游全與彥賢等十四員ヲ以テ同シク四鯤身ニアリテ戰ニ與ル藍廷珩之ヲ指揮シテ大ニ攻撃ス我兵鎗砲連環雨ノ如シ復々朱文、魏天錫、謝希賢胡瑞林亮、魏大猷、呂瑞麟葉應龍劉永貴等ヲ遣シ小舟ニ駕シ沿岸ヨリ夾擊ス賊大ニ敗ル退フテ七鯤身瀕口ニ至ル十八日魏天錫、謝希賢、魏大猷等把總牛龍外悉守備陳童等ヲ率ヒ輕舟ヲ以テ鎗砲礮礮ヲ載セ塗堅堤水仔尾等ノ處ニ於テ賊ノ巨艦四艘ヲ燒ク十九日朱一貴、吳外、張阿山、翁飛虎、陳印、揚來、郭國正等ヲ遣シ數萬人ヲ率ヒ牛車ニ駕シ橋ヲ列テ陣トナシ復々安平ヲ犯ス齊元輔、金作礪、呂瑞麟、蘇

明良、范宗勛等左ニ當リ王萬化、林政、邊士偉、李祖、康陵等右ニ當リ鄭耀祖、王紹緒等後援タリ
 此時賊目翁飛虎所部ノ鳥龍旗ヲシテ前鋒トナス車ヲ驅リ盾ヲ擁シ砲火ヲ冒シテ衝突ス群賊大隊並
 至ル左右兩軍邊士偉、呂瑞麟等大ニ二鯤身ニ戰フ藍廷珩親ヲ大砲ヲ督シ連環齊シク發ス之レニ依テ
 賊ノ鳥龍旗ヲ倒シ牛車陳ヲ破ル林秀、玉良駿、朱文、謝希賢、胡環、林亮、魏大猷、蔡勇烈永貴等各
 小舟ニ乘シ大砲ヲ駕シ岸ニ附シテ夾擊ス賊大敗溺死スルモノ千余人斬護殺復算ナシ是ヨリ賊退ヒテ
 府治(臺南城)ヲ保チ敢テ再ヒ鯤身ニ至ラス唯テ岸ニ沿テ砲ヲ列テ晝夜固守ス我水師小舟ニ分駕シ
 岸ニ迫リテ攻撃ス時ニ西港仔ノ土民羊酒ヲ具ヘ安平鎮ニ至リ王師ヲ迎ヘ家人ヲ致シテ大兵ヲ引ヒテ
 西港仔ヨリ岸ニ登リ賊ヲ攻メント願フ提督施世驥之ヲ然リトス二十日夜密ニ林亮、魏大猷、洪平、
 董方ヲシテ千二百人ヲ以テ西港仔ニ往カシム次日藍廷珩其事ヲ知ル急ニ世驥ニ言テ曰ク謀算ハ必ス
 萬全ニ出ツヘシ輕舉シテ勝ツヘクシヤ聞クニ賊多ク蕭壠麻豆ノ間ニアリ西港仔ハ乃チ其肘下ニ在リ
 且ツ府ヲ距ルコト遠カラス召呼立ロニ應スヘシ若シ數千人ヲ以テ要害ニ分布シ四面掩擊セハ亮等ノ
 一軍必ス全滅ニ遭フベシ世驥然トシテ曰ク如何ニスヘキ廷珩曰ク當ニ全力ヲ用非大軍ヲ以テ之ニ
 繼クベシ世驥曰ク誰カ行ニ當ル者カ廷珩曰ク此レ他人ノ能ク任スル所ニアラス其敢テ辭セサルナリ
 公當ニ將ヲ分遣シ瀨口塗堅堤等ノ處ニ守備シ依テ以テ全力ヲ舉テ攻撃セシ賊我師ノ北來ヲ開カハ必
 ス營ヲ棄テ、遁レノ府臺南ノ恢復スヘキ此二三日間ニアルノミ二十一日初昏廷珩所部ノ兵三分ノ一
 ヲ留メ府城(臺南)ヲ攻メ舟師五百余人ヲ率ヒ夜西港仔ニ向フテ進發ス翌日黎明竿寮鄉ヨリ上陸シ其
 乘ル所ノ舟ハ悉ク安平ニ回ス諸將曰ク上陸シテ舟ヲ回スハ如何曰ク軍士ニ必死歸心ナキテ示スノミ
 今日戰ヒ勝タハ明日直ニ府城ニ抵ルヘキノ言未タ終ラサルニ諜者報シテ曰ク賊蘇曆甲ニ在リテ林
 亮、魏大猷ト決戰シ勢甚々盛大ナリト廷珩依リテ兵ヲ八隊ニ分チ魏天錫、金作礪、葉應龍ノ倪鴻範
 等千人ヲ率ヒ林亮、魏大猷、洪平、董方ヲ前鋒トナシ林政、李祖千人ヲ以テ左翼トナシ王萬化、邊

士偉千人ヲ以テ右翼トナリ復々胡環劉永貴、範圖斗範崇勛千人ヲ分チテ左右ノ奇兵トナシ蘇明良四
 百ヲ以テ後應トシ呂瑞麟七百ヲ以テ遊兵トシ廷珩親ヲ陳允陞、陳章林、君卿周宜、藍弘沛、何期有
 等ヲ率ヒ親丁ノ精銳五百人ヲ領シ中軍トナリテ並進ス賊目林曹、江圖論、黃殿、林壽、林蓮、等
 衆ヲ率ヒ來リ迎フ前鋒力ヲ奮テ衝撃ス左右兩翼賊陳ヲ繞リテ夾擊シ遊兵竹林ヨリ突出シ賊軍ヲ橫
 衝ス中軍號呼シテ突進シ鎗砲大ニ震フ賊大敗シテ潰亂奔竄ス追斬俘獲從橫地ニ遍シ薄暮頃賊標ニ至
 ル廷珩自カテ料ルニ賊必ス夜襲ヲナサント令テ傳ヘ帳房ヲ撤シ旗幟ヲ捲キ又テ露シテ芭蕉ノ間ニ伏
 ス賊果シテ至ル大營ヲ見ス大ニ驚ク須臾ニシテ我軍突擊大敗シテ奔散シ是ヨリ落胆復戰心アラス廿
 三日廷珩大軍ヲ督シテ南下シ賊ヲ木柵仔ニ敗ル退擊葛松溪ニ至リ直ニ臺南ヲ搗ク朱一貴群賊數萬ヲ
 率ヒ遁レ去ル廷珩府城(臺南)ヲ回復ス出示シテ民ヲ安ス萬壽亭ニ駐劄ス水師提督施世驥二十二日ヲ
 以テ令テ水陸兩軍ニ傳ヘ並力一擊ヲナサシム林秀、王良駿、薄有成、齊元輔郭祥、王紹緒、鄭耀祖、
 守備鄭文祥、千總游全與張彥賞等十四人七鯤身ヨリ陸路瀨口ニ至リ府城ノ南ヲ攻ム攻撃米文、謝希
 賢、守備高得志、蔡勇等小船ニ分乘シ監莞、塗堅堅、大井頭ヨリ府城西角ヲ攻ム賊精銳ヲ盡シテ拒
 戰ス我軍奮擊先ヲ爭フ途ニ塗堅堤ヲ拔キ賊營ヲ燬ク晚ニ至リ南較塲ニ屯ス二十三日總鎮藍廷珩俱
 ニ府城ニ會ス萬姓歡呼復天日ヲ見ル皆戶外ニ香案ヲ設ク王師ヲ拜迎ス珩一々之ヲ慰撫ス外委守備陳
 章ヲシテ急航厦ニ赴キ總督羅滿保ニ捷ヲ報ス二十五日提督施世驥上陸大兵ヲ率ヒ比較塲ニ屯ス藍廷
 珩仍ホ萬壽亭ニ駐リ游兵ノ捕虜ヲ檢ス而シテ捕虜中歐陽總兵ヲ殺害シタル遠家、勇許副將ヲ殺害シ
 タル黃龍羅、參將ヲ殺害シタル陳碧等アリ皆チ其子歐陽敏、許方度、羅世正等ニ附シ殺シテ以テ父
 仇ヲ報ヒシム凌遲割肝碎屍揚骨等ノ刑皆チ其便ニ任ス臺人之ヲ快トス閏六月初日陳章捷ヲ報シ厦門
 ニ著ス滿保ハ藍廷珩ニ檄シテ臺海鎮總兵官ノ事ヲ署理セシム巡撫呂曾龍ト會シ捷報ヲ繕疏ス施世驥
 ハ臺海軍中ヨリ己ニ白ヲ題奏上達ス初メ臺海ノ警報京都ニ至ル實ニ六月ナリ皇帝惻然誅ヲ加フルニ

忍ヒス仍チ諭示シテ曰ク臺灣衆民ニ諭ス督臣滿保ノ奏スル所及其家人等ノ言ニ據ルニ臺灣百姓變動
 アルガ如シ又奏スルニ滿保ハ五月十日兵ヲ領シテ途ニ上ルト陰思フ汝等ハ俱ニ内地ノ民ニシテ賊寇
 ノ類ニアラス或ハ饑寒ノ迫ル所ニ因ルカ或ハ不肖官員ノ刻削ノ致ス所ナランカニ匪類ノ衆人ヲ嘯
 誘シ官兵ヲ殺害シ罪ノ免ルヘカラサルヲ知リ乃チ妄リニ強拒ヲナス其實衆ト何ソノ關セシヤ今若シ
 遠ニ征剿ヲナスハ朕ノ心大ニ忍ヒサルモノアリ故ニ總督滿保ニ諭シ暫ク進兵ヲ停シム汝等若シ撫ニ
 就カハ爾ノ罪ヲ諒セン若シ悟ラスンハ則チ大兵ヲ遣シ圍剿シ俱ニ灰燼トナサン臺灣ハ一海島ニシテ
 産スル所ノモノ用ユル所ニ足ラス閩省ノ錢糧ニ頼リテ生テ養フナリ前ニ海島六十餘年ノ久シキ之ニ
 據リシモ猶且剿盡シテ餘孽ナシ今匪類數人又何ソ能セシヤ諭旨ノ到ル時ニハ即チ困迫情狀ヲ申訴シ
 懇テ改メ正ニ歸セハ仍皆朕ノ赤子ナリ朕此事ヲ知ル汝等ノ本願ニアラスソテ必ス已チ得サルニアル
 ニアラン謂フニ坐シテ以テ斃ヲ待ソヨリ苟且生テ偷ムニ如カスト因テ肆ニ掠奪ヲ行フ原ヨリ其罪皆
 不肖官員ノ致ス所ニシテ汝等ハ俱ニ朕歷年家養ノ良民ナリ朕剿除スルニ忍ヒス故ニ暫ク進兵ヲ停ム
 若シ總督提督總兵官總領ノ大兵前進セハ汝等安ソ能ク支持スルヲ得シヤ此旨ニヒ到ラハ必ス撫ニ就
 キテ迷テ執リ悟ラスシテ妄リニ自ラ死テ取ルヲ得サルヘキナリト又浙江將軍椿拜二勅シテ甲兵二千
 人ヲ以テ閩ニ赴カシム協防巡撫呂德龍按察使董永芝ヲ遣シ浦城ニ迎フ永芝素ヨリ才名アリ方嚴阿ヲ
 ス一路民ノ疾苦ヲ問ヒ俸錢ヲ捐シ災傷ヲ恤シ撫慰ヲナス故ニ軍兵進ソテ民擾カス浙兵閩ニ至リ民居
 ナ借リ宿セントシ兩司ヲ召シテ計議ス永芝曰ク亂ヲ定ムルハ以テ民ヲ安スルヲ本トズ若民家ニ宿セ
 ハ民之ニ堪サルナリト署福州府馮堅ニ命シ諸佛寺ヲ分撥シ之ニ居ラシム是ニ於テ浙兵閩ニ駐ルモノ
 數月ノ久キニ及フ民ニモ苦ム所ナシ上諭ノ聞ニ至ル即六月二十五日ナリ總督滿保ハ興泉臺灣道ヲシ
 テ親カラ諭旨ヲ齎シ臺灣ニ往キ百姓ヲ安撫セシム且ツ臺灣道ノ事ヲ整理セシム汀州ノ知府高鐸ヲシ
 テ臺灣府知カラシメ建寧通判孫魯ニ分委シテ臺灣府同知及臺灣知縣ノ事ヲ署セシメ海澄知縣劉光泗

ニ鳳山ヲ漳浦知縣汪紳文ニ諸羅ヲ署セシメ俱ニ大兵ヲ率ヒ流亡ヲ安シ各庄社ノ民蕃ヲ慰撫セシム此
 時臺灣既ニ平ク提督施世驥總兵官藍廷珩大兵ヲ分チテ南北ノ二路ニ分遣ス王萬化、林政、邊士偉、
 魏天錫官兵ヲ領シ南路ノ逸賊ヲ剿撫シ南路營鳳山縣ヲ收復シ賊目顏子京、鄭定瑞ヲ斬リ下淡水大崑
 麓各處ノ人民社蕃ヲ安撫ス之ニ因リテ南路五百里ノ地方俱ニ皆平復ス林秀海、有成、範圖斗、齊元
 輔、郭祺、胡璟、李祖、鄭文祥、劉永貴、董方、林君卿及游全興、張彥賢等十四人ヲシテ北路ヨリ
 逸賊ヲ伐シム原任遊擊劉得紫二十二日ノ夜間ニ乘シ官軍ニ投ス施世驥藍廷珩ハ劉得紫カ能ク賊ニ抗
 シ屈セサルヲ嘉シ之ヲ優待ス得紫丁壯百五十人ヲ募リ賊ヲ征シ仇ヲ報シ耻ヲ雪カント請ヒ此行ニ從
 フ二十八日賊營大稔ヲ敗リ之ヲ降ス斬獲甚タ多シ賊黨ノ十中八九降ル者アリ亡アル者アリ此時朱一
 貴數千人ヲ率ヒ灣裏溪ニ走ル大軍追フテ茅港尾絨線橋ニ至リ鹽水港ヲ收復ス一貴下加冬ニ走ル俸滿
 千總林君卿外委千總張佛等二十人ヲ率ヒ大軍ノ前路二十里外ヲ進行シテ賊ヲ追擊ス陳尙珩、揚秀ト
 計議シ密ニ張岳ニ通シ朱一貴ヲ擒ニセント欲ス之ヲ賊黨一人ナル僞軍師君彩ニ謀ル一貴君彩ヲ捕テ
 之ヲ殺ス而ルニ漳浦ノ人王仁和ナルモシ灣尾庄ニ往來シ庄民揚石ト友トシ善シ揚旭、揚雄等ハ一方
 ノ巨擘ナリ與ニ謀ルヘシト言テ以テ之ヲ暗ス揚石之ヲ許ス仁和密カニ藍廷珩ニ告ク廷珩ハ仁和ヲ外
 委守備ニ揚旭、揚石、揚雄等ヲ守備千總ニ任シ朱一貴ノ捕獲ヲ命ス是ニ於テ揚旭、王仁和揚石、揚
 雄、陳尙珩、揚秀等灣尾ノ前庄、後庄、小檣榔、新埤、佳荷、後潭等各庄ノ鄉壯ヲ糾合シ以テ待ツ
 閏六月五日一貴千人ヲ率ヒ灣尾庄ニ至リ飲食ヲ索ム揚旭等牛ヲ殺シ之ヲ餉ス六庄ノ鄉壯ヲ集メテ相
 助ク一貴月眉潭ニ往キ食ニ乏シ六日其黨散スルモノ六百餘人七日揚雄一貴ヲ給キ復灣尾庄ニ回ラシ
 ム時ニ薄暮霖雨ス旭等宿舎ヲ設ク一貴等ヲシテ民家ニ分宿セシメ六庄ノ鄉壯ヲ呼ヒ集メ伴リテ守護
 テナサシム又夕潛ニ水ヲ賊ノ砲ニ灌ク夜五鼓大ニ呼ソテ曰ク官兵至ルト金鼓火砲齊シク鳴ル諸賊倉
 皇措ク所ヲ知ラス揚雄、揚旭、揚石、王仁和等遂ニ朱一貴、王玉金、翁飛虎、張阿山等四人ヲ擒ニ

シ其餘吳外、陳印等各黨ヲ率ヒテ逃ル旭ハ一貴等ヲ牛車ニ載セ八掌溪ニ赴キ遊擊林政ニ渡シ王仁和馳テ藍廷珩ニ報ス藍廷珩、旋世驛ノ軍前ニ赴キ告ケシム一貴尙自ラ尊大ニシテ昆然トシテ立ツ廷珩至ルニ及ソテ之ニ跪カシム一貴猶妄リニ孤家ヲ稱ヘ詞甚タ不遜ナリ廷珩怒リ命シテ其足ニ極ス是ニ於テ一貴及其黨皆跪キ罪ニ伏シテ死ヲ請フ乃チ厦門ニ樞送ス總督賈羅滿保之ヲ北京ニ送致シテ正政ヲ以テ斷セシム又々大排竹ノ人民揚來ノ首級ヲ斬リ林秀ニ獻ス直チニ府城ニ送り市街ニ於テ竿示ス復々揚雄等ノ報ニ據ルニ吳外、陳印季勇、陳正遠、盧生及等ハ招撫ニ就キ林曹、林壽、林楚、鄭惟、晃張看、等ハ俱ニ前後軍前ニ護送セラル朱文、謝希賢、呂瑞、麟洪平等ハ已ニ北路營諸羅縣ヲ恢復シ賊目萬和尙等ヲ斬ル北路營千總陣微、把總鄭高卿兵ヲ率ヒ來リ迎フ是ヨリ先キ陳微等六月二十六日ヲ以テ民兵ヲ募リ已ニ諸羅縣ヲ復シ賊目賴元改ノ頭ヲ斬リ羅參將ノ靈ヲ祭ル奈セソ王師未タ至ラサルニ因リ縣城復々翁飛、江圖論ノ奪フ所ナル仍テ陳微逃レテ山ニ入ル賊目曾賢、李德隨、朱文等ヲ招撫シ又各庄社民蕃ノ慰撫ニ從事ス汴州鎮中營遊擊景慧ヲ分遣シ築港ヲ恢復セシム又林亮魏大千總李郡、淡水營守備陣策等ノ聲援ヲ爲ス朱文等已ニ諸羅ヲ平シ謝希賢兵ヲ引ヒテ北上シテ張賊等ト合シテ進ム北路千餘里ノ地方盡ク皆平復ス巨魁既ニ擒ニセラレ餘黨解散ス尙ホ當日巨魁ト倡謀シ圖公ト僞稱セシ杜君英、陳福壽、劉圖基、江圖論薛菊、王忠、陣成、鄭文苑及君英ノ子會三等ノ如キ未タ捕獲ニ就カス總督滿保ハ廷珩ニ檄シテ速カニ之ヲ撫擒セシメ其法トシテ重ク賞格ヲ懸ケシム又々委ヲ地方ニ派シテ捕獲セシム朱一貴亂ヲ作スノ時ニ方リ淡水客庄民人侯觀德李直三等大清義民ノ旗ヲ建テ皇帝萬歲ノ牌ヲ奉シ鄉壯ヲ聲糾シ賊ヲ拒ク依テ朱一貴ハ陣福壽、劉圖基、薛菊、王忠、劉育等ヲシテ數萬人ヲ率ヒ、其庄ヲ攻ム六月十九日侯觀等淡水溪ニ迎ヘ戰ヒ之ヲ敗リ劉育ヲ斬ル賊兵溺死スルモノ甚タ多シ爲ニ屍骸溪沙ノ間ニ狼籍タリ陳福壽弱シテ自刎シ賊徒ノ救所トナル王師已

ニ安平ニ進ムヲ聞キ乃チ遁レテ山ニ入ル劉圖基、薛菊、王忠、俱ニ逃レテ郎嬌ニ到リ藏匿ス是ニ至リ委陳章ハ謀者ヲ郎嬌ニ遣リ之ヲ踪跡ス此時尙ホ圖基等三人皆ナ潛伏セリ陳章ハ林尙、蘇庚ト共ニ船路郎嬌ニ赴キ國恩ノ寬大ナルヲ説キ共ニ投撫ニ就クヘキヲ諭ス三人皆首肯ス時ニ提督ノ派スル某ナル者アリ繼テ至リ應對禮ノ如クナラス王忠之ヲ聞テ曰ク今ニシテ此ノ如ク若シ臺南ニ到ル知ルヘキナリ遂ニ逃去ル章ハ劉圖基薛菊ノ二賊ヲ率ヒテ藍廷珩ニ見ヘシム廷珩好言慰藉恩禮ヲ以テ之ニ加フ七月廿五日江圖論鄭元長等復々餘黨ヲ聚メ旗ヲ阿梳林ニ堅ツ藍廷珩兵ヲ發シテ追勦ス群賊已ニ散シ旗ヲ林中ニ樹ツ圖論、元長皆ナ北路ニ向テ逃ル其ノ黨陳逸ナルモノアリ差員張騰霄ト謀リ共ニ往テ江圖論及ヒ元長ヲ説キ來リ降ルヘキヲ説ク即チ張騰霄ヲシテ陳逸ト共ニ往キ江圖論ヲ説カシム江圖論來リ降ル廷珩之ヲ厚遇シ爲ニ美服ヲ供ユ山入遊遊其ノ爲ス所ニ任ス而シテ陰ニ人ヲシテ之ヲ備ヲナサシム是ニ於テ諸賊皆斷然トシテ招撫ニ就ク皆自ラ慰メテ曰ク江圖論且ツ然リ我曹思ナシト六月提報北京ニ至ル朝廷先ニ施世驛ノ奏報ヲ得大ニ喜ヒ世驛ニ東殊朝輯蟒袍黃帶ヲ賜フ淡水營守備陳策ヲ臺灣鎮總兵官ニ補シ加フルニ左都督ヲ以テス時ニ島中疫癘盛ニ行ハレ從征ノ將士皆ナ炎威ヲ冒シ風露ニ宿シ爲メニ惡氣ノ蓄蒸ニ觸レ疾病亡歿スル者甚タ多シ參將林政、萬化、遊擊許華先後相沒ス八月十三日疾風暴雨起リ屋瓦齊シク飛ヒ風雨ノ中流火條々トシテ飛散シ終夜天ヲ燭シ海水驟ニ漲リ臺灣從船ノ大小船擊碎殆ノト甚シキニ至リテハ飄フテ陸上ニアルアリ或ハ大樹ヲ拔キ或ハ牆垣ヲ倒シ萬民哀號其狀實ニ慘憺ヲ極メタリ施世驛、廷珩終夜風雨ノ中ニ立チ軍士烽人相携持シテ敢テ動カス稍ヤ足ヲ舉ケレハ即チ吹倒セラル腐ヲ裂キ面ヲ破リ負傷スルモノ多シ翌日ニ至リ晴靜トナルヤ城中臺南完宅ナシ脈瀕シテ死スルモノ數千人浮屍江ニ滿チ九桶路ニ充ツ臺廈道陶範府縣商釋孫魯等躬ラ民家ヲ慰問シ流涕倉ヲ開キ賑貸ス死ヲ痊メ傷ヲ扶ク使ヲ派シテ風災ノ狀況ヲ北京ニ飛報ス朝廷帑ヲ發シ金ヲ賜ヒ殘黎始メテ蘇生スルヲ得タリ諸羅縣米稻風災ヲ被リ五穀實ヲス此時ニ乘シテ殘

賊場君、李明等一水港ヲ劫掠ス林君等奸民ヲ煽動シ旗ヲ六加旬ニ豎ツ俱ニ知縣汪冲文ノ獲ル所トナ
 ル審議ノ上之ヲ島シ衆ニ示ス復黃輝卓敬舊社江毛嶽ニアリテ亂ヲ謀ル兵ヲ發シ捕テ之ヲ斬リ陳章餘
 孽ヲ捕フ南路觀音山ニ於テ賊目陳福壽招撫ニ就ク廷珩大ニ喜ヒ福壽ヲ軍中ニ留メ家人ヲ以テ之ヲ禮
 待セシム遠近賊徒之ヲ聞キ歸センコトヲ思フモノ益々多シ杜君英久シク山中ニ處リ晝伏シ夜走ル福
 壽ノ降リ重遇セラル、ヲ聞キ心頗ル動ク廷珩外委守備施思陳祥ニ命シ謀者林生ト共ニ羅漢門ニ入り
 之ヲ説カシム君英賈ラレノコトヲ恐レ先ツ福壽ニ面會シテ情實ヲ詢ヒ然ル後決スル所アルヘシト廷
 珩之ヲ聞キ福壽ヲシテ施思等ヲ率ヒ往カシム時ニ福壽病ニ在ルヲ以テ牛車ニ乘リ以テ行ク於此乎君
 英遂ニ出ツ廷珩待ツニ恩禮ヲ以テシ毫モ福壽ト異ルナシ飲食居處ヲ共ニシ遊遊相離レズ而シテ君英
 尙其子杜會三ヲ羅漢門ニ留ム越ヘテ三日父ノ害セラレサルヲ知リ亦來ル蓋九月中旬ナリ提督施世驥
 風災ノ驚悸之レカ基因トナリ疾ヲ作シ九月十五日軍中ニ卒ス廷珩提督事務ヲ署理ス陶範高釋ナルモ
 ノ君英等ノ諸賊カ出入自由ナルヲ見テ意外ノ變アラノコトヲ疑ヒ廷珩ニ謂テ曰ク此曹ハ皆ナ元兇ノ
 輩ナリ已ニ北京ニ向テ獲捕ノ旨ヲ上奏ス不日必ス朱一貫ト共ニ京師ニ致ストキ罪人ナリ然ル曹公ノ
 寬大此ノ如シ倘シ逸シ去ラハ奈何カ處置セン廷珩答フルニ王忠陳成、鄭文苑ノ餘黨カ未ダ捕獲セラ
 レサル間ハ然ラサルヲ得サルコトヲ以テス又々二人ハ福壽君英等居處ト廷珩ノ臥榻ト其間只タ窓
 ヲ隔ツルノミナルヲ見テ復謂テ曰ク將軍膽心太タ大ナリ賊ヲ推ス此ノ極ニ至ルカ萬一夜間變アラハ
 將ニ如何ニスヘキヤ廷珩曰ク憂フル所ナカレ旬日ヲ經レハ之ヲ廈門ニ送ラン二人曰ク難ヒ乎公撫ヲ
 以テ名トシ之ヲ待ツニ心腹ヲ以テス美衣豐食日ニ宴遊ヲ恣ニス彼安ソ此ヲ捨テ他ニ行クヲ肯セン
 ヤ若シ束縛送致セバ人ノ耳目ヲ驚シ山中ノ餘類公カ從前ノ所爲ヲ以テ皆僞ナリト謂ハント廷珩曰
 ク之ヲ處スルニ道アリ十月十八日杜君英等ヲ呼ソテ幕中ニ來ラシメ之ニ説キテ曰ク制府ノ來書ニ接
 スルニ汝等ニ備辦ヲ授クントス急ニ廈門ニ赴キ考課ヲ受クヘシ宜シク天氣順風ノ日ヲ見テ即日舟ニ

登ルヘシト江圖論カス廷珩罵テ曰ク汝ノ容貌輕薄ニシテ官者タルノ格ナシト之ヲ叱シテ退カシム
 君英福壽之ヲ許諾ス廷珩大ニ喜ヒ金ヲ賜ヒ慮ヲナス左右ヲ遣シ之ヲ送ラシム則チ婦人ノ輿ヲ昇ヒテ
 幕中ニ至リ之ニ乘ラシム江圖論、鄭元長ヲ呼ビ來ル圖論等死ルヘカラサルヲ知リ強テ行ヲ請フ亦隨
 テ賜ヒ之ヲ送ル初メ廷珩諸賊ヲ送致セント欲シ先ツ辨目ヲシテ舟ニアリテ之ヲ俟タシメ其途中ハ壯
 丁ヲシテ時々防備ヲ爲サシメ彼等順フトキハ則チ善シ順ハサルトキハ手足ヲ縛シ輿中ニ閉シテ婦人
 ノ如クシ聲色ヲ顯ハサシメサレハ市井ノ知ルモノアルコトナシト是レ廷珩カ胸算ナリシ而シテ君英
 等從順ナリシヲ以テ舟中亦善ク之ヲ待シ其廈門ニ至ルヤ總督奏シテ之ヲ京師ニ送リ朱一貫、李勇、
 吳外、陳印、王玉金、翁飛虎、張阿山、俱ニ刑ニ處セラル親屬又々同罪ニ處セラレタリ陳福壽、杜
 君英、杜會三ハ投降來リ伏セシニ依リ寬ニ從ヒ市ニ斬ラル其餘擒撫ノ諸賊前後廈門ニ至ルモノ黃殿、
 黃日昇、郭圖正、劉圖基、林曹、江圖論、林壽、林璉、陳正達、盧米、張岳、張看、鄭惟晃、鄭元
 長等ハ之ヲ福州ノ府獄ニ繫ク十一月四日臺灣鎮總兵官陳英臺臺灣ニ赴キ事務代理ヲナス五日南路ノ餘
 孽復々叛ス陳成(刺仙成)蘇清、揚美、林阿星等首領トナリ衆ヲ集メ旗ヲ石壁寮ニ豎ツ八日黎明千把
 總何勉、杜雄、等賊穴ヲ搗キ蘇清、高三ノ二名ヲ捕フ楊美、玉教ハ下淡水ニ逃レ知縣劉光泗ノ爲ニ
 獲ユラル藍廷珩以爲シ羅漢門諸山ハ賊匪ノ巢穴大舉之ヲ逮捕スルニ非ンバ匪徒ノ根株ヲ盡シ難シト
 遊擊王良驗海有成守備呂瑞麟ニ命シテ兵ヲ卒ヒ角宿岡山劉蘭坡嶺ノ一路ヨリ進マシメ守備閻威ハ仁
 武庄土地公崎阿猴林ノ一路ヨリ守備李熙蔡勇ハ呷猴木岡社ノ一路ヨリ各路羅漢門ニ搜入セシム十四
 日午刻威シ羅漢門内ノ中捕庄ニ會ス刑ニ把總林三、陳雲可、鄭榮才、游寬等大武壠ニ往キ路ヲ分チ
 テ賊ノ後路ヲ絶ツ十五日兵ヲ分テ深ク入り羅漢門内ノ諸將士ハ銀鏡山、佳白寮、東方、木南、馬仙
 等ノ處ヲ大武壠ノ諸辨目ハ礁巴啤、包米、大龜佛、大龜、地方ヲ各處搜索遍歷セサル所ナシ賊巢
 焚燬スル數十所ニ至ル二十七日兵ヲ收メ營ニ籠ル而シテ勦索隊ノ手ニ於テ前後捕獲スル所ノモノハ

陳成(刺仙成)林阿尾、林丁、莊謀、林讀、林齊、鄭教、陳環等ニシテ石壁寮ノ諸孽盡ク亡テ其外鄭文苑、林沙黨兇死郡(即チ陳國進懲昆)即チ林昇(滙復吳即チ季吳)及ヒ洪迎、胡君用等縛ニ就シ其外臺廈道陶範カ捕獲セシ所ノ匪徒蕭斌、歷恩、金系猴(即チ林玉)等アリテ是ニ至リテ朱ニ貫ニ附和シ内亂ヲ起シタル諸賊數悉シテ捕囚セラレタリト云フベシ惟ク王忠邱、金宣未タ獲ラレズ傀儡内山臺灣山後ニ遁逃ス藍廷玠ハ外委辨目ヲ分遣シ諸路ヲ訪緝ス復タ外委鄭圖佐、林天成ニ令シ山番ノ通事章旺ヲ召致シ共ニ傀儡内山ニ入り各社ヲ遍查セシム又番衆ニ諭シテ嗣後賊匪ヲ窩留スルコトヲ許サズ復鄭圖佐ヲシテ瑯嶼ニ至ラシメ瑯嶼ヨリ山後ニ繞リ鼻南兇ニ至リ檄ヲ傳ヘテ獎諭シ冠帶補服ヲ以テ賞勞ス合起崇父七十餘社ノ番界ヲ捕搜ニ從事シ逸賊ヲ捕テ盡ク傳ス是ニ於テ王忠等敢テ復ク番界ニ入ラス隻身竄伏シテ手ヲ束テ斃ヲ待ツノミ是ヨリ前キ臺灣ヨリ逃歸セシ道府廳縣ノ各文員ノ處置ニ付テハ總督及提督ニ令シ會審ノ上臺灣ニ送致シテ法ヲ正サシム併ニ故知府王玠ノ屍棺ヲ發キ窮シテ衆ニ示ス武職周應龍等ノ事ニ關シテハ提臣ト會同シテ嚴審セシメタリ十二月總督滿保廈門ニアリテ諸文員ヲ親審シ臺灣縣丞馮迪曲央王定圖、諸羅縣曲史張青遠俱ニ臺灣縣獄ニ羈キ指令ヲ得テ處決ス廣東提督姚堂官ヲ奉シ福建水師提督ニ調任ス署提督藍廷玠遊擊王良驤ヲシテ印ヲ齎シテ廈門ニ赴キ期ヲ刻シテ師ヲ班サントス總督滿保地方始メテ定マルヲ以テ廷玠ニ檄シ南澳總兵ノ資格ヲ以テ征兵ヲ統テ暫シ臺灣ニ留在シ彈壓セシム時ニ廷議ニ依リテ臺灣鎮總兵官ヲ澎湖ニ移シ臺灣府治ニ陸地副將ヲ設ク水陸兩中營將備兵ヲ撤シ又タ内地ノ月補(補充兵)ヲ撤歸セシム民間憂惶寢食ヲ安セズ宵小ノ徒訛言ヲ放ツ康熙六十二年正月差員陳祥、王仁和等賊目韓淵、林良等ヲ捕フ廷玠訛言衆ヲ惑スヲ念ヒ陶範、高鐸、孫魯ト會シ逆賊蘇清等在獄日久シク未タ裁決セズ其緩慢ノ處置奸頑ヲ震懾セシムルニ足ラズトシ二月二十九日ヲ以テ蘇清、林阿尾、王教林讀、林丁、莊謀、林昆、韓淵、林良ヲ梟斬シ衆ニ示ス李吳、杖死シ揚美ハ刑セララル、前一日病死ス其他陳成、陳文苑、等劇賊十數人

及縛獲セラレタル邱實、宣江、邦俊ハ悉ク支那本土ニ送リ黃殿等ト俱ニ省獄ニ繫キ指令ヲ待テ法ニ處ス朝廷ハ臺灣ノ地天外ノ僻處ニシテ民間ノ疾苦上達スルニ由ナキヲ思ヒ滿漢御史各員ニ特命シ年々員ヲ差シテ巡視スルコト、ナス南澳ハ鎮總兵官藍廷玠ニ命シテ澎湖ヲ調鎮セシム又總督滿保ハ督標中軍副將徐柱ヲ疏薦シテ臺灣陸路副將ニ調補ス三月十五日南路下淡水奸民林亭等復亂ヲ作サント謀ル合心王ノ三字ヲ以テ暗號トナシ其黨ニ方帛ヲ頒チ旗ヲ製シ夜ニ乘シ事ヲ舉ケント欲ス密報スル者アリ守備陳一得官兵ヲ率ヒ之ヲ捕フ林亭ヲ擒ニシ暗號及ヒ偽都連名帳ヲ搜シ得タリ同謀者ハ顏濯、李咸、陳法、王師、王祿等ナリトス即チ兵ヲ派シ大崑麓器寮及北路鐵泉橋ノ諸處ヲ圍搜シ皆チ之ヲ獲ル復ク除孽百餘人アリ遁レテ諸難後山小石門得實寮等ノ處ニ入り却掠ヲ行フ廷玠密ニ北路參將朱文協防遊擊林秀ニ檄シテ兵ヲ發シテ搜捕ス署守備李郡、把總鄭高林、時葉ヲシテ三路分レテ並ヒ進ム把總莊子俊、蘇思維ヲ遣シ兵ヲ率テ大武壠ニ向ヒ其遁路ヲ絶ツ四月十四日頃諸軍齊ク集リ之ヲ環ツ賊已ニ先ツコト一夜遁レテ三林港ニ至ル兵營ヲ焚キ兵丁ヲ殺傷シ商販ノ小船二艘ヲ奪ヒ海ニ逃ル廷玠水師將辦ニ飛報シ洋面ニ出テ追捕セシム其報ニ曰ク賊背水壠(支那本土)ニ於テ商船ヲ劫取シ銅山洋面ニ至リ又小漁船ヲ奪去レリト料フニ夥ク散シテ岸ニ登ラシムルハ樟林、東隴、鴻溝、澄海等ノ所ヨリスルヤ必セリト且ツ彼等三林ニアリテ多ク負傷シ又朱一貫ノ亂ニ從フテ皆辨髮ヲ割截スルニヨリ稽察スルニ於テ尤モ易シ此報ヲ得ルヤ直チニ其旨ヲ總督滿保、巡撫呂猶龍ニ傳ヘ又タ檄ヲ粵東ニ移シ潮州道府縣ニ令シ密ニ查緝ヲ行ハシム仍チ千總一人ヲ派シ潮州ニ赴キ劉圖華、邱阿路、張阿舜頭、日輝、林阿元胡阿發黃阿、赤黃、阿五巫、阿盛陳、阿日等賊黨五十七人ヲ獲捕シ福州ニ送ラシメ審理ノ未法ニ處ス十九日夜又奸匪百餘人アリ八掌溪小溪州ニアリテ旗ヲ立テ類ヲ集メ行ヒテ竹仔脚營ニ至リ營兵陳楠、王亘、蘇天貴等三名ヲ殺ス天漸ク曉ニ至リテ皆散シ家ニ圍リ民トナル廷玠直チニ將弁ニ飛報シ上下ヲ堵截シ搜捕セシム雖然寂トシテ踪跡ナシ此ニ於テ員ヲ四路ニ差シ密

訪不知縣汪仲文ハ遂ニ葉枕、廖猛、賴興、賴勤等ヲ緝獲ス又タ巨魁李慶ヲ生擒シ賊旗及贓物ヲ奪ヒ
 屏盧ヲ焚ク又參將朱文、知縣汪仲文守備劉錫、千總陳章、把總陳雲奇及委弁目等先後ニ緝獲シテ黃
 潛、蘇齊、張成、李廷卿、張島暢、潮遷王妙、何歲、張鎮、朱崑生等劇賊四十餘人ヲ得タリ俱ニ支
 那本土ニ送リ福州府獄ニ收禁シ審理ノ未嘗ナシ正ニ署臺灣府同知兼攝臺灣知縣事孫魯ヲ諸羅縣知
 縣ニ補調ス欽差巡臺御史吳達禮黃叔瓚京師ヨリ六月新任臺道廈陳大箴臺灣府同知楊毓健、員外郎知
 臺灣縣事周鐘誼、及副將除左桂、等俱ニ先後臺ニ渡リ事ヲ視ル奸民鄭仕ナルモノアリ綽號急燒疎ト
 云フ復タ訛言衆ヲ惑ハシ亡命ヲ招集シ六月十日夜旗ヲ堅テ事ヲ起サント欲シ果サス廷珩之ヲ捕治ス
 其黨李興祖蕭柯等數人ヲ獲ル二十九日鄭仕ノ家ヲ搜索シ偽爵人名簿ヲ得一時傍觀スルモノ多ク驚愕
 ノ色アリ依テ之ヲ焚棄シ鄭仕等ヲ死ニ處シ人心大ニ定ル廷珩副將ノ至ルニヨリ旨ニ遵ヒ澎湖島ニ赴
 キ駐劄セントス百姓一驚市ヲ罷メ欽差御史道府廳縣各衙門ニ情願シテ廷珩ノ留任セラレノトヲ請
 フ依リテ新旨下リ廷珩ノ留任ヲ許可セラル雖然提臣姚堂ノ所奏ニ原キ副將ヲ仍ホ澎湖ニ設ク總兵官
 仍ホ臺灣ニ駐リ水陸兩中營悉ク舊制ニ依ル道標守備弁兵ハ臺灣鎮ニ職歸シ兵營ヲ南北兩路要害ノ處
 ニ設ク百姓欣々トシ手ヲ以テ額ニ加ヘ歡聲道ニ滿ソ新任鳳山知縣靳樹晚來任セシニ付署縣劉光海澄
 ニ歸任ス漳浦知縣汪仲文ハ守撫緝捕ノ事竣リタルヲ以テ漳浦ニ歸ル靳樹晚疫病ニ染ミ未タ幾ナラス
 シテ卒ス同知楊毓健ヲ以テ鳳山縣事ヲ攝セシム雍正元年正月十九日逸盜楊合復タ亂ヲナス時ニ聖祖
 仁皇帝崩去セラレ新天子未タ即位セラレサル時ナルヲ以テ盧ニ乘シ匪類ヲ集メ郡邑ヲ犯サント謀ラ
 ル者アリ廷珩高錕ト會シ外委千總陳揚等ヲ遣シ之ヲ擒獲シ其黨ヲ窮治シ悉ク解散セシム二月即位ノ
 式了リ恩詔臺灣ニ至ル萬姓舞蹈僉呼シテ太平ヲ慶ス士農商旅安堵業ヲ樂ム一二ノ餘孽身ヲ接スル所
 ナリ饑饉斃ヲ待ツノミ四月十五日千總何勉南路鳳山林ニアリヲ王忠劉富生陳那等ヲ獲ル直チニ支那
 本土ニ送致ス總督滿保法ヲ正ス此ニ至リテ朱一貴ノ雙黨全ク盡キ臺灣平ク此ノ亂康熙六十年四月ヲ

以テ起リ雍正元年四月ニ至リテ靖定ニ就ク凡ソ二年ノ長月日ニ亘ル(平臺紀略全譯)
 雍正九年^{我享保}三月鳳山ノ流民吳福生亂ヲ舉ク

鳳山ノ流民吳福生ナルモノ當時北部ノ生蕃未タ平定ニ歸セサルヲ好機トシテ大概等ト謀テ合セ陣頭
 テ襲撃センコトヲ謀ル會マ臺灣道王郡已ニ北路ニ去リ不在ナルヲ以テ遊擊李榮兵ヲ率ヒ來援スルニ
 遇ヒ果サスシテ過ム然レトモ是レ一時ノ鎮壓ニシテ其後吳福生等ハ謀亂ノ舉ヲ遂行シ三月二十八日
 岡山營ヲ燒キ二十九日番社ノ兵營ヲ犯ス進メテ萬圓ノ巡檢署及陣頭ノ守備衙門ヲ襲ヒ焚掠ヲ逞フ
 ス其勢猖獗ニテ虎頭山赤山ノ各處副々賊旗ヲ飄ス此時ニ當リテ鳳山一帶ノ守兵ハ北部生蕃ノ討伐
 ニ從事シ兵勢甚タ寡少ナリ之レニ反シテ臺灣道王郡ハ吳福生ノ兵勢盛ナルヲ探知シ苟且事ヲ處ス可
 カラスト爲シ中營廷擊黃貴ヲシテ府城(臺南)ヲ守ラシメ四月四日ヲ以テ自カラ兵ヲ率ヒテ征匪ノ途
 ニ上ル

四月五日陣頭ニ駐リ參將侯元勳、守備張玉林、如錦等ト三路夾攻シテ互ニ死傷アリ遂ニ賊軍ヲ敗リ
 蕭田等八人ヲ擒ス守備ノ張玉林、千總徐學聖、鄭光宏等戰死ス其後賊勢振ハス唯タ殘黨ノ出沒スル
 ニ過キザリシ則チ捕獲スル所ノ蕭田、蕭夷、蕭詔、李三、許舉李成等ヲ營門ニ於テ斬ニ處ス越テ數
 日吳福生、大概等三十餘人縛ニ就ク皆ヲ誅ニ伏シ事平ク(臺灣府誌抄)
 乾隆三十五年^{我明和}九月黃教亂ヲ謀ル

黃教ハ鳳山縣下大穆降庄ノ住民ニシテ素ト跳梁暴ヲ逞フシ鄉里ノ畏ル、所トナレリ此ノ時大穆庄附
 近午盜甚タ多シ而シテ牛盜皆ナ黃教ニ威服セリ庄民ハ黃教ニ向テ牛一頭ニ付每年粟一石ヲ賄シ依テ
 以テ牛盜ノ侵入ヲ免レタリ之レヲ以テ推ス時ハ黃教ハ隱然牛盜ノ頭目タリシノ觀アリ
 許弼ナルモノアリ某事件ヲ以テ黃教ヲ訴フ黃教敗訴ス怨恨措ク能ハス人ヲシテ許弼ヲ捕ヘシメ其耳
 鼻ヲ割リ而シテ群縣之ヲ問フナシ依テ弼之レヲ制府ニ訴フ知府各郡役ニ命シテ黃教ヲ搜索セシム黃

敢唯タニ縛ニ就カサルノミナラス遂ニ其黨陳宗寶、鄭純、石桑黃苗等ト共謀シテ亂ヲ謀ル十月一日
叛旗ヲ岡山ニ飄シ附近ノ兵營ヲ襲ヒ將官兵士戕殺ニ遭ヒタルモノ甚タ多シ爲メニ南北兩路一時動搖
セリ群守鄭應光警ヲ聞テ民蕃ヲ募リ剿討ヲ爲ス遂ニ賊魁鄭純、黃芳ヲ擒ニシタルモ黃教去テ其ノ行
ク所ヲ探クル能ハス或ハ曰ク蕃社内ニ跡ヲ潛メリト巡道ノ張廷ハ剿討緩慢賊跡ヲ探知スル能ハサル
ノ廉ヲ以テ原職ヲ奪ハレタリ(臺灣府誌抄)

乾隆五十二年^{我天明}十一月會匪林爽文亂ヲ爲ス

清朝降版後ノ兵亂朱一貴ノ亂ヲ以テ最モ大ナルモノトス之ニ次グモノヲ林爽文ノ亂トナス林爽文ノ
亂ハ林爽文一己ノ亂ニアラスシテ莊大田又之ニ與ニス概シテ之ヲ言ヘハ天地會ノ反亂ト云フ可シ世
之ヲ稱シテ會匪ノ亂ト云フ又宜ナラズヤ乾隆四十八年漳州ノ人嚴烟ナルモノアリ臺灣ニ渡來シ始メ
テ天地會ナルモノヲ宣傳シ到ル處黨ヲ聚メ會ヲ結フ而シテ林爽文ハ又々漳州人ナリ劉升、陳洋、王
芬ヲ率ヰテ天地會ニ入ル既ニシテ淡水ノ王作、林小文諸羅ノ楊光勳、黃鐘、張烈、葉省、蔡福、鳳
山ノ莊大田、莊大匪ノ輩相率イテ入會スルニ及ンテ將ニ天地會ノ黨徒全臺灣ニ瀰漫セントス此會ノ
法タル苟モ其黨ニ入ラント欲スルモノハ血ヲ飲リテ盟ヲ爲シ聲氣相通スルヲ以テ主ト爲ス而シテ天
地會ハ黨徒己ニ全臺ニ瀰漫スルヲ以テ之ヲ南北兩路ニ分チ郡城(臺南)ヨリ以北嘉義彰化ノ地方ヲ北
路ト爲シ林爽文ヲシテ長タラシメ郡城(臺南)ヨリ以南鳳山一帶ヲ南路ト爲シ莊大田ヲシテ之ヲ掌ラ
シム而シテ林爽文ハ常ニ大里村ニ居テ占メ黨匪最モ多キ所以ヲ以テ天地會ニ於ケル彼カ勢力ハ隱然
會頭タルノ觀アリキ

此ノ如ク民間結黨ノ舉各地ニ行ハル、ヤ臺灣道永福、知府孫景燧之ヲ驅除解散セノトヲ欲シ現ニ
捕撃セシム諸羅ノ縣事俸浦、臺灣同知ノ董啓庭之レガ驅除解散ノ法トシテ諸羅ニ於テ揚文麟及ヒ其
子揚狗ヲ捕フ揚狗賄ヲ以テ釋レテ獄ヲ出テ黨匪ヲ集メ斗六門ニ於テ火ヲ放チテ焚劫シ把總ノ陳和ヲ
殺ス此ニ於テ臺灣道永福兵ヲ率ヒテ馳セテ赴援ス遂ニ首犯楊光勳以下數十人ヲ捕フ勢己ニ斯ノ如シ
天地會全體ヲ解散剷除セザル可カラサルヤ論ヲ俟タス而シテ臺灣道永福荷且事ヲ處シ匪徒會ヲ結フ
ノ事ヲ以テ單ニ揚文麟一家ノ兄弟相爭フノ具ト爲シ唯々罪ヲ文麟一家ニ歸シ賊產ヲ沒收シテ官有ト
ナシヲ揚光勳、揚媽世、陳輝以下三十八人ヲ斬ニ處シ其餘ハ置テ問ハサリキ此ニ於テ嘉義ニ於ケ
ル天地會ノ匪黨皆ナ林爽文ノ居所ナル大里材ニ逃匿シ關緊杭法遂ニ制ス可カラザルニ至ル此ニ於テ
カ新任彰化縣知縣俞峻ハ彼ノ臺灣道永福ノ舉措緩慢ナルニ引キ換ヘ過酷ノ剿除ヲ執行シ從テ捕ユレ
ハ從テ殺シ其ノ黨匪等逃レテ大塾庄ニ隱ル、ヤ知縣俞峻ハ遊擊耽、副將赫ヲシテ大塾庄ヲ擧クテ一
燒ニ附セシメタリ黨匪等全庄焦土ニ歸シタルヲ以テ好機トシ謠言ヲナシテ曰ク官兵若シ至ラハ庄ヲ
燒キ民ヲ害スル此ノ如ク子遺ナシト各地ノ庄民之ヲ信シテ匪徒ニ投スルモノ多シ遂ニ茄老山ニ據リ
テ亂ヲ謀リ大塾ノ兵營ヲ襲フテ副將ノ赫遊擊ノ耽以下官兵數百人ヲ殺ス而シテ知縣ノ俞峻亦害セラ
ル其勢猖獗過ム可カラサルモノ、如シ先キニ臺灣道永福ノ荷且ハ徒ニ餘孽ヲシテ再熾ヲ促サシメ後
ニ彰化知縣俞峻ノ輕舉暴動ハ以テ口實ヲ黨匪ニ與ヘ遂ニ林爽文ヲシテ暴威ヲ逞スルノ好機ヲ得セシ
メタリ

林爽文ハ勢ニ乘シテ彰化城ヲ攻ム時ニ守城兵僅ニ八十八人知府孫景燧其募兵ヲ以テ抗ス可ラサルヲ知
リ士蕃ヲ糾集シ虛勢ヲ張リ戒嚴防備スト雖田城中賊ニ通スルモノアリテ城遂ニ陷ル黨匪城内ニ進入
スルヤ先ツ知府ノ孫景燧ヲ捕ヘ又々劉亨基ヲ擒ニス劉亨基ノ一門斬ニ遇フモノ十三人甚シキニ至リ
テハ幼女蒲姑ノ如キハ屈セズシテ賊ヲ罵リタルノ故ヲ以テ其口ヲ割カレ死ニ至レタト云フ其他文武

ノ官員逆殺ニ遇フモノ敵ヲ可カラズ而シテ黨匪ハ知府ノ孫景燧ヲ拉シテ演武廳ニ至リ投降ヲ勸ム孫大義ヲ以テ之ヲ退ク遂ニ斬セラル

林爽文ハ已ニ彰化縣城ヲ占領スルヤ勢盛大ニ振ヒ各地ノ衆黨集リ來リテ爽文ヲ推シテ盟主ト爲ス則チ年號ヲ順天ト稱シ此ニ盟主府ヲ開キ縣署ヲ以テ之ニ充ツ劉懷清ヲ以テ彰化縣府縣ト爲シ民政ヲ掌ラシム劉懷清ハ先キニ彰化縣ノ胥吏ニシテ今林爽文ニ投降セシモノナリ其外劉士賢ヲ以テ北路海防廳ト爲シ王作ヲ征北大元帥ト爲シ又王芬ヲ以テ平海大將軍ト爲ス此ノ如クシテ盟主府ノ組織成ルテ告クルヤ林爽文ハ一大宴會ヲ開キ衆黨ヲ饗應ス此ノ時林爽文ハ奪テ所ノ烏冠袍服ヲ着ク嚴然盟主ノ風ヲ裝フ既ニシテ林爽文ハ彰化ニ於テ盟主府ノ組織ヲ完了シ益々勢聲ヲ擴張セシコトヲ欲シ兵ヲ諸羅(嘉義)ニ進メテ之ヲ占領シ攝縣事董啓璣、原署縣事唐益及ヒ臺灣道永福ノ幕友沈謙沈ヲ逆殺ス又タ民家ニ入りテ貨財ヲ劫掠シ暴威ヲ示サルナシト云フ

既ニ彰化陷リ諸羅亦占領セラル、ヤ斗六門、南投貓霧揀等ノ地方匪賊蜂起シ皆林爽文ニ應援ス一條ノ妖氣ハ滔々トシテ北路一帶ニ蔓延ス幸ニシテ淡水地方ノ如キ彼ノ天地會ノ徒黨ナル王作、林小文等擾亂ヲ企テ聖城(新竹)ヲ陷レ將ニ大事ニ至ラントセシモ竹塹巡檢李生椿書院掌教孫讓等義民一萬三千人ヲ糾合シテ聖城ヲ恢復シ巨魁ノ王作、許律、陳覺等ヲ擒ニシテ辛シテ黨匪ヲ鎮定セリ此ト同時ニ十月二十有四日ヲ以テ閩安ノ副將徐鼎士援兵ヲ領シテ支那本土ヨリ來リ淡水ニ上陸シ進メテ大甲溪ニ至リ守備セシヲ以テ大甲溪以北淡水一帶ノ地方ハ兵燹ヲ免ル、ヲ得タリ然レトモ大甲溪以南ノ賊勢ハ日ヲ進フテ猖獗ヲ極メリ

順ミテ郡城(臺南)以南鳳山一帶ノ地方則チ天地會ノ莊大田ノ管スル南路ノ光景如何ヲ見ルニ彼ノ林爽文ハ事ヲ北路ニ舉ルヤ陳天ナルモノヲシテ莊大田ニ見ヘシメ應援セシコトヲ求ム大田喜躍之ニ應シテ黨類ヲ率ヒテ鳳山城ヲ陷ル此ニ至リテ南路又ダ黨匪ノ占領スル處トナル

既ニ北路ニ在リテハ淡水二帶ヲ除クノ外嘉義彰化陷リ南路ニ在リテハ鳳山又占領セラレテ其間ニ餘喘ヲ保ツモノハ郡城ノ一城アルノミ實ニ孤縣包圍ノ中ニ在ルノ觀アリ若シ此ノ郡城ニシテ賊手ニ歸スル如キアラハ全臺灣ヲシテ一時林爽文ノ占有ニ歸セシメシナラン

時ニ郡城(臺南)ヲ守ル臺灣縣知縣玉露ハ病褥ニ臥シテ府務一切舉テ海防同知楊廷理ニ委ネ居レリ楊廷理ハ是ノ變亂ノ起リシ以後部下ヲ率ヒ晝夜防備ノ策ヲ講セリ其守兵寡少ナルヲ以テ楊廷理ハ舉人會中立、幕友劉細祖及監生郭友和ヲシテ義民ヲ募ラシメ三日ニシテ粵庄(客家庄)及市街ニ於テ八千人沿海ニ於テ水手二千人其外熟番ノ義民ヲ率ヒ演武廳(練兵場)ニ至リ日々演習練隊ニ從事ス

時ニ賊匪ハ郡城ヲ占領セント欲シテ大舉シテ來リ迫ル知縣楊廷理義民ヲ以テ之ヲ鹽埕ニ防キ戰フ對陣相抗シテ互ニ勝敗アリテ未タ決セサル時晉江ノ書生李清俊ナルモノ義民一千人ヲ率ヒテ來リ援フアリテ黨匪敗走ス此時ニ當リテ澎湖左營遊擊蔡攀龍臺灣ノ警報ヲ聞テ兵士六百人を領シ郡城ニ來リ救援ヲ爲ス楊廷理益々勢ヲ得テ南北兩路ノ要衝ニ當ル大武壠ヲ占領セント欲シ大目降ニ出テ、賊匪ヲ要撃ス而シテ賊匪ノ包圍スル所トナリ大ニ苦戦ス遂ニ澎湖遊擊蔡攀龍ト力ヲ協セテ賊ヲ敗リ賊首陳允ヲ殺ス於此カ城中ノ人民安堵スルコトヲ得タリ

諸羅(嘉義)彰化陷リ鳳山又破レ全臺ヲ舉テ將ニ賊手ニ委テントスルノ警報ハ頻々トシテ支那本地ニ達セリ是ニ於テ閩浙總督常青ハ此警報ヲ聞クヤ自ら兵師ヲ率ヒテ赴援セシカ爲メ馳テ泉州ニ至リ出師ノ準備調度ヲ爲ス茲ニ乾隆五十一年十二月六日ヲ以テ先ツ水師提督黃仕簡、陸路提督任承恩及閩安副將徐鼎士ヲ先鋒トシテ出發セシメタリ而シテ總督常青ハ三月九日ヲ以テ征臺ノ途ニ就ク

リ編者之ヲ名ケテ第一進軍ト爲ス

第一進軍ノ先鋒水師提督黃仕簡ハ安平ニ上陸シテ郡城(臺南)ニ至リ提督任承恩ハ鹿港ニ副將徐鼎士ニ關シテハ已ニ記スル所アリテ是ニ錄セス又ダ提督任承恩ハ鹿港ニ駐リテ沿岸二帶ヲ守備ス

而シテ今ヤ水師提督黃仕簡カ郡城ニ上陸セシ以後ノ策戰ニ附キ左ニ記スル所アルベシ水師提督黃仕簡ハ進剿ノ策戰ヲ南北兩路ニ分テ海壇總兵郝壯ヲ以テ南路進剿ノ任ニ當ラシメ遊擊蔡龍ヲシテ別將トナス又々北路進剿ノ命ヲ臺灣鎮總兵柴大紀ニ授ケ安平協副將林光玉ヲシテ之ニ副タラシム南北兩路進剿ノ運動ニ付先ツ南路進剿概要ヲ記シ而シテ後北路ノ進剿ニ及ハント欲ス

南路進剿ノ命ヲ受ケタル總兵郝壯ハ一月十五日ヲ以テ兵二千ヲ率ヒ鳳山ニ向テ出發セシカ途ニ鳳山ノ葉教諭、陳訓導等ノ義民ヲ卒ヒ來ルニ會フ共ニ鳳山城ニ到ラントシ賊ノ阻ムル所トナリテ大湖ニ駐リ進ム能ハス福寧遊擊延山ノ兵士一千ヲ率ヒ來リテ援フアリ又々安平遊擊山高ノ義民ヲ以テ水路ヨリ應援スルアリテ二月二十三日ヲ以テ遂ニ鳳山城ヲ恢復スルヲ得タリ然リト雖モ賊ノ十有六日ノ後賊ノ奇計ニ陥リ再ヒ賊手ニ委スルノ不幸ヲ見ルニ至ル

是ヨリ北路進剿ヲ記サンニ總兵柴大紀ハ兵二千ヲ提テ征北ノ途ニ上リ諸羅(嘉義)ヲ恢復セント企テ先ツ兵ヲ進メテ鹿仔草ニ至ルヤ武舉人陳宗器同安ノ義民(同安縣ヨリ移リ住シタル者)ヲ率ヒテ前導ヲ爲シ又々武舉人黃奠邦義民ヲ統ヘテ應援ヲ爲ス柴總兵ハ是等義民ト勢ヲ合セ進擊シテ途ニ諸羅ヲ恢復ス時ニ五十一年正月ナリ林爽文ハ諸羅ノ陷落主トシテ義民ノ應援ニアルヲ思ヒ黨匪ヲ派シテ義民ニ應シタル村庄ヲ焚却ス

總兵柴大紀ハ辛フシテ諸羅ヲ恢復シ普格(任承恩ノ部下)ノ兵ト會シテ六門ヲ攻メ克タスシテ退テ諸羅城ヲ守ル林爽文ハ郡城(臺南)ト諸羅ノ連絡ヲ絶タンゴトヲ謀リ大舉シテ鹽水港ヲ攻メ爲メニ諸羅ニ向テ赴援セル總兵魏大副將詹殿等鹿仔港ニ困マラレ進ム能ハス遊擊藍田玉繞テ海道ヨリ進マンゴトヲ企テ亦果サ、リキ此時ニ當リテ霖雨連日水溢山野ニ充テ彼ノ支那本土ヨリ渡來セル兵士ハ風土ニ服セスシテ是ノ霖雨ニ遭ヒ途ニ病ヲ得テ死スルモノ十中五六ヲ占メ大ニ戰鬪力ヲ減ス依テ常背將軍ハ大兵ヲ諸羅ニ進メテ赴援スル能ハス途ニ諸羅ヲシテ再ヒ孤縣包圍ノ中ニ陷ラシムルニ至レリ

已ニ連絡ヲ中斷セラレタル諸羅縣城ハ救援至ラス糧餉續カス實ニ籠城ノ己ミヲ得サルニ至ル城中ノヲ退フテ糧盡キ兵民共ニ苦ミ遂ニ油粕(油カス)ヲ以テ食ニ充ツルニ至ル而シテ林爽文ノ陣營ハ糧食豐富堆テ山ヲ爲ス城中ノ民潛カニ出テ、之レヲ偷ムモノ皆ナ斬ニ處セラレタリ黨匪ハ愈々縣城ノ圍ヲ嚴ニシ大埔林、打猫、六斗門、水妙連港古坑等ノ地方皆ナ分遣屯守ス幸ニシテ總兵高梁、參贊恒瑞、大兵ヲ率ヒテ戰フヤ漸ク鹽水港ノ圍ヲ解クヲ得タリト雖モ諸羅ノ圍ハ未タ解ク能ハサルナリ

以上黨匪進剿ノ運動ヲ見ルニ總督曾青ノ率ヒ來リシ援軍ハ充分ニ其目的ヲ達スル能ハサリシ因テ清朝皇帝ハ特ニ協辦大學士陝甘總督嘉勇侯福ヲ召シ速カニ臺灣ニ至リ黨匪ヲ平グンゴトヲ命ズ於此乎嘉勇侯福ハ五十二年十月ヲ以テ左ノ部將ヲ率ヒテ崇武ヲ出發シテ十月二十九日ヲ以テ鹿港ニ上陸ス而シテ嘉勇侯率イル所ノ部將ハ參贊侯海、參贊領隊大臣舒、領隊大臣普、四川將軍鄂、統領巴圖魯侍衛一百二十餘員湖南兵二千人貴州兵二千人廣西兵三千人四川屯練番兵二千人(編者之ヲ稱シテ第一進剿軍トナス)ナリトス

此ノ時ニ當リ山邊一帶皆ナ黨貨ノ蜂起スル所トナルト雖モ沿海ノ地方未タ黨匪ニ占領セラレサルノ故ヲ以テ鹿港ハ官兵ノ警戒スル所トナレリ此ニ依テ嘉勇侯福ハ容易ニ上陸ヲナシ得タリ

嘉勇侯福港ニ上陸スルヤ附近各庄ノ人民ヲ招集シ諭スニ大義ヲ以テシ黨匪ニ與ミシテ誤悔スルナカラシム又々戶毎ニ盛世良民ト書タル旗ヲ給シ以テ歸路兵難ヲ免カレシム

嘉勇侯ハ進剿ノ第一着トシテ十一月四日ヲ以テ八卦山ヲ占領シ大ニ黨匪ヲ破リ進メテ諸羅城ニ向テ救援セント欲ス、先ツ參贊舒ヲシテ兵ヲ領シテ黨匪ノ本據大里找ヲ攻メルト揚言セシメ其虛ニ乘シ嘉勇侯自カラ大兵ヲ率イテ諸羅救援ノ途ニ上リ義民之レカ先導ヲ爲ス十一月八日崙仔頂ニ到リ始メテ黨匪ノ軍ニ會シ突衝攻撃黨匪ヲ殺ス無數黨匪四散シテ後影ナシ雖然蔗田ニ伏シ竹圍ニ逃レ官兵ノ進行ヲ望ミ襲撃ス官兵屈セスシテ力戰進攻ス頭庄、柴林脚、新庄仔、西勢潭、三塊厝、本廳庄、天

錫庄、灰窟雙溪口、上崙庄、海豐庄ヲ占領シテ日沒諸羅城ニ達ス是ニ於テ乎重圍ノ中ニ在リシ諸羅中ノ兵民今嘉勇侯福ノ來リ救フニ遇フテ皆再生ノ思ヲ爲セリ

林爽文ハ諸羅城既ニ援兵ノ來ルヲ聞キ平日ニ幾倍シタル黨匪ヲ以テ來リ攻ム嘉勇侯ハ侍衛屯練ノ兩兵ヲ以テ之ニ當ラシム黨匪克ク退ク官兵追擊賊黨ニ至リテ之ヲ燒棄シ又々貯積スル所ノ糧食ヲ輸シテ歸ル十日再ビ城ヲ出テ、大崙庄ヲ占ム此ノ時ニ當リ將軍ノ恒瑞半天厝ヨリ來會スルニ遇フ夫レ半天厝ト大崙トハ相連リ所謂鹿仔草ノ地方ナルモノナリ既ニ鹿仔草ノ匪黨ヲ擊テ拂フ時ハ西路ノ聯絡始メテ通スルモノニシテ諸羅ノ圍ミヲ解キタルモノナリ

嘉勇侯ハ郡城(臺南)トノ聯絡ヲ通セシメテ欲シテ普爾晉、烏什哈達ニ一千ノ兵ヲ授ク南ノ方茅港尾ヲ攻メシム此ニ於テ知府楊廷理ニ會見ス此ノ如クシテ漸ヤク各處ノ聯絡ヲ通スルヲ得ルヤ嘉勇侯ハ先ツ近山ノ賊徒ヲ剿除セシメテ企テ一方ハ海關察、鄂輝、普爾晉ヲシテ十四甲以北ニ向ハシメ又々副將ノ徐鼎士、遊擊ノ吳秀、守備ノ潘國材、都司ノ敏祿、朱龍章等及徐夢麟ノ率ユル所ノ義民ヲシテ甌鰲頭ヨリ三路分進水堀頭、三埤厝、馬龍潭、七張犁、八張犁、猪高庄ノ七所ヲ攻メシメ參贊徐ト大旺溪ニ會シ進シテ烏日庄ヲ攻ム此ノ如ク黨匪ヲ追擊シ大勢稍々定マルニ及ンテ各處ノ庄民黨匪ノ頭目ヲ擒ニシテ獻スルモノ甚々多シ而シテ林爽文ハ六門ノ一方ニ割據シテ黨匪ヲ分チ南ノ方大埔林及ヒ中林、大埔尾東ノ方范古坑ニ屯セシメ互聲援ヲ爲シ其餘餘未タ侮ル可カラサル者アリ嘉勇侯ハ一舉六門ヲ陷レ黨匪ヲシテ餘孽ナカラシメシメテ諸將ヲ部シテ進擊ノ方面ヲ定メ恒瑞普吉保ヲシテ大埔林ヲ攻メ鄂輝、袁國璣ヲシテ大埔尾ヲ攻メ又海關察ヲシテ中林ヲ攻メシム而シテ嘉勇侯自カラ之レカ後援ヲ爲ス其攻擊ノ部所ヲ受ケタルノ諸將皆ナ黨匪ヲ破リ日沒悉ク來リテ范古坑ニ會ス范古坑ハ賊目蔡福ノ巢穴ナルヲ以テ堅濬柵ヲ構ヘ防備甚カク嘉勇侯ノ兵士力戰之ヲ占領シ續テ戰勝ノ勢ニ乘リ星夜疾馳シテ六門ニ到リ四面攻圍ヲ破リ遂ニ之ヲ拔ク時二十一月二十

日ナリ此ノ時西嶼ノ遊民來リ投シテ降服ス嘉勇侯之レヲ客シテ餘黨ヲ搜索セシム於此乎水沙連、虎仔坑、萬丹庄、南北投社等ノ匪賊ヲ剿除シテ稍々靜定ヲ見ルヲ得ルニ到ル

既ニ六門ヲ占領スルヤ是レヨリ進勦ス可キ地方ハ賊ノ本據タル大里材、淡四繞地形堅要之ニ加フルニ高壘ヲ築キ巨砲ヲ列スルヲ以テ之ヲ攻擊スルハ嘉勇侯ノ尤モ苦心セシ處ナリ侯自カラ馬ヲ躍ラシ諸將ヲ指揮シ大ニ戰ヒテ之ヲ破リ遂ニ兩路ヨリ進攻シテ賊巢ニ入り賊目林素、林成、林快、江近、許三、江陳傑ノ輩二百餘人ヲ殺シ又々先キニ彰化縣知縣ニ推サレタル劉懷清ヲ擒ニス其他擒ニ就クモノ張火、蔣挺、林茂、何從龍等ノ賊目アリ唯々惜ムラシハ黨匪ノ主領タル林爽文ヲ遁逸セシメタルニアリ林爽文ハ大里材ノ陷ルト同時ニ家眷ヲ携ベテ火鏡山ヨリ逃レテ生番界ニ入レリ

嘉勇侯ハ賊ノ本據大里材ヲ占領シタル後賊巢ニ於テ南投縣丞洪智ヲ救ヒ出シ又々賊ニ繳收セラレタル北路文武ノ印信關ヲ收復シタリ其外嘉勇侯カ繳收セシ所ノモノハ大小砲一百六十餘位鳥鎗二百三十餘桿稻穀數千石牛八百餘頭其他器械勝ヲ計フ可カラス此等ノ戰利品ハ悉ク運ラテ鹿港ニ到ラシム其ノ稻穀牛隻ノ如キハ兵民ニ分與セリ以テ林爽文カ如何ニ謀亂ノ素養ヲ本據大里材ニ集メシカヲ推知スルニ足ル此ノ時賊目陳洋來リ投降ス

己ニ黨匪ノ本據ヲ打破リ進シテ深山ニ跳梁セル餘黨ヲ剿除セシメカ爲メ嘉勇侯ノ一隊ハ平林ヨリ集々埔ニ進ム溪湖繞ル處巨石ヲ砌ミ大木ヲ橫ヘ進行ヲ防シ普統領海參贊等屯練兵ヲ以テ大ニ力戰シテ黨匪ヲ破リ集々埔ヲ占ム於此乎敗餘ノ黨匪再ヒ集々埔附近生番山界ニ囑集セシメテ恐レ其生番山界ノ要隘ナル科飯坑、林圯埔、藤湖口、流藤坪、龜仔頭、清水溝ノ地ニ守兵ヲ分派シ嚴ニ黨匪ノ出入ヲ查ス如此搜索ノ嚴ナル徒匪跡ヲ潛メ難ク社丁(生番界ヲ守ル兵)杜敷ナル者林爽文ノ父林觀、母ノ曾氏弟ナル林疊及ヒ妻黃氏ヲ縛レテ來リ獻ス此ニ依リテ林爽文ノ家眷ヲ搜索セシム未タ首魁ノ林爽文及餘黨等ハ逃レテ小半天山ニ踞セリ然レハ小半天山ノ剿除ハ餘黨ヲ塵盡ニシテ首魁ヲ擒ニセザル

カラス而シテ黨匪等ハ小半天山ニ石牆木柵ヲ構ヘテ死守ス官兵銃丸ヲ犯シテ斃昇ス就中屯練兵尤
モ奮戰シ遂ニ賊寨ヲ破リテ占領ス斗六門攻撃以來險嶺深溪ノ間ニ於テ戰鬪ハ四川屯練兵ノ力與リ
テ功アルヲ認ム是ノ小半天山ノ賊巢ニ於テ林進、林二、林添、孫東海、王若敬等ノ賊魁ヲ生擒シ又
タ亂山嶽穴中ニ於テ數千ノ黨匪或ハ擒ニ就キ或ハ誅ニ伏セリ其他銃器及械器ヲ繳收セル甚々多カリ
シモ巨魁ノ林爽文ハ再ヒ逃遁シテ縛ニ就カザリシ
巨魁林爽文カ潛レテ埔里蕃社ニ在ルヲ探知スルヤ包圍夾擊シテ之ヲ生擒セント欲シ埔里蕃社ノ周
圍ニ於テクル岐途仄逕凡ソ一十五處ヲ指指シ諸將ヲ部シテ搜索セシム今其ノ諸將カ受タル部所ヲ列記
セバ

- 參贊恒總兵許ハ小半天山ニ駐リテ守備ニ任ス
- 總兵普ハ科仔坑口ニ駐リ兵ヲ進メテ內柵ヨリ橫截スベシ
- 將軍鄂ハ穆克登阿ト共ニ大半天ニ駐リ
- 副將格綉額ハ清水溝ニ駐リ
- 海侯ハ東埔納ニ駐リテ兵ヲ率ヒテ龜仔頭ヨリ山ニ入り搜索スヘシ
- 參贊強舉延ハ潦水庄ヲ防クヘシ
- 參贊舒ハ龜仔頭ニ駐リ
- 參贊珠靈阿ハ集々埔ニ駐リ
- 遊擊葉有光ハ盧厝庄ニ駐リ
- 翼長六十七及遊擊吳秀分レテ大里杙ヲ防ク
- 守備潘門棧ハ東大塹ヲ防クヘシ
- 都司敏祿ハ軍裝ヲ防クヘシ

副將徐鼎士ハ沙里巴來ヲ防クヘシ
遊擊裴起放魚ハ犁店ヲ防クヘシ
同知徐夢麟ハ遠ク三貂ヨリ蕃境ヲ經テ蛤仔欄ヲ橫截セシム
以上十有五處ノ外別ニ生番通事黃彦ヲシテ蕃丁ヲ率ヒ阿星山一帶ヲ防カシメタリ
以上ノ部所ヲ統轄スル嘉勇侯ハ海侯ノ軍ニアリ東埔納ニ駐在セリ
其外全隊各路ノ糧餉ヲ掌リタルモノハ知府廷理ナリ

包圍夾擊ノ部所ハ已ニ定マレリ此等ノ搜索隊ハ生番界ノ棟社、麻薯社、打鑿寮蝦骨社及ヒ合歡社ニ
進入シテ勦除ス實ニ林爽文ハ袋中ノ鼠タルノ看アリ其ノ免ルヘカラサルヲ知ルヘシ老衢崎ニ到リ高
振ヲ訪フ高振ハ林爽文ノ尤モ親ム所ノ人物ナリ告ケテ曰ク吾レ汝ヲシテ富貴トナラシメント高振之
ヲ縛シテ來リ獻ス其外爽文ノ弟林曜、賊目何有光等同時ニ縛ニ就ク皆ナ推送シテ京師ニ到ラシム以
テ北路ノ黨匪悉ク靜定ニ歸セリト云フベシ北路ノ黨匪既ニ靜定ニ歸セリ知ラス南路ノ黨匪莊大田カ
如何ニ風山ノ一方ニ厲據シテ跳梁セル乎想フニ莊大田ノ匪勢猖獗ナリシハ職トシテ北路匪徒ノ聲
援ニ依リ今マ北路已ニ靜定ニ歸ス豈ニ南路ノ匪徒獨リ暴威ヲ逞スルヲ得ンヤ
嘉勇侯ハ北路ノ靖定ヲ了ルヤ皆ナ師ヲ南路ニ移シ水底寮ニ至ル是ノ時黨匪ノ投降歸順スルモノ甚々
多シ又々進メテ南仔坑ニ達スルヤ黨匪險ニ據リ拒戰ス雖然支ナル能ハスシテ通レ去リ風山城又々官
兵ノ恢復スル所トナレリ而シテ巨魁ノ莊大田ハ風山ヲ逃レテ琅瑯(恒春)ニ入ル嘉勇侯ノ兵師水陸並
ヒ進メテ莊大田ヲ攻メ黨匪ヲ殺ス數ナシ包圍進擊追フテ山溝ニ至ラシメ遂ニ生擒ス同時ニ大田ノ弟
大匪許尙以下黨匪八百四十八人ヲ獲テ之レヲ殺ス唯々莊大田ハ推送シテ郡城(臺南)ニ送ル時ニ大田
痛ヲ發シ甚々重シ則チ速ニ之レヲ釋ニス其後縛ニ就クモノ大田ノ妻龐氏想ノ陳氏アリ又々天德天壽
孫阿アリ其外北路ノ黨匪ナル蔡福、謝梅、葉省等ノ家屬及林爽文ノ弟林勇及ヒ賊魁ノ陳秀英、陳龍、

劉升等以下數百人... 京師(北京)ニ遷送セラル...

鹿港ヲ攻ムルノ舉アリ爾等我ニ隨ヒ之レト力ヲ協セテ鹿港ヲ破ルヘシト衆信シテ...

恩番亭、焚死スルヲ見テ縣協張無咎ト俱ニ自刎シテ仆ル而シテ都司焦光言ヲ民ヲ愛スルヲ譽ルヲ以テ匪賊其首級ヲ斷スルニ忍ビ死屍ヲ捨テ去ル已八卦山ヲ占領スルヤ直ニ攻テ彰化ヲ拔テ增運衣冠ヲ正シテ獄口ヲ守ル賊之ヲ刺殺ス巡城千總兵陳龍兵數十ヲ率ヒ賊ヲ巷街ニ防銃丸ニ中テ馬ヨリ墜チテ獲ラル而シテ縣城又賊手ニ歸ス一日匪賊ハ陳龍ヲ降ルコトヲ勸ム見龍賊ヲ罵リテ屈セス遂ニ斬ニ處ラル又々制憲委員同沈賜ハ彰化ニ赴任スル儘カニ數日ニシテ此變亂ニ會ス倉卒走リテ民間ニ匿レ漸ク難ヲ免ルヲ得タリ先キ八卦山ニ於テ自刎セシ都司焦光宗復タ蘇生ス田中央庄民之ヲ過キテ其未タ死セザルヲ見テ席ヲ以テ屍ヲ掩ヒ夜ニ至リテ竊カニ負テ武生林國泰書館ニ到リ醫ヲ迎ヘテ治療ス周全ハ己ニ鹿港ヲ陷レ又々彰化城ヲ占領スルヤ聲勢四ニ振テ翌日各庄ノ人民箠職ヲ樹テ貢物ヲ運ヒテ城中ニ雲集シ來ル周全ノ部下甚ク多カラズ且ツ守備ノ全カラサルヲ見テ其必ス持久スル能ハサルヲ知リ各離心ヲ懷ク即チ曾テ周全ニ歸順ヲ表セシモノ皆ナ暗ニ約シテ義民ト爲ルアリ十七日午後周全ハ賊目馬江ヲシテ三百餘ヲ率ヒテ犂頭店ニ往キ巡檢署ヲ攻メシム其途中柴坑仔庄ニ駐ス田中央庄民之ヲ見テ以テ爲ラシ管テ焦光宗ヲ救出セシ事露洩シテ周全來リ襲フナリト大ニ恐惶ス然レトモ賊徒多カラサルヲ見テ心竊カニ之レヲ輕ノス庄民大丁夜ニ乘シテ義民ヲ率ヒテ抗仔庄ヲ焚ク匪徒等不意ノ攻撃ヲ蒙リ果シテ大ニ潰レ死傷半ニ過ク餘賊四方ニ散逃ス周全ハ其大勢已ニ去ルヲ見テ歸リテ彰化城ニ入ラス夜ニ乘シテ海口ニ奔ル明日馬江獨リ匹馬ニ跨リ數賊ヲ隨從シテ西門街ヨリ入り街民ノ爲メニ刺殺セテ馬ヨリ落チテ死ス余黨四方ニ散シ明朝ニ至リテ城中查トシテ一賊ナシ翌日武生林國泰義民數百ヲ率ヒテ竹製ノ椅子ヲ以テ都司應光宗ヲ戴榜シ擡シテ城ニ入ル是ニ於テ義首職員王松、龐生揚、應選及ヒ陳光宗等陸續城ニ到ル即チ委員同知沈速ニ告示ヲ出シテ安民ノ法ヲ立テタリ爾時周全ノ舉動如何ヲ見ルニ彼レ周全ハ後身奔テ小浦心ニ至リ竄匿セリ周全ヲ知ルモノアリ曰ク此レ陳大爺ナリト街民直チニ如キテ庄者陳所ニ渡ストキニ莊南光ナルモノ

アリ周全ノ捕ヘラレタルヲ知ルヤ衆ニ先チ走テ斗六門吳守備ノ許ニ至リ我レ今周全ヲ擒ニシテ陳所ニ交附セリト會々鎮憲哈阿府憲通昌率等大兵ヲ領シテ來ルニ遇テ吳守備ハ即チ南光ヲシテ稟テ呈シテ陳周全ヲ捕獲シタルヲ告ケシム鎮府報ヲ見テ大ニ悦ビ遂ニ道憲揚廷理ト會シテ周全擒ニ就キ事全ク平ク旨ヲ書報ス而シテ庄者ノ陳所ハ庄南光ノ爲メニ混奏セラルヲ悟リ互ニ功ヲ爭フ雖然已ニ皇上ニ奉スル上奏中ニ書セル旨意ヲ改ムル能ハサルヲ以テ制軍ノ覺羅伍親シシ又々其間ニ調停ヲ行ヒ一ハ歸リテ告ケ一ハ擊テ獻セシトノ定案ヲ以テ首功トナシ陳所之ニ次クモノナリト爲ス其他義ヲ唱ヘ城ヲ復スルノ功ヲ論シテ林國泰ヲ以テ首ト爲シ林清標、王招揚、應選、魏廷文、陳光宗等之ニ次ク會玉音頗有源等四十餘人又々之レニ次ク皆ナ恩賞ヲ賜フ而シテ魁匪周全ヲ斬ニ處シ餘黨ヲ搜索シテ皆ナ法ニ處シ事全ク平ク(彰化縣誌抄)

嘉慶十年 我文化

乙丑冬十一月海賊蔡牽來リ犯ス

蔡牽ハ泉州同安ノ人ニシテ苦力ヲ業トシテ生計ヲ爲セリ後チ海賊トナリテ海而ニ出沒シ往來ノ民船ヲ掠メ又閩浙粵三省ノ沿岸ヲ犯シテ家資ヲ奪ヘリ而シテ其臺灣ニ來リ犯セシモノハ實ニ嘉慶五年ヲ以テ嚆矢トナス其後或ハ來リ或ハ去リシヨト其幾回ナリシヲ知ラス就中暴威ヲ逞フシテ騷亂ヲ醸セシモノハ嘉慶十年十二月ヲ以テ襲撃セシモノトス蔡牽自カラ鎮海威武王ト稱シ遙カニ山賊洪四老等ト氣派ヲ通シテ謠言ヲ放チ其舉動稍ヤ海賊ニ似サルモノアリ想フニ賊船中必ラス學才アルモノアリテ參贊ヲナスナキヲ得ゾヤ先ツ滬尾ニ上陸シテ來リ犯ス守備ノ陳廷梅之レヲ防キ戰テ利アラズ遂ニ軍ニ死ス而シテ蔡牽ハ唯ニ滬尾ヲ犯セシノミナラス其黨與ヲシテ鳳山ノ賊首吳淮泗ト相通シテ鳳山及東港ヲ襲ヒ又榜ヲ鹿耳門ヲ犯ス此ノ如ク沿海各處ニ出沒シテ掠擄ヲ逞シ守備ノ官兵能ク防キ得ザル能ハス爲メニ地方騷擾人心恐惶タリ其蔡牽ト氣派ヲ通セシ匪徒吳淮泗及山賊洪四老等機ニ乘シテ謠言ヲ放チ匪徒ヲ囑集ス嘉慶管下ノ大棟椰、蕭壠北埔先ツ賊ノ巢穴トシテ彰化管下ノ南海、豐布

嶼、深林、二林、東嶼、西嶼、諸堡及々匪徒ヲ以テ充カレ而シテ十二月初旬ヲ以テ鳳山城陥ルル
 及テハ南北隔絶連絡セズシテ虎尾溪以南亦匪徒ノ占ムル所トナル已ニ南北ノ連絡ヲ失フ匪徒勢
 ニ乘テ安平ヲ攻メ又々郡城(臺南)ヲ圍ム此時蔡牽ハ常ニ船ニ在テ陸上ノ大勢ヲ監視セリ而シテ郡
 城(臺南)ハ匪徒ノ來襲他地方ニ比シ遥カリシ爲メ大ニ防備ヲ準備スヲ得タリ依テ匪徒ノ攻撃百
 餘日ニ亘ルト雖モ降ラザリ蔡牽ハ郡城ノ容易ニ降ラス却テ山賊ノ爲メニ誤註セラル、ヲ察シ嘉慶
 十一年二月ヲ以テ帆ヲ揚グテ去ル再ヒ鹿耳門ニ來リ犯スヤ會々水師提督李長庚ノ來リ援フニ遭ヒ敗
 走セリ已ニ蔡牽ハ臺灣ヲ去リタリト雖モ蔡牽ノ來襲ヲ機トシテ峰起セシ南北兩路ノ匪起ハ益々蔓延
 シテ制壓スベカラサルニ至ル幸ニマテ正月初旬參將英琳什格兵一千人ヲシテ支那本地ヨリ來リ鹿港
 ニ上陸スルアリ又々淡防同知胡應魁義民數百人率テ至ルアリテ始メテ匪徒勦討ノ端ヲ開クヲ得タリ
 鹿港ヲ起程トシテ郡城(臺南)ヲ援ハントス其途東嶼ニ至ルヤ忽匪徒ニ會ス時己ニ黃昏ニ近シ關戰劇
 烈匪徒ヲ斃ス甚タ多シ雖然匪徒肯テ退カス猶ホ天明ニ至リテ止マス時ニ彰化ニ林邦基ナルモノアリ
 兩山ノ義民數百人ヲ率ヒ來ルアリ其匪徒ト相持シテ戰死スルヲ見テ背後ヨリ奮進突衝ス匪徒不意ノ
 襲撃ニ遭テ遂ニ潰走ス乃チ林邦基ノ卒ニル義民一隊ヲ以テ獅導ト爲シ進軍ス匪徒ハ已ニ東嶼ノ一敗
 ヲリ氣勢ヲ失ヒ又々官兵ノ益々加ハルヲ見テ敢拒戰セズ而シテ南路一帶ノ賊勢ヲ見ルニ又々漸ク不
 振ノ有様トナリ鳳山城ノ如キ官兵ノ恢復スル所トナリ賊將陳捧又々戰ヒ破フレ走リテ桃板園ニ來リ
 又々去テ生蕃界ニ入りテ潜伏ス其他吳滙泗運レテ船ニ投シテ去リ許和尙陳楷等皆ナ擒ニセラル形勢
 己ニ如此レ途ニ三月初一日欽差將軍賓冲郡城(臺南)ニ臨ミ四月二十五日ヲ以テ南北兩路ノ連絡ヲ通
 スルヲ得テ匪徒始メ治ル願ミテ彼ノ蔡牽カ水師李長庚ノ破ル所トナリテ通レ去リタル以後ノ舉動ヲ
 見ルニ彼ノ蔡牽ハ嘉慶十一年三月ヲ以テ噶瑪蘭地方ヲ犯シ先ツ馬石港ニ入り頭圍ヲ襲フト揚言ス人
 心恟々タリ噶瑪蘭ニ異化ナルモノアリ異化ハ吳沙ノ姪ニシテ其叔父吳沙ハ開墾ノ率先者トシテ漢民

及シ蕃人ノ間ニ威信ヲ有セリ依テ異化ハ鄉勇及ヒ生蕃ヲ率ヒ大ニ防備ヲ爲シ海賊十三人ヲ擒ニシ遂
 ニ蔡牽ヲシテ暴威ヲ逞フセシメサリシ而シテ蔡牽ハ再ヒ五月十七日ヲ以テ鹿耳門ヲ犯ス澎湖協ノ主
 得祿衆ヲ率ヒテ之レヲ攻メ蔡牽ノ船激浪ニ觸レ溺死スルモノ甚タ多シ是ヨリ以テ蔡牽臺灣ヲ犯スコト
 ナシ或ハ曰ク嘉慶十四年ニ至リテ王得祿ノ爲メ逐レテ外洋ニ逃レ途ニ海ニ落チテ死スト(彰化縣誌
 抄及淡水廳誌抄)

嘉慶十有二年 我文化 賊朱潰來リ犯ス
 閩海ノ巨盜蔡牽アリ之ト比肩シテ最モ熾ナルモノヲ朱潰トス而シテ兩者常ニ相好カラス朱潰ハ常ニ
 廣東ノ大策匪ニ在リ洋艇ヲ挾シテ屢々金廈漳泉ヲ窺フ澄海協副將全勦討ノ任ニ當リテ之ヲ逐逐ス朱
 潰逃レテ臺灣洋面ニ來リ鹿港淡水ノ間ニ出沒シテ却掠ス會々南澳鎮總兵王得祿銅山ヨリ臺灣ニ到リ
 一夜大難籠ニ泊シ朱潰ノ船潛シテ港内ニ在ルヲ見テ兵ヲ率テ進攻ム朱潰又逃テ噶瑪蘭ニ入ル時ニ船
 中農具ヲ載セテ蘇澳ニ泊ス其意溪南ノ地ヲ奪フテ巢穴ト爲スニアリ漳人李祐密カニ之レニ通ス又々
 番賢文ナル者アリテ岸裏社ノ番通事ニシテ東勢羅東社ニ居ル朱潰之ト結テ生蕃ノ聲援ヲ假ラシコト
 ヲ期ス狀形如此シ人民疑懼シテ騷然タリ五圍頭人陳翼邦走テ急ヲ告ク九月九日臺灣知府揚廷理艦艇
 ヲリ山路ヲ經テ五圍ニ至リ南澳鎮總兵王得祿水路舟師ヲ率ヒテ水陸並ヒ進ム揚廷理其ノ朱潰カ番通
 事番賢文ニ通ゼンコトヲ金ツルヲ知ルヤ諭スニ大義ヲ以テシ又衆番ニ贈ルニ噶嶼(羅紗)十枚紅布五
 百疋番銀(二圓銀)千枚ヲ以テス賢文及ヒ衆番大ニ悅ビ乃チ木柵ヲ海口ニ設クテ賊ヲシテ入ル勿カラ
 シメ又々嚴ニ通スルモノヲ捕フ李祐捕シシコトヲ懼レテ妻孥ヲ携ベテ賊舟ニ投ス王得祿船師ヲ率ヒ
 來リ追テ港口ニ至ル賊ハ鐵網ノ巨纜ヲ以テ港口ニ沈メテ之ヲ防ク時ニ林永福ハ翁清和等義兵ヲ募リテ
 來リ援フズリ依テ揚廷理ハ林永福等ニ令シテ番勇ヲ指揮シ山ヲ穿テ關ヲ開キテ蘇澳ニ達ス於此乎王
 得祿舟師ハ水陸勢ヲ合シテ攻撃ス又番賢文衆番ヲ率テ奮闘シ大ニ賊ヲ破ル賊其爲スヘカラサルヲ